

平成5年版

環境白書

—— みんなの行動で快適な環境の推進を ——



— 表紙写真 —

カタクリ（大山町岡田）

かたかこの名で知られる万葉植物。山麓の雑木林に群生し、雪解けとともに花を咲かせ、木々の葉が繁茂しない間に地下の球根に養分を貯える。（かたくり粉の名の由来）

まれに白い花が咲く。

撮影：湯浅純孝

環境白書についてのお問い合わせは、富山県
企画県民部環境整備課(TEL0764-31-4111)
あてに御連絡下さい。

本白書は再生紙を使用しております。

環境白書の刊行にあたって



21世紀を間近にひかえ、環境問題は人類の共通の課題として大きくクローズアップされております。

このような中、昨年6月にブラジルのリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議（地球サミット）」におきまして、水と緑の惑星「地球」の環境を守るため、「リオ宣言」や「アジェンダ21」等が採択されるとともに、地球の温暖化やオゾン層の破壊、酸性雨など、予想を上回る速さで深刻化している地球規模の環境問題について、国家や体制を超えてグローバル・パートナーシップのもとに、地球を守っていくという新しい流れが生みだされました。

また、近年、都市化の進展や生活様式の多様化などを背景に、生活排水による河川の汚濁、自動車の排出ガスによる大気汚染、廃棄物の増大など都市・生活型公害も大きな課題となっております。

これらの課題の解決にあたりましては、社会経済活動のあり方や私たちのライフスタイルのあり方にも目を向けるとともに「地球規模で考え、足元から行動する。」との視点に立って、たとえ小さなことでもできることから始め、環境への負荷の少ない社会の確立に向けて、地域に根ざした環境保全活動の積み重ねと息の長い努力が極めて重要であります。

このため、本県におきましては、21世紀を展望する「とやま環境計画」に基づき、「清らかな水と豊かな緑に恵まれた快適な環境」を目指し、各種の環境保全施策を総合的、計画的に推進するとともに、(財)とやま環境財団を中心に県民、企業、行政が一体となって取り組んでおります環境保全活動を、今後とも積極的に支援することといたしております。

この白書は、本県の環境の現状と施策についてとりまとめたものです。この白書が、県民の皆様方の環境問題についての認識と県の施策に対する理解を深めていただく一助としてご活用いただければ幸いです。

平成5年7月

富山県知事 中 沖 豊

目 次

第1章 総 論	1
第1節 環境の現況	3
1 公害の現況	3
(1) 大 気 汚 染	4
(2) 水 質 汚 濁	10
(3) 騒音、振動、悪臭	16
(4) 土 壤 汚 染	18
(5) 地 下 水	20
(6) 廃 棄 物	25
(7) 公害の苦情	31
(8) 富山・高岡地域公害防止計画の推進	33
2 自然環境の現況	34
(1) 植 生	35
(2) 鳥 獣	39
(3) 自然公園	43
3 快適な環境づくり	49
(1) 県土美化推進運動	49
(2) 各種の快適環境づくり	50
4 環境保全活動推進への取り組み	52
第2節 環境行政の歩みと今後の展開	53
1 環境行政の歩み	53
2 今後の環境行政の展開	57
(1) とやま環境計画の推進	57
(2) 環境影響評価の実施	58
(3) 環境基準の達成維持	59
(4) 地下水の保全と適正利用の推進	60

(5) ごみの減量化や再生利用の推進	60
(6) 産業廃棄物の適正処理の推進	60
(7) 自然環境の保全	61
(8) 快適な環境づくりの推進	61
(9) 地球環境問題への取り組み	62
(10) 環境保全活動等の推進	63
〈地球環境問題・富山の環境を守るために〉	65

第2章 環境の現況及び環境保全に関して講じた施策 73

第1節 総合的な環境保全施策の推進 73

1 とやま環境計画の推進	73
2 公害防止計画の推進	74
3 環境影響評価要綱の運用	75
4 公害防止協定と事前協議	78
(1) 公害防止協定	78
(2) 事前協議	79
5 環境情報管理システム	80
6 環境保全活動等の推進	81
(1) 「環境月間」の実施	81
(2) 環境保全活動と環境教育の推進	82
(3) 環境保全相談室の活動	82
(4) 環境分野の国際交流の推進	83
(5) 「親子の水とのふれあいバス教室」の開催	84
7 とやま環境財団の活動	85

第2節 大気汚染の現況と対策 86

1 大気汚染の現況	86
(1) 汚染物質別の現況	86
(2) 燃料使用量等の推移	94
2 大気汚染防止に関して講じた施策	108

(1) 法令等に基づく規制の概要	108
(2) 大気環境計画(ブルースカイ計画)の推進	116
(3) 監視測定体制の整備	118
(4) 監視指導	125
(5) 大気環境の各種調査	126
第3節 水質汚濁の現況と対策	148
1 水質汚濁の現況	148
(1) 水質汚濁の環境基準の改定	148
(2) 河川の汚濁状況	149
(3) 湖沼の汚濁状況	157
(4) 海域の汚濁状況	158
(5) 地下水の汚染状況	161
2 水質汚濁防止に関して講じた施策	164
(1) 法令等に基づく規制の概要	164
(2) 水質環境計画(クリーンウォーター計画)の推進	168
(3) 監視測定体制の整備	172
(4) 監視指導	176
(5) 水質環境の各種調査	176
第4節 騒音及び振動の現況と対策	192
1 騒音及び振動の現況	192
(1) 騒音の状況	192
(2) 振動の状況	197
2 騒音及び振動防止に関して講じた施策	198
(1) 騒音の規制	198
(2) 振動の規制	202
第5節 悪臭の現況と対策	206
1 悪臭の現況	206
2 悪臭防止に関して講じた施策	206
(1) 法令等に基づく規制の概要	206

(2) 悪臭実態調査	208
第6節 土壤汚染の現況と対策	210
1 土壤汚染の現況	210
(1) 土壤汚染の環境基準	210
(2) 農用地の土壤汚染	210
2 土壤汚染防止に関して講じた施策	213
(1) 神通川流域	213
(2) 黒部地域	216
第7節 地下水の現況と対策	218
1 地下水の現況	218
(1) 地下水位の変動	218
(2) 地下水の塩水化	222
2 地下水に関して講じた施策	223
(1) 地下水条例による規制	223
(2) 地下水指針の策定	227
(3) 観測体制の整備	229
(4) 監視指導	229
第8節 廃棄物の現況と対策	231
1 廃棄物処理の現況	231
(1) 一般廃棄物の処理	231
(2) 産業廃棄物の処理	235
2 廃棄物に関して講じた施策	238
(1) 法令に基づく規制の概要	238
(2) 一般廃棄物対策	240
(3) 産業廃棄物対策	240
第9節 自然環境保全の現況と対策	243
1 自然環境保全の現況	243
(1) 自然環境保全地域等	243
(2) 自然公園等	245

(3) 県民公園	249
(4) 立山山麓家族旅行村	252
2 自然環境保全に関して講じた施策	253
(1) 自然環境保全地域の保全及び管理	253
(2) 自然公園等の保護及び管理	253
(3) 自然公園等の施設整備	257
(4) 県民公園の整備	257
(5) とやまの滝の整備	257
(6) 野生鳥獣の管理	258
(7) 自然保護思想の普及啓蒙	263
(8) 自然環境の各種調査	265
(9) 自然環境保全地域等の公有地化	266
第10節 快適環境づくりの展開	268
1 県土美化推進運動の実施	268
2 快適なトイレの整備	271
3 グリーンプランの推進	272
第11節 その他の環境保全対策	273
1 緩衝緑地の整備	273
2 下水道等の整備	277
3 畜産環境保全対策	283
4 漁場環境保全対策	285
5 環境保健対策	288
6 食品等の汚染対策	291
7 公害に関する紛争と苦情処理	293
第12節 環境保全に関する試験、研究	298
第13節 民間における公害防止体制の整備	302
1 県の助成	302
2 公害防止管理者制度	306

第3章 平成5年度において講じようとする

環境保全に関する施策	307
1 総合的な環境保全対策	308
2 大気汚染防止対策	308
3 水質汚濁防止対策	310
4 騒音・振動防止対策	312
5 悪臭防止対策	312
6 土壌汚染対策	312
7 地下水対策	312
8 一般廃棄物対策	313
9 産業廃棄物対策	314
10 自然環境保全対策	315
11 快適な環境づくり	318
12 環境保全活動等の推進	320
13 公害防止事業に対する助成	322
14 その他の環境保全対策	322
15 環境保全に関する試験・研究	324

資料

第1 年表(昭和36年度～3年度)	327
第2 日誌(4年度)	350
第3 富山県環境関係行政組織図	351
第4 富山県環境関係付属機関	352
第5 富山県環境関係分掌事務	353
第6 市町村環境関係担当課(係)一覧	356
第7 市町村の環境関係条例制定状況	357
第8 市町村の公害防止協定締結状況	358
第9 最近の環境用語	364

第10	国の環境基準	374
第11	県の環境基準	384
第12	水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定状況	385
第13	騒音関係に係る環境基準の地域類型の指定状況	387
第14	「とやまの名水」一覧	388
第15	「とやまの滝」一覧	391
第16	「とやまの森林浴の森」一覧	392
第17	「とやまの巨木・名木」一覧	397
第18	鳥獣保護区一覧	398
第19	自然公園の主な施設の内容	399
第20	ナチュラリストの配置状況	407
第21	自然観察読本等の発行状況	408

第1章 総論

第1章 総論

私たちが生まれ、育ち、生活している富山県は、緑豊かで、清く澄んだ水や空気に恵まれており、これらの優れた環境は、私たちに、うるおいとやすらぎのある快適な生活を提供してくれています。

20年代後半からの経済の高成長との過程で、本県では大気の大汚染や水質の汚濁などの公害の発生や自然の破壊などが進みましたが、公害を防止し、美しい自然環境を保全していくため、昭和年代には、法律や条例の整備をはじめ、本県独自のブルースカイ計画を策定するとともに各種の環境対策が強化された結果、従来活動に起因する汚染の汚染は著しく改善されてきました。

しかしながら、近年、都市化の進展や生活様式の向上に伴う車のライズスタイルの増加などを背景として、生活排水による水質汚濁、自動車による大気汚染や交通騒音、都市部における緑地の減少など、新たな環境問題の対応が必要となってきています。

自然環境については、地盤開発が進む中で、自然環境の破壊や生態系を形成する自然がますます貴重なものになってきています。また、水質汚濁や緑地の減少など、自然とふれあえる機会が減少しています。

さらに、近年、県民の環境に対する意識の高まりや自然環境の保全にとどまらず、清らかな水田や美しい自然環境を後世に伝えるための美しさや歴史的な価値など、自然環境の重要性がますます高まっています。

また、技術革新に伴う産業革命や公害問題、オゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨など新たな環境問題が指摘されています。

とりわけ地球環境問題については、昨年6月、ブラジルのリオ・デ・



県の鳥 ライチョウ

北と南の両アルプスにすむ鳥で、古来より歌にも詠まれ愛されてきました。特に、雷鳥の衣がえは有名で、冬には尾羽の一部を残して純白の姿になります。

（昭和30年、国の特別天然記念物に指定）

第1章 総 論

私たちが生まれ、育ち、生活している富山県は、緑豊かで、清く澄んだ水や空気に恵まれており、これらの優れた環境は、私たちに、うるおいとやすらぎのある快適な生活を提供してくれています。

30年代後半からの経済の高度成長の過程で、本県では大気汚染や水質汚濁などの公害の発生や自然の改変などが進みましたが、公害を防止し、美しい自然環境を保全していくため、40年代には、法律や条例の整備をはじめ、本県独自のブルースカイ計画を策定するなど各種の環境対策が強化された結果、産業活動に起因する環境の汚染は著しく改善されてきました。

しかしながら、近年、都市化の進展や生活水準の向上に伴う県民のライフスタイルの変化などを背景として、生活排水による水質汚濁、自動車による大気汚染や交通騒音、空き缶やごみの散乱など都市・生活型公害についての対応が必要となってきています。

自然環境については、地域開発が進むなかで、原生的な自然や優れた景観を形成する自然がますます貴重になってきている一方、市街地では身近な水辺や緑地が減少するなど自然とふれあう機会が少なくなってきました。

さらに、近年、県民の環境に対する意識は変化し、公害の防止や自然環境の保全にとどまらず、清らかな水辺や豊かな緑など自然とのふれあい、街並みの美しさや歴史的なたたずまいといったうるおいとやすらぎを与えてくれるより質の高い快適な環境に対するニーズが高まってきています。

また、技術革新に伴う未規制化学物質の使用や大規模な開発、さらにはオゾン層の破壊、地球の温暖化、酸性雨等の地球的規模の環境問題への対応など幅広い取組みが求められています。

とりわけ地球環境問題については、昨年6月、ブラジルのリオ・デ・ジ

ャネイロにおいて、地球環境の保全と持続可能な開発の実現を目的として「環境と開発に関する国連会議（地球サミット）」が開催され、環境と開発に関する国際的な原則を定めた「環境と開発に関するリオ宣言」、その行動計画となる「アジェンダ21」が採択されたほか、「気候変動枠組み条約」等についても多くの国が署名をしました。

このように規模も範囲も拡大した今日の環境問題に対応して行くため、「水と緑の快適な環境の形成」をめざして策定したとやま環境計画に基づき、21世紀を展望しながら健康で文化的な生活は環境と深い関わりがあるとの基本的な認識に立って、環境資源の持続可能な利用や環境に配慮した社会的ルール形成等を図っていく必要があります。

さらに、足元から地球的規模までの幅広い環境問題を解決していくためには、県民、事業者、行政が一体となって取り組んでいく必要があることから、事業活動や日常生活のスタイルを地球環境や生態系にも配慮されたものとするとともに、県土美化運動やごみのリサイクル運動などの地域に根ざした環境保全活動を積極的に進めるため、財とやま環境財団を中心に、これらの運動をより広く展開していくことにしています。

第1節 環境の現況

1 公害の現況

4年度における県内の公害の状況は、これまで実施してきた各種の施策により、全般的に良好な水準を維持しています。

大気汚染については、本県独自のブルースカイ計画などを推進してきたことにより、主な汚染物質である硫黄酸化物や窒素酸化物は、環境基準を達成しており、きれいな空となっています。

しかし、光化学オキシダントは、全国的な傾向と同じく環境基準を超えています。

水質汚濁については、小矢部川や神通川などの主な河川や海で、著しく改善されてきましたが、市街地を流れる一部の中小河川では、生活排水などによる汚濁がみられます。

騒音、振動、悪臭については、苦情件数からみると最近ではほぼ横ばいの傾向にありますが、その内容は多様化してきています。

農用地のカドミウムによる土壌汚染については、神通川流域の土壌汚染対策地域における第1次及び第2次地区では復元事業が完了し、引き続き第3次地区及び黒部地域についても土壌汚染対策計画に基づき、復元事業が実施されています。

地下水については、近年、道路などの消雪に利用される量は、増加する傾向にありますが、地下水条例による採取量の規制や工場における水利用の合理化が進み、地下水位はおおむね横ばいの傾向にあります。

廃棄物については、日常生活に伴って発生するごみやし尿などの処理施設の整備が市町村や広域圏において逐次なされており、住民等の協力を得てごみの減量化や再生利用への取り組みも積極的に行われてきています。また、工場などから発生する産業廃棄物については、減量化と有効利用が進められています。

なお、人口や工場が集中している富山・高岡地域については、公害の防止に係る施策を総合的、計画的に進める必要があることから、49年度以来4回にわたり公害防止計画を策定し、各種の公害防止対策を進めてきています。

(1) 大 気 汚 染 —きれいな空を守るために、

ブルースカイ計画を進める—

大気は、水とともに、私たち人間が生活していくうえでなくてはならないものであり、健康で快適な生活を営むためには、このきれいな空を守り維持していかなければなりません。

近年における産業や交通の発達、私たちに豊かで便利な生活をもたらした反面、石油や石炭などの燃料を大量に消費するようになったため、工場や自動車からの排出ガスが増えて、大気を汚染するようになりました。

このため、県では、法令による規制やブルースカイ計画^{*1}の推進に努めてきた結果、主な汚染物質である硫黄酸化物や窒素酸化物は、すべての観測局において環境基準^{*2}が達成されるなど、きれいな空になってきています。

このような大気の状態を監視するために、現在、図1-1のとおり、県内30か所に観測局を設け、常時、環境の濃度を測定しています。また、公害センター局では、これら観測データを衛星回線を利用して監視しており、光化学スモッグの発生など、大気汚染の状況が悪化した場合に備えています。

主な汚染物質の環境基準の達成率と環境濃度は、表1-1と図1-2に示すとおり全般的には横ばいに推移しています。

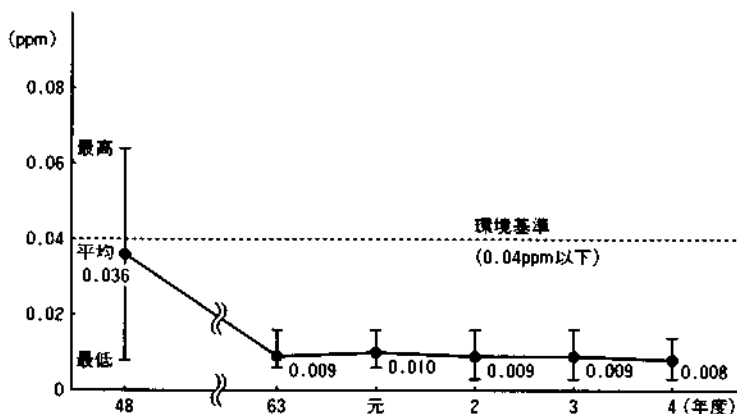
硫黄酸化物については、法令の規制にあわせて、47年度からブルースカイ計画により、工場等に対して、燃焼方法の改善や良質燃料の使用などについて指導してきました。

^{*1}〔ブルースカイ計画〕工場などから排出される硫黄酸化物や窒素酸化物の量を削減し、きれいな空を守っていくため、県が47年度から進めている計画です。なお、この計画は3年度に推進方法等について検討し見直しました。

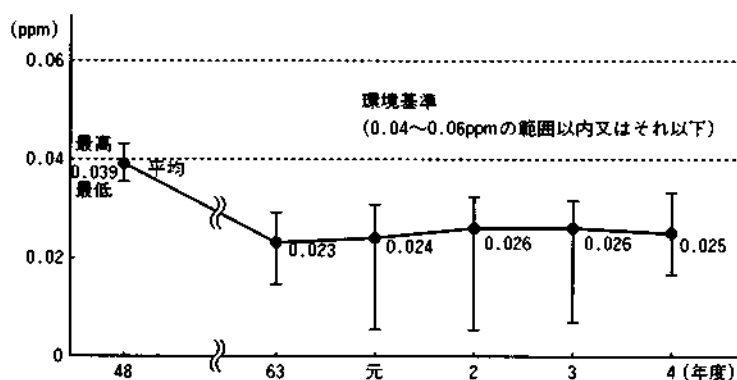
^{*2}〔環境基準〕人の健康や生活環境を守っていく上で、維持されることが望ましい環境の目標となる基準で、公害対策基本法に基づき、現在、大気、水質、騒音及び土壌について定められています。

図1-2 主な大気汚染物質の環境濃度(日平均値)の推移

(1) 硫酸酸化物



(2) 窒素酸化物



(3) 浮遊粉じん

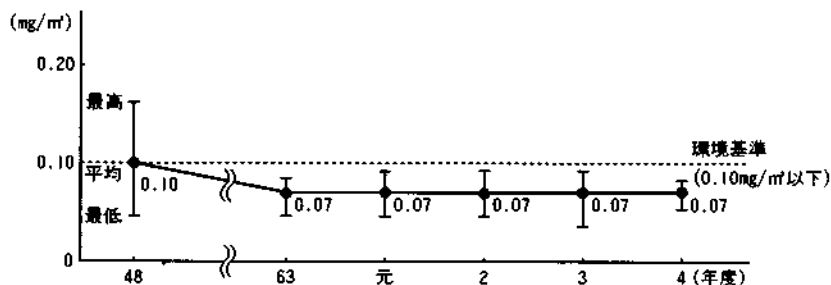


表1-1 主な大気汚染物質の環境基準達成率の推移

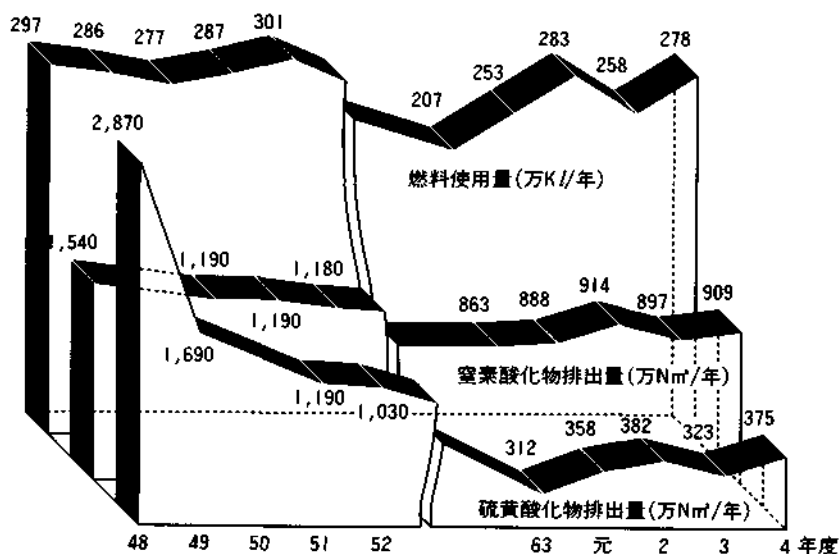
(単位：%)

項 目	48年度	63年度	元年度	2年度	3年度	4年度
硫黄酸化物	50	100	100	100	100	100
窒素酸化物	100	100	100	100	100	100
浮遊粉じん	45	97	100	94	81	100

注 環境基準達成率 (%) = (環境基準達成観測局数/全観測局数) × 100

また、工場等においても除害装置が順次整備され、良質燃料への転換や省エネルギー対策も進められたこともあって、排出量は、図1-3の通り48年度に比べて大幅に減少してきていましたが、近年は、燃料使用量が横ばいであることから排出量もおおむね横ばいの傾向にあります。

図1-3 燃料使用量、硫黄酸化物及び窒素酸化物の排出量の推移



その結果、環境の濃度は、48年度の平均0.036ppm に比べて、4 年度は平均0.008ppm と 4 分の 1 に減少しました。環境基準については、長期的評価*でみると48年度には観測局の半数が基準を超えていましたが、51年度以降はすべての観測局において達成しており、4 年度も環境基準よりかなり低い濃度でこれを維持しています。

窒素酸化物については、法令の規制にあわせて、49年度からブルースカイ計画により、工場等に対して燃焼方法の改善や良質燃料の使用を指導してきました。このため、排出量は、図1-3のとおり、減少してきていましたが、最近では、エネルギー源の多様化や自動車交通量が増えたことに伴って増加する傾向にあります。

環境の濃度は、48年度には平均0.039ppm でしたが、近年は0.025ppm 前後を横ばいに推移しており、4 年度は0.025ppm で、すべての観測局において環境基準を達成しています。

硫黄酸化物及び窒素酸化物については、3 年度に改定したブルースカイ計画を推進し、引き続き環境基準を維持することにしています。

浮遊粉じんについては、高性能な集じん機の設置や燃焼方法の改善などを指導してきましたが、環境の濃度は、従来から0.10mg/m³程度に推移しており、4 年度も0.07mg/m³とほぼ横ばいの状況です。また、環境基準については、4 年度はすべての観測局において達成していますが、今後とも、工場などから排出されるばいじんや粉じんの環境に及ぼす影響を調査し、対策を進めることにしています。

光化学オキシダントについては、3 年度には高岡・新湊地区に情報を発令しましたが、4 年度は情報や注意報を発令する状況には至りませんでした。各観測局とも、晴天が続き、風が弱く気温の高い日に環境基準を超えることが多いので、今後さらに、原因物質や発生メカニズムを調

*【長期的評価】汚染の状況を的確に判断するため、長期にわたる年間の測定日の1日平均値について、測定値の高い方から2%内にあるものを除外して評価することをいいます。

査し、対策を進めることにしています。

一酸化炭素については、すべての観測局において環境基準を達成しています。

スパイクタイヤについては、2年度にスパイクタイヤ規制法が施行され、指定地域の27市町村で、3年度から積雪・凍結の状態にない路面での使用が禁止されました。その結果、4年度にはスパイクタイヤの装着はほとんどみられなくなりました。

また、近年、大気汚染の形態が産業型から都市型へと変化していることやブルースカイ計画の推進、環境影響評価の実施に対応するため、3年度からの3か年計画で全県的な視野に立った大気汚染常時観測局の適正な配置を図るとともに、衛星回線を利用した観測データの収集と市町村へ情報の提供ができる大気環境ネットワークの整備を進めています。

このほか、広域的な課題となっている酸性雨^{*1}については、全国と同程度であり、今後とも引き続き調査を実施することになっています。また、環境放射能^{*2}についても、その実態把握に努めるなど適切に対応していくことにしています。

^{*1}【酸性雨】大気中に排出された硫黄酸化物や窒素酸化物等の汚染物質が上空で雨雲や雨水にとりこまれて酸性の度合いが強くなった雨のことです。

^{*2}【環境放射能】空気、雨水、ちり及び土壌など一般環境中に含まれる放射能を言います。

(2) 水 質 汚 濁 一魚がすみ、水遊びが楽しめる川や海をめざして、
クリーンウォーター計画を進める一

水は、炊事、洗濯などの生活用水として毎日の暮らしに必要なものであり、工業、農業、水産業などの産業活動にもなくてはならないものです。

また、小川のせせらぎや紺碧の海、緑豊かな水辺は、レクリエーションや憩いの場として、私たちの生活にうるおいとやすらぎを与えてくれます。このように、水は暮らしのなかで重要な役割を果たしていますが、近年、産業の発展や生活様式の変化などが、水質の汚濁をもたらしました。

このため、工場排水については、法律や条例により規制をするとともに、私たちが日常生活に伴って排出する生活排水については、下水道を整備するなどの対策がとられています。また、川の流れや汚濁を改善するため、きれいな水の導入なども行われています。

その結果、県内の川や海の水質は、全体としてきれいになってきていますが、街の中を流れている一部の川では、まだ生活排水などによる汚濁がみられます。

表1-2 河川、湖沼、海域における環境基準達成率の推移

(単位：％)

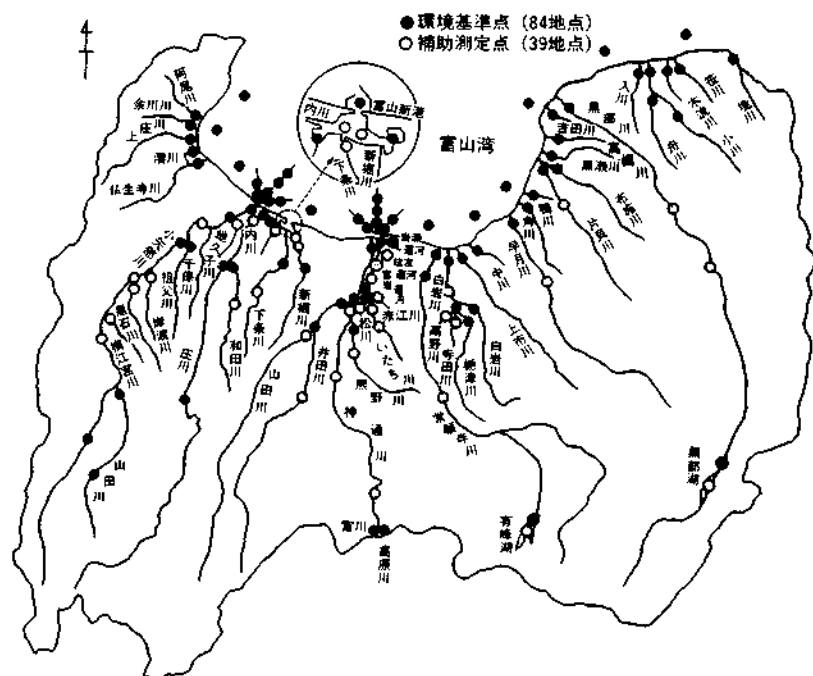
水域区分		63年度	元年度	2年度	3年度	4年度
河川	主要5河川	100	100	100	100	100
	中小22河川	90	93	93	93	93
	計	95	96	96	96	96
湖沼		—	100	100	100	100
海域	富山湾	100	92	100	100	100
	富山新港	100	100	100	100	100
	計	100	93	100	100	100

注1 環境基準達成率は、河川についてはBOD、湖沼、海域についてはCODによる。

2 環境基準達成率(％)＝(環境基準達成点数/環境基準点数)×100

3 湖沼は、元年度から測定開始

図1-4 水質の監視測定地点



水質汚濁の状況を監視するため、図1-4のとおり、現在27の川で89地点、湖で4地点、海で30地点の合計123地点で定期的な測定を行っています。

これらの地点では、それぞれ環境基準が定められており、水銀やカドミウムなどの人の健康に関する項目では、46年度以降すべての川や海で環境基準を達成維持しています。

また、生活環境に関する BOD や COD の達成状況は、表1-2のとおり、90%以上を維持しており、きれいな水質が保たれています。

なお、湖については、元年度の測定開始以来環境基準を達成しています。

つぎに、県内の川や海における水質の推移をみると、図I-5、図I-6のとおり、過去に著しい汚濁がみられた小矢部川やその支川の千保川、神通川などは、大幅に改善され、近年はきれいになってきています。また、

庄川や黒部川などは現在もその清流を保っています。

しかし、中小の川のうち、生活排水の影響が多くみられる街の中を流れる川では、徐々に改善されてきてはいるものの、いまだに汚濁が見られます。

一方、海では、一部で環境基準を超えるところがみられましたが、近年、安定したきれいな水質を維持しています。

それぞれの川の水質の状況は、図1-7のとおり、ほとんど環境基準のAA（BOD1mg/l）～B（BOD3mg/l）類型^{*1}に相当するきれいな水質を維持しています。しかし、一般に下流部では、工場や家庭からの排水による汚濁がみられ、特に街の中を流れている川や流れがよどんでいる川の汚濁が目立ちます。

これらの汚濁のみられる川に清流を取り戻すため、3年度に改定したクリーンウォーター計画^{*2}を推進し、公共下水道、農村下水道の整備や合併処理浄化槽の設置、あるいは、川へのきれいな水の導入などの事業を積極的に行っていくことにしています。また、私たち一人ひとりが「自らも水質汚濁の原因者である。」との認識を持ち、調理くずや使用済み食用油の流出防止などの家庭でできる浄化対策を一層進めていく必要があります。なお、4年度に、飲食店等の小規模事業場排水の適正処理を推進するため、「小規模事業場排水対策技術マニュアル」を策定し、啓発を進めて行くことにしています。

地下水については、2年度から計画的に水銀やカドミウムなどの人の健康に関する項目の水質測定を実施してきています。4年度に測定を行った県下の平野部の79地点では、すべての地点で評価基準以下でした。

^{*1}【水質の環境基準の類型】川や海の水質の環境基準は、水の利用目的に応じて、川の場合はAA類型～Eタイプの6つに、また海の場合はA～Cタイプの3つに、分類されています。

川のAA類型とか、海のA類型はもっともきれいな水質です。

^{*2}【クリーンウォーター計画】“魚がすみ、水遊びが楽しめる川や海”を実現することを目標とし、望ましい水質環境を将来にわたって守っていくための計画です。なお、この計画は、3年度に施策等を見直しました。

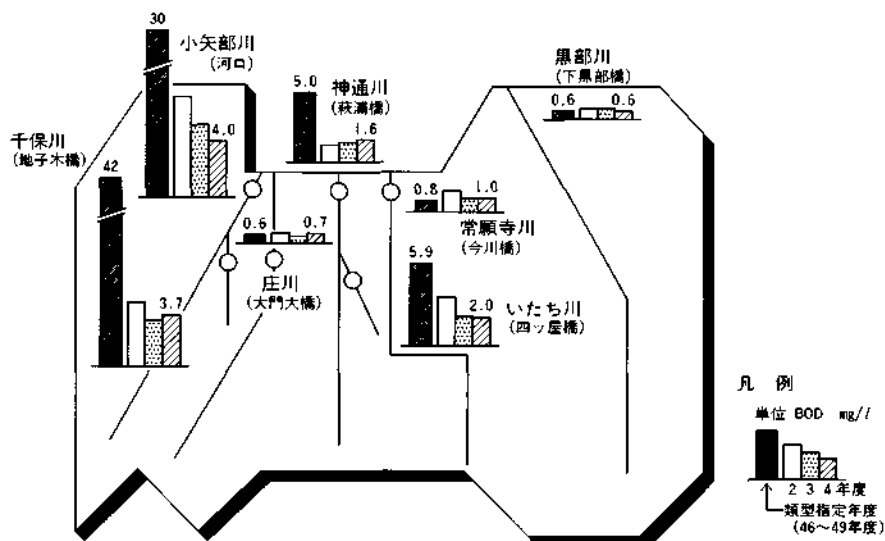
なお、過去に汚染がみられた井戸についても調査を実施しましたが、汚染範囲の拡大はみられませんでした。

また、ゴルフ場で使用される農薬についても、ゴルフ場農薬安全使用指導要綱に基づいて、その適正な使用について指導を行うとともに水質調査を実施しましたが、いずれのゴルフ場においても環境庁の暫定指導指針値を下回っていました。なお、県の指導要綱に基づく指導値と比較すると、ほとんどのゴルフ場で下回っていましたが、一部のゴルフ場で指導値を超えていたため、農薬の適正使用について指導を行いました。

一方、環境庁では、近年の多種多様な化学物質の生産・使用の拡大を勘案し、環境基準の改訂に伴って人の健康に関する項目の大幅な見直しを行い、4年度末に有機塩素化合物や農薬等15項目を環境基準項目として追加したところです。

県では、これらの追加項目について、公共用水域及び地下水の水質調査を実施していくことにしています。

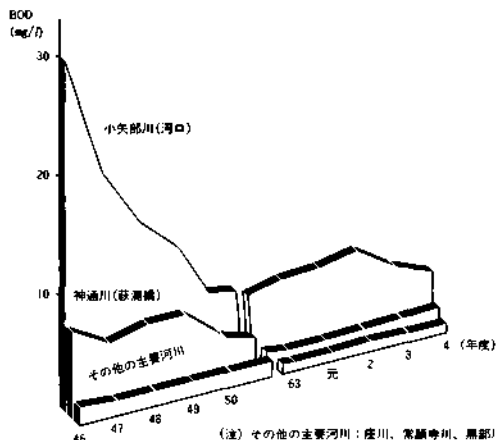
図1-5 主要河川末端の水質(BOD)の推移



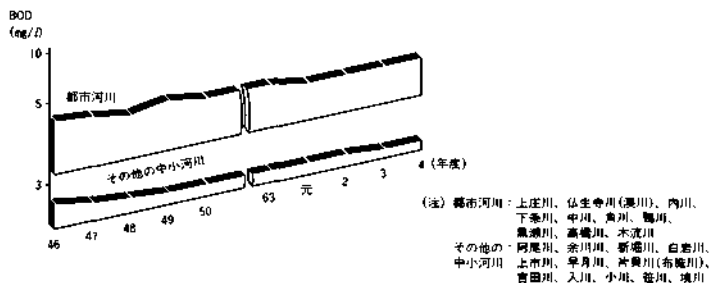
また、今後とも、本県の良質で豊かな水を将来にわたって守っていくため、“魚がすみ、水遊びが楽しめる川や海”をめざすクリーンウォーター計画を県民、事業者、行政が一体となって推進していくことにしています。

図1-6 河川及び海域の水質の推移

(1) 主要河川



(2) 中小河川



(3) 富山湾

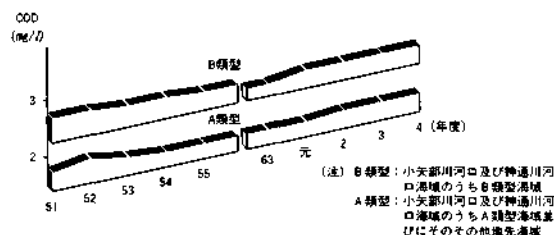
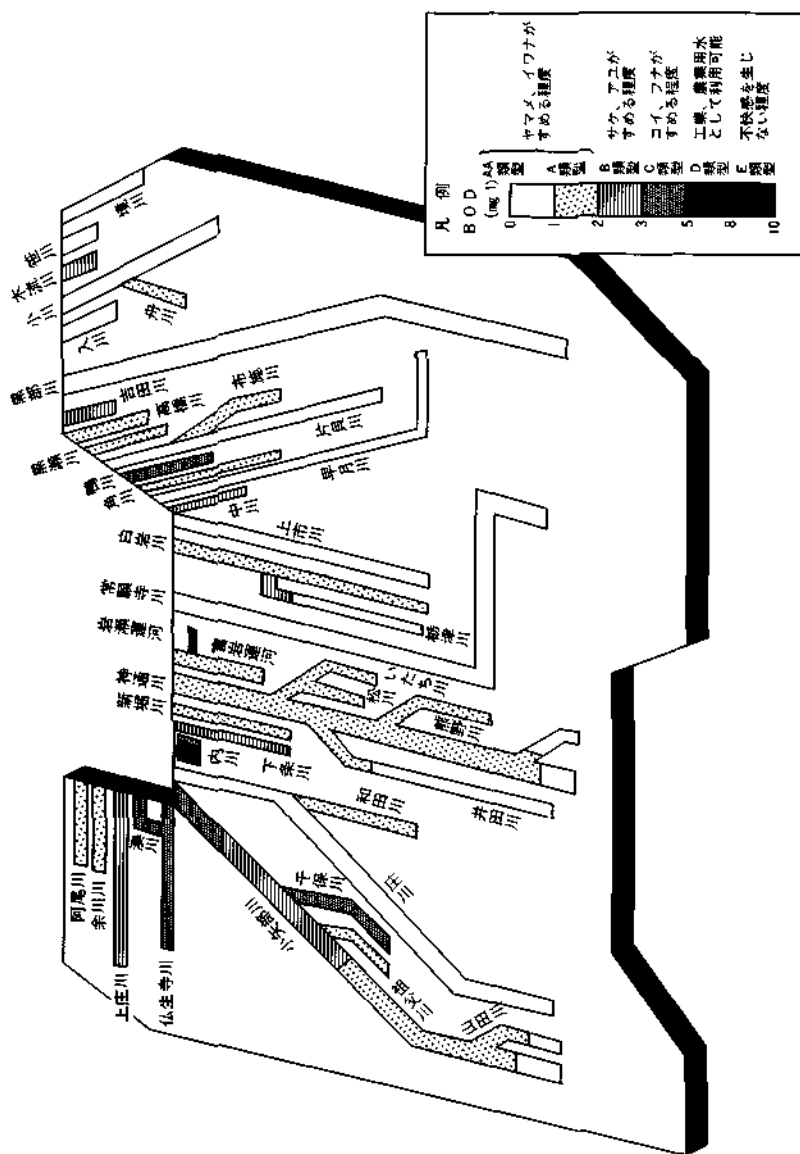


図1-7 河川の水質状況（4年度）



(3) 騒音、振動、悪臭 一多様化する苦情一

日常生活で体験するさまざまな音や揺れ、においの中には「迷惑な音(騒音)」や「不安な揺れ(振動)」、「不快なにおい(悪臭)」があります。県では、これら身近な公害について、法律や条例により工場や事業場を規制しています。

騒音については、一般環境騒音や航空機騒音の環境基準の地域指定を行い、騒音の状況を監視するための測定を実施しています。

4年度の測定結果では、一般環境騒音については表1-3のとおり、環境基準に適合しているのは道路に面する地域が61%、それ以外の地域が77%であり、交通量の多い幹線道路を中心とした道路周辺地域において、適合率が低い状況にあります。

航空機騒音については、低騒音型ジェット機の就航率が増加したため全体的には改善されてきており、引き続き、すべての地点で環境基準を達成維持しています。

県及び市町村で受け付けた騒音、振動、悪臭の苦情件数からみると、騒音や振動については、図1-8のとおり、工場等において防音工事や移転等の対策が実施されたため、47年度をピークに大幅に減少し、最近では、横ばい傾向となっています。発生源は、工場・事業場が最も多くなっていますが、建設作業、商店・飲食店、交通機関等多様化する傾向にあります。

悪臭については、図1-9のとおり47年度が最も多く、最近ではほぼ横ばいとなっています。

このような身近な公害については、発生源に対する指導や適正な土地利用に努めるとともに、啓発用ポスター等による意識の高揚を通じて、快適な生活環境を保全していくことにしています。

表1-3 一般環境騒音の環境基準の適合率（4年度）

区 分	測定地点数	環境基準適合地点数	適合率 (%)
道路に面する地域	211	130	61
内 国 道	23	5	22
県 道	61	33	54
市 町 村 道	127	92	72
道路に面する地域以外の地域	91	70	77
全 体	302	200	66

図1-8 騒音・振動苦情の発生源別推移

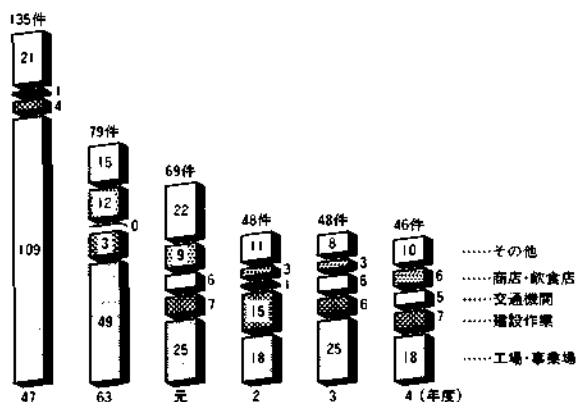
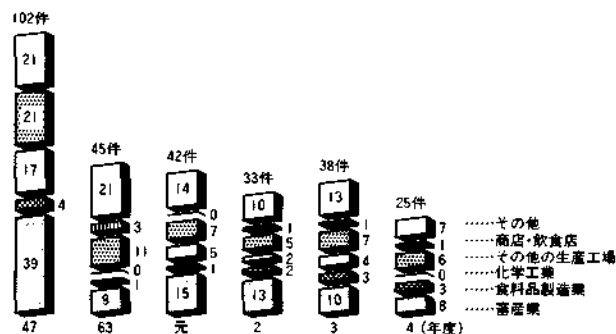


図1-9 悪臭苦情の発生源別推移



(4) 土 壌 汚 染 ーすべての対策地域で復元に着手ー

土壌は、人をはじめとする生物の生存の基盤として重要な役割を担っていますが、一旦汚染されるとその影響が長期にわたり持続するという特徴があり、カドミウム、シアン等10物質について「土壌の汚染に係る環境基準」が定められています。

また、県においては、「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」に基づきカドミウムによって汚染された農用地として、表1-4及び図1-10のとおり、神通川流域で1,500.6ha、黒部地域で129.5haを農用地土壌汚染対策地域に指定しました。

このうち、神通川流域の上流部の第1次地区については、きれいな土壌に復元するための工事が完了し、62年度には、この対策地区のうち95.2haについて、その指定を解除（第1回）しました。

また、第1次地区に隣接する第2次地区の450.5haについても、表1-5のとおり58年度に農用地土壌汚染対策計画（以下、「対策計画」という。）をつくり（3年度に対策計画を変更）、59年度から対策工事を実施しています。このうちの189.9haについて、3年度に指定解除（第2回）を行いました。

表1-4 農用地土壌汚染対策地域の指定及び解除の状況

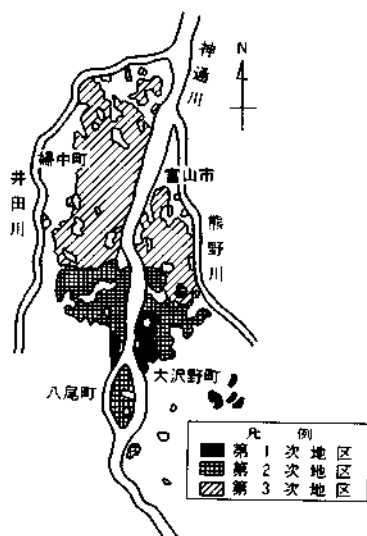
(単位: ha)

地 域 名			対策地域の 指定面積 ①	指定解除 した面積 第1回②	指定解除 した面積 第2回③	残る対策 地域の面積 ①-②-③	汚染 物質	指定及び解除の年月日
神通川 流 域	左岸 地域	富 山 市	21.1	—	—	21.1	カ ド ミ ウ ム	指定 49年8月27日 50年10月17日 区域変更 52年1月28日 52年11月30日 指定解除 第1回62年6月9日 第2回3年6月18日
		綿 中 町	912.0	12.5	42.4	857.1		
		八 尾 町	85.3	—	4.2	81.1		
		小 計	1,018.4	12.5	46.6	959.3		
	右岸 地域	富 山 市	437.6	54.2	129.2	254.2		
		大沢野町	44.6	28.5	14.1	2.0		
		小 計	482.2	82.7	143.3	256.2		
	計		1,500.6	95.2	189.9	1,215.5		
黒 部 地 域	黒 部 市		129.5	—	—	129.5	カ ド ミ ウ ム	指定 48年8月9日 区域変更 49年11月28日

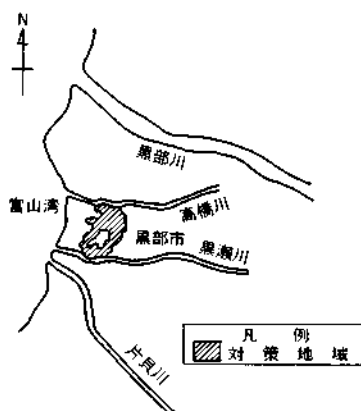
注 面積は台帳面積である。

図1-10 農用地土壌汚染対策地域

1 神通川流域



2 黒部地域



さらに、残る953.7haについても、第3次地区として、3年度に対策計画をつくり、4年度から対策工事に着手しています。

一方、黒部地域については、3年度に対策計画をつくり、4年2月から対策工事を実施しています。

表1-5 神通川流域及び黒部地域における対策計画策定状況

地区 計画の内容	神 通 川 流 域			黒 部 地 域
	第1次地区	第2次地区	第3次地区	
告 示 年 月 日	55年2月6日	59年1月20日 3年9月4日変更	4年2月3日	3年11月19日
計 画 面 積 ha	96.4(108.8)	450.5(481.1)	953.7(1,055.3)	129.5(132.1)

注 実数は台帳面積、()内は実測面積である。

(5) 地 下 水 ー貴重な地下水を守るために

地下水指針を進めるー

本県は、降水量が多く、地下水のかん養に適した地形、地質であるため、豊富な地下水に恵まれており、産業活動や日常生活に多大の恩恵を受けています。

県では、この地下水が適正に利用されるよう50年度に地下水条例を制定し、富山市、高岡市、新湊市及びその周辺地域について、採取量の規制を行っています。

地下水位については、現在、図1-11のとおり、30か所の井戸で観測を行っていますが、全体的にみて大幅な変動はなく、おおむね横ばいに推移しています。

地域別にみると、高岡・砺波地域では、豪雪による地下水利用の影響もあって、これまで、一部の地点において低下がみられましたが、最近では、全体的にはほぼ横ばい傾向にあり、富山地域では、ほぼ横ばいに推移しています。

また、魚津・滑川地域については、全体的にはほぼ横ばいに推移しており、黒部地域では、ほぼ横ばいに推移していましたが、最近の一部の地点において低下がみられます。

地下水の塩水化は、富山新港を中心とした海岸部と小矢部川の河口付近にみられますが、最近では、塩水化の範囲が縮小する傾向にあります。

一方、地盤沈下については、63年度に高岡、射水及び富山地域において水準測量・調査を実施しましたが、沈下は認められていません。

地下水条例指定地域における採取量は、図1-13のとおり、工業用が最も多く、次いで、水道用、建築物用、道路等消雪用の順となっています。また、地下水の揚水設備は、図1-14のとおり、道路や建築物の消雪用が年々増加しており、降雪時にはこれらの揚水設備が一斉に稼働すること

*[水準測量]土地の高さを精密に測定する測量であり、この経年変化によって、地盤変動状況を把握し、地盤沈下対策に利用します。

図1-11 地下水位の観測地点

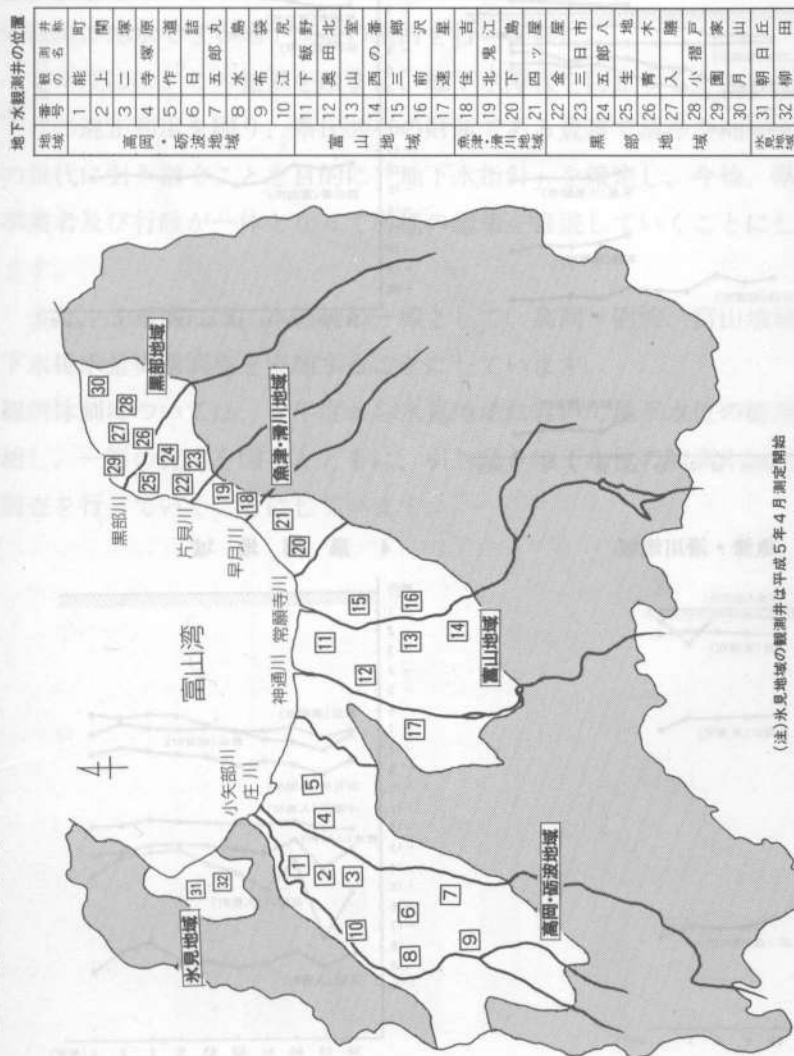
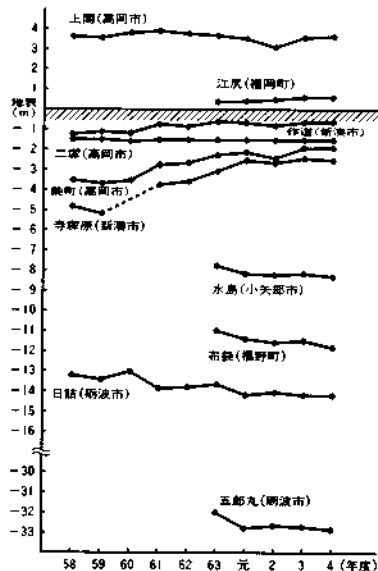
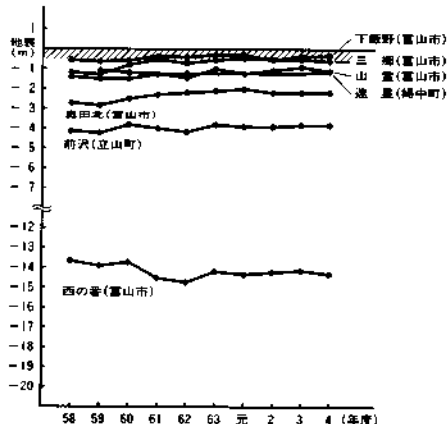


図1-12 地下水位の推移

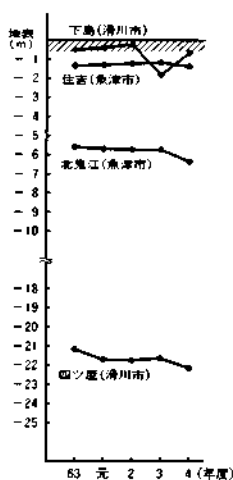
1 高岡・砺波地域



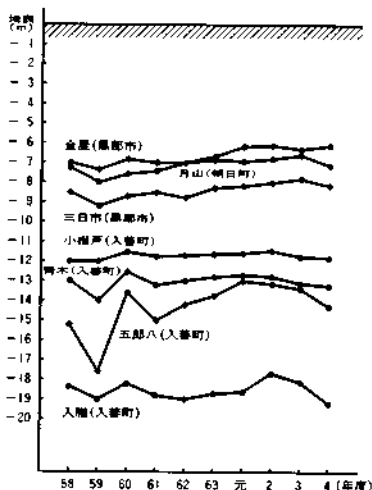
2 富山地域



3 魚津・滑川地域



4 黒部地域



から、一時的ではありますが地下水位の低下が懸念されます。

このため、県では、この貴重な資源である地下水を保全するために、60年度から元年度にかけて高岡・砺波地域から順次、県下の各平野部について、地下水適正揚水量調査を実施し、地下水障害を生じさせないで永続的に揚水できる地下水量の検討を行いました。

4年度には、この結果を踏まえ、地下水障害を防止するとともに、地下水の適正利用を図り、県民共有の財産である豊富で清浄な地下水を次の世代に引き継ぐことを目的に「地下水指針」を策定し、今後、県民、事業者及び行政が一体となって各種の施策を推進していくことにしています。

また、5年度には、本施策の一環として、高岡・砺波、富山地域の地下水揚水量実態調査を実施することになっています。

観測体制については、5年度から氷見地域において地下水位の観測を開始し、一層の充実を図るとともに、引き続き地下水位の観測や塩水化の調査を行っていくことにしています。

図1-13 地下水条例指定地域の採取量（4年度）

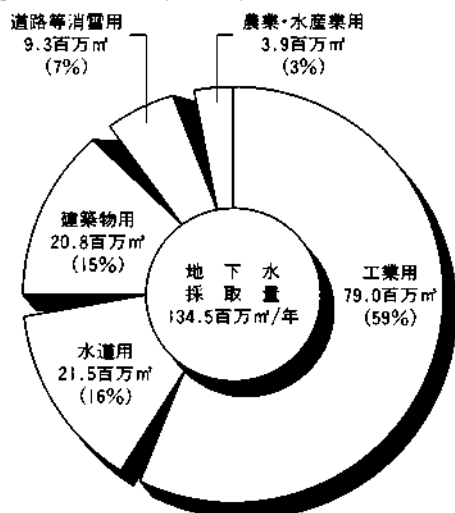
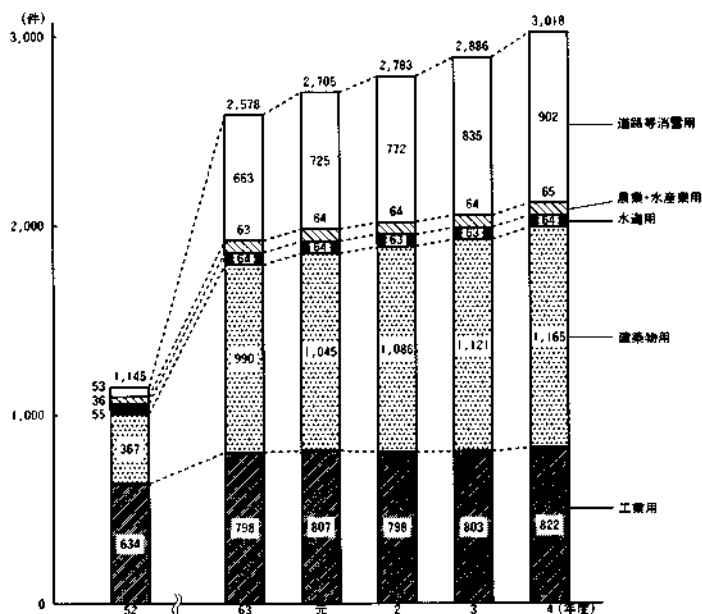


図1-14 地下水条例指定地域の揚水設備の推移



(6) 廃 棄 物 ーさらに有効利用を進めるー

廃棄物は、近年の経済の安定成長が進むなかで、生活水準の向上や産業構造の高度化あるいはOA化の進展に伴い、量的には増加の傾向が見られ、質的にも多種・多様化してきています。

このため、国においては、廃棄物の減量化や再生利用の推進、適正処理の確保等を柱として、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」を大幅に改正するとともに、資源の有効利用を図ること等を目的とした「再生資源の利用の促進に関する法律」を新たに制定したところです。

廃棄物には、日常生活によって生じる家庭からのごみやし尿などの一般廃棄物と工場などの事業活動によって生じる汚泥、建設廃材、木くず、鋳さいなどの産業廃棄物があります。

一般廃棄物については、市町村が計画的に収集・処理することになっています。

ごみ焼却施設やし尿処理施設は、用地の確保や効率的な処理を行う必要から、広域圏を中心として整備されています。これらの施設では、ごみの中から金属回収をしたり、汚泥を肥料化しているほか、廃熱を発電、温水プールのエネルギー源とするなどの有効利用に努めています。

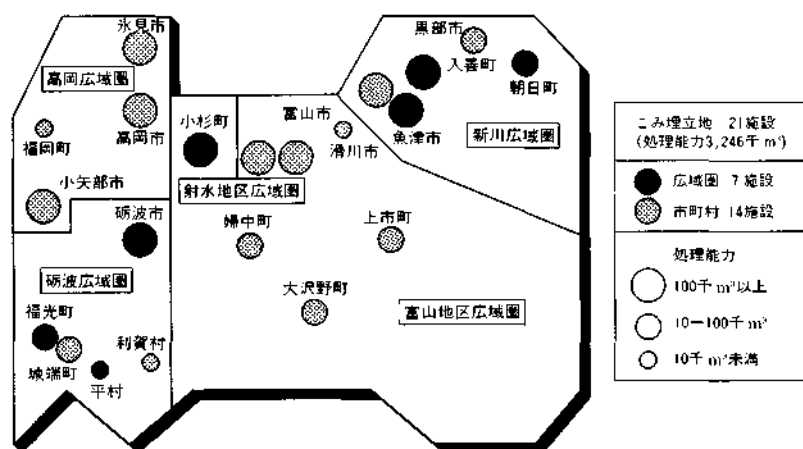
ごみの処理状況についてみると、図1-15のとおり、処理量は、近年、ほぼ横ばいの状況であり、3年度では、37万6千tとなっています。これらは、ほとんどが市町村によって収集され、図1-16、図1-17のとおり、市町村や広域圏で設置されているごみ焼却施設や粗大ごみ処理施設、ごみ埋立地で処理されていますが、焼却される割合が年々増加しています。

また、近年、市町村においては、ごみの減量化や再生利用を推進するため、住民による空き缶、古新聞等の資源ごみの分別が進められるとともに、これらの資源ごみの市町村による直接回収や住民団体による集団回収が行われています。

さらに、一部の市町村では、不用品交換の実施や集団回収を奨励する

また、県では、4年度に設けた「ごみ減量化・再生利用推進検討会」において、県内におけるごみ減量化等の推進方策を示した指針を策定することにしています。

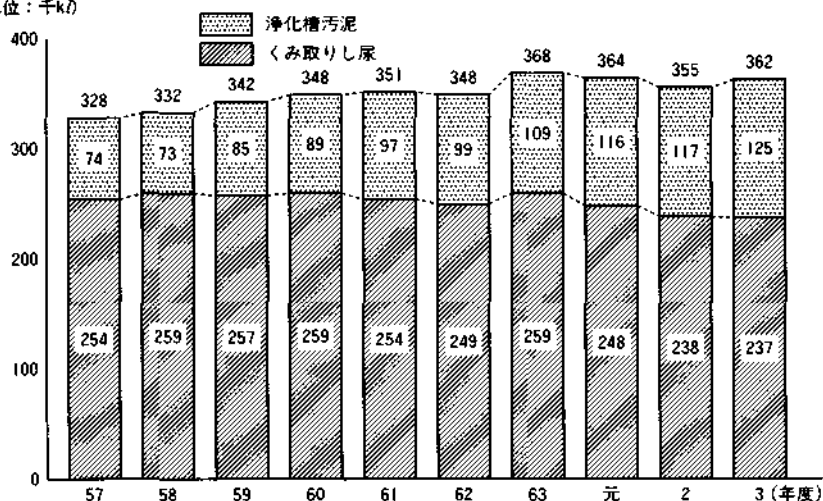
図1-17 ごみ埋立地の状況



一方、し尿の処理状況についてみると、収集量は、図1-18のとおり、やや増加の傾向がみられ、3年度では、36万2千 kl となっており、近年は、水洗トイレの増加に伴って、浄化槽汚泥の割合が少しずつ増加してきています。

図1-18 し尿の処理状況の推移

(単位：千 kl)



これらの収集人口は、図1-19のとおり、くみ取りによるものが43万9千人、浄化槽によるものが39万8千人となっています。

収集されたし尿と浄化槽の汚泥は、図1-20のとおり、市町村や広域圏で設置されているし尿処理施設で処理されています。

図1-19 し尿の処理状況（3年度）

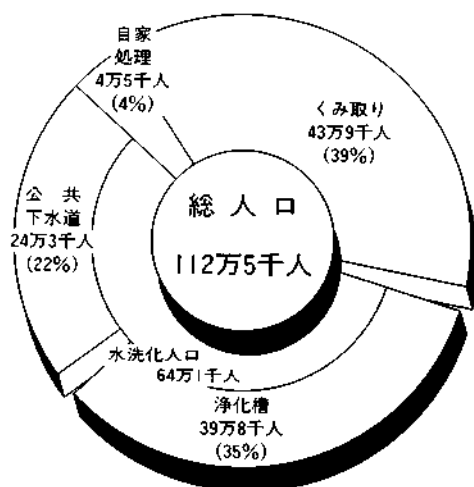
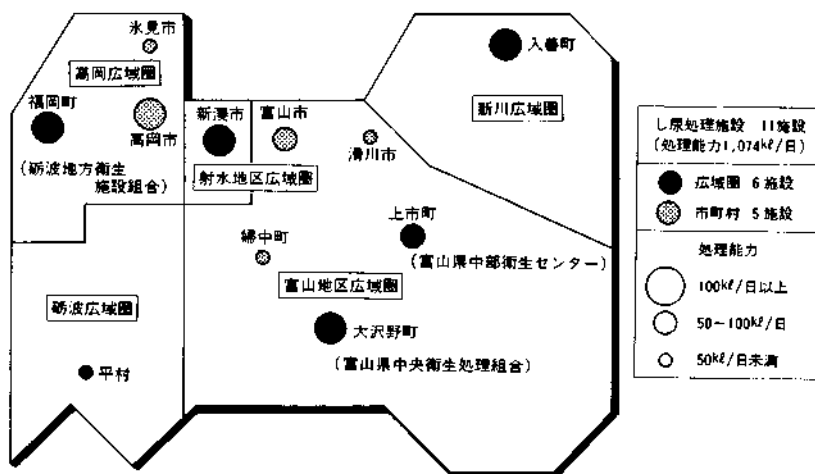


図1-20 し尿処理施設の状況



産業廃棄物については、排出した者が自ら責任をもって適正な処理や有効利用を行うこととされています。

県では、3年度に改定した産業廃棄物処理計画に基づき、排出事業者、処理業者並びに県及び市町村が各々の役割分担により適正な処理を推進することになっています。

事業活動に伴って排出される汚泥や建設廃材等の総排出量は、図1-21のとおり、3年度では701万8千tとなっています。このうち、185万tが自社で再利用したり、有価物として売却するなど有効利用され、残りの516万8千tが産業廃棄物となっています。

種類別では、上・下水道、化学工場などから発生する汚泥が401万7千tで最も多く、次いで建設廃材の45万5千tとなっています。

これらの処理については、図1-22のとおり366万tが脱水、焼却などによって減量され、その結果、67万3千tがセメント原料や路盤材などとして再利用され、残りの83万5千tが埋立などにより処分されています。

また、小規模事業所における適正処理を促進するため、民間処理業者の育成に努めるとともに、県でも富山新港東部埋立地の産業廃棄物埋立センターで埋立処分を行っています。

また、産業廃棄物の適正処理を推進するため、排出から最終処分まで、排出事業者が責任をもって委託処理の確認をするようマニフェストシステム*の導入を指導するほか、建設廃棄物処理ガイドライン、感染性廃棄物処理マニュアルの周知徹底に努めているところです。

なお、従来から、本県と新潟県、石川県、福井県、山梨県及び長野県の各事業所間で産業廃棄物が相互に利用されるよう広域的な交換体制の整備に努め、有効利用を推進しています。

* [マニフェストシステム] マニフェスト（積荷目録）を利用して産業廃棄物の物流管理を行う仕組みのことです。排出事業者（会社、工場など）から収集、運搬業者を経て処理処分されるまでの工程ごとに所定の伝票により確認、記録、保管していく方式です。

図1-21 産業廃棄物等の排出状況（3年度）

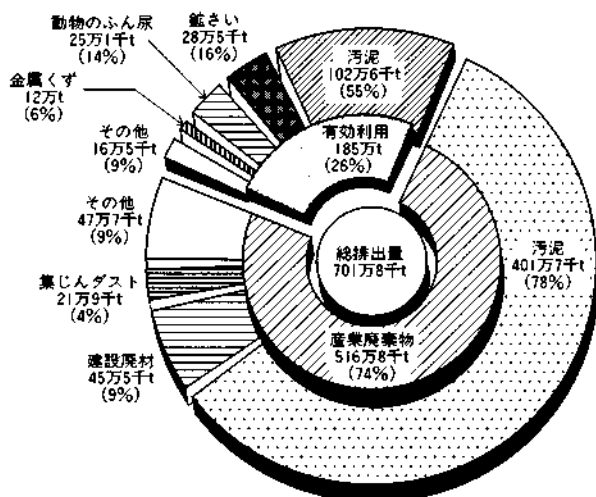
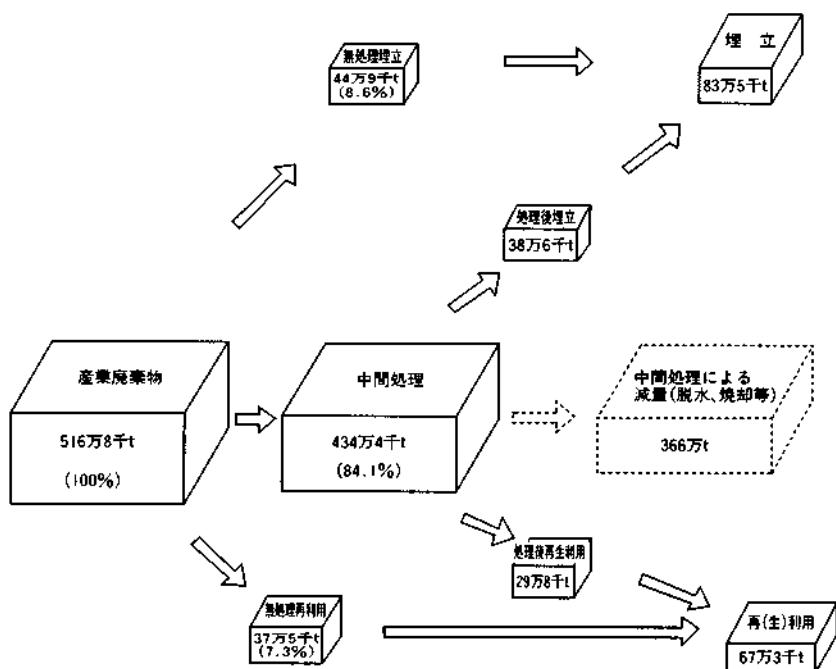


図1-22 産業廃棄物の処理状況（3年度）



(7) 公害の苦情

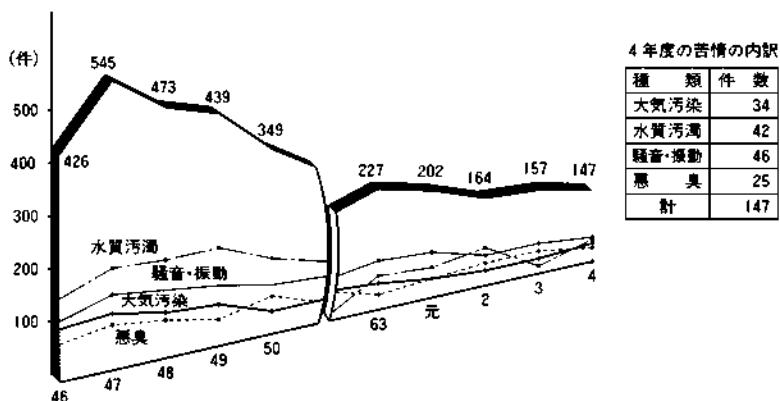
公害の苦情を処理するために、公害審査会や公害苦情相談員を設けて、すみやかで適切な解決に努めています。

県や市町村で受付けた大気汚染や水質汚濁など典型7公害*についての苦情件数は、図1-23のとおり、47年度の545件をピークに、最近はその3分の1以下で推移し、4年度では147件となっています。

これらの苦情発生源は、図1-24のとおり、工場、畜産業、建築・土木工事、商店・飲食店などとなっています。

なお、人口100万人当たりの苦情の件数は、図1-25のとおり、本県は全国に比べて2分の1以下で、苦情の少ない県となっています。

図1-23 苦情件数の推移（典型7公害）



* [典型7公害] 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下及び悪臭のことをいいます。

図1-24 苦情の発生源別の推移（典型7公害）

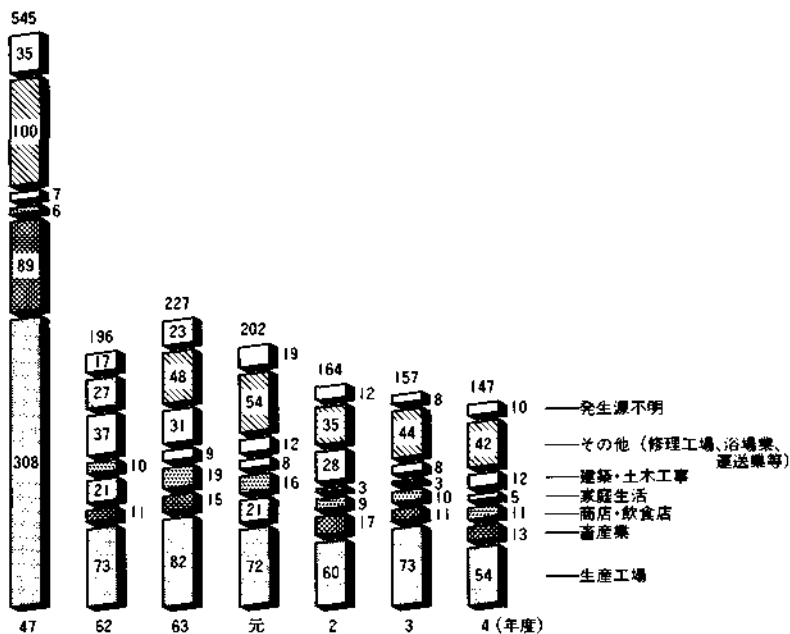
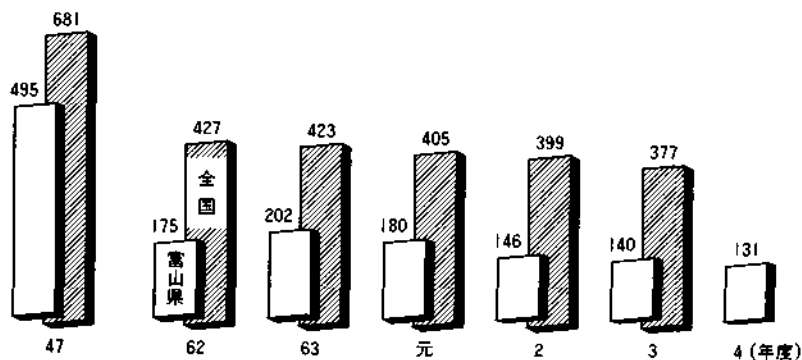


図1-25 人口100万人当たりの苦情件数の推移（典型7公害）



注 本県及び全国の件数は、(苦情件数/人口)×100万人

(8) 富山・高岡地域公害防止計画の推進

公害防止計画は、公害のおそれのある地域について、公害防止の対策を総合的、計画的に進めることをねらいとして策定するものです。

本県では、富山・高岡地域について、49年度以来4回にわたり国の承認を受けて公害防止計画をつくり、各種の公害防止対策を進めています。

その結果、硫黄酸化物による大気汚染や主な河川の水質汚濁は、大幅に改善されてきましたが、主要幹線道路の騒音、都市河川の水質汚濁、カドミウム汚染田の復元など、なお本地域にはいくつかの課題が残されていることから、元年度に策定した公害防止計画に基づき、今後も引き続き環境保全対策を進めることにしています。

表1-6 富山・高岡地域公害防止計画の概要

区 分	内 容
地 域 範 囲	富山市、高岡市、新湊市、婦中町、小杉町、大門町、大島町
承認年月日	2年3月13日
計 画 期 間	元年度～5年度
計画事業費	1,741億円（地方公共団体 1,656億円、事業者 85億円）
主 な 計 画 事 業	・ 公共下水道の整備 ・ 河川のしゅんせつ、導水 ・ し尿処理施設の設置 ・ ごみ処理施設の設置 ・ 農用地土壌汚染対策 ・ 監視測定体制の整備

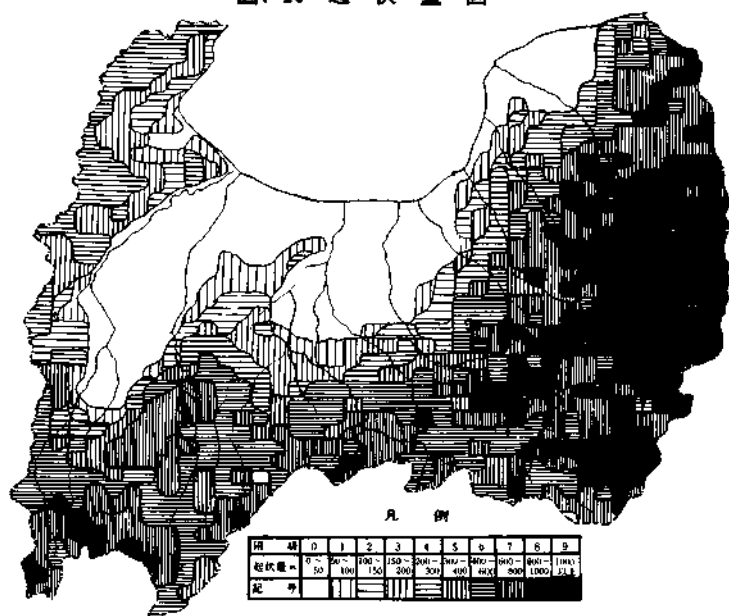
2 自然環境の現況

本県は、東に日本を代表する立山連峰、南に飛騨高原山地に続く山々、中央から西にかけては丘陵地があり、北は富山湾に面しています。また、これら立山連峰などの山々を源として流れ出す各河川によりつくり出された扇状地によって富山平野が形づくられています。

地形のけわしさのめやすとなる起伏量^{*}は、図1-26のとおり大きく、本県特有のけわしさが見受けられます。とくに県東部では大きくなっていますが、これは東部に高い山岳が多いことによるものです。

また、この地域では、これまでに人為の一切加わっていない原生的な植生があり、優れた自然が多く残っています。このことは、環境庁の行

図1-26 起 伏 量 図



^{*}【起伏量】一定面積内の最高地点と最低地点の標高差のことで、起伏量起伏量が大きいほど平均傾斜も大きくなります。

った「緑の国勢調査」*1において、原生的な植生地域（自然度10、9）の県土面積に占める割合が本州第1位にランクされていることからわかります。

このように、本県には、すぐれた自然環境の残されている地域が多く野生鳥獣も豊富で、鳥類では316種、獣類では46種がそれぞれ確認されています。なお、ライチョウとカモシカは、特別天然記念物であり、それぞれ県鳥、県獣に指定されています。県では、自然の現況を把握するために植生、鳥獣など自然に関する各種調査を行うとともに、県内の自然環境を適正に保全して行くためのガイドラインである自然環境指針を新たに策定することにしています。

また、貴重ですぐれた自然環境の保全と適正な利用を図るため、自然環境保全地域や自然公園を指定するとともに、自然保護指導員、鳥獣保護員、ナチュラリスト*2、バードマスター*3などの活動によって、自然保護思想の普及を図っています。

(1) 植 生 —高い植生自然度—

ア 植生の概況

本県は、地形的に非常に標高差が大きいため、高さ別の植物の分布状況は複雑で興味あるものになっています。

(ア) 高山帯、亜高山帯（標高1,600m以上）

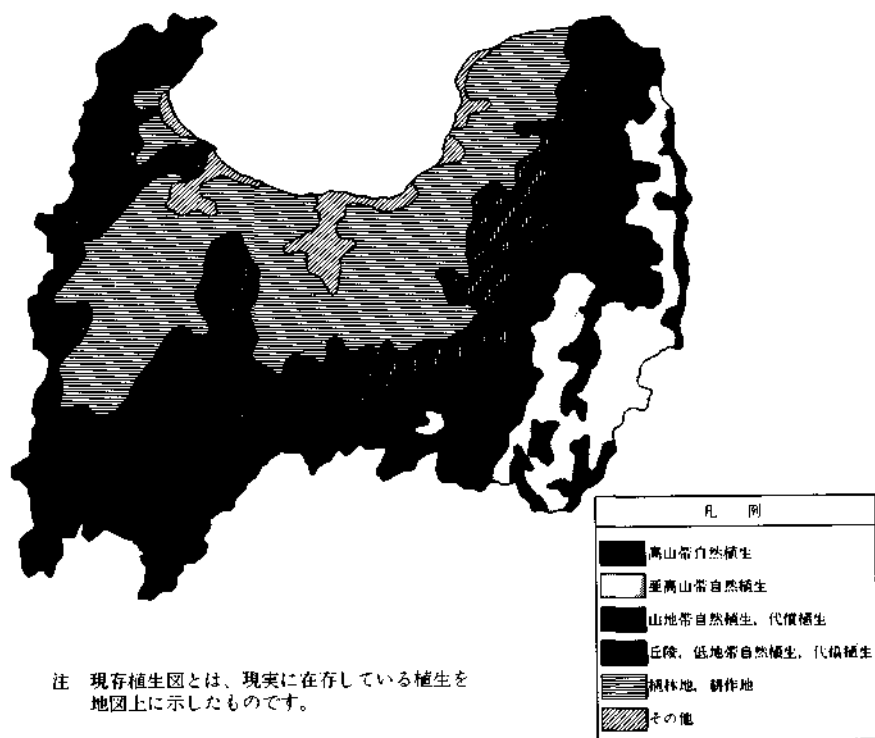
高山帯は、植物にとって厳しい生育条件であるため、わずかにハイマツ群落と高山草原がみられるだけです。なお、後立山一帯の白馬連山高山植物帯は、国の特別天然記念物に指定されています。亜高山帯になるとオオシラビソ、ダケカンバなどの植生となっています。

*1[緑の国勢調査] わが国の自然環境の現況を把握し、自然環境保全の基礎資料とするため、48年度から環境庁が実施している調査です。

*2[ナチュラリスト] 県が自然保護の重要性を広くPRするために設けている富山県自然解説員をいいます。

*3[バードマスター] 県が野鳥観察を正しく指導するために設けている富山県野鳥観察指導員をいいます。

図1-27 現存植生図



(イ) 山地帯（標高500m～1,600m）

山地帯は、主な河川の上・中流域にあって、そのほとんどが保安林などになっており、県土を保全するうえからいって重要な地域です。植生はブナを主体とする天然林が中心で、標高の高い地域にはクロベ、コメツガなどの常緑針葉樹林が局地的に群生しています。また、標高が低い地域は、かつては薪炭林として利用され、現在ではミズナラの二次林*やスギの植林地になっています。

*【二次林】ミズナラ林、コナラ林など、伐採や火災などにより森林が破壊されたあとに、自然に生じた森林のことです。

(ウ) 丘陵帯（標高500m以下）

射水丘陵をはじめとして、県内に広く分布する丘陵帯は、古くから人間が生活の場として利用してきた地域で、大部分がコナラ、アカマツなどの二次林やスギの植林地となり、また、近年、公園やゴルフ場などのレクリエーション施設として利用されてきています。このため、自然植生は一部の社寺林等に残されている状況です。

(エ) 平野・海岸地帯

平野部は、主に農耕地や住宅地、工場用地などになっていますが、一部の扇状地の末端部には、ハンノキ群落やスギ植林地のみられるところもあります。

クロマツに代表される海岸林はおおむね保安林として管理されており、県東部の園家山には砂丘植生が残されています。

図1-28 植物の垂直分布

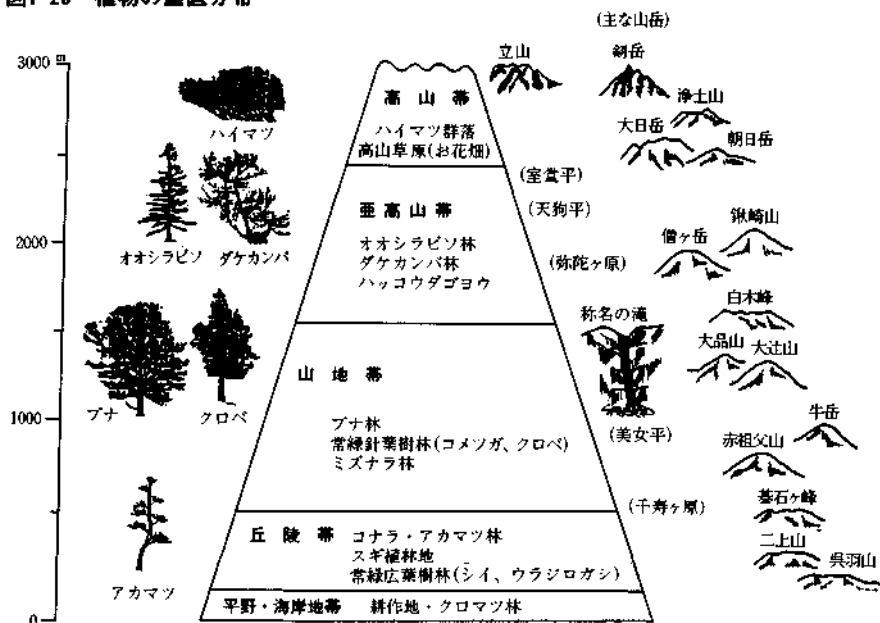
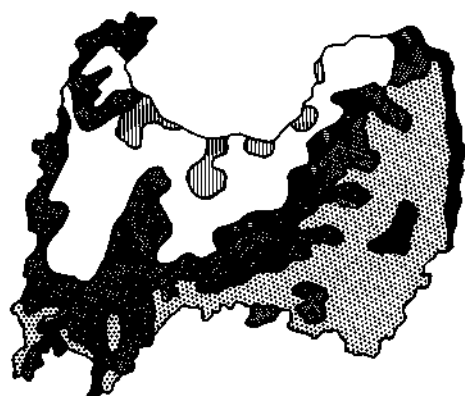


図1-29 都道府県別の植生自然度比率図と富山県の植生自然度図



植生自然度の区分	富山県(%)	全国平均(%)
自然度10	1.7	1.1
自然度9	28.4	18.2
自然度8	12.4	5.4
自然度7	12.5	19.1
自然度6	12.2	24.7
自然度5	1.3	1.6
自然度4	9.8	1.9
自然度3	9.1	1.8
自然度2	25.1	20.9
自然度1	5.5	5.3

(植生自然度5,4,3は面積が小さいため、図に表われない)

(注) 植生自然度の区分は次のとおりである。

自然度1：市街地、造成地等植生のほとんど残存しない地区

自然度2：畑地、水田等の耕作地、緑地率60%以上の住宅地

自然度3：果樹園、桑園、茶畑等の樹園地

自然度4：シバ群落等の背丈の低い草原

自然度5：ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原

自然度6：常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の純林地

自然度7：クレーミズナラ群落、スズキコナラ群落等一般に二次林と称される代償植生地区

自然度8：ブナミズナラ再生林、シイカシ萌芽林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区

自然度9：エゾマツ・トドマツ群落、アナノキ等自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区

自然度10：高山ハイチ、風衝草原、自然草原等自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区



また、氷見海岸や宮崎海岸の一部には、シイやタブノキなど暖帯性の樹林がみられるところもあります。

イ 植生自然度

環境庁が実施した自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）によると図1-30のとおり、自然度の高い原生的な植生地区（自然度10、9）の県土面積に占める割合は30.1%と全国平均19.3%よりも高く、北海道、沖縄に次いで全国第3位、本州では第1位にランクされており、貴重な自然がよく保存されていることがわかります。

特に県東部の山岳地帯では、自然度10、9のすぐれた自然がそこなわれることなく現在まで引き継がれてきています。

(2) 鳥 獣 —多様な自然と多種類の野生鳥獣—

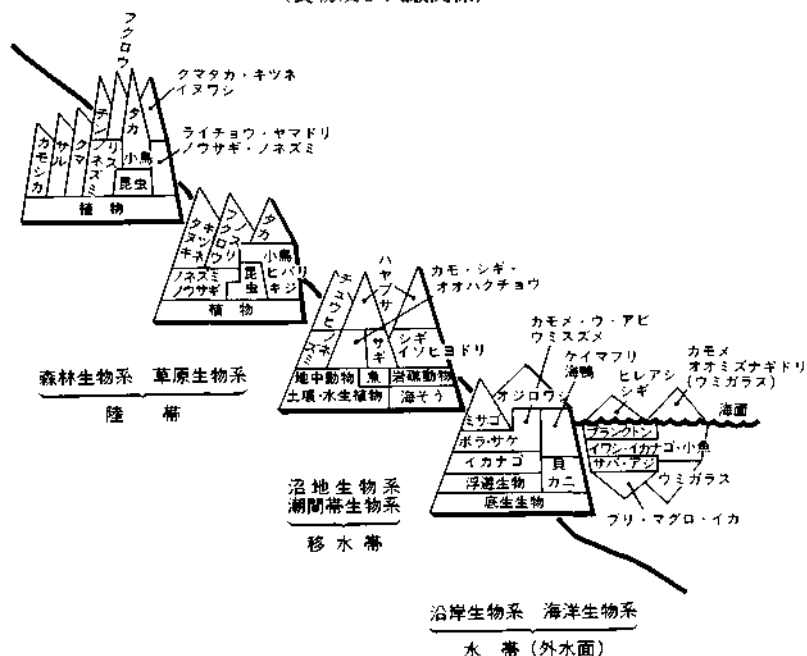
本県は、標高0mの海岸地帯から3,000m級の北アルプスを望むことができる日本有数の大きな標高差を持っています。この垂直な広がりの中には、海岸、河川、湖沼、田畑、原野、丘陵、森林、高山など、多様な自然が含まれています。このため県土面積の割には豊富な野生鳥獣がすんでいます。

ア 鳥 類

海岸には、氷見海岸周辺等にウミアイサ、ウミウなどが冬鳥としてやってくるほか、マガモやカルガモなどの水面で食物をとるカモ類も休息しています。

沿岸部各地には、クロガモなどの水にもぐって食物をとるカモ類やオジロワシやミサゴのように海辺で食物をとっているワシタカ類もしばしばみられます。なお、太平洋岸のように干満潮の差が大きいので、シギ類やチドリ類は海辺の砂礫地のほか、河口部、海岸付近の埋立地にすんでいます。ことに、黒部川と常願寺川の河口部や新湊市の海岸埋立地には、春と秋の渡りの季節に多種類の鳥が訪れ、休息します。

図1-30 富山県にみられる鳥獣の生態的地位
(食物及び天敵関係)



内陸部の河川には、カワセミ、セキレイ類、サギ類や陸ガモ類、溪流にはヤマセミ、キセキレイやオシドリ、湖沼には陸ガモ類やカイツブリがすんでいます。富山新港付近、小杉町の恩坊池は、カモ類の休息水面となっており、富山市の田尻池には毎年、オオハクチョウが飛来します。また、河原、湿田やアシのはえているところには、タゲリ、ヨシキリ類やシギ類が集まってきます。特に常願寺川河口付近には、県下最大のサギのコロニー（集団営巣地）があり、4月～8月頃には県内全域からアオサギやゴイサギなどが繁殖のため集まってきます。

農耕地や草原には、いろいろな野鳥がすんでいます。このうち、カラス、スズメ、キジバト、トビなどは都市部にもすんでいます。

本県では、キジが大河川の河川敷を繁殖地としており、全国的にも生息密度が高いことで知られています。

森林のうち丘陵帯や山地帯は、多くの種類の鳥が生息・繁殖するところで、カラ類、キツツキ類、ウグイス類、ホオジロ類、フクロウ類やワシタカ類などがすんでいます。また、本県は、ツグミなど冬鳥の主要な通り道や越冬地となっており、これら渡り鳥を研究するため婦中町高塚に国設1級婦中鳥類観測ステーションが設置されています。

亜高山帯には、ウソやホシガラスなどがすんでいます。

高山帯には、ライチョウ、イワヒバリなどがすんでおり、イヌワシ、アマツバメなども姿を見ることがあります。

イ 獣 類

平野部には、イタチやハタネズミなどがすんでいます。森林には、多くの種類の獣がすんでおり、主な種類は、サル、ノウサギ、タヌキ、ヤマネ、カモシカなどです。しかし、冬には積雪が多く、そのため、本県にはイノシシやシカはすんでいません。亜高山帯から高山帯にかけては、オコジョがすんでいます。

ウ 絶滅のおそれのある野生動物

環境庁が3年度に公表した「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の中で、富山県で生息が確認されているライチョウ、オジロワシ、クマタカ、イヌワシ（以上鳥類）、ホクリクサンショウウオ（両生類）、イタセンバラ（淡水魚類）が絶滅危惧種に選定されました。

また、5年4月1日に施行された「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」では、ライチョウやイヌワシなど県内で生息が確認されている6種をはじめとして、38種の鳥類が保護対象になっています。

エ 鳥獣保護区の設定

本県は、良好な自然環境を有しており多種類で多数の野生鳥獣が生息しているため、鳥獣保護の観点から図1-31のとおり34か所の鳥獣保護区を設定しており、その面積は104,729haと県土面積の約25%を占めています。

図1-31 鳥獣保護区現況図



(3) 自然公園 一自然を守り利用するために一

ア 自然公園等

本県のすぐれた自然の風景地について、表1-7及び図1-32のとおり自然公園及び県定公園に指定されていますが、これらの地域についてはできるだけ自然のままの姿で保護し、すぐれた自然を後世に伝えて行くよう努めています。

また、自然の適正な保護と利用を図るため、中部山岳国立公園の室堂地区、能登半島国定公園の雨晴・島尾地区、県立自然公園の朝日地区等各地区で様々な施設の整備を進めています。

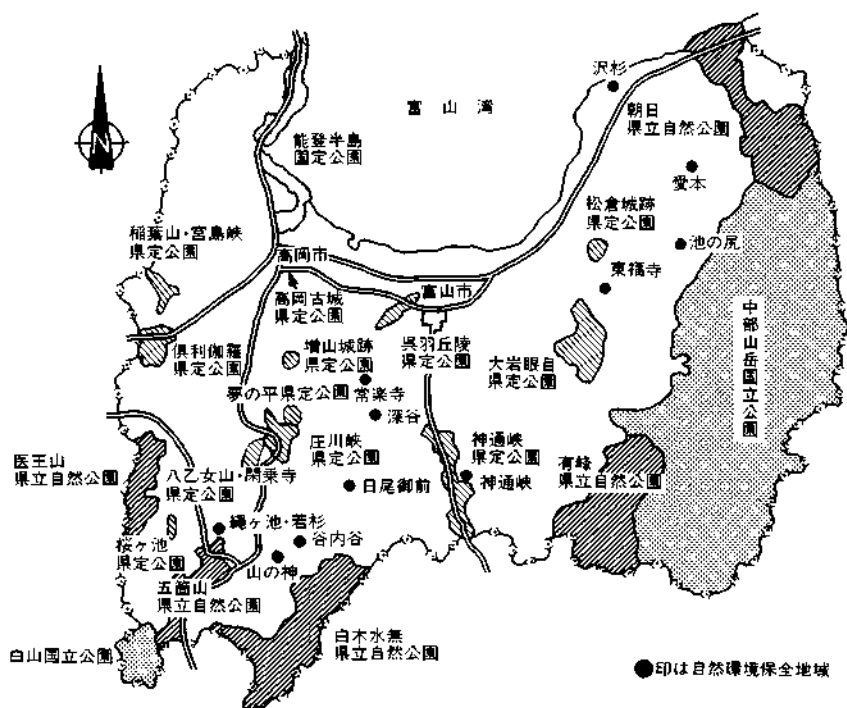
イ 自然環境保全地域

本県の良好な自然環境を適正に保全するため、表1-7及び図1-32のとおり自然環境保全地域が指定されています。

表1-7 自然公園等現況表

種 別	箇所数	面 積	県土面積に 占める割合	摘 要
国 立 公 園	2	79,173ha	18.62%	中部山岳、白山
国 定 公 園	1	1,005	0.24	能登半島
県立自然公園	5	39,576	9.31	朝日、有峰、五箇山、白木水無、 医王山
県 定 公 園	12	9,666	2.27	神通峡、呉羽丘陵、高岡古城、 俱利伽羅、庄川峡、大岩眼目、 松倉城跡、増山城跡、夢の平、 稲葉山・宮島峡、桜ヶ池、八乙 女山・閑乗寺
自 然 環 境 保 全 地 域	11	624	0.15	沢杉、縄ヶ池・若杉、愛本、東福 寺、神通峡、深谷、山の神、池 の尻、日尾御前、常楽寺、谷内谷
計	31	130,044	30.59	

図1-32 自然公園等現況図



ウ 県 民 公 園

県民公園は、47年以来整備を進めてきましたが、新港の森、太閤山ランドの完成を機に、富山県置県百年記念県民公園条例を制定し、県民に親しまれる公園として、管理運営に努めています。

この公園は、県のほぼ中央部に位置する射水丘陵地帯を中心として富山、高岡、新湊、砺波、婦中、小杉、大門及び大島の8市町にまたがる面積約2,600haの広大な地域において、自然と人間との調和を基調とし、「県民の誰もが利用できる総合レクリエーションセンター」、「手軽に利用できる近郊レクリエーション地」、「青少年の育成の場」として設置されました。

県民公園は、表1-8及び図1-33のとおり、都市公園として新港の森、太閤山ランド及び自然風致公園として頼成の森、自然博物館（ねいの里）、野鳥の園からなっています。また、県民公園と有機的かつ一体的に機能する施設として、自然博物館センターや中央サイクリングロード、いこいの村があります。

このほか、太閤山ランドから野鳥の園、自然博物館を経て、頼成の森に至る延長19kmの遊歩道として、公園街道が58年に開通し、多くの人々に利用されています。

表1-8 県民公園の概要

種 別	名 称	規 模	設 置 の 目 的	開 設 年 月
都 市 公 園	県民公園新港の森	25ha	①公害の防止のためのグリーン・ベルトの確保 ②県民に休息、散歩、遊戯、運動等総合的なレクリエーションの場の提供	〔57年10月 庭球場 58年4月 野球場・ 陸上競技 場 58年7月〕
	県民公園太閤山ランド	117ha	県民に休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的なレクリエーションの場の提供	58年7月
自然 風 致 公 園	県民公園頼成の森	107ha	県民に森林を生かした休養の場の提供	50年4月
	県民公園自然博物館（ねいの里）	12.9ha	県民に自然に関する学習の場の提供	56年6月
	県民公園野鳥の園	73ha	①野鳥の保護 ②県民に自然の探勝の場の提供	60年10月
指 定 公 園	中央サイクリングロード	延長 約19km	県民公園と有機的かつ一体的に機能する公園その他のレクリエーション施設	52年4月
	自然博物館センター	0.8ha		56年6月
	いこいの村	16.5ha		54年5月
(遊歩道)	公園街道	延長 19km	県民公園を結ぶ自然歩道	58年4月
(全 体)	県民公園地域	約2,600ha		

注 中央サイクリングロードには、富山市花ノ木から小杉町黒河までの間、遊歩道が併設されている。

図1-33 富山県置県百年記念県民公園概要図

太閤山ランド



新港の森



頼成の森





自然博物園（ねいの里）

野鳥の園



エ 家族旅行村

家族づれや若者たちが、恵まれた自然の中で健全なレクリエーション活動を楽しむ場として、立山山麓の大山町あわすの平に「立山山麓家族旅行村」が設置されています。

この家族旅行村は、山小屋の雰囲気味わえるケビンや自然の中で思い切り遊べる芝生広場、フィールドアスレチックなどの施設が整備されており、四季を通じて多くの人々に利用されています。

また、近年の自然とのふれあい志向の増大に対応して、元年度より県西部の福岡町五位地区に「とやま・ふくおか家族旅行村」を建設していましたが4年7月に一部開村しました。

図1-34 立山山麓家族旅行村概要図



3 快適な環境づくり

近年、生活水準の向上や余暇の増大等に伴って、県民の環境に対する要望も多様化し、高度化してきており、単なる公害防止や自然環境の保全に止まらず、清らかな水辺や豊かな緑、美しい街並みや歴史的雰囲気にも満ちた落ち着いたたたずまいなど私たちの生活にうるおいとやすらぎをもたらす快適な環境を創造していくことが求められています。

このため、県ではごみのない美しい県土をめざした県土美化運動の推進や「とやまの名水」の選定、「海岸アメニティ・マスタープラン」や花と緑の美しいふるさとづくりの計画策定など、さらに一歩進んだ快適環境づくりをめざした施策を積極的に推進しています。

また、快適環境づくりを効果的に進めるには、県民の協力が不可欠であり、自分たちの身の周りの環境は自分たちでより快適なものとしていこうとする自主的な実践活動を展開することが望まれます。

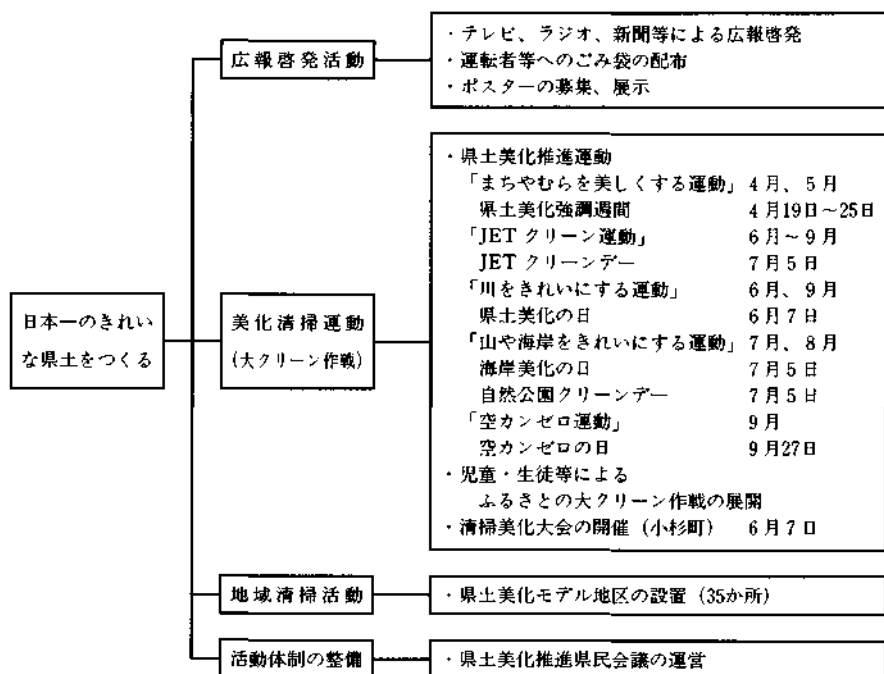
(1) 県土美化推進運動

県土美化推進運動は、自治会をはじめ、婦人・青年団体など102団体で構成する県土美化推進県民会議を中心に、「日本一のきれいな県土」の実現をめざして、県民総ぐるみの運動として展開されています。

この運動は、図1-35のとおり「まちやむらを美しくする運動」などの美化運動を通じて、ポスターの掲示やちらしの配布などの広報啓発活動を行うとともに、公園、道路、河川、海岸等の清掃、清掃美化大会を開催するなど各種の事業を実施しており、特に第1回ジャパンエキスポ富山'92の開催にあわせ4年6月から9月まで、開催地域や観光地を中心に「JET クリーン運動」を展開しました。また、「ふるさとの大クリーン作戦」を夏休み期間中に展開し、美化清掃体験を通じて児童・生徒の美化意識の高揚を図っています。

さらに、県土美化モデル地区においては、美化スローガンを設けて、熱心に清掃や緑化活動が実施されており、これらの地区を核として美化活動の輪がいつそう広がるよう努めています。

図1-35 県土美化推進運動の概要（4年度）



(2) 各種の快適環境づくり

本県が全国に誇る豊かな自然は、産業を育み、県民の心をうるおし、生活に多大の恩恵を与えてきました。

これらの水や森を守り育てていくため、水環境については、いわゆる名水として古くから引き継がれてきた湧水や河川などの中から、特に優れたもの55件を「とやまの名水」として選定しており、そのうちの4件については「全国名水百選」にも選ばれています。これらの名水は、身近な水環境として県民に親しまれており、「名水めぐり」や「親

子の水とのふれあいバス教室」を開催しています。

滝については、代表的な名瀑37か所を「とやまの滝」として選定しており、そのうちの称名滝は「全国滝百選」にも選ばれています。これらの滝については、市町村と協力して滝見台や歩道などの整備を進めています。

森林については、代表的な森林50か所を「とやま森林浴の森」として選定しており、そのうちの立山の美女平と県民公園頼成の森は「森林浴の森日本百選」にも選ばれています。これらの森林については、県民が気軽に森林浴を楽しむことができるよう、遊歩道、休息所、案内板などが整備されており、「森林浴」バス教室も開催しています。

また、美しい海辺づくりの「海岸アメニティ・マスタープラン」*1や花と緑の「グリーンプラン」*2、魅力ある郷土づくりの「ふるさと環境総合整備ガイドライン」*3などの計画に基づき、今後とも快適な環境づくりに積極的に取り組んでいくことにしています。

このほか、快適な街づくりを進めるにあたって大切な、「きれいで利用しやすい公共トイレ」の整備を推進するため、モデル的な施設の設置や改築に対して市町村に助成するとともに、グッドトイレコンテストやセミナーを開催しました。

*1[海岸アメニティマスタープラン] 富山県の美しい海岸を守り、さらに快適な環境づくりを推進するための基本を示す計画です。

*2[グリーンプラン] 日本一の花と緑の環境づくりをめざして、県土を花と緑でつつみ、生活にうるおいとやすらぎをもたらす美しいふるさとづくりを推進する計画です。

*3[ふるさと環境総合整備ガイドライン] 県土の環境整備を総合的かつ計画的にすすめるため、豊かな緑や水辺空間を守り育て、文化の香り高い都市環境や活気と楽しい雰囲気のある市街地の創造等を基本的な目標として、その実現のための指針を提示したものの。

4 環境保全活動推進への取り組み

今日の環境問題は、都市・生活型公害にみられるように日常生活に起因するものが多く、最近大きく取り上げられている地球規模の環境問題も資源やエネルギー、リサイクルなどの面で私たちの日常生活と深くかかわっています。

私たちには、こうした環境問題の解決に向けて、県民一人ひとりが身近な環境を守り、生活そのものを根本から見直す新たな展開が求められています。

特に、環境への負荷の少ないライフスタイルや社会的なリサイクルシステムの確立等への理解と認識を深め、節電、公共交通機関の利用等の省資源・省エネルギー対策や調理くず、使用済み食用油の流出防止等の生活排水対策など日常生活において行動することはもちろん、清掃活動や資源ごみの回収などを通じて地域の環境保全活動にも積極的に参加することが必要です。

県では、環境教育基本方針を策定し、それを踏まえて、学校における環境教育の在り方についても検討するとともに、環境保全活動を推進するための啓発冊子やパンフレットを作成しています。また、環境保全活動の一層の普及啓発を図るため、環境保全相談室による相談受付や研修会等への講師派遣、環境保全活動を進めるための中核となる環境保全活動推進員の育成等を行っています。

また、地域に根ざした環境保全活動を県民、事業者、行政が一体となって取り組むため、㈱とやま環境財団では、環境情報の収集・提供、新聞・テレビ等による普及啓発、活動団体、企業等の環境保全活動を支援するなど各種の事業を行っており、県では、今後とも財団との連携のもとに県民総ぐるみによる環境保全活動を一層推進することとしています。

第2節 環境行政の歩みと今後の展開

1 環境行政の歩み 一産業公害から都市・生活型公害、

地球環境問題へー

本県では神通川流域のイタイイタイ病が早くから問題となっていたほか、30年代後半からの経済の高度成長に伴い、臨海部の工業地帯を中心に産業公害が急速に広まり、生活環境が悪化したことから、公害防止についての社会的要請が高まりました。

このため、県では42年度に総合計画部に公害課を設けるとともに、公害防止条例を制定するなど一連の公害防止施策を進めてきました。さらに、45年度には、公害センターを設置し、公害防止条例を全面改正するとともに、全国に先がけて公害部を設置しました。その後も行政機構や環境保全対策の整備拡充を図るなど、環境問題をめぐる諸情勢の変化に即応したきめ細かな環境行政の推進に努めてきました。

これまでに実施した公害防止の主な施策としては、大気汚染については、47年度にブルースカイ計画を策定し、工場に対し良質な燃料の使用、燃焼方法の改善、効果的な防除技術の導入の指導を行うとともに、社会経済情勢に応じて、計画の見直しを行っています。

水質汚濁については、46年度から順次河川や海域等に環境基準をあてはめ、排水基準を厳しくするなどの対策を進めてきたほか、望ましい快適な水質環境づくりをめざして、61年度にクリーンウォーター計画を策定し、生活排水対策として下水道の整備や合併処理浄化槽の普及、水質保全意識の高揚に努めるとともに、社会経済情勢に応じて、計画の見直しを行っています。

そのほか、騒音、振動、悪臭については、順次、環境基準のあてはめ

や規制地域の拡大を行い、発生源に対する規制や指導を進めてきました。

地下水については、50年度に地下水条例を制定したほか、4年度には、地下水障害を防止するとともに、地下水の適正利用を図り、県民共有の財産である地下水を次の世代に引き継いで行くことを目的に「地下水指針」を策定しました。

ごみやし尿などの生活系の廃棄物については、市町村においてごみの減量化や再生利用の推進を図るため、ごみの分別収集などの取り組みが進められており、汚泥や建設廃材などの産業系の廃棄物については、事業者において、有効利用と適正な処理に努めています。

また、環境の状況を的確に把握するため、大気、水質、騒音などについて定期的に観測を行っているほか、公害センターに試験機器や測定車を配備するなど、試験研究のための体制も整備してきています。

さらに、富山・高岡地域の公害防止計画を推進しているほか、神通川流域、黒部地域でのカドミウム汚染田の復元事業や富山新港周辺の緩衝緑地整備事業等、環境の整備のための各種事業も展開してきています。

一方、自然環境の保全のために実施してきた施策としては、46年度の県立自然公園条例の制定をはじめとして、47年度に自然環境保全条例を、48年度には自然環境保全基本方針を策定し、県立自然公園や自然環境保全地域を順次指定するとともに、野生鳥獣を保護するための鳥獣保護区の設定、拡大を図ってきました。

また、自然保護思想の普及を図るため、立山自然保護センター、有峰と樺平のビジターセンター、自然博物館センター及び鳥獣保護センターを整備し、自然保護指導員、鳥獣保護員、ナチュラリスト、バードマスターを配置するとともに、各種の自然保護普及用冊子の作成・配布に努めてきました。そのほか、自然環境の適正利用を促進するため、国立、国定、県立の自然公園、県定公園並びに国民休養地の各種利用施設を整

備するとともに、新港の森、太閤山ランド、頼成の森、自然博物館、野鳥の園や中央サイクリングロードなど県民公園の整備に努めてきました。また、立山山麓家族旅行村やとやま・ふくおか家族旅行村の整備もあわせて進めています。

さらに、日本一のきれいな県土をめざして、58年度以来、県民総ぐるみの県土美化推進運動を展開してきたほか、「とやまの名水」や「とやまの滝」、「とやま森林浴の森」の選定や環境月間、愛鳥週間、緑化週間には各種の行事を行うなど、環境とのふれあいを通じて環境保全意識の高揚に努めてきました。

また、3年度には、長期的展望に立って、本県の望ましい環境のあり方を明らかにし、その達成方策を示した「とやま環境計画」を策定しました。

4年度に環境保全のため実施した新たな施策は次のとおりです。

- (1) 大気環境を保全するため、良質な燃料への転換や省エネルギーを指導するなど、大気環境計画（ブルースカイ計画）を推進しました。
- (2) 大気汚染常時観測局適正配置計画に基づき、全県的な視野に立った大気観測局の適正な配置を進めるとともに、衛星回線を利用した観測データの収集と市町村へ観測データを提供するための「大気環境ネットワーク」を整備しました。
- (3) 公共用水域や地下水の水質保全を図るため、水質環境計画（クリーンウォーター計画）を推進しました。

また、小矢部川上流、山田川・池川及び中川水域において、生活排水対策のモデル事業を実施しました。

- (4) 飲食店等の小規模事業場排水の適正処理を推進するため、「小規模事業場排水対策技術マニュアル」を策定しました。
- (5) ゴルフ場の使用農薬による水質汚濁を防止するため、ゴルフ場農薬

使用安全指導要綱に基づいて、農薬の適正な使用について指導を行いました。

- (6) 有害物質による地下水汚染の実態を把握するため、県下の平野部79地点で水質調査を実施しました。
- (7) 地下水障害の未然防止と適正利用を図るため、地下水指針を策定しました。
- (8) 県下全域におけるごみの減量化や再生利用を円滑に推進するための基本的考え方を示した指針の策定について検討するとともに、啓発用のビデオを作成しました。
- (9) 本県の望ましい自然環境のあり方を明らかにし、その実現のため必要とされる諸施策を示す自然環境指針について検討しました。
- (10) 立山黒部アルペンルート沿線のごみの減量化のため、N.P.C作戦(ナショナル・パーク・クリーン作戦)を実施しました。
- (11) 県民の野外レクリエーションに対するニーズに応えるため、県民公園類成の森において水生植物園の整備を行いました。
- (12) 立山黒部アルペンルートの利用者サービスのあり方を見直すとともに、立山カルデラの適正な保護と利用の方策を明らかにする立山マウンテンピア構想について検討しました。
- (13) 第1回ジャパンエキスポ富山'92の開催にあわせ、「日本一きれいな県土づくり」を県内外にアピールするため、JET クリーン運動を展開しました。
- (14) 事業者による環境影響評価が適正かつ円滑に実施されるよう、特に開発計画の多いゴルフ場造成事業についての環境影響評価技術指針マニュアルを作成しました。
- (15) 県民の地球環境問題についての認識と理解を深めるため、各種の講演会を開催し、また、児童向けの地球環境問題に関するビデオを全小

学校に配布しました。

- (16) 環境教育の充実を図るため、児童の発達段階に応じた育てたい児童像を明らかにするとともに、学校における環境教育の全体計画のモデル案を作成しました。教材では、小・中・高等学校における「水」に関する環境教育のねらいを明確にした学習基本表や学習展開例を作成しました。

2 今後の環境行政の展開 一清らかな水と豊かな緑に恵まれた

住みよい富山をつくるために一

本県の環境の状況は、全般的に改善されてきていますが、生活排水による水質汚濁、自動車による大気汚染や交通騒音、空き缶やごみの散乱などの都市・生活型公害、さらには、快適な環境の形成や自然とのふれあいを求める県民のニーズの多様化のほか、地球の温暖化や酸性雨などの地球環境問題への対応等、今後、対処しなければならないいくつかの課題があります。

このような状況を踏まえ、今後の環境行政の展開にあたっては、とやま環境計画に基づき、県民の協力と参加を得てこれまで実施してきた公害防止と自然保護の施策はもとより、水と緑に恵まれた美しく豊かな県土を適切に保全・活用する環境施策を基本として進めるとともに「地球規模で考え、足元から行動する。」という観点に立って、各種の環境施策を総合的、計画的に推進していくことにしています。

(1) とやま環境計画の推進

環境汚染を未然に防止し、近年課題となっている生活排水による水質汚濁、自動車による大気汚染や交通騒音、ごみの散乱などの都市・生活型公害に的確に対応するとともに、うるおいややすらぎを与えて

くれるより快適な環境を求める県民のニーズにも応え、緑と水に恵まれた美しく豊かな県土を次の世代に確実に引き継いでいくには、空気、水、緑等の限りある環境資源を適正かつ総合的、計画的に管理することが必要です。

このため、新富山県民総合計画に掲げる快適な環境の形成の実現に向け、長期的な観点に立って、本県の環境の望ましいあり方を明らかにし、その目標の達成施策を示したとやま環境計画に基づき、県民、事業者、行政が一体となって環境資源の持続可能な利用や環境に配慮した社会ルールの形成等を図るほか、この計画に沿ったブルースカイ計画やクリーンウォーター計画、産業廃棄物処理計画、地下水指針、自然環境指針の推進を図る等、各種環境保全施策を展開することになっています。

(2) 環境影響評価の実施

近年、大規模な開発計画が相次いでいることから環境との関わりについて関心が高まってきており、本県の恵まれた環境資源を保全し、かつ、適切に活用することが望まれてきています。

このような開発による環境汚染の未然防止を図るには、環境影響評価を実施することが重要です。

このため、県では、環境影響評価要綱に基づき、道路の建設やゴルフ場開発などの18事業については、事業者に対し、環境への影響について事前に調査、予測等の実施や、地域住民への説明会の開催等を義務づけています。

特に、最近、開発計画の多いゴルフ場の造成事業については、3年度に富山県ゴルフ場開発総合指導指針を策定し、適正なゴルフ場開発が行われるよう開発事業者の責務や指導基準を示したほか、4年度に

は環境影響評価技術マニュアルを作成したところです。

今後とも、これらの要綱、指針等に基づく環境影響評価の実施をはじめ、公害防止条例や土地対策要綱の事前審査制度により、大規模な開発から環境の保全を図っていくことにしています。

(3) 環境基準の達成維持

県民の健康と生活環境を守り、快適な環境づくりを進めるには、ブルースカイ計画、クリーンウォーター計画等を推進し、環境基準を達成維持していくことが必要です。

このため、現在、環境基準を達成している大気のスルホン酸化物、窒素酸化物や主な河川の BOD など、また地下水の水質についても、引き続き良好な環境を維持するよう努めることにしています。

一方、環境基準を達成していない光化学オキシダントについては今後とも発生メカニズムの解明に努め、基準の達成に向けて対策を検討することにしています。

生活排水による汚濁がみられる都市河川については、下水道の整備、合併処理浄化槽の普及、地域ぐるみの家庭でできる浄化対策の実践活動などを一層進め、環境基準の早期達成を図っていくとともに、汚染がみられた井戸については、引き続き調査をしていくことにしています。

また、新たに、公共用水域及び地下水について追加された環境基準項目の監視もしていくことにしています。

さらに、今後とも新技術の開発や新素材の利用など産業構造の高度化やエネルギー源の多様化による社会経済の変化に対応した適切な環境保全対策を推進していくことにしています。

(4) 地下水の保全と適正利用の推進

豊かで清らかな地下水を将来にわたって確保していくため、4年度に策定した「地下水指針」に基づき、開発行為に対する事前指導など地下水利用の合理化、地下水保全意識の啓発等の施策を総合的に推進していくことにしています。

(5) ごみの減量化や再生利用の推進

家庭や事業所から排出されるごみは、生活様式の多様化や消費意識の変化あるいはOA化の進展等により、発生量が増加するとともにその種類も多様化しており、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の改正や「再生資源の利用の促進に関する法律」の制定が行われたところです。

県では、今後とも市町村による計画的収集・処理や処理施設の計画的整備を進めるとともに、県民の理解と協力の下に市町村や（財）とやま環境財団と連携し、各種の普及啓発事業を実施するなどごみの減量化や再生利用の円滑な推進を図っていくことにしています。

(6) 産業廃棄物の適正処理の推進

産業構造の高度化や技術革新の進展等により、産業廃棄物は量的に増加し、質的にも変化してきています。このため、3年度に改定した産業廃棄物処理計画に基づいて、行政、排出事業者、処理業者の役割の明確化、マニフェストシステムの導入、産業廃棄物の減量化や有効利用等の推進、最終処分場の計画的な整備などを行い、産業廃棄物の適正な処理の推進に努めるとともに、今後とも発生状況の変化や処理処分状況を的確に把握し、適切に対処することにしています。

(7) 自然環境の保全

本県は、豊かな自然に恵まれており、これらを適切に保全し、後世に引き継いでいかなければなりません。

このため、植生、地形・地質、昆虫など各種の調査結果をもとに自然環境指針を策定し、総合的かつ計画的な自然保護施策を推進することになっています。

県民が自然にふれ、親しみ、自然への関心を高めることができるよう、国立公園、国定公園、県立自然公園等において、登山道、野営場、休憩所など、地域の特性をふまえた公園利用施設の整備を図るとともに、ナチュラリスト、自然保護指導員、鳥獣保護員及びバードマスター等の制度の充実や積極的な活用により、自然保護思想の普及活動を一層推進していくことにしています。

さらに、ナチュラリストについては、自然解説を希望する団体等からの強いニーズに応えるため、ナチュラリストバンクを活用し、これまで以上に積極的に自然解説活動を行うことにしています。

また、ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザル等の野生鳥獣の生息調査を実施し、適正な保護対策を進めることにしています。

(8) 快適な環境づくりの推進

生活水準の向上や余暇の増大に伴って、県民の環境に対するニーズは、清らかな水辺や豊かな緑などの自然とのふれあい、ゆとりある空間の配置や美しい景観の確保、歴史的なたたずまいといった心にうるおいとやすらぎを与える快適な環境へと向けられてきています。

これらのニーズに応え、快適な環境づくりを進めるためには、本県の豊かな水や緑などの恵まれた環境資源を十分に生かしながら、県民

の幅広い理解と協力を得て、個性にあふれた魅力あるまちづくりを積極的に展開していく必要があります。

このため、県民総ぐるみの県土美化運動の輪をさらに広げるとともに、「海岸アメニティ・マスタープラン」や「グリーンプラン」、「ふろさと環境総合整備ガイドライン」等の計画に基づき、今後とも、快適な環境づくりに積極的に取り組んでいくことにしています。

また、市町村が実施する「とやまの滝」や「きれいで利用しやすい公共トイレ」の整備などを支援することになっています。

(9) 地球環境問題への取り組み

近年、酸性雨やオゾン層の破壊、温暖化など地球的規模の環境問題が明らかになっており、その解決が人類共通の課題となっております。これらの問題を解決し、環境に配慮した持続可能な開発を達成するには、国際間の協力や国による対応はもちろんのこと、その要因が住民の日常生活や企業の事業活動とも密接に関わっていることから、行政、企業、さらには住民一人ひとりの対応と協力が求められています。国においては、昨年6月にブラジルで開催された「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)において採択された「環境と開発に関するリオ宣言」や「アジェンダ21」などに基づき、日本としての行動計画を策定するなど、より積極的な対応が求められており、国際的なルールづくりへの積極的な貢献、調査研究・観測監視の推進、技術開発の促進、開発途上国に対する協力及び地球にやさしい経済社会のための政策づくりを進めることにしています。

県においても、「アジェンダ21」や国の「地球温暖化防止行動計画」等に基づく各種施策を踏まえ、県民に対する普及啓発、環境への負荷の少ない環境にやさしいまちづくりの推進、広域ネットワーク体制で

の酸性雨調査や環境分野における国際会議の開催、さらには、これまでの経験や公害防止の技術等を生かした国際協力などに努めることにしています。

一方、企業や県民においても、地球にやさしい企業活動や日常生活での省資源・省エネルギー、リサイクルなどの取り組みが進められており、今後とも、県民や事業者の理解のもとに各種施策を積極的に展開することになっています。

(10) 環境保全活動等の推進

今日の環境問題は、生活排水による水質汚濁など身近な問題から地球的規模の問題に至るまで、県民の日常生活と深くかかわるようになってきています。

このような問題に対応するためには、県民一人ひとりがそれぞれ人間活動と環境との関係について深い理解と認識を持ち、環境に配慮した生活や行動を行うとともに、問題の背景にある社会経済構造に目を向け、その仕組みを環境に配慮したものへと変革していく努力が必要になってきています。

このため、県では、これまでパンフレットや冊子等による啓発のほか、環境教育を体系的に進めるための環境教育基本方針の策定、環境保全活動の情報提供等を行う環境保全相談室の設置、環境保全活動推進員の養成、あるいは地域環境保全活動ガイドンスの策定等の施策を進めるとともに、学校における環境教育の在り方について検討を進めてきました。

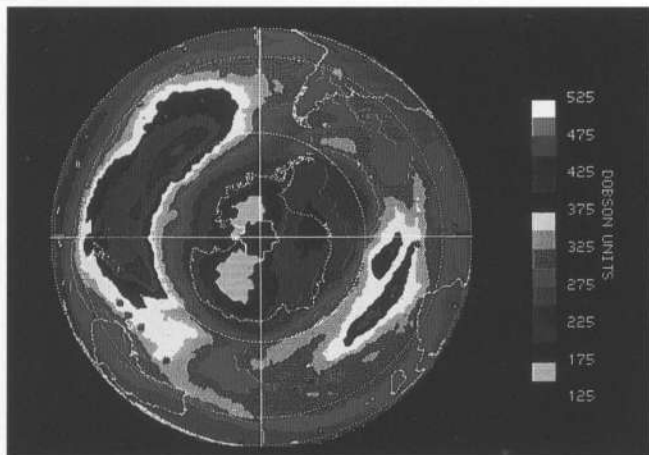
また、勸とやま環境財団においても、環境情報の収集・提供事業、環境保全推進団体の育成事業等をさらに推進することになっています。

今後とも、県民、企業、行政が一体となって環境保全活動に取り組

むための推進体制を整備するとともに、「地球規模で考え、足元から行動する。」の観点に立って、各種施策をさらに推進することになっています。

地球環境問題

オゾン層の破壊



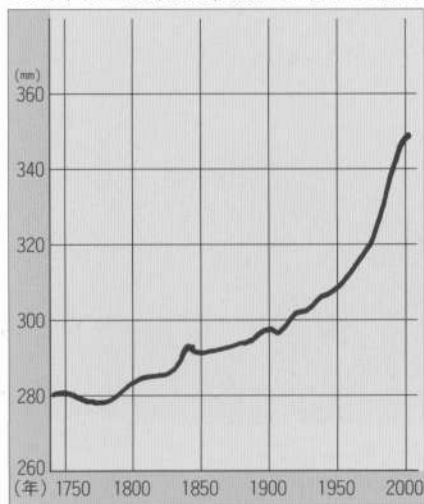
南極上空のオゾンホール

冷房機の冷媒や電子部品の洗浄などに使用されるフロンはオゾン層を破壊し、その結果、地表に届く紫外線の量が増加しています。

地球環境問題写真提供／環境庁・（財）日本環境協会

地球の温暖化

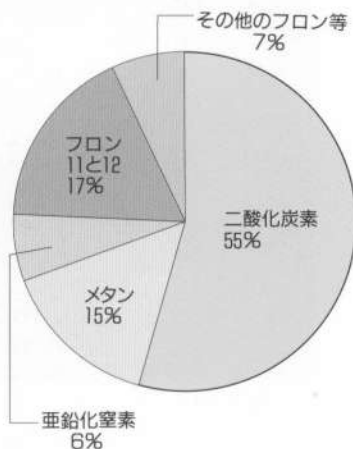
大気中の二酸化炭素濃度の増加の様子



備考：IPCC報告書による

地球の温暖化に最も寄与する大気中の二酸化炭素の濃度は今後も増加し続けるものと予測されています。

1980年代における人間活動の地球温暖化への部門別寄与



備考：IPCC報告書による

酸性雨



酸性雨による森林被害(ポーランド・チェコスロバキア国境付近)

工場などから大気中に排出された硫黄酸化物、窒素酸化物等が酸性の雨となって森林に被害を与えています。

海洋汚染



湾岸戦争による油で汚れた海岸(サウジアラビア)

原油の流出は、海鳥や水生生物に大きな被害をもたらしました。

野生生物の種の減少



クロサイ(タンザニア)

地球上の生物種は、2000年までに50～100万種が絶滅すると予測されています。

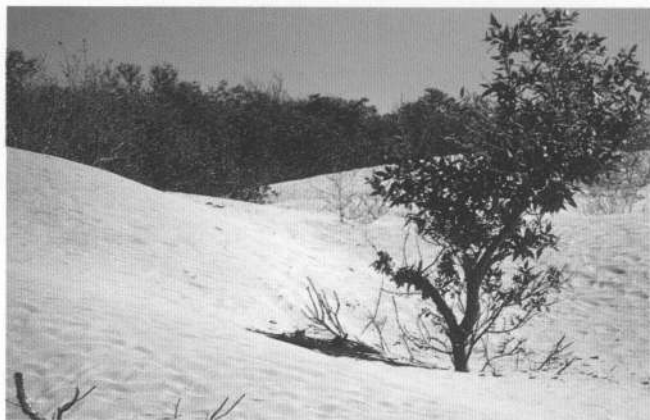
熱帯林の減少



焼畑(ブラジル・アマゾン)

世界では、毎年日本のほぼ半分の面積に相当する1,700haもの熱帯林が減少していると推測されています。

砂漠化



砂漠化が進む(カフジ)

乾燥地では砂漠化が進み、さらに水や風による侵食・塩害などによって土壌の劣化が進んでいます。

開発途上国の公害問題



工場による大気汚染(中国)

開発途上国では産業が盛んになるにつれ、大気汚染、水質汚濁などの公害が深刻化しています。

富山の環境を守るために

健康で快適な生活ができるきれいな空を



青空の市街地

すみきった青空をいつまでも残すために、ブルースカイ計画を進めています。

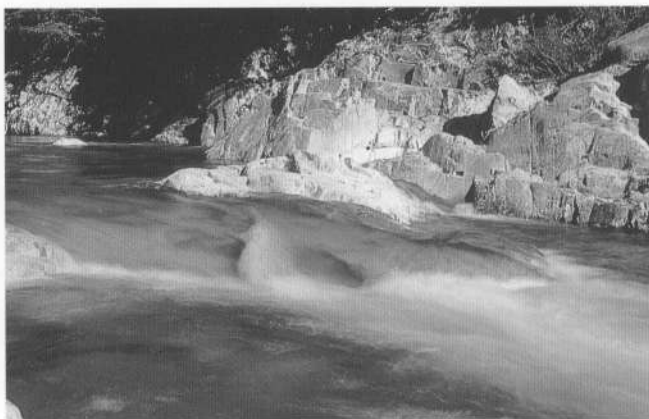


星空の観察

立山町が星の観察に全国で一番適している所として、環境庁の全国星空観察(スターウォッチング・ネットワーク)で選ばれています。



魚が住み、水遊びが楽しめる川、海、湖を



片貝川の清流

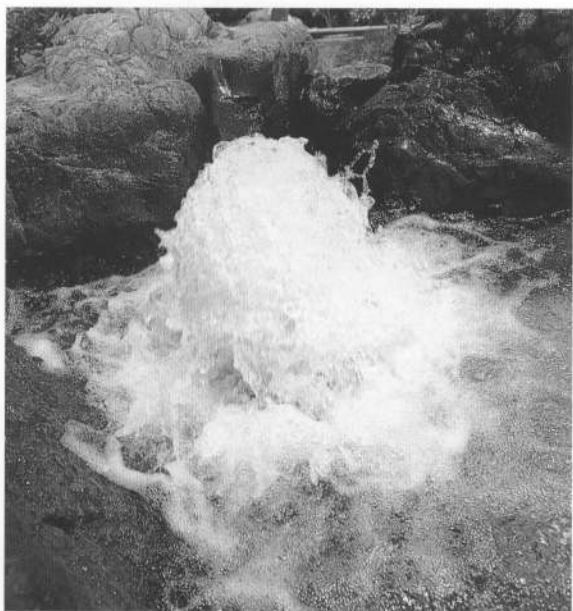
毛勝三山から全国屈指の急流となって流れ、万葉の歌人大伴家持が「可多加比の川の瀬清く行く水の絶ゆることなくあり通り見む」と歌った清流です。



行田の沢清水

早月川の伏流水が湧き出す付近一帯は自然林に囲まれ、水と緑に親しむ格好の散策場所となっています。

豊かで清らかな地下水を



黒部名水公園

本県の地下水は、全国名水百選に選定された「黒部川扉状地湧水群」に代表されるように水資源のみならず、貴重な自然環境の構成要素にもなっています。

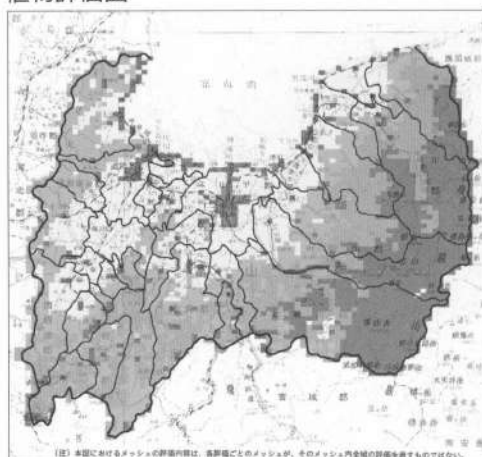


透水性舗装(富山市営住宅有沢団地)

地下水のかん養のため、歩道に地下浸透工法を採用しています。

豊かな自然を守るために

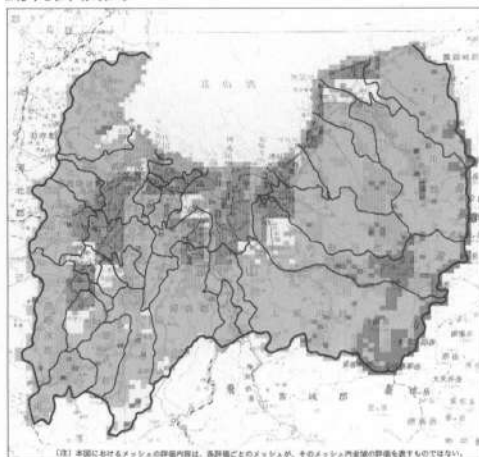
植物評価図



色	評価	内 容
■	V	厳正に保全を要する植物の分布地
■	IV	保全を要する植物の分布地
■	III	保全への配慮が望まれる植物の分布地
■	II	適切な利用により、緑地オープンスペースとしての価値を維持していく地域
■	I	植物の修復、育成が望まれる地域

動物評価図

色	評価	内 容
■	V	厳正に保全を要する動物の分布地
■	IV	保全を要する動物の分布地
■	III	保全への配慮が望まれる動物の分布地
■	II	今後これ以上動物生息環境を悪化させないような配慮が望まれる地域
■	I	良好な動物生息環境の修復が望まれる地域



自然環境指針では、植物、動物などの評価を約1km四方のメッシュ単位で行っています。

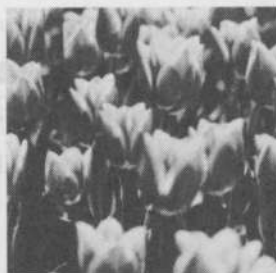
第2章 環境の現況及び環境保全 に関して講じた施策

第2章 環境の現況及び環境保全 に関して講じた施策

1. とやま環境計画の推進

水と緑に恵まれた美しく豊かな県土を誇るため、環境の保全、活用していただくためには、本県の環境の保全、活用を図るため、その目標を達成するための環境管理諸施策を総合的、計画的に推進していくことが必要である。

このため、3年度に、図2-1のとおりブルー・グリーン計画やグリーン・ウォーター計画等の様々な計画を策定した「とやま環境計画」を策定した。この計画においては、「豊かな水と緑の環境の保全、活用を図る」という目標を掲げ、公害の防止、自然環境の保全、環境の整備、環境の活用等の目標を定めるとともに、環境資源の利用、環境の保全、活用を図るための施策を定めることとした。



県の花 チューリップ

4月下旬から5月の連休にかけて、砺波地方を中心に県内各地で色とりどりのチューリップが咲きそろいます。その球根は富山県の特産品の一つで、輸出量も全国第一位を誇っています。

第2章 環境の現況及び環境保全 に関して講じた施策

第1節 総合的な環境保全施策の推進

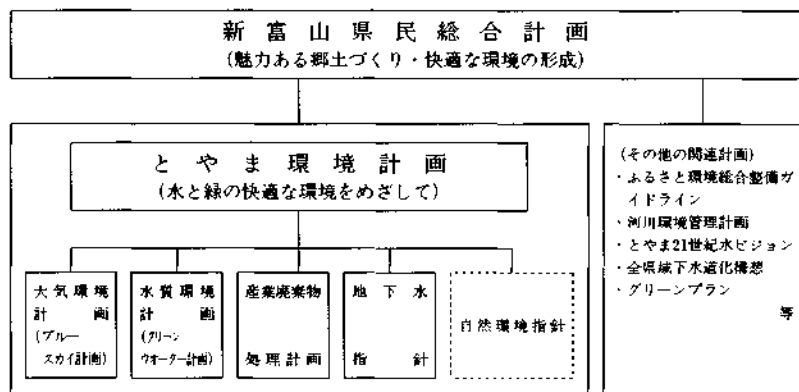
1 とやま環境計画の推進

水と緑に恵まれた美しく豊かな県土を将来にわたって適切に保全し、活用していくためには、本県の環境の望ましいあり方を明らかにし、その目標を達成するための環境管理諸施策を総合的、計画的に推進していくことが必要である。

このため、3年度に、図2-1のとおりブルースカイ計画やクリーンウォーター計画等の個々の計画を統括した「とやま環境計画」を策定した。

この計画においては、「清らかな水と豊かな緑に恵まれた快適な環境」を計画目標に掲げ、公害の防止、自然環境の保全及び快適な環境づくりにおける目標を定めるとともに、環境資源の利用に当たっての配慮指針や新たな環境

図2-1 とやま環境計画の位置付け



問題への取り組み方針を示し、県民、事業者、行政がそれぞれの立場で、環境を保全・活用していくための指針（ガイドライン）を定めている。

さらに、4年度には地下水指針を策定したほか、自然環境指針の検討を進めた。

今後とも、この計画の理念に沿って個々の諸計画を推進し、本県の快適な環境の創造及び保全に努めることにしている。

2 公害防止計画の推進

公害防止計画は、公害対策基本法に基づき、現に公害が著しいか、又は著しくなるおそれのある地域に対し、公害防止に関する施策を総合的に講ずるため、内閣総理大臣の承認を得て策定されるものである。

公害防止計画は、45年の四日市地域等以来順次策定され、現在、計画の見直し等を経て、第1次から第7次地域まで全国29都道府県34地域において策定されている。

本県では、第5次地域として富山・高岡地域について、49年度以来4回（49年度～53年度、54年度～58年度、59年度～63年度、元年度～5年度）にわたり、公害防止計画を策定し、各種の公害防止施策を推進した結果、硫酸酸化物による大気汚染や主要河川の水質汚濁にみられるように、全般的には改善の傾向にある。

しかしながら、主要幹線道路における騒音、都市河川における水質汚濁、農用地におけるカドミウムによる土壌汚染など、いまだに改善すべき課題が残されていることに加え、本地域では、今後さらに工業団地、住宅団地の造成等が進み、生産規模の増大や人口の増加等が見込まれるので、同計画のもとに公害防止対策をさらに進めているところである。

表2-1 富山・高岡地域公害防止計画の概要

区 分		内 容
地 域 範 囲		富山市、高岡市、新湊市、婦中町、小杉町、大門町、大島町
承 認 年 月 日		2 年 3 月 13 日
計 画 期 間		元年度～5 年度
環 境 目 標	大気汚染、水質汚濁、騒音	環境基準
	振 動	地域住民が日常生活で支障のない程度
	悪 臭	地域住民が日常生活で感知しない程度
	土 壌 汚 染	土壤汚染対策地域の指定要件に該当しない程度
主 な 公 害 防 止 計 画 事 業		・ 公共下水道の整備 ・ 河川しゅんせつ、導水 ・ し尿処理施設の設置 ・ ごみ処理施設の設置 ・ 農用地土壌汚染対策 ・ 監視測定体制の整備
計 画 事 業 費	地方公共団体が講じる対策	1,656億円(公害対策1,326億円, 公害関連330億円)
	事業者が講じる対策	85億円
	総 額	1,741億円

3 環境影響評価要綱の運用

近年、大規模な開発計画が相次いできていることから環境とのかかわりについて関心が高まってきており、本県の恵まれた環境資源を保全し、適切に活用することが重視されてきている。

このため、開発事業の実施により環境へ著しい影響を与える恐れのある大規模な18事業に対して、事前に調査、予測及び評価を行い、その結果を公表し、地域住民等の意見を聴いて、事業計画に反映させる富山県環境影響評価要綱を2年6月に策定し、同年10月より施行している。

同要綱の施行以降、表2-3のとおりレクリエーション施設用地造成事業2件について環境影響評価が実施されている。そのほか、国が定める環境影響評価に関する措置に基づき、北陸新幹線ルートの一部変更に伴う環境影響評価が実施されている。

また、4年度には、最近開発計画の多いゴルフ場造成事業についての環境

影響評価技術指針マニュアルを作成した。

今後とも、本要綱に基づき環境影響評価を適切に実施させることにより、開発事業による公害の防止及び自然環境の保全を図ることとしている。

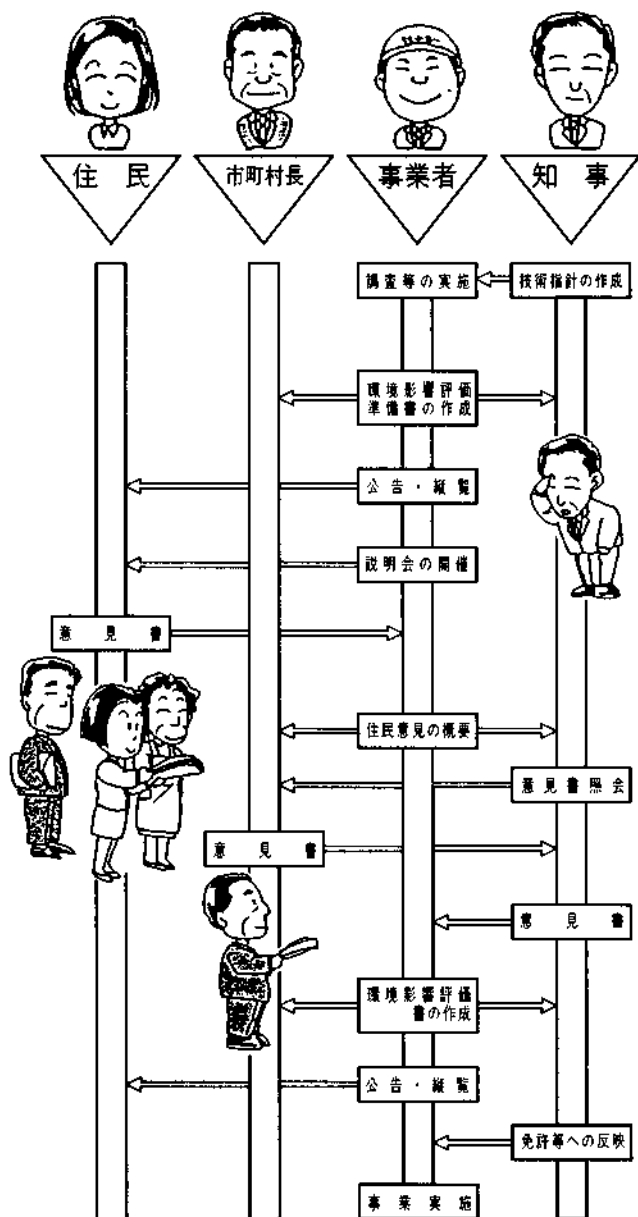
表2-2 富山県環境影響評価要綱の対象事業

事業種類	規模	事業種類	規模
1 道路の建設	高速自動車国道 全てのもの 一般国道 4車線かつ延長10km以上	12 農用地造成事業	最大の団地面積500ha以上
2 ダム又は放水路の建設	ダム 湛水面積200ha以上 放水路 土地改変面積100ha以上	13 レクリエーション施設	ゴルフ場 面積50ha以上 スキー場 面積50ha以上
3 鉄道の建設	新幹線鉄道 全てのもの	14 土石等の採取事業	面積50ha以上
4 飛行場の建設	滑走路延長 2,500m以上	15 発電所の建設	火力発電所 15万kW以上 水力発電所 3万kW以上
5 埋立て及び干拓	面積50haを超えるもの	16 工場又は事業場の建設	燃料使用量 15t/時以上 平均的な排水量 1万m ³ /日以上
6 土地区画整理事業	面積100ha以上	17 廃棄物処理施設の建設	ごみ焼却施設 200t/日以上 し尿処理施設 200k ³ /日以上 廃棄物最終処分場 30ha以上
7 新住宅市街地開発事業	面積100ha以上	18 畜産団地事業	飼育頭数 牛500頭以上 豚5,000頭以上
8 新都市基盤整備事業	面積100ha以上		
9 住宅団地造成事業	面積100ha以上		
10 流通業務団地造成事業	面積100ha以上		
11 工業団地造成事業	面積100ha以上		

表2-3 富山県環境影響評価要綱に基づく環境影響評価の実施状況

No	事業名	事業種類・規模	準備書	説明会の開催	知事意見の提出	評価書
1	大山カメラ カントリークラブ	レクリエーション施設用地 (ゴルフ場140.2ha)	提出 3年6月5日 縦覧6月6日～7月6日	6月15,17,18日	11月7日	提出 11月21日 縦覧11月22日～12月24日
2	利賀リゾート開発	レクリエーション施設用地 (スキー場172.3ha) (ゴルフ場198.9ha)	提出 4年7月28日 縦覧7月29日～8月29日	8月10,11日	12月28日	提出 5年3月25日 縦覧3月26日～4月26日

図2-2 富山県環境影響評価要綱に基づく手続き



4 公害防止協定と事前協議

(1) 公害防止協定

公害防止協定は、地方公共団体又は地域住民と当該地域に立地し、または、立地しようとする企業との間で、企業の操業に伴う公害を防止し、地域住民の健康の保護と生活環境の保全を図ることを目的として、両者の自由意志に基づき締結されるものである。

公害防止協定は、法律や条例による一律的な規制に比べ、企業の地理的な条件、操業形態等の各種条件に柔軟に対応した個別的公害防止対策を推進することができ、地方公共団体において法令による規制を補う有力な行政手段となっている。

県及び市町村が当事者として締結している公害防止協定は、表2-4及び表2-5のとおりである。

表2-4 県が当事者の公害防止協定

締 結 企 業 (工場)	締結企業の業種	進出・既設の別	締結年月日
三井金属鉱業(株)(神岡鉱業(株))	鉱 業	既 設	47年3月20日 (61年6月30日承継)
(株)日 鉱 共 石(日本鉱業(株))	非 鉄 金 属	"	48年6月23日 (60年3月25日承継) (4年12月7日変更)
北 陸 電 力 (株) 富 山 共 同 火 力 発 電 (株)	電 力	"	48年8月30日 (54年3月15日改定) (57年7月5日改定)
二 上 浄 化 セ ン タ ー	下水処理	進 出	58年12月27日

表2-5 市町村の締結年度・業種別公害防止協定

(5年3月31日現在)

業種 締結年度	織 機	パルプ 紙	化 石 油	学 油	窯 土	業 石	鉄 鋼	非 金	鉄 属	金 製	属 品	電 力	その他	計
46以前	1	2	4		1		1	3	5		1	5	23	
47	1	—	—	4	3	2	5	—	1	16				
48	1	3	5	1	4	1	9	—	4	28				
49	1	—	4	—	1	3	1	—	2	12				
50	—	—	3	1	—	—	1	—	3	8				
51	2	—	—	1	1	1	—	—	5					
52	1	—	1	—	—	1	1	—	5	9				
53	—	—	—	1	—	—	1	—	1	3				
54	—	—	—	—	—	—	1	—	1	2				
55	—	—	—	—	—	—	2	—	7	9				
56	—	1	—	—	—	—	3	—	—	4				
57	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1				
58	—	—	—	—	—	—	2	—	3	5				
59	—	—	2	—	—	—	4	—	4	10				
60	—	—	1	—	—	—	1	—	7	9				
61	—	—	1	—	—	—	1	—	1	3				
62	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2				
63	1	—	2	—	1	—	3	—	8	15				
元	1	—	—	—	—	—	1	2	—	9				
2	—	—	—	—	—	—	3	—	5	8				
3	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4	5			
4	—	—	—	1	—	—	1	—	5	7				
計	9	6	24	10	11	14	46	1	72	193				

(2) 事 前 協 議

公害防止条例の規定により、公害の発生の恐れのある工場等の新增設については、公害の未然防止を図るため、あらかじめ公害防止対策について、県及び関係市町村と十分協議することとなっており、4年度には、表2-6のとおり2件について事前協議を行った。

表2-6 事前協議の概要(4年度)

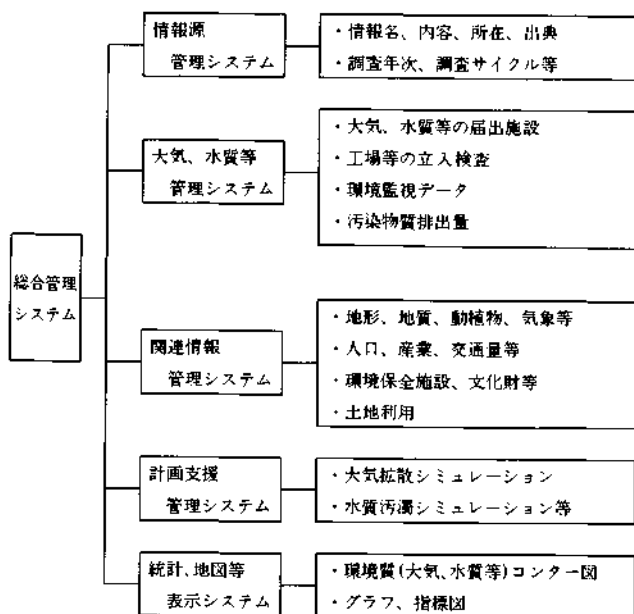
No	工 場 名	概 要	協議完了 年 月 日	公 害 防 止 対 策 の 概 要
1	橋開発協富山土壤 研究所	道路用路盤材製造工場 の新設	4. 7. 17	大 気 汚 染 焼成炉、乾燥炉に集じん機 (サイクロン)及び廃ガス洗 浄施設の設置 水 質 汚 濁 廃液の回収 合併処理浄化槽の設置
2	崎山山県ニット工 業 セ ン タ ー	繊維製品染色工場の新 設	5. 3. 26	大 気 汚 染 ボイラーには、A重油を使 用 水 質 汚 濁 中和処理、接触酸化、沈殿 及び濾過施設の設置

5 環境情報管理システム

とやま環境計画、環境影響評価の推進や複雑・多様化する環境問題に対応するため、地域の環境情報や環境に関連する情報を総合的、体系的に収集管理し、多角的な検討やシミュレーションを行う環境情報管理システムの整備を63年度から逐次進めており、4年度においてはデータベースの整備を図るとともに、データの多目的な利活用を進めるために必要なソフトウェアを作成した。また、情報管理システムの一環として、3年度からパソコン通信に加入している。

ソフトウェアのシステム構成は、図2-3のとおり、5つの個別システムとこれらを総合管理するシステムからなっている。また、ソフトウェアの開発に当たっては、だれでもが使いやすいものとするため、対話型でメニュー方式のシステムにしている。

図2-3 システムの構成と処理機能



なお、使用する情報処理機器は、日常業務で利用が容易なパーソナルコンピュータ5台、ミニコンピュータ1台及び周辺機器で構成し、環境整備課、公害対策課と公害センターに整備している。

6 環境保全活動等の推進

(1) 「環境月間」の実施

国連人間環境会議は、1972年6月、人類とその子孫のため、人間環境の保全と改善を世界共通の努力目標とし、その実現の意思を表明するため、「人間環境宣言」を採択した。

これを記念して「世界環境デー」（6月5日）が定められ、世界各国では、この日に、環境問題の重要性を認識し、行動の契機とするための諸行事を行ってきている。

我が国では、この日を初日として「環境週間」を設け、環境問題に対する普及啓発をはじめ各種催し等を全国的に実施してきたが、3年度からは6月を中心とする約1か月を「環境月間」として位置づけ、4年度は「地球とはもっとなかよくなれるはず」をテーマに、各種団体、市町村などの幅広い協力を得て、環境問題について考え、かつ、行動するため、表2-7のとおり記念行事を実施した。

表2-7 4年度環境月間の主な実施行事

行 事 名	実 施 概 要
ポスター募集、展示	県内小・中学校の児童生徒から環境に関するポスターを募集し、優秀作品を表彰、展示
地球にやさしい暮らしを考える講演会	「地球環境と暮らし」として、東京学芸大学助教授小澤紀美子氏の講演を高志会館で開催（6月30日）
一日環境大学校	「オフィスの紙ごみ減量、リサイクル推進を目指して」として、東京電力㈱半谷栄寿氏等の講演を富山電気ビルで開催（7月14日）
企業に対する呼びかけ	企業に対し、環境保全のために施設等の点検、管理の徹底及び地域の美化清掃活動への参加・協力を呼びかけ
樹木の大気浄化能力実験	広く樹木の大气浄化能力の周知を図るため、中学校5校で実験を実施

(2) 環境保全活動と環境教育の推進

複雑・多様化する環境問題を解決し、快適で良好な環境を創造するために、また、かけがえのない地球環境を次の世代に確実に引き継いでいくためには、県民一人ひとりが自らの生活と環境との関係について理解と認識を深め、責任ある行動をとる必要がある。

このため、元年度に策定した環境教育基本方針に基づき、環境問題に関するパンフレットの作成やごみ問題の啓発を目的とする一日環境大学校を開催するとともに、環境保全活動の実践指導者を育成するための環境保全活動推進員養成講座を開催した。

また、地球環境問題の普及啓発のため、小学生向けに地球環境問題に関するビデオやパンフレットを配布するとともに、地球環境問題をテーマとして消費者月間記念富山県大会や自然環境保全講演会、地球にやさしい暮らしを考える講演会などを開催した。

さらに、学校における環境教育の充実を図るため、環境教育の全体計画のモデル案を作成するとともに、小・中・高等学校における「水」に関する環境教育のねらいを明確にした学習基本表や学習展開例を作成した。

(3) 環境保全相談室の活動

2年6月に設置された環境保全相談室は、環境保全に関する情報の提供・相談窓口として、また、県民・事業者等に対する地域環境保全活動の普及啓発活動に取り組んでおり、4年度の活動状況は表2-8のとおりである。

表2-8 環境保全相談室の活動状況

・相談業務

内 容	件 数
環境保全活動に係る相談	76件
ビデオ、資料、図書等の問い合わせ、提供	123件
講演会等の相談、依頼	37件
報道関係の取材	7件
そ の 他	7件
計	250件

・講師派遣業務

講 演、助 言 内 容	件 数	参加人数
ごみ減量化とリサイクル	17件	約710人
人間生活と環境	4件	約480人
地球環境問題	4件	約140人
そ の 他	1件	約 20人
計	26件	約1,350人

(4) 環境分野の国際交流の推進

環境問題についての国際交流と相互理解を図るため、県ではこれまで環境分野の海外研修員を受け入れてきたが、3年度には中国遼寧省から環境保護視察団を受け入れ、石炭火力発電所等の施設の視察を行うとともに、今後の交流について協議した。

また、我が国の協力でインドネシアに設置することになった環境管理センタープロジェクトへ、国際協力事業団(JICA)を通じて、本県の水質専門技術員1名を5年2月から2年間派遣している

(5) 「親子の水とのふれあいバス教室」の開催

「とやまの名水」巡り、川の水生生物の観察、浄水場の見学など体験学習を通じて、水への関心を高め、水質環境の保全意識の高揚や水の大切さに対する啓発を行うため、小学生と親を対象にして、黒部川、常願寺川、庄川の3コースで「親子の水とのふれあいバス教室」を開催したところ、243名の参加があった。

開催状況は、表2-9のとおりである。

表2-9 「親子の水とのふれあいバス教室」の開催状況（4年度）

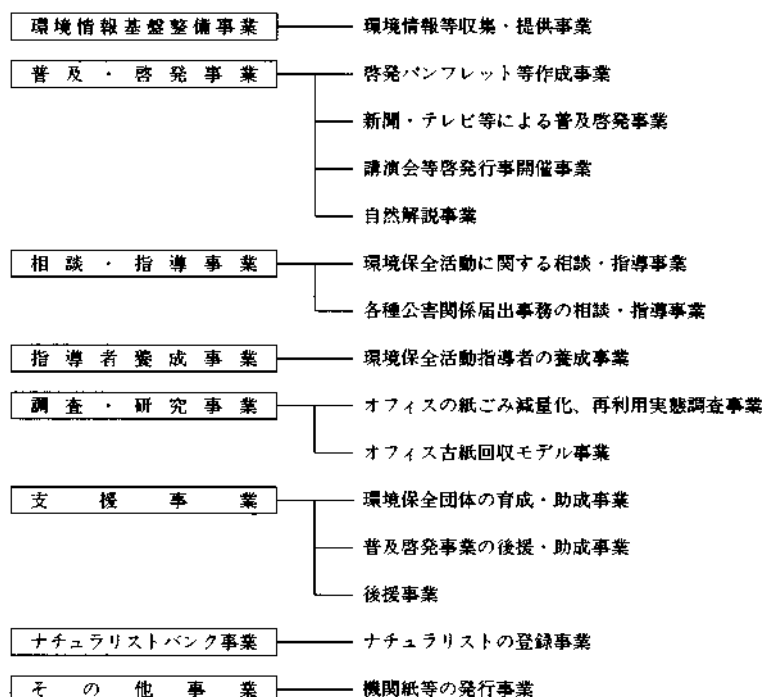
コース名	開催日	見 学 場 所 等
黒 部 川	7月27日	①音沢発電所 ②水生生物調査（黒部川音沢橋付近） ③宇奈月浄化センター ④杉 沢
	8月4日	①音沢発電所 ②水生生物調査（黒部川音沢橋付近） ③宇奈月浄化センター ④杉 沢
常 願 寺 川	7月23日	①富山市流杉浄水場 ②水生生物調査（常願寺川新常願寺川橋付近） ③マリモ（立山町広明宅） ④滑川市浄化センター
	7月27日	①富山市流杉浄水場 ②水生生物調査（常願寺川新常願寺川橋付近） ③マリモ（立山町広明宅） ④富山市浜黒崎浄化センター
庄 川	7月23日	①小牧発電所 ②庄川町水記念公園（水資料館） ③水生生物調査（庄川雄神橋付近） ④和田川浄水場 ⑤高岡市中田団地下水処理場
	8月4日	①小牧発電所 ②庄川町水記念公園（水資料館） ③水生生物調査（庄川雄神橋付近） ④高岡市中田団地下水処理場

7 とやま環境財団の活動

3年7月に設立された財とやま環境財団では、県土美化運動やリサイクル運動等、地域に根ざした環境保全活動が、県民、事業者、行政が一体となって展開されるよう、各種の普及啓発事業等を行った。

なお、主要事業の概要は、図2-4のとおりである。

図2-4 主要事業の概要



第2節 大気汚染の現況と対策

1 大気汚染の現況

(1) 汚染物質別の現況

ア 一般環境観測局の測定結果

一般環境観測局を県内28か所に設置し、硫黄酸化物、窒素酸化物、浮遊粉じん、光化学オキシダント等を測定している。その結果は、次のとおりであった。

(ア) 硫黄酸化物

二酸化硫黄の測定は、一般環境観測局28局（富山地区8局、高岡・新湊地区10局、その他の地区10局）において実施した。

測定結果の年度別推移（年平均値）は、表2-10及び図2-5のとおりであり、4年度を地区別にみると、次のとおりであった。

〔富山地区〕

年平均値は、0.003ppm（富山水橋等5観測局）～0.005ppm（富山岩瀬観測局）であり、主な観測局について、3年度と比べると、全体的にみて低い値であった。

〔高岡・新湊地区〕

年平均値は、0.003ppm（高岡伏木等3観測局）～0.006ppm（高岡能町観測局）であり、主な観測局について、3年度と比べると、全体的にみて、ほぼ横ばいの値であった。

〔その他の地区〕

年平均値は、0.003ppm（入善等8観測局）～0.005ppm（滑川大崎野観測局）であった。

これらの測定値を経年的にみると、ここ数年はほぼ横ばいで、環境基準と比べると、表2-11のとおりであり、4年度は、短期的評価及び長期的評価ともにすべての観測局がこれに適合していた。

表2-10 二酸化硫黄濃度の年度別推移 (年平均値)

(単位: ppm)

観測局			年度	63	元	2	3	4
富山地区	富山市	富山水橋		0.003	0.003	0.004	0.003	0.003
		富山岩瀬		0.004	0.005	0.005	0.006	0.005
		富山芝園		0.004	0.004	0.004	0.005	0.003
		富山神明		0.004	0.005	0.004	0.003	0.003
		富山蛭川		0.004	0.004	0.004	0.004	0.003
		新庄		0.004	0.004	0.005	0.005	0.004
		呉羽		0.004	0.004	0.005	0.004	0.004
	婦中町	婦中速星		0.004	0.004	0.003	0.004	0.003
高岡・新湊地区	高岡市	高岡伏木		0.005	0.004	0.004	0.004	0.003
		高岡能町		0.005	0.005	0.006	0.006	0.006
		高岡本丸		0.008	0.007	0.005	0.005	0.005
		高岡波岡		0.006	0.007	0.006	0.005	0.005
		高岡戸出		0.006	0.005	0.004	0.004	0.004
		高岡二塚		0.003	0.003	0.004	0.004	0.004
	新湊市	新湊三日曾根		0.006	0.004	0.004	0.004	0.004
		新湊今井		0.006	0.004	0.003	0.004	0.003
		新湊海老江		0.004	0.003	0.003	0.004	0.003
	小杉町	小杉太閤山		0.006	0.005	0.004	0.004	0.004
その他の地区	入善町	入善						0.003
	黒部市	黒部植木		0.004	0.004	0.005	0.004	0.003
	魚津市	魚津						0.004
	滑川市	滑川上島						0.003
		滑川大崎野		0.003	0.003	0.004	0.004	0.005
	氷見市	氷見						0.003
	福岡町	福岡						0.003
	小矢部市	小矢部						0.003
	砺波市	砺波						0.003
	福野町	福野						0.003

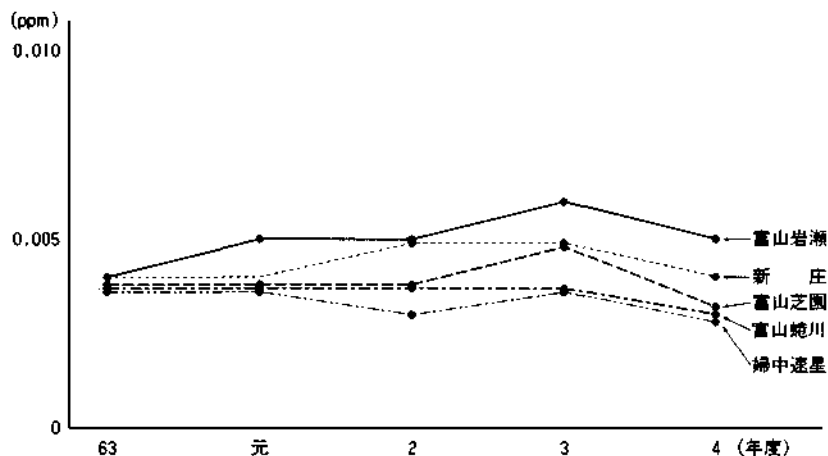
注1 測定は、溶液導電率法による。

2 富山芝園、黒部植木観測局の63～3年度の数値は移設により、それぞれ富山県庁、黒部市庁観測局の測定結果とした。

3 黒部植木、滑川大崎野観測局を除くその他の地区の観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。

図2-5 主な一般環境観測局における二酸化硫黄濃度の年度別推移（年平均値）

富山地区



高岡・新湊地区

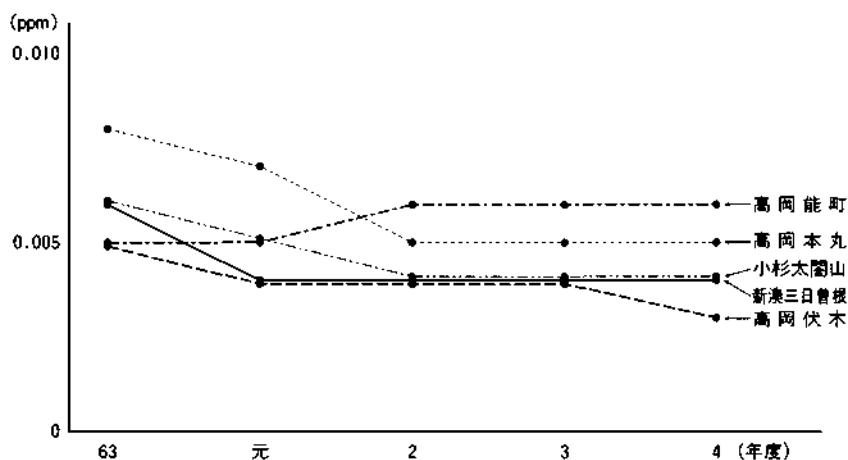


表2-11 二酸化硫黄に係る環境基準の適合状況

観測局		項目	1日平均値の2%除外値(ppm)				短期的評価による 適(○)、否(×)				長期的評価による 適(○)、否(×)						
		基準	0.04ppm以下であること														
		年度	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
富山地 区	富山市	富山水橋	0.006	0.006	0.009	0.006	0.006	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山岩瀬	0.009	0.009	0.012	0.015	0.009	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山芝園	0.009	0.008	0.008	0.010	0.007	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山神明	0.006	0.011	0.009	0.007	0.009	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		富山越川	0.007	0.008	0.009	0.011	0.007	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		新庄	0.008	0.010	0.010	0.013	0.010	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		具羽	0.007	0.009	0.009	0.009	0.007	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	婦中町	婦中連星	0.007	0.010	0.007	0.007	0.007	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高岡・新 潟地 区	高岡市	高岡伏木	0.010	0.008	0.008	0.009	0.007	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		高岡能町	0.012	0.010	0.013	0.011	0.012	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		高岡本丸	0.016	0.015	0.011	0.013	0.010	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		高岡波岡	0.012	0.015	0.013	0.013	0.010	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		高岡戸出	0.012	0.011	0.008	0.009	0.010	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		高岡二塚	0.007	0.007	0.007	0.008	0.008	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新湊市	新湊三日曾根	0.012	0.010	0.008	0.010	0.008	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		新湊今井	0.013	0.009	0.007	0.009	0.006	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新湊海老江		0.008	0.006	0.007	0.007	0.007	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
小杉町	小杉太閤山	0.016	0.015	0.008	0.009	0.007	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
そ の 他 の 地 区	入善町	入善					0.006				○					○	
	黒部市	黒部植木	0.009	0.008	0.010	0.009	0.008	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	魚津市	魚津					0.007				○					○	
	滑川市	滑川上島					0.003				○					○	
		滑川大崎野	0.011	0.012	0.007	0.007	0.009	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	氷見市	氷見					0.003				○					○	
	福岡町	福岡					0.007				○					○	
	小矢部市	小矢部					0.006				○					○	
	砺波市	砺波					0.005				○					○	
	福野町	福野					0.006				○					○	

注1 測定は、溶液導電率法による。

2 富山芝園、黒部植木観測局の63～3年度の数値は移設により、それぞれ富山県庁、黒部市庁観測局の測定結果とした。

3 黒部植木、滑川大崎野観測局を除くその他の地区の観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。

4 短期的評価による適(○)とは、1日平均値がすべての有効測定日(欠測が4時間以内であること。)で0.04ppm以下であり、かつ1時間値がすべての測定時間において0.1ppm以下をいう。

5 長期的評価による適(○)とは、一日平均値の上位の2%除外値が0.04ppm以下であり、かつ年間を通じて1日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続しないことをいう。

(イ) 窒素酸化物

二酸化窒素の測定は、一般環境観測局28局（富山地区8局、高岡・新湊地区10局、その他の地区10局）において実施した。

測定結果の年度別推移（年平均値）は、表2-12及び図2-6のとおりであり、4年度を地区別にみると、次のとおりであった。

〔富山地区〕

年平均値は、0.008ppm（富山水橋観測局）～0.013ppm（新庄観測局）であり、主な観測局について、3年度と比べると、全体的にみて、ほぼ横ばいの値であった。

〔高岡・新湊地区〕

年平均値は、0.010ppm（高岡伏木観測局）～0.017ppm（高岡本丸観測局）であり、主な観測局について、3年度と比べると、全体的にみて、ほぼ横ばいの値であった。

〔その他の地区〕

年平均値は、0.007ppm（氷見、福岡観測局）～0.013ppm（魚津観測局）であった。

これらの測定値を経年的にみると、ここ数年ほぼ横ばいで、環境基準と比べると、表2-13のとおり、4年度もすべての観測局がこれに適合していた。

表2-12 二酸化窒素濃度の推移（年平均値）

（単位：ppm）

観測局			年度	63	元	2	3	4
富山地区	富山市	富山水橋						0.008
		富山岩瀬	0.010	0.011	0.011	0.012	0.012	
		富山芝園	0.017	0.016	0.017	0.017	0.012	
		富山神明	0.009	0.010	0.010	0.011	0.012	
		富山蛭川	0.009	0.009	0.009	0.011	0.011	
		新庄	0.012	0.011	0.014	0.014	0.013	
		呉羽	0.010	0.011	0.011	0.011	0.011	
高岡・新湊地区	高岡市	婦中町 婦中速星	0.006	0.009	0.010	0.011	0.010	
		高岡伏木	0.009	0.009	0.010	0.009	0.010	
		高岡能町	0.013	0.015	0.014	0.015	0.014	
		高岡本丸	0.015	0.016	0.015	0.017	0.017	
		高岡波岡	0.010	0.012	0.011	0.012	0.012	
		高岡戸出	0.010	0.010	0.010	0.011	0.011	
		高岡二塚	0.010	0.011	0.010	0.012	0.012	
	新湊市	新湊三日曾根	0.012	0.013	0.014	0.012	0.014	
		新湊今井	0.012	0.013	0.013	0.014	0.014	
		新湊海老江	0.009	0.010	0.011	0.011	0.011	
その他の地区	小杉町	小杉太閤山	0.012	0.013	0.012	0.013	0.013	
	入善町	入善					0.012	
	黒部市	黒部植木					(0.012)	
	魚津市	魚津					0.013	
	滑川市	滑川上島					0.010	
		滑川大崎野					(0.004)	
	氷見市	氷見					0.007	
	福岡町	福岡					0.007	
	小矢部市	小矢部					0.012	
	砺波市	砺波					0.009	
	福野町	福野					0.009	

注1 測定は、ザルツマン比色法による。

2 富山芝園観測局の63～3年度の数値は移設により、富山県庁観測局の測定結果とした。

3 富山水橋観測局及びその他の地区の観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。

4 ()は測定時間6000時間未満の観測局を示す。(評価は原則として6000時間以上の測定値をもってすることになっている。)

図2-6 主な一般環境観測局における二酸化窒素濃度の年度別推移（年平均値）

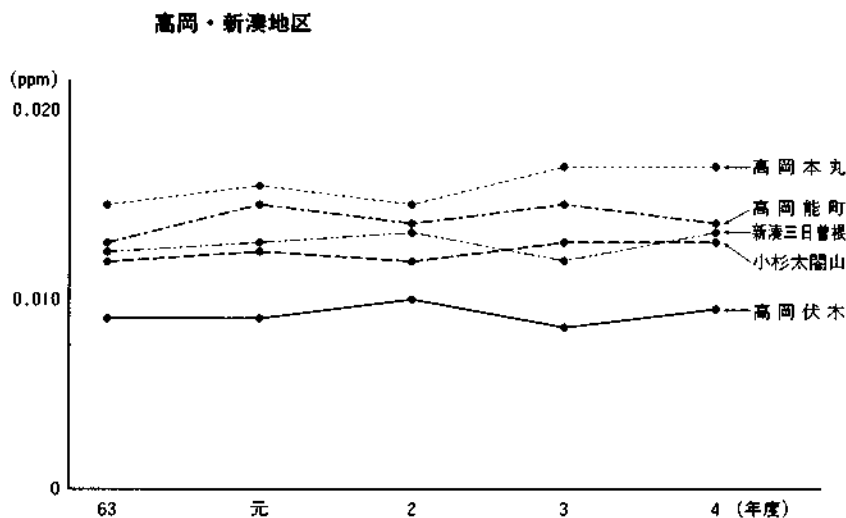
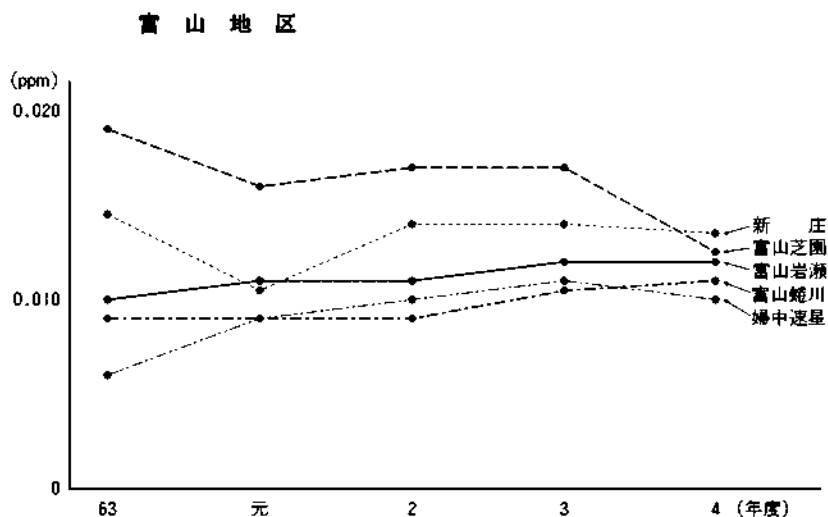


表2-13 二酸化窒素に係る環境基準の適合状況

		項目	1日平均値の98%値 (ppm)				環境基準の適(○)、否(×)					
			基準 0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又は、それ以下であること。									
観測局		年度	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
富山地区	富山市	富山水橋					0.020					○
		富山岩瀬	0.021	0.025	0.026	0.027	0.025	○	○	○	○	○
		富山芝園	0.030	0.028	0.032	0.028	0.026	○	○	○	○	○
		富山神明	0.020	0.021	0.027	0.024	0.024	○	○	○	○	○
		富山蛸川	0.021	0.020	0.023	0.025	0.023	○	○	○	○	○
		新庄	0.022	0.022	0.030	0.027	0.027	○	○	○	○	○
		呉羽	0.022	0.023	0.025	0.024	0.024	○	○	○	○	○
	婦中町	婦中速星	0.016	0.021	0.023	0.022	0.020	○	○	○	○	○
高岡・新湊地区	高岡市	高岡伏木	0.022	0.024	0.025	0.024	0.025	○	○	○	○	○
		高岡能町	0.029	0.032	0.028	0.032	0.031	○	○	○	○	○
		高岡本丸	0.031	0.030	0.030	0.032	0.034	○	○	○	○	○
		高岡波岡	0.025	0.029	0.024	0.028	0.026	○	○	○	○	○
		高岡戸出	0.021	0.025	0.025	0.026	0.027	○	○	○	○	○
		高岡二塚	0.022	0.024	0.023	0.027	0.029	○	○	○	○	○
	新湊市	新湊三日曾根	0.028	0.030	0.032	0.026	0.032	○	○	○	○	○
		新湊今井	0.027	0.028	0.027	0.028	0.029	○	○	○	○	○
		新湊海老江	0.021	0.024	0.030	0.024	0.027	○	○	○	○	○
	小杉町	小杉太閤山	0.026	0.029	0.026	0.026	0.027	○	○	○	○	○
その他の地区	入善町	入善					0.024					○
	黒部市	黒部植木					(0.028)					(○)
	魚津市	魚津					0.026					○
	滑川市	滑川上島					0.021					○
		滑川大崎野					(0.011)					(○)
	氷見市	氷見					0.017					○
	福岡町	福岡					0.018					○
	小矢部市	小矢部					0.024					○
	砺波市	砺波					0.023					○
福野町	福野					0.021					○	

注1 測定は、ザルツマン比色法による。

2 富山芝園観測局の63～3年度の数値等は移設により、富山県庁観測局の測定結果とした。

3 富山水橋観測局及びその他の地区の観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。

4 この表は、国の指示に基づき長期的評価によるもので年間における1日平均値のうち、低い方から98%に相当する値をもって評価したものである。

(ウ) 浮遊粉じん

浮遊粉じん（浮遊粒子状物質- β 線吸収法又は光散乱法）の測定は、一般環境観測局28局（富山地区8局、高岡・新湊地区10局、その他の地区10局）において実施した。

測定結果の年度別推移（年平均値）は、表2-14、図2-7のとおりであり、4年度を地区別にみると、次のとおりであった。

〔富山地区〕

年平均値は、 $0.027\text{mg}/\text{m}^3$ （富山水橋等3観測局）～ $0.029\text{mg}/\text{m}^3$ （富山神明観測局）であり、主な観測局について、3年度と比べると、ほぼ横ばいの値であった。

〔高岡・新湊地区〕

年平均値は、 $0.026\text{mg}/\text{m}^3$ （高岡二塚観測局）～ $0.036\text{mg}/\text{m}^3$ （高岡本丸、新湊今井観測局）であり、主な観測局について、3年度と比べると、全体的にみてほぼ横ばいの値であった。

〔その他の地区〕

年平均値は、 $0.022\text{mg}/\text{m}^3$ （福岡観測局）～ $0.029\text{mg}/\text{m}^3$ （小矢部観測局）であった。

これらの測定値を環境基準と比べると、表2-15のとおりであり、4年度は、短期的評価でみると、これに適合していたのは28局中2局であったが、長期的評価でみると、28局全局が適合していた。

表2-14 浮遊粉じん濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：mg/m³）

観測局			年 度	63	元	2	3	4
富山地 区	富山市	富山水橋		0.024	0.024	0.024	0.027	0.027
		富山岩瀬		0.034	0.029	0.032	0.029	0.028
		富山芝園		0.025	0.028	0.029	0.030	0.027
		富山神明		0.027	0.025	0.028	0.031	0.029
		富山蛭川		0.028	0.031	0.030	0.029	0.028
		新庄		0.032	0.033	0.032	0.028	0.027
		呉羽		0.027	0.032	0.030	0.028	0.028
高岡・新 潟地区	婦中町	婦中速星		0.023	0.023	0.027	0.028	0.028
	高岡市	高岡伏木		0.026	0.028	0.029	0.029	0.029
		高岡能町		0.028	0.026	0.029	0.031	0.034
		高岡本丸		0.029	0.035	0.037	0.034	0.036
		高岡波岡		0.027	0.032	0.032	0.028	0.031
		高岡戸出		0.027	0.031	0.036	0.031	0.031
		高岡二塚		0.031	0.031	0.031	0.027	0.026
	新湊市	新湊三日曾根		0.034	0.036	0.037	0.035	0.030
		新湊今井		0.030	0.037	0.039	0.037	0.036
		新湊海老江		0.026	0.029	0.031	0.028	0.031
その他の 地区	小杉町	小杉太閤山		0.025	0.026	0.030	0.028	0.027
	入善町	入善						0.025
	黒部市	黒部		0.032	0.033	0.030	0.028	0.023
	魚津市	魚津						0.025
	滑川市	滑川上島						0.025
		滑川大崎野		0.021	0.018	0.020	0.024	0.025
	氷見市	氷見						0.026
	福岡町	福岡						0.022
	小矢部市	小矢部						0.029
	砺波市	砺波						0.026
富山地 区	福野町	福野						0.026

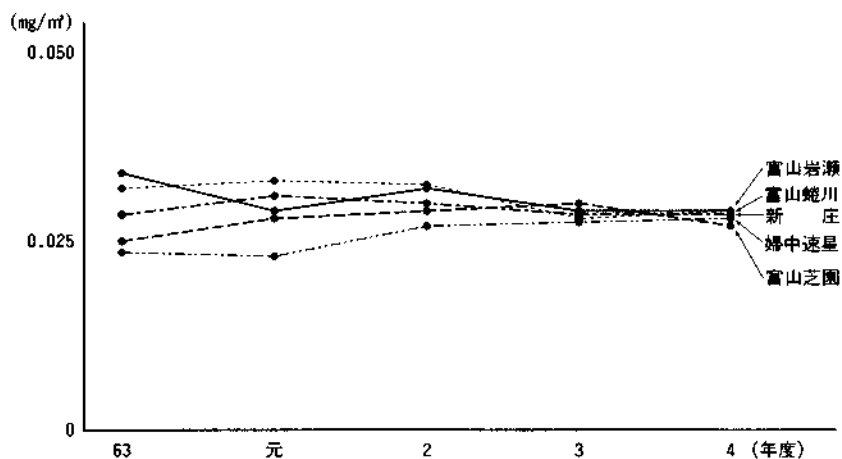
注1 測定は、β線吸収法又は光散乱法で行い、光散乱法の場合は、ローボリウム・エア・サンブラー法により校正した値である。

2 富山県庁、黒部植木観測局の63～3年度の数値は移設により、それぞれ富山県庁、黒部市庁観測局の測定結果とした。

3 黒部植木、滑川大崎野観測局を除くその他の地区の観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。

図2-7 主な一般環境観測局における浮遊粉じん濃度の年度別推移（年平均値）

富山地区



高岡・新湊地区

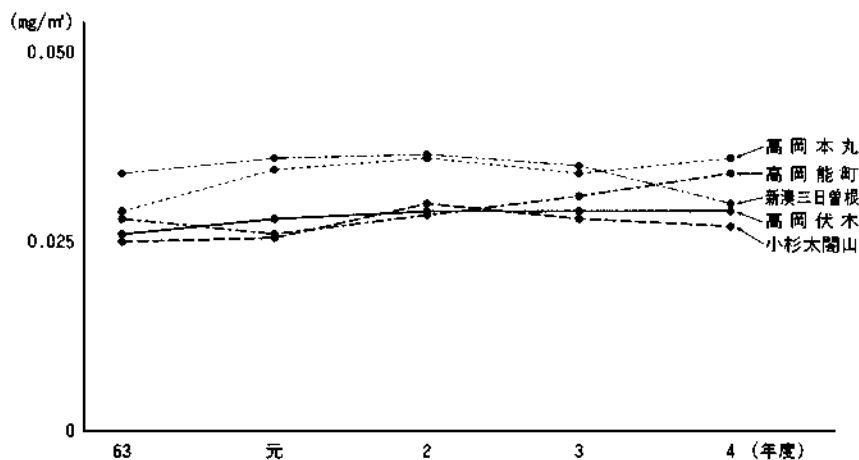


表2-15 浮遊粉じんに係る環境基準の適合状況

観測局	項目 基準 年度	1日平均値の2%除外値(mg/m ³)					短期的評価による 適(○)、否(×)					長期的評価による 適(○)、否(×)				
		0.10mg/m ³ 以下であること														
		63	元	2	3	4	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
富山地区	富山市	富山水橋	0.060	0.056	0.064	0.068	0.069	×	×	○	×	×	○	○	○	○
		富山岩瀬	0.078	0.068	0.078	0.064	0.069	×	×	×	×	×	○	○	○	×
		富山芝園	0.055	0.062	0.071	0.068	0.071	×	×	×	×	○	○	○	○	○
		富山神明	0.066	0.063	0.069	0.074	0.068	×	×	×	×	×	○	○	○	○
		富山蛸川	0.065	0.074	0.075	0.069	0.079	×	×	×	×	×	○	○	○	○
		新庄	0.072	0.070	0.078	0.065	0.072	×	×	○	○	×	○	○	○	○
		呉羽	0.066	0.075	0.067	0.062	0.067	×	×	×	○	×	○	○	○	○
高岡・新湊地区	婦中町	婦中連星	0.055	0.057	0.064	0.065	0.069	○	×	×	×	×	○	○	○	○
		高岡伏木	0.063	0.068	0.063	0.070	0.062	○	×	○	×	×	○	○	○	○
	高岡市	高岡能町	0.066	0.063	0.061	0.071	0.075	×	×	×	○	×	○	○	○	○
		高岡本丸	0.067	0.079	0.079	0.077	0.076	×	×	×	×	×	○	○	×	○
		高岡波岡	0.075	0.078	0.064	0.056	0.074	×	×	×	○	×	○	○	○	○
		高岡戸出	0.061	0.076	0.080	0.073	0.072	×	×	×	×	×	○	○	○	○
		高岡二塚	0.071	0.070	0.067	0.060	0.064	×	×	×	×	×	○	○	○	○
	新湊市	新湊三日曾根	0.081	0.084	0.080	0.082	0.089	×	×	×	×	×	○	○	○	○
		新湊今井	0.070	0.085	0.090	0.077	0.083	×	×	×	×	×	○	○	○	○
		新湊海老江	0.062	0.075	0.075	0.061	0.075	×	×	×	×	×	○	○	○	○
その他の地区	小杉町	小杉太閤山	0.058	0.066	0.065	0.069	0.063	○	×	○	×	×	○	○	○	○
	入善町	入善					0.069				×					○
		黒部市黒部植木	0.069	0.072	0.067	0.069	0.056	○	×	×	○	○	○	○	○	○
	魚津市	魚津					0.065				×					○
	滑川市	滑川上島					0.062				×					○
		滑川大崎野	0.054	0.048	0.052	0.062	0.062	○	○	×	○	×	○	○	○	○
	水見市	水見					0.071				×					○
	福岡町	福岡					0.058				×					○
	小矢部市	小矢部					0.069				×					○
	砺波市	砺波					0.064				×					○
	福野町	福野					0.069				×					○

- 注1 測定は、β線吸収法又は光散乱法で行い、光散乱法のものは、ローボリウム・エア・サンプラー法により校正した値である。
- 2 富山芝園、黒部植木観測局の63～3年度の数値等は移設により、それぞれ富山県庁、黒部市庁観測局の測定結果とした。
- 3 黒部植木、滑川大崎野観測局を除くその他の地区の観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。
- 4 短期的評価による適(○)とは、1日平均値がすべての有効測定日(欠測が4時間以内であること)で0.1mg/m³以下であり、かつ1時間値がすべての測定時間において0.2mg/m³以下をいう。
- 5 長期的評価による適(○)とは、1日平均値の上位の2%除外値が0.1mg/m³以下であり、かつ年間を通じて1日平均値が0.1mg/m³を超える日が2日間以上連続しないことをいう。

(エ) 光化学オキシダント

光化学オキシダントの測定は、一般環境観測局25局(富山地区6局、高岡・新湊地区9局、その他の地区10局)において実施した。測定結果の年度別推移(年平均値)は、表2-16のとおりであり、4年度は、0.027ppm(滑川上島観測局)～0.034ppm(高岡伏木観測局)であった。

表2-16 光化学オキシダント濃度の年度別推移(年平均値)

(単位: ppm)

観測局		年 度	63	元	2	3	4
富山地区	富山市	富山岩瀬	0.027	0.028	0.029	0.029	0.031
		富山芝園	0.027	0.025	0.028	0.026	0.029
		富山蛭川					0.031
		新庄	0.023	0.028	0.027	0.027	0.029
		呉羽	0.028	0.031	0.029	0.030	0.032
	婦中町	婦中速星					0.032
高岡・新湊地区	高岡市	高岡伏木	0.030	0.033	0.034	0.031	0.034
		高岡能町					0.029
		高岡本丸	0.025	0.023	0.027	0.028	0.028
		高岡波岡	0.024	0.027	0.027	0.026	0.028
		高岡戸出					(0.028)
	新湊市	新湊三日曾根	0.028	0.031	0.029	0.029	0.030
		新湊今井					(0.025)
		新湊海老江					(0.028)
	小杉町	小杉太閤山	0.026	0.026	0.027	0.026	0.028
その他の地区	入善町	入善					0.033
	黒部市	黒部植木					(0.032)
	魚津市	魚津					0.028
	滑川市	滑川上島					0.027
		滑川大崎野					(0.039)
	氷見市	氷見					(0.031)
	福岡町	福岡					(0.026)
	小矢部市	小矢部					(0.025)
	砺波市	砺波					(0.028)
	福野町	福野					(0.029)

注1 測定は、ヨードカリ比色法による。

2 富山芝園観測局の63～3年度の数値は移設により、富山県庁観測局の測定結果とした。

3 富山蛭川等16観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。

4 ()は、測定時間6000時間未満の観測局を示す。(評価は原則として6000時間以上の測定をもってすることになっている。)

また、4年度の環境基準の適合状況は表2-17のとおりであり、各観測局における適合時間数でみると、総測定時間の93.5～97.4%がこの基準を満足していた。

なお、大気汚染緊急時（情報や注意報等）の措置としての情報や注意報等を発令するまでには至らなかった。

表2-17 光化学オキシダントに係る環境基準の適合状況

観測局		項目	1時間値の最高値 (ppm)					1時間値が0.06ppmを超えない時間数の割合 (%)				
			基準									
		年度	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
富山地	富山市	富山岩瀬	0.095	0.091	0.095	0.099	0.096	96.5	96.5	96.2	94.3	94.2
		富山芝園	0.095	0.099	0.094	0.087	0.100	97.7	96.3	97.1	97.8	94.5
		富山蛭川					0.099					94.4
		新庄	0.078	0.093	0.115	0.098	0.105	99.4	97.3	98.3	96.3	95.9
		興利	0.086	0.099	0.087	0.087	0.098	98.4	95.5	97.8	96.3	94.5
高岡・新湊地区	高岡市	婦中町					0.108					94.4
		高岡伏木	0.092	0.097	0.102	0.098	0.098	98.0	94.0	95.1	97.0	94.5
	高岡市	高岡能町					0.085					96.9
		高岡本丸	0.088	0.088	0.091	0.087	0.091	98.9	98.4	97.8	96.8	97.4
		高岡波岡	0.087	0.116	0.091	0.086	0.098	98.4	95.6	98.0	97.1	97.1
		高岡戸出					(0.081)					(97.7)
	新湊市	新湊三日曾根	0.085	0.106	0.120	0.114	0.096	97.1	93.3	95.2	95.8	95.4
		新湊今井					(0.085)					(98.0)
		新湊海老江					(0.086)					(98.4)
	小杉町	小杉太閤山	0.100	0.068	0.088	0.089	0.089	98.7	97.3	98.1	97.6	96.3
その他の地区	入善町	入善					0.103					93.5
		黒部市	黒部橋本				(0.078)					(97.8)
	魚津市	魚津					0.089					97.4
		滑川市	滑川上島				0.094					97.0
	滑川市	滑川大崎野					(0.078)					(97.4)
		水見市	水見				(0.097)					(95.4)
	福岡町	福岡					(0.087)					(98.0)
		小矢部市	小矢部				(0.088)					(97.6)
	砺波市	砺波					(0.098)					(97.6)
		福野町	福野				(0.104)					(96.4)

注1 測定は、ヨードカリ比色法による。

2 富山芝園観測局の63～3年度の数値は移設により、富山県庁観測局の測定結果とした。

3 富山蛭川等16観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。

4 ()は、測定時間6000時間未満の観測局を示す。(評価は原則として6000時間以上の測定値をもってすることになっている。)

(イ) 一酸化炭素

一酸化炭素の測定は、高岡市の高岡本丸観測局において実施した。

測定結果の年度別推移（年平均値）は、表2-18のとおりであり、4年度は、0.6ppmで、3年度と同じく低い値であり、また測定値を環境基準と比べると、表2-19のとおり、これに適合していた。

表2-18 一酸化炭素濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppm）

観測局		年 度				
		63	元	2	3	4
高岡市	高岡本丸	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6

注 測定は、赤外線分析法による。

表2-19 一酸化炭素に係る環境基準の適合状況

観測局		項目 基準		1日平均値の2%除外値(ppm)					1日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続の有無					長期的評価による 適(○)、否(×)の 区 分				
				10ppm以下であること					無									
年度		63	元	2	3	4	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4		
高岡市	高岡本丸	1.2	1.1	1.2	1.3	1.2	無	無	無	無	無	○	○	○	○	○		

注1 測定は、赤外線分析法による。

2 この表は、国の指示に基づく長期的評価によるもので、測定値の高い値から2%除外した値をもって評価したものである。

(カ) 炭化水素

炭化水素の測定は、富山、高岡両市の主要な一般環境観測局2局において実施した。

測定結果の年度別推移（年平均値）は、表2-20のとおりであり、4年度は、富山芝園観測局で非メタン炭化水素0.23ppmC、メタン1.77ppmC、全炭化水素2.00ppmC、また、高岡本丸観測局で非メタン炭化水素0.21ppmC、メタン1.83ppmC、全炭化水素2.04ppmCであり、3年度と比べると、3項目ともほぼ横ばいの値を示していた。

また、非メタン炭化水素の6時～9時における年平均値は、富山芝園観測局で0.22ppmC、高岡本丸観測局で0.23ppmCであり、これを国の炭化水素に係る環境基準専門委員会の指針値（6～9時の3時間平均値が0.20～0.31ppmCの範囲内又はそれ以下）と比べると、範囲内の値であった。

表2-20 炭化水素濃度の年度別推移（年平均値）

（単位：ppmC）

観測局	項目	年度		63	元	2	3	4
		年	間					
富山市	富山芝園	非メタン	炭化水素	0.21	0.17	0.18	0.18	0.23
		6時～9時		0.18	0.14	0.14	0.15	0.22
		メタン		1.75	1.77	1.75	1.76	1.77
		全炭化水素		1.96	1.94	1.93	1.94	2.00
高岡市	高岡本丸	非メタン	炭化水素	0.22	0.23	0.22	0.23	0.21
		6時～9時		0.24	0.25	0.23	0.24	0.23
		メタン		1.77	1.72	1.78	1.81	1.83
		全炭化水素		2.00	1.95	2.00	2.03	2.04

注1 測定は、水素炎イオン化法による。

2 全炭化水素は、非メタン炭化水素とメタンとを加えたものである。

3 富山芝園観測局の63～3年度の数値は移設により、富山県庁観測局の測定結果とした。

イ 自動車排出ガス観測局の測定結果

自動車排出ガス観測局を主要幹線道路周辺に5局設置し、一酸化炭素、窒素酸化物、炭化水素、浮遊粉じん（ β 線吸収法）を測定している。

測定結果の年度別推移（年平均値）は、表2-21のとおりで、4年度は一酸化炭素0.4ppm（婦中田島、小杉鷺塚観測局）～0.9ppm（高岡広小路観測局）、一酸化窒素0.011ppm（小杉鷺塚観測局）～0.019ppm（黒部前沢観測局）、二酸化窒素0.016ppm（小杉鷺塚観測局）～0.022ppm（高岡広小路観測局）、窒素酸化物0.026ppm（小杉鷺塚観測局）～0.039ppm（富山城址、高岡広小路観測局）であった。

また、非メタン炭化水素は0.14ppmC（黒部前沢観測局）～0.29ppmC（高岡広小路観測局）、メタンは1.76ppmC（婦中田島観測局）～1.85ppmC（小杉鷺塚観測局）、全炭化水素は1.93ppmC（婦中田島観測局）～2.13ppmC（高岡広小路観測局）、浮遊粉じんは0.024mg/m³（富山城址観測局）～0.034mg/m³（小杉鷺塚観測局）であった。

この測定値を環境基準と比べると、表2-22のとおりであり、一酸化炭素、二酸化窒素については、全局とも適合していた。また、浮遊粉じんについては、短期的評価では5局中3局が適合していたが、長期的評価では、全局が適合していた。

表2-21 自動車排出ガスの年度別推移（年平均値）

観 測 局		年 度	63	元	2	3	4
		項 目(単位)					
富山市	富山城址	一酸化炭素(ppm)	1.0	0.9	0.9	0.9	0.8
		一酸化窒素(ppm)	0.021	0.020	0.016	0.019	0.018
		二酸化窒素(ppm)	0.021	0.021	0.021	0.019	0.021
		窒素酸化物(ppm)	0.042	0.041	0.037	0.038	0.039
		非メタン炭化水素(ppmC)	0.17	0.21	0.25	0.26	0.25
		メタン(ppmC)	1.79	1.83	1.86	1.87	1.82
		全炭化水素(ppmC)	1.96	2.04	2.11	2.12	2.08
		浮遊粉じん(mg/m ³)	0.033	0.033	0.030	0.027	0.024
高岡市	高岡広小路	一酸化炭素(ppm)	1.3	1.1	1.0	1.0	0.9
		一酸化窒素(ppm)	0.020	0.020	0.021	0.023	0.017
		二酸化窒素(ppm)	0.021	0.022	0.024	0.024	0.022
		窒素酸化物(ppm)	0.041	0.042	0.045	0.047	0.039
		非メタン炭化水素(ppmC)	0.40	0.31	0.31	0.31	0.29
		メタン(ppmC)	1.81	1.79	1.80	1.83	1.84
		全炭化水素(ppmC)	2.21	2.10	2.11	2.17	2.13
		浮遊粉じん(mg/m ³)	0.035	0.034	0.035	0.028	0.026
黒部市	黒部前沢	一酸化炭素(ppm)					0.5
		一酸化窒素(ppm)					0.019
		二酸化窒素(ppm)					0.018
		窒素酸化物(ppm)					0.037
		非メタン炭化水素(ppmC)					0.14
		メタン(ppmC)					1.83
		全炭化水素(ppmC)					1.97
		浮遊粉じん(mg/m ³)					0.031
婦中町	婦中田島	一酸化炭素(ppm)					0.4
		一酸化窒素(ppm)					0.018
		二酸化窒素(ppm)					0.020
		窒素酸化物(ppm)					0.037
		非メタン炭化水素(ppmC)					0.16
		メタン(ppmC)					1.76
		全炭化水素(ppmC)					1.93
		浮遊粉じん(mg/m ³)					0.032
小杉町	小杉鷺塚	一酸化炭素(ppm)					0.4
		一酸化窒素(ppm)					0.011
		二酸化窒素(ppm)					0.018
		窒素酸化物(ppm)					0.026
		非メタン炭化水素(ppmC)					0.17
		メタン(ppmC)					1.85
		全炭化水素(ppmC)					2.02
		浮遊粉じん(mg/m ³)					0.034

注1 測定は、浮遊粉じんはβ線吸収法（浮遊粒子状物質）、その他の項目は一般環境観測局の測定方法と同じである。

2 窒素酸化物は、一酸化窒素と二酸化窒素を加えたものである。

3 全炭化水素は、非メタン炭化水素とメタンを加えたものである。

4 黒部前沢、婦中田島、小杉鷺塚観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年度から測定を開始した。

表2-22 自動車排出ガス濃度の環境基準の適合状況

(1) 一酸化炭素

観測局	項目 基準	1日平均値の2%除外値(ppm)					1日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続の有無					長期的評価による適(○)、否(×)				
		10ppm以下であること					無									
		年度	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4	63	元	2	3
富山市	富山城址	1.6	1.6	1.5	1.6	1.3	無	無	無	無	無	○	○	○	○	○
高岡市	高岡広小路	2.1	1.8	1.8	1.8	1.7	無	無	無	無	無	○	○	○	○	○
黒部市	黒部前沢					0.8					無					○
婦中町	婦中田島					0.7					無					○
小杉町	小杉鷺塚					0.9					無					○

注1 測定は、赤外線分析法による。

2 黒部前沢、婦中田島、小杉鷺塚観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年

度から測定を開始した。

3 この表は、国の指針に基づく長期的評価によるもので、年間における1日平均値のうち、測定値の高い値から2%除外した値をもって評価したものである。

(2) 二酸化窒素

観測局	項目	1 日 平 均 値 の 98 % 値(ppm)					環 境 基 準 の 適 (○)、否 (×)				
	基準	0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又は、それ以下であること。									
年度		63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
富山市	富山城址	0.033	0.034	0.035	0.033	0.034	○	○	○	○	○
高岡市	高岡広小路	0.034	0.038	0.039	0.040	0.038	○	○	○	○	○
黒部市	黒部前沢					0.033					○
婦中町	婦中田島					0.032					○
小杉町	小杉鷺塚					0.029					○

注1 測定は、ザルツマン比色法による。

2 黒部前沢、婦中田島、小杉鷺塚観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年

度から測定を開始した。

3 この表は、国の指針に基づく長期的評価によるもので、年間における1日平均値のうち、低い方から98%に相当する値をもって評価したものである。

(3) 浮遊粉じん

観測局	項目 基準	1日平均値の2%除外値(mg/m ³)					短期的評価による 適(○)、否(×)					長期的評価による 適(○)、否(×)					
		0.10mg/m ³ 以下であること															
		年度	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
富山市	富山城址	0.066	0.063	0.064	0.058	0.057	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高岡市	高岡広小路	0.076	0.075	0.074	0.064	0.060	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○
黒部市	黒部前沢					0.072					○						○
婦中町	婦中田島					0.071					×						○
小杉町	小杉鷺塚					0.079					×						○

注1 短期的評価による適(○)とは、1日平均値がすべての有効測定日(欠測が4時間以内であること)で0.1mg/m³以下であり、かつ1時間値がすべての測定時間において0.2mg/m³以下をいう。

2 黒部前沢、婦中田島、小杉鷺塚観測局は、大気汚染常時観測局適正配置計画により4年

度から測定を開始した。

3 長期的評価による適(○)とは、1日平均値の上位の2%除外値が0.1mg/m³以下であり、かつ年間を通じて1日平均値が0.1mg/m³を超える日が2日間以上連続しないことをいう。

(2) 燃料使用量等の推移

ア 燃料使用量の推移

県内における重油、原油、石炭、灯油、軽油及びガソリンの使用量の年度別推移は、表2-23のとおりであった。

表2-23 燃料使用量(推定)の年度別推移

(単位：千kI)

燃 料 の 種 類 \ 年 度		63	元	2	3	4
重油・原油・石炭	A 重油	253 (100)	265 (105)	282 (111)	304 (120)	290 (115)
	B 重油	7 (100)	8 (114)	3 (43)	1 (14)	2 (29)
	C 重油	507 (100)	493 (97)	526 (104)	276 (54)	484 (95)
	原油	487 (100)	891 (183)	1,116 (229)	1,021 (210)	1,109 (228)
	石炭*	819 (100)	873 (107)	903 (110)	975 (119)	895 (109)
	合計	2,073 (100)	2,530 (122)	2,830 (137)	2,577 (124)	2,780 (134)
灯油		357 (100)	353 (99)	360 (101)	365 (102)	369 (103)
軽油		363 (100)	387 (107)	416 (115)	435 (120)	439 (121)
ガソリン		378 (100)	393 (104)	414 (110)	433 (115)	500 (132)

注1 ()は、63年度を100とした指数である。

2 ※は、重油換算した使用量である。

主に工場・事業場で使用される重油、原油及び石炭の使用量は、4年度は278万 kI で、3年度と比べやや増加した。内訳をみると、A重油及び石炭は減少し、C重油及び原油は増加した。

また、主に自動車に使用される軽油及びガソリンについては、増加する傾向にある。

イ 硫黄酸化物排出量の推移

県内における重油、原油などの燃焼に伴う硫黄酸化物の推定排出量は、表2-24のとおりで、3年度と比べやや増加した。

表2-24 硫黄酸化物排出量（推定）の年度別推移

(単位：千Nm³)

燃料の種類 \ 年 度		63	元	2	3	4
重油	A 重油	952 (100)	997 (105)	1,061 (111)	1,144 (120)	1,091 (115)
	B 重油	41 (100)	47 (115)	18 (44)	3 (7)	7 (17)
	C 重油	1,254 (100)	1,281 (102)	1,269 (101)	657 (52)	1,150 (92)
原油		330 (100)	675 (205)	813 (246)	883 (268)	951 (288)
石炭		546 (100)	579 (106)	658 (121)	543 (99)	548 (100)
合 計		3,123 (100)	3,579 (115)	3,819 (122)	3,230 (103)	3,747 (120)

注 ()は、63年度を100とした指数である。

ウ ばい煙発生施設数の推移

工場等に設置されているばい煙発生施設数の年度別推移は表2-25のとおりで、総施設数は、4年度は2,775施設で3年度と比べやや増加した。

表2-25 ばい煙発生施設数の年度別推移

種 類 \ 年 度	63	元	2	3	4
ボ イ ラ ー	1,545	1,583	1,570	1,675	1,718
金 属 溶 解 炉	154	169	141	147	157
金 属 加 熱 炉	176	177	152	152	157
焼 成 炉 ・ 溶 融 炉	92	61	56	96	97
乾 燥 炉	113	112	104	106	122
電 気 炉	41	37	34	32	32
廃 棄 物 焼 却 炉	119	127	116	120	124
銅・鉛・亜鉛精錬用施設	67	64	54	56	56
塩素・塩化水素反応施設	69	46	35	69	70
アルミ製錬用電解炉	—	—	—	—	—
そ の 他	69	62	197	224	242
合 計	2,445 (100)	2,438 (100)	2,459 (101)	2,677 (109)	2,775 (113)

注 ()は、63年度を100とした指数である。

エ 自動車保有台数の推移

移動発生源の大部分を占める自動車の保有台数の年度別推移は、表2-26のとおりである。

4年度の総保有台数は68万6千台で、3年度の66万4千台と比べてやや増加した。

表2-26 自動車保有台数の年度別推移

(単位：台)

種 類 \ 年 度		63	元	2	3	4
貨物用	普 通	22,140	23,738	25,544	27,042	28,134
	小 型	70,531	70,093	68,887	68,415	67,604
乗合用	普 通	1,041	1,064	1,083	1,081	1,075
	小 型	1,724	1,697	1,699	1,696	1,640
乗 用	普 通	5,282	7,436	10,935	17,251	27,774
	小 型	290,933	305,088	315,958	324,938	330,701
大 型 特 殊 車		4,932	5,205	5,463	5,741	6,014
軽 自 動 車		183,226	192,892	202,527	209,469	213,709
特 殊	普 通	6,352	6,613	6,893	7,209	7,478
	小 型	1,537	1,601	1,599	1,590	1,583
合 計		587,698 (100)	615,427 (105)	640,588 (109)	664,432 (113)	685,712 (117)

注 ()は、63年度を100とした指数である。

2 大気汚染防止に関して講じた施策

(1) 法令等に基づく規制の概要

ア 大気汚染防止法による規制

大気汚染防止法による規制の概要は、次のとおりである。

(ア) 規制地域

県内全域

(イ) 規制対象物質

硫黄酸化物、ばいじん、有害物質(カドミウム及びその化合物、塩素及び塩化水素、ふっ素・ふっ化水素及びふっ化けい素、鉛及びその化合物、窒素酸化物)及び粉じん(一般粉じん、特定粉じん)

(ウ) 規制対象施設

a ばい煙発生施設

ボイラー、金属加熱炉、廃棄物焼却炉等32種類の施設

b 粉じん発生施設

(a) 一般粉じん

堆積場、ベルトコンベア、バケットコンベア等5種類の施設

(b) 特定粉じん

アスベストを発生又は飛散する施設のうち解綿用機械、混合機、切断機等の9種類の施設

(エ) 排出基準等

a 硫黄酸化物

硫黄酸化物の排出基準は、排出口の高さに応じて定められた硫黄酸化物の許容量として、 $q=K \times 10^{-3} \cdot H e^2$ (q は硫黄酸化物排出量 $H e$ は有効煙突高さ) で表されており、規制は K 値で行われている。

K 値は、富山市、高岡市等の公害防止計画地域で2.34 (49年3月31日までに設置された施設は5.0)、その他の地域では17.5となっている。

b ばいじん

ばいじんの排出基準は、ばい煙発生施設において発生し、排出口から大気中に排出されるばいじんの濃度について、発生施設の種類及び規模ごとに規制されている。

c 有害物質

有害物質の排出基準は、ばい煙発生施設において発生し、排出口から大気中に排出される有害物質の濃度について、発生施設の種類及び規模ごとに規制されている。

なお、県では、これら有害物質のうち、カドミウム、塩素、塩化水素及びふっ素について、条例により、更に厳しい上乘せ排出基準を設定している。

d 粉じん

- (a) 一般粉じん発生施設には、フード、散水設備、防じんカバー等の構造並びに使用及び管理に関する基準が設定されている。
- (b) 特定粉じんについては、工場又は事業場の敷地境界における大気中のアスベストの濃度が規制されている。

(オ) 届出施設

a ばい煙発生施設

4年度末のばい煙発生施設の届出状況は、表2-27のとおり、総施設数は2,775施設(工場・事業場数1,234)となっている。

種類別では、ボイラーが1,718施設(構成比62%)で最も多く、次いでディーゼル機関165施設(同6%)、金属溶解炉157施設(同6%)、金属加熱炉157施設(同6%)、廃棄物焼却炉124施設(同4%)、乾燥炉122施設(同4%)の順となっている。

また、地域別では、富山市738施設(構成比27%)、高岡市484施設(同17%)、黒部市237施設(同9%)、新湊市233施設(同8%)となっており、4市で全施設の61%にあたる1,692施設が設置されている。

表2-27 大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設の届出状況

(5年3月31日現在)

地 域	工場・事業場数	ばい煙発生施設数																				計
		1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	13	14	19	21	27	29	30			
		ボ イ ラ ー	ガ ス 発 熱 生 炉	熔 融 ・ 乾 燥 結 晶 炉	溶 融 ・ 平 炉	金 属 溶 解 炉	金 属 加 熱 炉	石 油 加 熱 炉	炭 溶 成 融 炉	反 直 応 火 炉	乾 燥 炉	電 気 炉	廃 棄 物 焼 却 炉	鋼 精 錬 用 重 鋸 設 備	塩 素 反 応 爐 化 設 水 等	複 合 肥 料 製 造 設 備	硝 酸 ・ 硫 酸 製 造 設 備	ガ ス タ ー ビ ン	デ イ ゼ ル 機 関			
富山市	346	536	4			40	9	21		13	7	24		1			7	76	738			
高岡市	242	287		6	1	54	15		4		21	9	27	35			9	16	484			
新湊市	61	106		1		39	56			8	9	5						9	233			
魚津市	52	64						3		5		3		32			4	9	120			
氷見市	44	40				4	2		2		8	1	4					2	63			
滑川市	35	42				1				5		3					1	3	55			
黒部市	40	124				13	19		1		9		3	56			2	10	237			
砺波市	38	43				10	2			3		5					1	5	69			
小矢部市	53	57				2	3		6		7		6				2	4	87			
上新川郡	24	34							53				3					3	93			
中新川郡	48	57				19	5		1		9	1	6					3	101			
下新川郡	44	52				9	2				1		14				1	9	88			
婦負郡	56	78	1	1				4	5	3	13		4	2	12	7		4	134			
射水郡	49	63		1		3	1				3	5	3					7	86			
東砺波郡	63	81							1		7		6					5	100			
西砺波郡	39	54				3	12				10		8						87			
合 計	1,204	1,708	5	9	1	157	157	13	97	3	122	32	124	56	70	12	7	27	165	2,775		

b 粉じん発生施設

4年度末の一般粉じん発生施設の届出状況は、表2-28のとおり、総施設数は796施設(170工場・事業場数)であり、種類別では、堆積場が283施設(構成比36%)で最も多く、次いでベルトコンベア・バケツトコンベア255施設(同32%)、破砕機・摩砕機213施設(同27%)の順となっている。

表2-28 大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設の届出状況

(5年3月31日現在)

地 域	工 場 ・ 事業場数	粉 じ ん 発 生 施 設 数				
		堆積場	ベルトコンベア バケットコンベア	破碎機 摩砕機	ふるい	計
富山市	33	66	14	36	7	123
高岡市	23	33	40	20	2	95
新湊市	6	25	50		2	77
魚津市	6	6		8	1	15
氷見市	5	3	9	4	1	17
滑川市	5	7	1	3	1	12
黒部市	9	22	10	21	5	58
砺波市	8	16	4	9	3	32
小矢部市	15	20	9	19	10	58
上新川郡	4	3	4	5	1	13
中新川郡	13	17	14	30	6	67
下新川郡	11	10	44	23	5	82
婦負郡	7	11	17	16		44
射水郡	4	19	4	2		25
東砺波郡	18	20	33	15	1	69
西砺波郡	3	5	2	2		9
合 計	170	283	255	213	45	796

また、特定粉じん発生施設の届出状況は、東砺波郡に1施設（1工場）となっている。

イ 大気汚染緊急時対策要綱による措置

大気汚染防止法には、大気の汚染が著しくなり、人の健康又は生活環境に被害が生ずる恐れのある場合に、その対策として大気汚染緊急時の措置をとることが規定されている。

これに基づき県では、46年度に硫黄酸化物についての緊急時対策要綱を制定し、49年度には対象物質に光化学オキシダント、浮遊粉じん、二酸化窒素を追加した。

要綱の概要は、次のとおりである。

(ア) 対象地域

富山地区（富山市、婦中町）

高岡・新湊地区（高岡市、新湊市、射水郡）

(イ) 対象物質

硫黄酸化物、光化学オキシダント、浮遊粉じん、二酸化窒素

(ウ) 緊急時の種類

情報、注意報、警報、重大警報

(エ) 緊急時の発令基準

緊急時の発令基準は表2-29のとおりであり、発令は対象地区ごとに1局以上の常時観測局において、対象物質の濃度が発令基準のいずれかに該当し、かつ、気象条件からみて汚染の状態が継続すると認められる場合に行う。

表2-29 緊急時の発令基準

対 象 物 質	発 令 基 準			
	情 報	注 意 報	警 報	重 大 警 報
硫 黄 酸 化 物	0.2ppm 2時間 0.3ppm	0.2ppm 3時間 0.3ppm 2時間 0.5ppm 48時間平均値 が0.15ppm以上	0.5ppm 2時間	0.5ppm 3時間 0.7ppm 2時間
光化学オキシダント	0.10ppm	0.12ppm	0.24ppm	0.4ppm
浮 遊 粉 じ ん	2 mg/m ³	2 mg/m ³ 2時間	—	3 mg/m ³ 3時間
二 酸 化 窒 素	0.4ppm	0.5ppm	—	1.0ppm

注 表中の時間は、当該濃度が継続した時間を表す。

(オ) 緊急時の措置

- ・ 緊急時協力工場に対しては、緊急時の種類に応じて表2-30のとおり、ばい煙排出量の削減を要請する。
- ・ 一般住民に対しては、テレビ、ラジオ等により、また学校に対しては県庁関係課、市町村を通じ、緊急時が発令されたことを知らせるとともに、屋外になるべく出ないよう協力を求める。
- ・ 自動車の運転者に対しては、光化学オキシダント等自動車排出ガスに起因する物質による発令の場合は、発令地区内の自動車の運行を差し控えるよう協力を求める。
- ・ 健康被害があった場合は、保健所、市町村の公害又は衛生担当課が直ちに対策をとる。



一斉指令装置による緊急時の協力要請

表2-30 緊急時協力工場の緊急時措置

対象物質	緊急時の措置			
	情報	注意	警報	重大警報
硫黄酸化物	工場へ通報し、不要不急の燃焼の自粛による協力を要請	通常硫黄酸化物排出量の20%以上削減勧告	通常硫黄酸化物排出量の50%以上削減勧告	硫黄酸化物許容量の80%以上削減命令
光化学オキシダント	同上	通常燃料使用量の20%以上削減勧告	通常燃料使用量の30%以上削減勧告	通常燃料使用量の40%以上削減命令
浮遊粉じん	同上	同上	—	同上
二酸化窒素	同上	同上	—	同上

ウ スパイクタイヤ規制法による規制等

(ア) スパイクタイヤ規制法の概要

スパイクタイヤ粉じんの発生を防止し、健康と生活環境を保全するため、2年6月27日に「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律」(スパイクタイヤ規制法)が施行され、指定地域内ではスパイクタイヤの使用が規制されている。

a 指定地域

住居が集合し、交通量が多い地域であって、スパイクタイヤ粉じんの発生を防止する必要がある地域として、本県では図2-8のとおり、27市町村が指定地域として指定された。

図2-8 スパイクタイヤの使用が規制される指定地域



b スパイクタイヤの規制

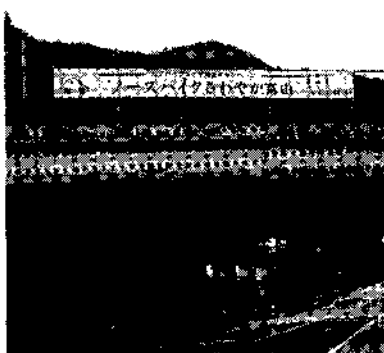
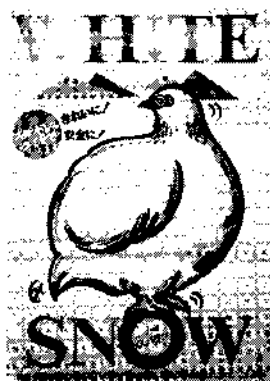
スパイクタイヤ粉じんの発生させないように努めることが原則となっており、特に指定地域内では積雪又は凍結の状態にない道路において3年4月1日から普通車、5年4月1日からは大型車について、スパイクタイヤの使用が禁止された。

(4) スパイクタイヤ対策の推進

法の施行に伴い、脱スパイクタイヤが円滑に推進されるよう、次のような広報啓発や道路環境の整備等を行った。

a 広報啓発等

- ・ テレビ、ラジオ、ポスター及び広報誌等による法の趣旨や脱スパイクタイヤの啓発
- ・ 横断幕及び道路情報標示板等による法の趣旨や脱スパイクタイヤの啓発
- ・ 街頭PRや広報車による呼びかけ
- ・ 自動車関係業界に対する協力要請



b 道路環境の整備

- ・ スパイクタイヤ、タイヤチェーン着脱場の整備
- ・ 除排雪、凍結防止対策の強化
- ・ 消雪装置の整備
- ・ 路面清掃の徹底

c 冬道の交通安全確保

- ・ 路面の積雪、凍結等の情報提供
- ・ 冬期の安全運転教育の徹底

d 道路粉じん調査

- ・ スパイクタイヤ装着前後における道路粉じん調査
- ・ 自動車排出ガス観測局における浮遊粉じん調査
- e 装着率調査等
 - ・ 冬期における走行車両のスパイクタイヤ装着率調査
 - ・ 凍結遅延剤の効果試験

(2) 大気環境計画（ブルースカイ計画）の推進

ア 硫黄酸化物環境計画による指導

県では、47年度に硫黄酸化物環境計画を策定し、その後8回にわたり強化改定して環境基準の達成維持を図ってきた。

計画に基づく指導の結果、51年以降は環境基準を維持しており、今後も環境の状況や工場等における燃料使用状況等を把握しながら、計画の見直しを図り、引き続き対策を推進していくことにしている。

計画の概要は次のとおりである。

(ア) 環境計画の適用期間

4年度から6年度までの3年間

(イ) 環境目標値

環境基準を維持するため表2-31のとおり設定した。

表2-31 環境目標値

環境目標値	年平均値	0.016ppm以下
	1日平均値の98%値	0.040ppm以下
	1時間値	0.100ppm以下

(ウ) 環境目標値の維持方策

a 対象地域

県内全域

b 対象工場・事業場

大気汚染防止法等に基づくばい煙発生施設を有する工場・事業場で重油等燃料の最大使用量が0.3kl/時以上に該当するもの。

c 指導硫黄酸化物排出量

地域別に表2-32のとおり設定した。

表2-32 指導硫黄酸化物排出量

地 域 区 分			排 出 量 算 式
公害防止計画地域	北地区	富山市、高岡市、新湊市及び射水郡のうち国道8号線以北でかつ、国道160号線以南の地区	$Q = 5.0W^{0.87}$
	中地区	北部地区及び南部地区以外の地区	$Q = 5.5W^{0.87}$
	南地区	富山市、高岡市、射水郡及び婦中町のうち北陸自動車道以南の地区	$Q = 6.0W^{0.87}$
そ の 他 の 地 域			$Q = 6.5W^{0.87}$

注1 公害防止計画地域の射水郡には下村を含む。

2 Qは指導硫黄酸化物排出量 (Nm³/時) で、対象施設から排出される硫黄酸化物排出量の合計を示す。

3 Wは工場等の燃原料使用量 (kl/時) である。

イ 窒素酸化物環境計画による指導

県では、49年度に窒素酸化物環境計画を策定し、その後6回にわたり改定し、環境基準の達成維持を図ってきた。計画に基づく指導の結果、硫黄酸化物と同様に良好な環境を維持しており、今後も環境の状況、工場等における燃料使用状況及び自動車交通量等を把握しながら、計画の見直しを図り、引き続き推進していくことにしている。

計画の概要は次のとおりである。

(ア) 環境計画の適用期間

4年度から6年度までの3年間

(イ) 環境目標値

環境基準を維持するため、表2-33のとおり設定した。

表2-33 環境目標値

環境目標値	年平均値	0.020ppm以下
	1日平均値の98％値	0.040ppm以下

(7) 環境目標値の維持方策

工場・事業場に対する指導は、法の排出基準による。

(3) 監視測定体制の整備

ア 大気汚染常時観測局等の整備状況

(ア) 大気汚染常時観測局の概要

a 一般環境観測局

一般環境の大気汚染を常時測定する観測局は、表2-34のとおり、一般環境観測局28局（県11局、市町17局）を設置している。



一般環境観測局

表2-34 一般環境観測局の概要

(5年3月31日現在)

区 分	市 町 村	観 測 局	所 在 地	設 置 年 度	設 置 者	測 定 項 目										予 観 測 メ ー タ 局
						硫 酸 化 物 溶 導 率	黄 物 液 電 法	浮 粉 β 吸 法	遊 離 二 酸 化 炭 素 マン 比 色	窒 素 酸 化 物 ゾ ル マ ン 比 色	光 化 学 オ キシ ダ ント ヨ リ 比 色	一 酸 化 炭 素 赤 外 線 分 析 法	炭 水 素 炎 イ オ ン 化	化 学 風 速 計	向 風 自 記 風 速 計	
富 山 地 区	富 山 市	富山水橋	水橋島等	50	市	○	○	○					○	○		
		富山岩瀬	蓮町	42	市	○	○	○	○				○	○		
		富山芝園	芝園	3	市	○	○	○	○			○	○	○		
		富山神明	高田	48	市	○	○	○					○	○		
		富山蛸川	赤田	48	市	○	○	○	○				○	○		
		新庄	新庄	48	市	○	○	○	○				○			
	興羽	興羽	46	市	○	○	○	○				○				
婦中町	婦中速星	速星	48	町	○	○	○	○				○	○			
高 岡 ・ 新 湊 地 区	高 岡 市	高岡伏木	伏木	42	市	○	○	○	○				○	○		
		高岡能町	能町	51	市	○	○	○	○				○	○		
		高岡本丸	本丸町	43	市	○	○	○	○	○	○		○	○		
		高岡波岡	美幸町	47	市	○	○	○	○	○			○	○		
		高岡戸出	戸出大清水	47	市	○	○	○	○	○			○	○		
		高岡二塚	二塚	53	市	○	○	○					○			
	新 湊 市	新湊三日曾根	三日曾根	42	市	○	○	○	○				○	○		
		新湊今井	今井	45	市	○	○	○	○				○	○		
		新湊海老江	海老江	48	市	○	○	○	○				○	○		
小杉町	小杉太閤山	中太閤山	47	市	○	○	○	○				○	○			
そ の 他 の 地 区	入善町	入善	入善	3	市	○	○※	○	○				○	○		
	黒部市	黒部植木	植木	4	市	○	○	○	○				○	○		
	魚津市	魚津	北鬼江	3	市	○	○※	○	○				○	○		
	滑川市	滑川上島	上島	3	市	○	○	○	○				○	○		
		滑川大崎野	大崎野	50	市	○	○	○	○				○	○		
	氷見市	氷見	窪	4	市	○	○	○	○				○	○		
	福岡町	福岡	土屋	4	市	○	○	○	○				○	○		
	小矢部市	小矢部	泉	4	市	○	○	○	○				○	○		
	砺波市	砺波	太田	4	市	○	○	○	○				○	○		
	福野町	福野	柴田屋	4	市	○	○	○	○				○	○		
計	28				28	28	28	25	1	2	28	25				

注 *の測定方法は光散乱法である。

b 自動車排出ガス観測局

自動車排出ガスを常時測定する観測局は、表2-35のとおり、主要幹線道路近傍等に自動車排出ガス観測局5局(県4局、市局1局)を設置している。

c 大気測定車

常時観測局が整備されていない地域の大气汚染の調査等各種調査を実施するため、大気測定車(1台)を公害センターに52年度から配備している。

なお、大気測定車の測定項目等は、表2-36のとおりである。

表2-35 自動車排出ガス観測局の概要

(5年3月31日現在)

市別	観測局	所在地	設置年度	設置者	測定項目			
					一酸化炭素	窒素酸化物	炭化水素	浮遊粉じん
					赤外線分析法	ザルツマン比色法	水素炎イオン化法	β 線吸収法
富山市	富山城址	富山城址公園	47	市	○	○	○	○
高岡市	高岡広小路	広小路	49	県	○	○	○	○
黒部市	黒部前沢	前沢	3	県	○	○	○	○
婦中町	婦中田島	上田島	3	県	○	○	○	○
小杉町	小杉鷺塚	鷺塚	3	県	○	○	○	○

表2-36 大気測定車の測定項目等

(5年3月31日現在)

測定項目	硫酸化物	浮遊粉じん	窒素酸化物	光化学オキシダント	一酸化炭素	炭化水素	風向風速	日射
測定法	溶液電率法	光散乱法	ザルツマン比色法	ヨードカリ比色法	赤外線分析法	水素炎イオン化法	発信機式 発電機式	熱電対式

(イ) 大気環境ネットワークの整備状況

大気汚染の状況を的確に把握し、光化学オキシダント等の大気汚染緊急時に迅速に対応するため、45年度に「大気汚染監視テレメータシステム」を導入し、一般環境観測局17局と自動車排出ガス観測局2局のテレメータ化を順次進めてきたが、平成3年度からの大気汚染常時観測局適正配置計画に基づき図2-9のとおり一般環境観測局25局、自動車排出ガス観測局5局、中継局13局、市町村環境情報提供システム及び緊急時一斉指令システム等によるネットワーク化を推進している。

イ 大気汚染補助測定点の整備状況

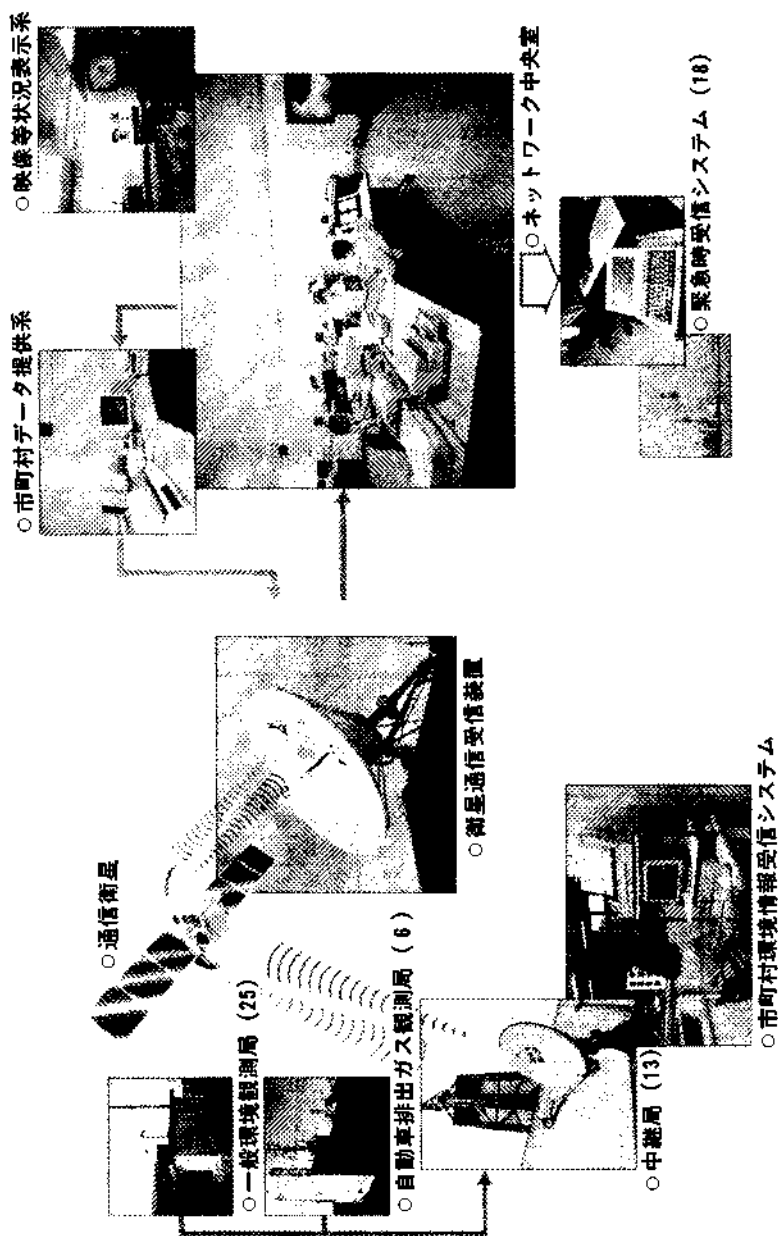
大気汚染常時観測局の補助測定網として、市町村の協力を得て、80か所において表2-37のとおり降下ばいじん、窒素酸化物の2項目について測定を行っている。

表2-37 市町村別大気汚染補助測定点の設置状況

(5年3月31日現在)

項目 測定法	降下 ばいじん	窒素 酸化物	計	項目 測定法	降下 ばいじん	窒素 酸化物	計
	ダスト ジャー法	トリエタ ノールア ミン法			ダスト ジャー法	トリエタ ノールア ミン法	
市町村				市町村			
富山市	10	10	20	入善町	3	3	6
高岡市	7	7	14	朝日町	2	2	4
新湊市	3	3	6	八尾町	3	3	6
魚津市	3	3	6	婦中町	3	3	6
氷見市	5	5	10	小杉町	2	2	4
滑川市	4	4	8	大門町	1	1	2
黒部市	5	5	10	下村	1	1	2
砺波市	5	5	10	大島町	1	1	2
小矢部市	4	4	8	城端町	1	1	2
大沢野町	1	1	2	庄川町	1	1	2
大山町	2	2	4	井波町	1	1	2
上市町	2	2	4	福野町	2	2	4
立山町	3	3	6	福光町	3	3	6
宇奈月	1	1	2	福岡町	1	1	2
合			計				
				28	80	80	160

図2-9 大気環境ネットワークの概要



ウ 大気汚染常時観測局適正配置計画の推進

大気汚染の形態が産業型から都市型へと変化していることやブルースカイ計画、環境影響評価等の適切な推進に対応するため、全県的な視野に立ち、観測局の配置を見直しするとともに、「富山県高度情報通信ネットワーク」の衛星回線を利用し関係市町村をはじめ県民への迅速な情報提供を図るなど、3年度からの3か年計画で大気環境ネットワークを整備する。

(ア) 観測局の適正配置

一般環境観測局及び自動車排出ガス観測局について、図2-10のとおり全県的な視野に立って整備することにしており、4年度には、一般環境観測局4局を整備した。

区 分	適 正 配 置	測 定 項 目
一 般 環 境 観 測 局	25	硫酸酸化物、浮遊粉じん、窒素酸化物、光化学オキシダント、風向・風速
自動車排出ガス観測局	6	窒素酸化物、浮遊粉じん、一酸化炭素、炭化水素
計	31	

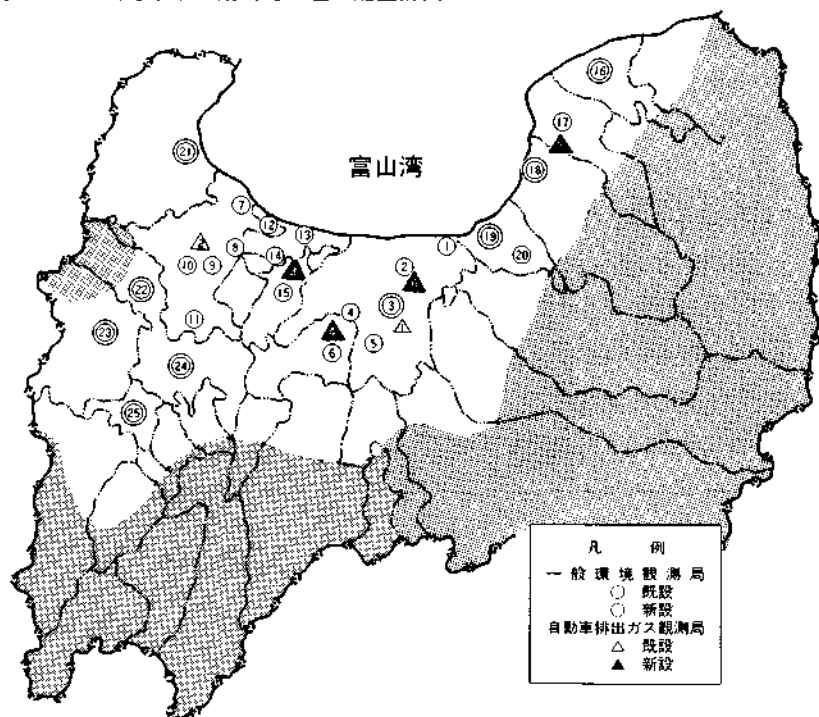
(イ) 測定項目の追加

大気汚染の形態の変化や複雑化に伴い、その実態を総合的に把握し、発生源寄与率や汚染機構等を解明するため、窒素酸化物、光化学オキシダント等の測定項目を整備した総合観測局化を図っており、4年度は、光化学オキシダント測定機7台、窒素酸化物測定機3台を整備した。

(ウ) ネットワーク化

大気汚染常時観測局の適正配置に伴って、データ解析や緊急時対策の迅速化を図るとともに市町村及び県民への適切な情報を提供するため、一般環境観測局及び自動車排出ガス観測局について、衛星回線を利用したネットワーク化を推進しており、4年度には中継局8局及びデータ収録装置20局を整備し、新システムへの移行を図った。

図2-10 大気汚染常時観測局の適正配置計画



エ 環境放射能測定機器の整備状況

県内における環境放射能の実態を把握するための科学技術庁のモニタリング調査の一環として、表2-38のとおり測定機器を整備し、一般環境中の放射能について測定を行っている。

表2-38 環境放射能測定機器の概要

測定機器名	測定項目
ゲルマニウム半導体核種分析装置	ガンマー線（核種）
GM式ベータ線測定装置	全ベータ線
サーベイメータ	空間放線線量率
モニタリングポスト	空間放線計数率

(4) 監視指導

大気汚染防止法及び公害防止条例の対象工場・事業場について立入調査を実施し、排出基準等の適合状況及び対象施設の維持・管理状況や届出状況について調査するとともに技術指導を行った。

なお、ブルースカイ計画に基づく対象工場・事業場について、燃料中の硫黄分や窒素酸化物の排出状況についても調査した。

立入調査結果は、表2-39のとおり、基準の適合状況については131工場・

表2-39 大気関係立入検査状況（4年度）

業 種	食 料 品 製 造 業	飲 料・飼 料・たばこ 製 造 業	繊 維 工 業	木 材・木 製 品 製 造 業	パルプ・紙・紙加工品製造業	化 学 工 業	石 油・石 炭 製 品 製 造 業	ゴ ム 製 品 製 造 業	窯 業・土 石 製 品 製 造 業	鉄 鋼 業	非 鉄 金 属 製 造 業	金 属 製 品 製 造 業	一 般 機 械 器 具 製 造 業	電 気 機 械 器 具 製 造 業	輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	そ の 他 の 製 造 業	電 気 業	廃 棄 物 処 理 業	そ の 他	合 計	
区 分	ば い じ ん	有 害 物 質 及 び 有 害 中 毒 性 硫 黄	小 計	ば い じ ん 発 生 施 設	煙 施 設	堆 積 場 等 の 粉 じん 発 生 施 設	小 計	合 計	基 準 の 適 合 状 況	届 出 確 認	指 導 件 数										
基準の適合状況	1 (1)	1 (1)	4 (10)	6 (12)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	16 (8)	5 (13)	10 (24)	4 (4)	1 (3)	3 (12)	3 (20)	4 (15)	2 (12)	1 (5)	6 (6)	5 (6)	12 (30)	78 (408)
届出確認	2 (5)	3 (25)	2 (24)	6 (43)	5 (49)	5 (25)	3 (36)	7 (257)	3 (118)	4 (253)	4 (134)	2 (9)	1 (2)	1 (5)	19 (22)	8 (9)	16 (34)	131 (549)	15 (172)	63 (1,796)	
合 計	8 (17)	14 (46)	4 (25)	13 (58)	33 (161)	9 (29)	1 (3)	21 (300)	10 (286)	8 (163)	14 (287)	6 (285)	4 (20)	1 (3)	3 (10)	19 (22)	9 (11)	17 (38)	194 (2,342)		
指導件数	1	2	1	2	1	3	15	5	1	2	3	1	3	1			4	1	45		

注 表中の数字は工場・事業場数、() は、施設数である。

事業場549施設を調査し、そのうち排出基準や指導値を超えた9工場・事業場について技術指導を行い、改善を行った。

また、届出確認については、63工場・事業場1796施設を調査し、そのうち届出不備な36工場・事業場について指導を行った。

(5) 大気環境の各種調査

ア 環境大気基礎調査

(7) 調査概要

大気汚染常時観測局の補助測定網として降下ばいじん及び窒素酸化物による大気汚染の状況を広域的に把握するため、図2-11のとおり、平野部80地点(約4 km メッシュに1地点)において調査を実施した。

(i) 調査結果

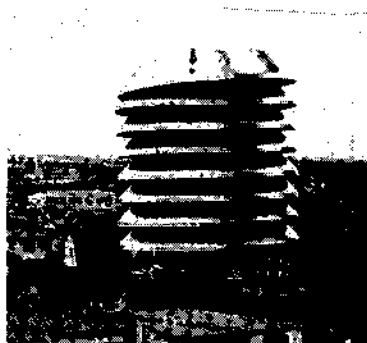
調査結果は、表2-40のとおりであった。

a 降下ばいじん(ダストジャー法)

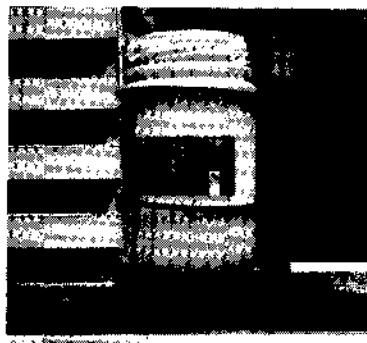
各調査地点の年平均値は、4～7 t/km²/月であり、地域間にはほとんど差異はみられなかった。

b 窒素酸化物(トリエタノールアミン法)

各調査地点の年平均値は、0.022～0.130NO₂mg/100cm²/日でありこれを地域的にみると、富山及び高岡地区の市街地や臨海工業地帯でやや高い傾向がみられた。



窒素酸化物測定シェルター



降下ばいじん測定ダストジャー

図2-11 環境大気基礎調査地点

(○印は調査地点)
(メッシュは4km×4km)

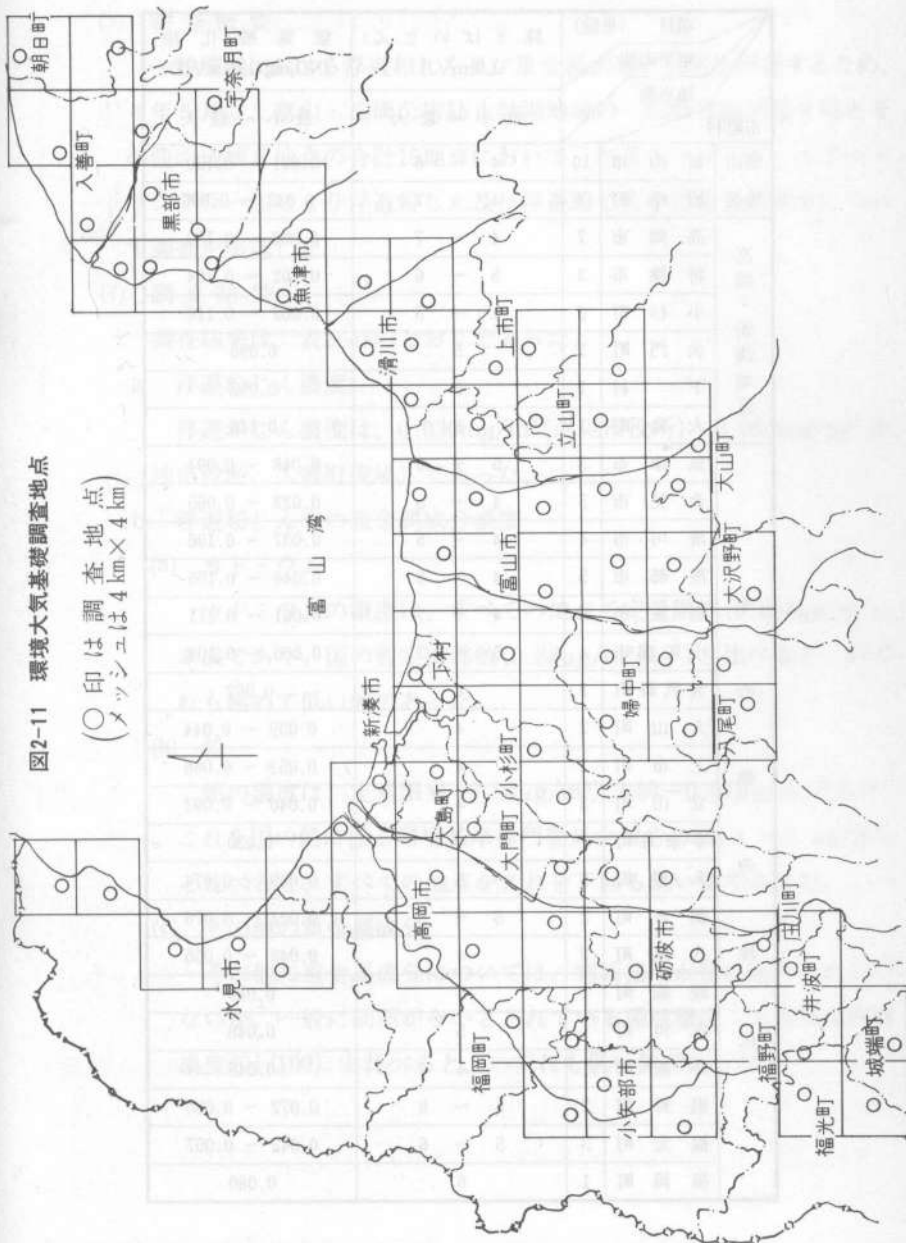


表2-40 環境大気基礎調査（市町村別）測定結果（4年度）

項目（単位） 年平均値 地点数			降下ばいじん (t/km ² /月)	窒素酸化物 (NO ₂ mg/100cm ² /日)
市町村			最小～最大	最小～最大
富山地区	富山市	10	4～6	0.061～0.130
	婦中町	3	4～7	0.043～0.085
高岡・新湊地区	高岡市	7	4～7	0.062～0.130
	新湊市	3	5～6	0.102～0.104
	小杉町	2	4～5	0.062～0.116
	大門町	1	5	0.096
	下村	1	5	0.093
	大島町	1	5	0.116
その他の地区	魚津市	3	5～6	0.048～0.094
	氷見市	5	4～5	0.022～0.065
	滑川市	4	4～5	0.037～0.106
	黒部市	5	4～6	0.046～0.106
	砺波市	5	4～7	0.061～0.111
	小矢部市	4	5～7	0.066～0.104
	大沢野町	1	4	0.062
	大山町	2	4	0.039～0.044
	上市町	2	4	0.051～0.066
	立山町	3	4	0.040～0.093
	宇奈月町	1	4	0.030
	入善町	3	5	0.039～0.074
	朝日町	2	5～6	0.022～0.076
	八尾町	3	4	0.042～0.055
	城端町	1	5	0.040
	庄川町	1	5	0.048
	井波町	1	4	0.048
	福野町	2	5～6	0.072～0.080
	福光町	3	5～6	0.042～0.057
	福岡町	1	6	0.080

イ 一般環境浮遊粉じん調査

(ア) 調査概要

一般環境における浮遊粉じん及び重金属成分の実態を把握するため、4年5月に、富山・高岡公害防止計画地域の一般環境観測局9局とその他の地域6地点の合計15地点において、ハイボリューム・エアー・サンプラー法により浮遊粉じん及び浮遊粉じん中の重金属成分について調査を実施した。

(イ) 調査結果

調査結果は、表2-41のとおりであった。

a 浮遊粉じん濃度

浮遊粉じん濃度は、 $0.030\text{mg}/\text{m}^3$ (氷見市役所) $\sim 0.064\text{mg}/\text{m}^3$ (魚津市役所、入善町役場) であった。

b 浮遊粉じん中の重金属成分濃度

(a) カドミウム

カドミウムの濃度は、すべての地点で定量限界 ($0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満であり、国の暫定指導値 ($0.88\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下) と比べると、いずれも極めて低い値であった。

(b) 鉛

鉛の濃度は、定量限界 ($0.04\mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満 $\sim 0.07\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、これを国の鉛に係る環境基準専門委員会報告の値 ($1 \sim 3\mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べると、すべての地点がこれを下回る低い値であった。

(c) その他の重金属成分

その他の重金属成分については、判断基準が特に定められていないが、一般に問題がないとされている環境濃度 (労働衛生許容濃度の1/100) と比べると、いずれも低い値であった。

表2-41 一般環境浮遊粉じん調査結果（4年度）

測定地点	浮遊粉じん濃度 (mg/m^3)	浮遊粉じん中の重金属成分濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)									
		クロム	マンガン	鉄	ニッケル	銅	亜鉛	カドミウム	鉛	コバルト	バナジウム
富山地	富山岩瀬観測局	0.040	ND	ND	ND	0.02	0.08	ND	ND	ND	ND
	富山芝園観測局	0.046	ND	ND	ND	0.06	0.08	ND	ND	ND	ND
	富山鯉川観測局	0.044	ND	ND	0.3	ND	0.18	0.09	ND	ND	ND
	婦中達星観測局	0.058	ND	0.03	1.0	ND	0.07	0.16	ND	0.07	ND
高岡・新湊地区	高岡伏木観測局	0.038	ND	0.20	0.3	ND	0.09	0.18	ND	ND	ND
	高岡本丸観測局	0.048	ND	0.92	0.7	ND	0.08	0.25	ND	0.05	ND
	高岡戸出観測局	0.040	ND	0.07	0.5	ND	0.07	0.29	ND	0.04	ND
	新津三日市観測局	0.047	ND	0.18	0.4	ND	0.11	0.15	ND	ND	ND
その他の地区	小杉太閤山観測局	0.038	ND	0.03	0.3	ND	0.14	0.10	ND	0.04	ND
	魚津市役所	0.064	ND	0.03	0.6	ND	0.06	0.12	ND	0.05	ND
	氷見市役所	0.030	ND	0.09	ND	ND	0.04	0.06	ND	ND	ND
	小矢部市役所	0.043	ND	0.17	0.4	ND	0.09	0.22	ND	0.05	ND
立山町役場 入善町役場 福野町役場	立山町役場	0.038	ND	ND	0.3	ND	0.04	0.11	ND	ND	ND
	入善町役場	0.064	ND	0.05	0.9	ND	0.06	0.26	ND	0.05	ND
	福野町役場	0.036	ND	0.05	0.4	ND	0.18	0.21	ND	ND	ND
	定量限界		0.04	0.02	0.3	0.03	0.01	0.04	0.004	0.04	0.05

注 ND（検出されず）とは、定量限界未満をいう。

ウ 工場周辺浮遊粉じん調査

(ア) 調査概要

主な電気炉設置工場の周辺における大気汚染の実態を把握するため電気炉設置工場周辺の2地区において各々、5地点を選定して、3日間にわたりハイボリューム・エア・サンプラー法により浮遊粉じん及び浮遊粉じん中の重金属成分について調査を実施した。

(イ) 調査結果

調査地区、調査期間及び調査結果は、表2-42のとおりであった。

a 浮遊粉じん濃度

工場周辺の地区平均値は、富山市岩瀬地区が $0.046\text{mg}/\text{m}^3$ 、黒部市三日市地区が $0.063\text{mg}/\text{m}^3$ であった。

b 浮遊粉じん中の重金属成分濃度

(a) カドミウム

工場周辺の地区平均値は、黒部市三日市地区が $0.009\mu\text{g}/\text{m}^3$ であ

り、これを国の暫定指導値($0.88\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下)と比べると、いずれも極めて低い値であった。

(b) 鉛

工場周辺の地区平均値は、富山市岩瀬地区が $0.06\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、黒部市三日市地区が $0.07\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、これを国の鉛に係る環境基準専門委員会報告の値($1\sim 3\mu\text{g}/\text{m}^3$)と比べるといずれも低い値であった。

(c) その他の重金属成分

その他の重金属成分については、判断基準が特に定められていないが、一般に問題がないとされている環境濃度(労働衛生許容濃度の $1/100$)と比べると、いずれの地区も低い値であった。

表2-42 工場周辺の浮遊粉じん調査結果(4年度)

調査地区	調査地点数	調査期間	区分	浮遊粉じん濃度 (mg/m³)	浮遊粉じん中の重金属成分濃度 (μg/m³)									
					クロム	マンガ ン	鉄	ニケ ル	銅	亜鉛	カドミ ウム	鉛	コバル ト	バリウ ム
富山市 岩瀬地区	5	5月13日	最大	0.053	ND	0.04	0.8	ND	0.06	0.17	ND	0.11	ND	ND
		5月15日	平均	0.046	ND	0.03	0.7	ND	0.06	0.14	ND	0.06	ND	ND
黒部市 三日市地区	5	5月18日	最大	0.088	ND	0.05	1.4	ND	0.12	0.44	0.016	0.13	ND	ND
		5月20日	平均	0.063	ND	0.03	0.8	ND	0.07	0.31	0.009	0.07	ND	ND
定 量 限 界					0.04	0.02	0.3	0.03	0.01	0.04	0.004	0.04	0.01	0.05

注 ND(検出されず)とは、定量限界未満をいう。

エ 水銀等環境調査

(ア) 調査概要

石炭利用の拡大等、燃料の多様化に伴う環境の実態を把握するため、大気中の水銀等及び土壌、玄米中の水銀について調査を実施した。

調査地域等は、表2-43のとおりである。

(イ) 調査結果

a 大気中の水銀等濃度

大気中の水銀濃度等は、表2-44のとおりであった。水銀濃度は定量限界 ($0.001\mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満 $\sim 0.002\mu\text{g}/\text{m}^3$ で平均 $0.001\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、ひ素濃度は定量限界 ($0.001\mu\text{g}/\text{m}^3$) 未満 $\sim 0.002\mu\text{g}/\text{m}^3$ で平均 $0.001\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、ベンゾ(a)ピレン濃度は $0.07\sim 0.76\text{ng}/\text{m}^3$ で平均 $0.32\text{ng}/\text{m}^3$ であり、3年度とはほぼ同様又は低い値であった。

このうち水銀濃度の調査結果は、世界保健機構(WHO)の一般環境濃度におけるガイドライン値 $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ と比べると、極めて低い値であった。

また、これらの物質を測定するため、採取した浮遊粉じん量は、 $0.038\sim 0.065\text{mg}/\text{m}^3$ 、平均 $0.050\text{mg}/\text{m}^3$ であった。

表2-43 水銀等環境調査の概要(4年度)

対象物質	調査地域	調査地点数			調査回数	分析方法
大気中の 水銀、ひ素 ベンゾ(a)ピレン	富山市	1 (一般環境観測局)			1回/年 (10月)	水銀：金アマルガム採取 原子吸光光度法 ひ素：ハイボリウム・エアー・サンブラー採取一原子吸光光度法 ベンゾ(a)ピレン：ハイボリウム・エアー・サンブラー採取一蛍光光度法
	高岡市	1 (")				
	新湊市	3 (")				
	小杉町	1 (")				
	計	6				
土壌(農用地、 非農用地) 玄米中水銀	新湊市	農用地	非農用地	玄米	1回/年 (9月)	水銀(土壌)：底質調査法 (原子吸光光度法) 水銀(玄米)：金アマルガム 吸着一原子吸光光度法
		4	5	4		

表2-44 大気中の水銀等調査結果（4年度）

調査項目 調査回数等	水 銀 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	ひ 素 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	ベンゾ(a)ピレン (ng/m^3)	浮遊粉じん (mg/m^3)
測 定 値	ND～0.002	ND～0.002	0.07～0.76	0.038～0.065
平 均 値	0.001	0.001	0.32	0.050
定 量 限 界	0.001	0.001	0.05	—

注 ND（検出されず）とは、定量限界未満をいう。

b 土壌及び玄米中の水銀濃度

土壌及び玄米中の水銀濃度は、表2-45のとおりであった。農用地の土壌は、 $0.26\sim 0.94\mu\text{g}/\text{g}$ 、非農用地の土壌は、 $0.03\sim 0.41\mu\text{g}/\text{g}$ 、玄米は $0.002\sim 0.004\mu\text{g}/\text{g}$ であり、3年度とほぼ同様の値であった。

表2-45 土壌及び玄米中の水銀調査結果（4年度）

（単位： $\mu\text{g}/\text{g}$ ）

項目 \ 区分	土 壌（農用地）	土壌（非農用地）	玄 米
測 定 値	0.26～0.94	0.03～0.41	0.002～0.004
定 量 限 界	0.01	0.01	0.001

オ 未規制物質排出実態調査

(ア) 調査概要

工場・事業場から排出されるトリクロロエチレン等の有機塩素系化合物による環境汚染の実態を把握するため、電気機械器具製造業の3工場及び非鉄金属製造業の1工場の発生源及び敷地境界において、トリクロロエチレン等3物質の濃度を調査した。

(イ) 調査結果

調査結果は、表2-46のとおりトリクロロエチレンについては、発生源では $10\sim 960\text{mg}/\text{m}^3$ 、敷地境界では定量限界($0.003\text{mg}/\text{m}^3$)未満～ $2.4\text{mg}/\text{m}^3$ 、テトラクロロエチレンについては、発生源では $0.6\text{mg}/\text{m}^3$ 、敷地境界では定量限界($0.002\text{mg}/\text{m}^3$)未満～ $0.23\text{mg}/\text{m}^3$ 、1-1-1トリク

ロロエタンについては、発生源では1.2～170mg/m³、敷地境界では0.002～0.2mg/m³であった。

表2-46 未規制物質排出実態調査結果

調 査 項 目	発 生 源 濃 度 (mg/m ³)	敷 地 境 界 濃 度 (mg/m ³)	定 量 限 界 (mg/m ³)
トリクロロエチレン	10～960	ND～2.4	0.003
テトラクロロエチレン	0.6	ND～0.23	0.002
1-1-1 トリクロロエタン	1.2～170	0.002～0.2	0.001

カ 自動車排出ガス環境調査

(ア) 調査概要

自動車排出ガスによる大気汚染の実態を把握するため、主要幹線道路沿いにある自動車排出ガス観測局の近傍に大気測定車を配置し、各種自動測定機により、一酸化炭素、窒素酸化物、炭化水素、硫黄酸化物、光化学オキシダント等の連続測定を実施した。

(イ) 調査結果

a 大気測定車及び自動車排出ガス観測局による調査

調査地点、調査期間及び調査結果は、表2-47のとおりであった。

(a) 一酸化炭素

8時間平均値の最高値は、小杉町鷺塚で0.3～0.6ppm、黒部市前沢で0.5～0.8ppmであり、また、1日平均値の最高値は、小杉町鷺塚で0.2～0.4ppm、黒部市前沢で0.3～0.5ppmであった。

これを一酸化炭素に係る環境基準（8時間平均値20ppm、1日平均値10ppm以下）と比べると、両地点ともこれをかなり下回っていた。

(b) 窒素酸化物

二酸化窒素の1日平均値の最高値は、小杉町鷺塚で0.015～0.018ppm、黒部市前沢で0.012～0.021ppmであり、これを二酸化窒素に係る環境基準（1日平均値0.04～0.06ppmまでの範囲内又はそれ以下）と比べると、両地点ともこれを下回っていた。

表2-47 自動車排出ガス環境調査結果（4年度）

（上段：大気測定車 下段：自動車排出ガス観測局）

調査地点	調査期間	項目 単位	窒素酸化物				炭化水素			硫黄 酸化物	浮遊 粉じん	光化学 オキシ ダント	鉛	交差点 自動車 通過台数
			一酸化 炭素	一酸化 窒素	二酸化 窒素	炭素酸 化物	メタン	非メタ ン炭化 水素	全炭化 水素					
小杉町繁	7月15日 ～ 7月19日	最高 値	ppm	ppm	ppm	ppm	ppmC	ppmC	ppmC	ppm	mg/m ³	ppm	μg/m ³	台/日
			0.5 0.9	0.025 0.035	0.028 0.032	0.047 0.062	2.5 2.5	0.6 0.3	2.9 4.8	0.006 —	0.099 0.111	0.040 —	—	
		1日平均 値	0.2(0.3) 0.4(0.6)	0.008 0.013	0.015 0.018	0.021 0.031	2.0 2.0	0.3(0.3) 0.1(0.2)	2.2 3.6	0.003 —	0.055 0.065	0.027 —	0.05 —	
			0.1 0.3	0.004 0.007	0.010 0.011	0.015 0.018	1.8 1.9	0.3 0.1	2.1 3.1	0.003 —	0.029 0.035	0.021 —	0.04 —	
黒部市前沢	7月22日 ～ 7月26日	最高 値	0.9 1.0	0.039 0.053	0.024 0.039	0.062 0.084	2.0 2.1	0.3 0.4	2.2 5.7	0.007 —	0.069 0.083	0.058 —	—	34,908
			0.3(0.5) 0.5(0.8)	0.011 0.027	0.012 0.021	0.023 0.048	1.8 1.9	0.1(0.1) 0.1(0.2)	2.0 3.7	0.005 —	0.044 0.055	0.027 —	0.05 —	
		1日平均 値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
			0.2 0.4	0.008 0.016	0.010 0.016	0.019 0.032	1.8 1.8	0.1 0.2	1.9 3.4	0.004 —	0.033 0.042	0.018 —	0.04 —	
黒部市前沢	7月22日 ～ 7月26日	最高 値	0.9 1.0	0.039 0.053	0.024 0.039	0.062 0.084	2.0 2.1	0.3 0.4	2.2 5.7	0.007 —	0.069 0.083	0.058 —	—	38,702
			0.3(0.5) 0.5(0.8)	0.011 0.027	0.012 0.021	0.023 0.048	1.8 1.9	0.1(0.1) 0.1(0.2)	2.0 3.7	0.005 —	0.044 0.055	0.027 —	0.05 —	
		1日平均 値	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
			0.2 0.4	0.008 0.016	0.010 0.016	0.019 0.032	1.8 1.8	0.1 0.2	1.9 3.4	0.004 —	0.033 0.042	0.018 —	0.04 —	

注1 一酸化炭素の欄中の（ ）は、8時間平均値である。
 2 非メタン炭化水素の欄中の（ ）は、午前6時～9時までの3時間平均値である。
 3 窒素酸化物は、一酸化窒素と二酸化窒素を加えたものである。
 4 全炭化水素は、メタンと非メタン炭化水素を加えたものである。

(c) 炭化水素

非メタン炭化水素の午前6時～9時における3時間平均値の最高値は、小杉町鷺塚で0.2～0.3ppmC、黒部市前沢で0.1～0.2ppmCであった。

これを国の炭化水素に係る環境基準専門委員会の指針値(0.20～0.31ppmCの範囲内又はそれ以下)と比べて見ると指針値の範囲内又はそれ以下の値であった。

(d) 硫黄酸化物

1時間値の最高値は、小杉町鷺塚で0.006ppm、黒部市前沢で0.007ppmであり、1日平均値の最高値は、小杉町鷺塚で0.003ppm、黒部市前沢で0.005ppmであった。

これを二酸化硫黄に係る環境基準(1時間値0.1ppm以下、1日平均値0.04ppm以下)と比べると、両地点ともこれをかなり下回っていた。

(e) 浮遊粉じん

1時間値の最高値は、小杉町鷺塚で0.099～0.111mg/m³、黒部市前沢0.069～0.083mg/m³であり、1日平均値の最高値は、小杉町鷺塚で0.055～0.065mg/m³、黒部市前沢で0.044～0.055mg/m³であった。

これを浮遊粉じんに係る環境基準(1時間値0.20mg/m³以下、1日平均値0.10mg/m³以下)と比べると、両地点ともこれを下回っていた。

(f) 光化学オキシダント

1時間値の最高値は、小杉町鷺塚で0.040ppm、黒部市前沢で0.058ppmであり、これを光化学オキシダントに係る環境基準(1時間値0.66ppm以下)と比べると、両地点ともこれを下回っていた。

(g) 鉛

1日平均値の最高値は、小杉町鷺塚で0.05μg/m³、黒部市前沢で

$0.05\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。これを国の鉛に係る環境基準専門委員会報告の値 ($1\sim 3\mu\text{g}/\text{m}^3$) と比べると、両地点ともこれをかなり下回っていた。

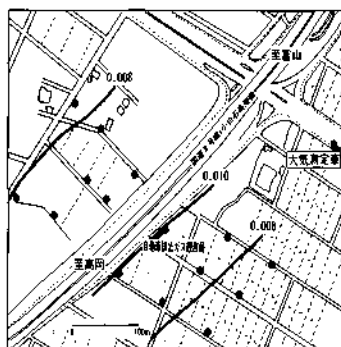
b 分子拡散法による調査

7月14日から20日までの6日間小杉町鷺塚で、7月21日から27日までの6日間黒部市前沢で、それぞれ分子拡散法による窒素酸化物の分布状況を調査した。

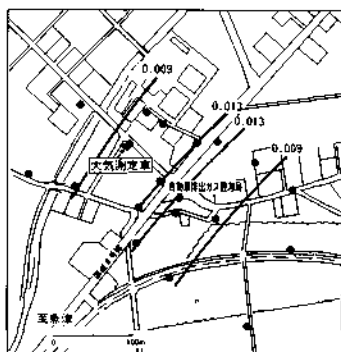
この結果は、図2-11のとおりであった。この結果を見ると、自動車排出ガスによる二酸化窒素濃度は道路沿いに高くなる傾向が見られた。

図2-12 主要幹線道路周辺における二酸化窒素濃度分布

(1)小杉町鷺塚地内 (単位: ppm)



(2)黒部市前沢地内 (単位: ppm)



キ スパイクタイヤ道路粉じん等調査

(ア) 調査概要

スパイクタイヤの使用に伴い発生する道路粉じん等の実態を把握するため、主要幹線道路近傍で調査を実施した。調査地点、調査項目等は表2-48のとおりである。

表2-48 スパイクタイヤ道路粉じん調査の概要

調 査 項 目		地 点 数		調 査 時 期	調 査 方 法
		富山市	高岡市		
浮 遊 粉 じ ん	浮遊粉じん量	2	2	4年10月19日～10月24日 (スパイクタイヤ非装着時期)	スパイクタイヤによる浮遊粉じん中の各成分濃度等測定方法指針 (環境庁)
	浮遊粉じん中の金属成分等	2	2	5年3月8日～3月13日 (スパイクタイヤ装着時期)	
浮遊粒子状物質		1	1	4年4月1日 ～5年3月31日	
降 下 ば い じ ん		2	2	4年4月1日 ～5年3月31日	
		富山市、高岡市を除く33市町村 40地点		4年11月1日 ～5年3月31日	
スパイクタイヤ装着率		県内主要地方道 5地点		5年1月22日 5年2月19日 5年3月12日	

(イ) 調査結果

a 道路粉じん調査

主要幹線道路近傍44地点における11月から3月までの降下ばいじん量（グストジャー法）は、表2-49のとおり、スパイクタイヤ装着時期（1～3月）は定量限界（1 t/km²/月）未満～16t/km²/月であり、非装着時期（11、12月）の定量限界（1 t/km²/月）未満～15t/km²/月と比べると、差はみられなかった。

また、年間をとおして測定している富山市及び高岡市の測定地点における降下ばいじん量の月別変化は、図2-13のとおりであり、スパイクタイヤ装着時期と非装着時期の差はみられなかった。

富山市及び高岡市の主要幹線道路近傍における浮遊粉じん濃度（ハイボリウム・エアー・サンプラー法）は、表2-50のとおり、スパイクタイヤ装着時期において0.055～0.092mg/m³であり、非装着時期

の $0.045\sim0.085\text{mg}/\text{m}^3$ と比べると、差はみられなかった。

なお、富山市及び高岡市の自動車排出ガス観測局における4年11月から5年3月までの浮遊粉子状物質(β 線吸収法)の連続測定結果は、表2-51のとおりであり、スパイクタイヤ装着時期と非装着時期の差はみられなかった。

b スパイクタイヤの装着率調査

主要幹線道路におけるスパイクタイヤ装着率は、表2-52のとおりであり、5年1、2、3月のいずれも0.3%と、スパイクタイヤの使用は、ほとんどみられなかった。

表2-49 降下ばいじん量調査結果(4年度)

(主要幹線道路近傍44地点)

($\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$)

区 分	11月	12月	1月	2月	3月
測定値 (最小～最大)	4～15	ND～12	ND～10	ND～16	1～11

注 NDとは定量限界($1\text{ t}/\text{km}^2/\text{月}$)未満である。

図2-13 主要測定地点における降下ばいじん量の月別変化(4年度)

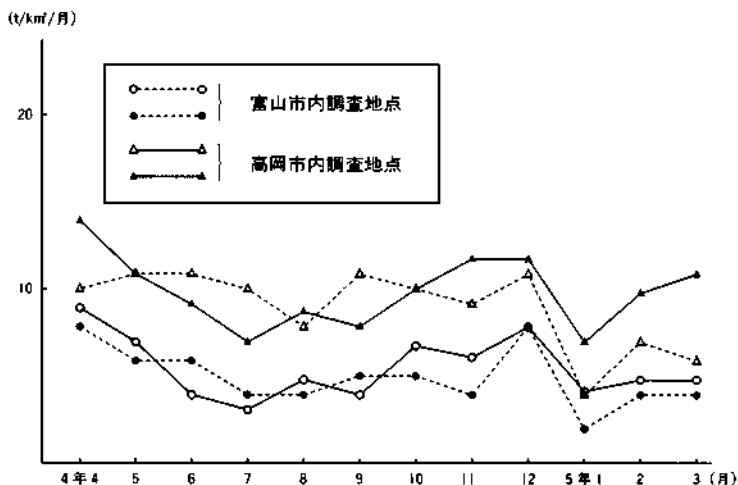


表2-50 浮遊粉じん及び浮遊粉じん中金属成分等の調査結果（4年度）
（富山市、高岡市の主要幹線道路近傍）

項目 測定時期	浮遊粉じん 濃度 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	浮遊粉じん中金属成分等の含有率(%)								
		アルミ ニウム	カルシ ウム	チタン	マンガン	鉄	亜鉛	鉛	ベンゼン 抽出物	ベンゾ(a) ピレン
スパイクタイヤ 装着時期 (5年3月8日 ～13日)	0.055 ～0.092	2.1 ～2.5	2.9 ～4.3	0.21 ～0.29	0.09 ～0.14	0.7 ～3.8	0.24 ～0.33	0.05 ～0.10	19 ～32	0.006 ～0.0010
スパイクタイヤ 非装着時期 (4年10月19日 ～24日)	0.045 ～0.085	1.7 ～2.2	2.4 ～2.5	0.18 ～0.25	0.08 ～1.6	1.5 ～1.8	0.29 ～0.55	<0.2 ～0.11	33 ～54	0.007 ～0.0071

表2-51 浮遊粒子状物質の測定結果（4年度）

（富山市、高岡市の自動車排出ガス観測局）（単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$ ）

観測局	年 月		4年11月	4年12月	5年1月	5年2月	5年3月
	項 目						
富山城址	月 平 均 値		0.022	0.020	0.015	0.020	0.024
	日平均値の範囲		0.009 ～0.074	0.007 ～0.078	0.006 ～0.029	0.006 ～0.045	0.011 ～0.061
高岡広小路	月 平 均 値		0.025	0.026	0.017	0.020	0.036
	日平均値の範囲		0.007 ～0.067	0.008 ～0.056	0.005 ～0.040	0.007 ～0.038	0.017 ～0.079

表2-52 スパイクタイヤ装着率の調査結果（4年度）

項目 調査日	5 地点（主要幹線道路）		備 考
	交 通 量	装 着 率 (%)	
1 月22日	35,792	0.3	降雪の初日 4 年11月26日 積雪の 0 日 5 年 3 月14日
2 月19日	38,401	0.3	
3 月12日	37,162	0.3	

注 交通量は12時間交通量である。（単位：台/12時間）

ク 酸性雨調査

(ア) 調査概要

県内における酸性雨の実態を把握するため、雨水、雪及び湖沼の pH 等について調査を実施した。調査概要は表2-53のとおりである。

表2-53 酸性雨実態調査の概要（4年度）

	調 査 地 点	調 査 期 間	調 査 項 目	調 査 方 法
雨 水 雪 湖 沼	小 杉 町 (県公害センター)	4 年 4 月～ 5 年 3 月 (降雨毎、一週間降雨毎)	・ pH ・ イオン成分降下量等	酸性雨等調査マニュアル (環境庁大気保全局)
	大 山 町 (山野スポーツセンター)	4 年 4 月～ 5 年 3 月 (一週間降雨毎)		
	五箇山地域 (平、利、賀) 立山地域 (美女平、弥陀ヶ原、室堂)	4 年 4 月～ 5 年 3 月		
	立 山 町 (みくりが池) 城 端 町 (縄 が 池)	4 年 8 月、10 月		湖沼環境調査指針 [財日本水質汚濁研究協会]

(イ) 調査結果

a 雨 水

・ pH

調査結果は表2-54のとおりであり、降雨毎(自動採取法)の測定値は、初期降雨(1～3 mm)が3.5～6.6(平均4.3)、全降雨は3.7～5.8(平均4.6)であった。また、一週間降雨毎(逕過式採取法)の測定値は、小杉町が4.2～6.1(平均4.6)であり、大山町は4.1～6.2(平均4.6)であった。

なお、1週間降雨毎の pH について継続して測定している小杉町について経年変化を見てみると図2-14のとおり、ここ数年横ばい傾向にある。

表2-54 雨水の pH 調査結果（4年度）

（降雨毎）…………自動採取法

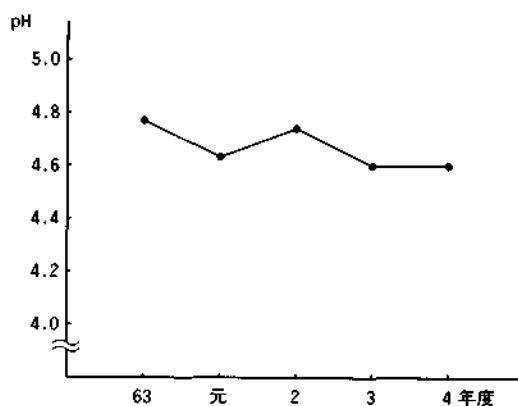
調 査 項 目	雨 水 の pH			
	初 期 降 雨（1～3mm）		全 降 雨	
調 査 結 果	範 囲	平 均	範 囲	平 均
	3.5 ～ 6.6	4.3	3.7 ～ 5.8	4.6

（一週間降雨毎）…………逕過式採取法

調 査 項 目	雨 水 の pH			
	小 杉 町		大 山 町	
調 査 結 果	範 囲	平 均	範 囲	平 均
	4.2 ～ 6.1	4.6	4.1 ～ 6.2	4.6

注 平均値は加重平均である。

図2-14 雨水の pH の経年変化（一週間降雨毎・小杉町）



イオン成分降下量

調査結果は表2-55のとおりであった。このうち主な項目について月別の降下量の推移をみると、図2-15のとおりであり、秋季から冬季にかけて高い傾向がみられた。

表2-55 イオン成分降下量調査結果（4年度）

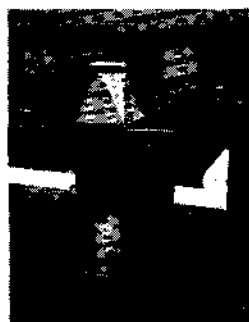
(mg/m²/年)

区	分	SO ₄ ²⁻	nss-SO ₄ ²⁻	NO ₃ ⁻	Cl ⁻	NH ₄ ⁺	Ca ²⁺	Mg ²⁺	K ⁺	Na ⁺
小	杉 町	5,100	4,500	2,200	8,800	930	670	630	370	4,900
大	山 町	4,200	4,000	2,300	3,200	880	440	230	380	1,800

注：nss-SO₄²⁻(nssとはnon sea saltの略)は、海洋に由来しない成分、即ち陸上由来の硫酸イオン濃度を表す。

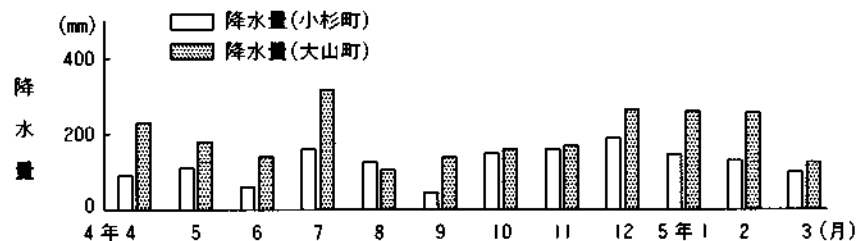
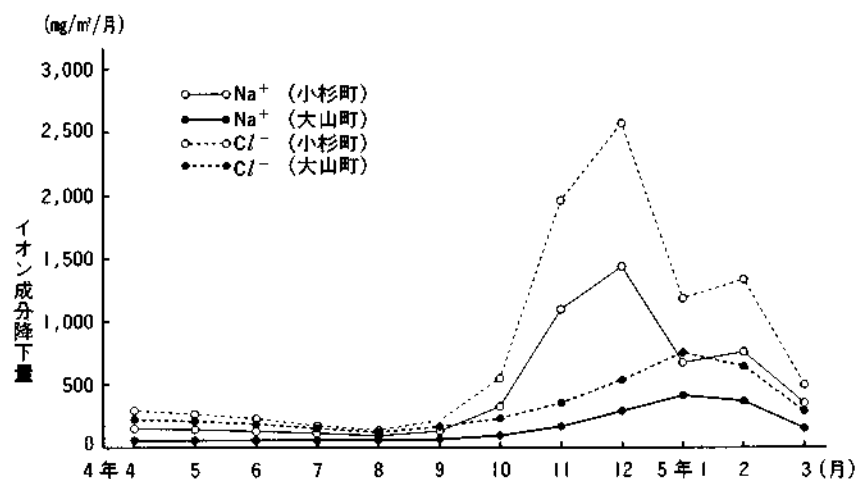
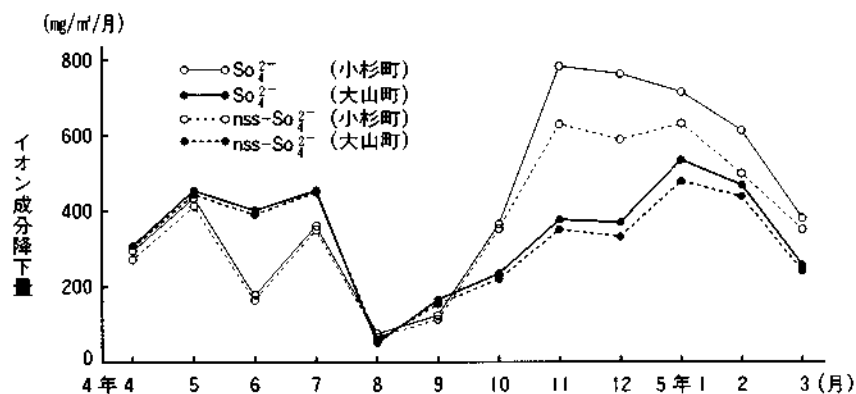


自動採取法装置



手過式採取法装置

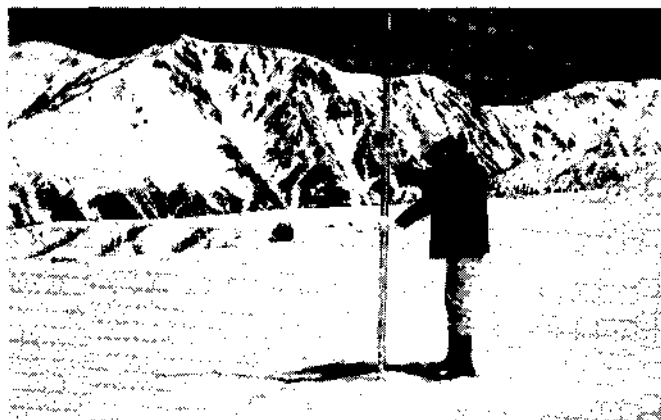
図2-15 主要イオン成分降下量、降水量の月別推移（4年度）



b 雪

・ pH

調査結果は表2-56のとおりであり、五箇山地域では4.7～6.4、立山地域では4.8～5.5であった。



雪 の 採 取

表2-56 雪の pH 調査結果（4年度）

調 査 地 域	五箇山地域	立 山 地 域
調 査 結 果	4.7 ～ 6.4	4.8 ～ 5.5

・ イオン成分濃度

調査結果は表2-57のとおりであり、雪に含まれるイオン成分量の多いものについてみると、 SO_4^{2-} （硫酸イオン）については五箇山地域では0.32～2.8mg/l、立山地域では0.21～1.4mg/l、 Cl^- （塩素イオン）については五箇山地域では0.81～6.4mg/l、立山地域では0.09～2.0mg/l、 Na^+ （ナトリウムイオン）については五箇山地域では0.51～3.8mg/l、立山地域では定量限界(0.01mg/l)未満～1.3mg/lであった。

表2-57 雪のイオン成分濃度調査結果（４年度）

(mg/l)

区 分		SO ₄ ²⁻	NO ₃ ⁻	Cl ⁻	NH ₄ ⁺	Ca ²⁺	Mg ²⁺	K ⁺	Na ⁺
五箇山地域	最大	2.8	0.77	6.4	0.39	0.46	0.45	0.43	3.8
	最小	0.32	0.09	0.81	0.07	0.09	0.04	0.08	0.51
立山地域	最大	1.4	0.67	2.0	0.34	0.35	0.14	0.28	1.3
	最小	0.21	0.14	0.09	0.06	0.01	ND	0.02	ND

注 NDとは定量限界 (0.01mg/l) 未満である。

c 湖沼

調査結果は表2-58のとおりであり、pHについては、みくりが池が5.5～6.0であり、縄が池6.7～7.4であった。また、アルカリ度については、みくりが池が0.02meq/lであり、縄が池0.36～0.42meq/lであった。

表2-58 湖沼調査結果（４年度）

項目 湖沼名		pH	アルカリ度 (meq/l)	イオン成分濃度 (mg/l)								
				SO ₄ ²⁻	NO ₃ ⁻	Cl ⁻	NH ₄ ⁺	Al ³⁺	Ca ²⁺	Mg ²⁺	K ⁺	Na ⁺
みくりが池	最大	6.0	0.02	1.0	0.32	0.26	0.12	ND	0.27	0.05	0.14	0.10
	最小	5.5	0.02	0.94	0.31	0.20	0.03	ND	0.18	ND	0.09	0.06
縄が池	最大	7.4	0.42	1.3	0.56	2.0	0.25	0.38	5.9	1.2	0.33	3.4
	最小	6.7	0.36	1.0	ND	2.9	0.03	0.06	4.2	0.87	0.28	3.3

注 NO₃⁻、Al³⁺のNDとは定量限界 (0.05mg/l) 未満である。
Mg²⁺のNDとは定量限界 (0.01mg/l) 未満である。

ケ 環境放射能調査

(ア) 調査概要

科学技術庁の委託を受けて、環境放射能の実態を把握するため、日常生活に関係のある各種環境試料中の放射能について調査を実施した。調査項目等は、表2-59のとおりである。

(イ) 調査結果

県内における環境放射能の実態は、全国的にみても変わらない値であった。

表2-59 環境放射能調査の概要

調査項目	試料名	調査地点	調査回数 (回/年)	測定方法
空間放射 線量率	空気	小杉町	12	サーベイメータ
	〃	〃	連続	モニタリングポスト
全ベータ線	降水	〃	降雨毎	GM式ベータ線 測定装置
核種 ガンマ線	浮遊じん	〃	4	ゲルマニウム半導体 核種分析装置
	降下物	〃	12	
	水道水	〃	2	
	米	〃	1	
	野菜(ほうれんそう)	富山市	1	
	〃(大根)	小杉町	1	
	牛乳	砺波市	2	
	日常食	小杉町	4	
	土壌	〃	2	

第3節 水質汚濁の現況と対策

1 水質汚濁の現況

(1) 水質汚濁の環境基準の改定

環境庁では、近年の多種多様な化学物質の生産・使用の拡大を勘案し、これら化学物質による公共用水域の汚染が懸念されることから、トリクロロエチレン等15物質を健康項目として追加するなど「水質汚濁に係る環境基準」を5年3月8日付けで表2-60のとおり改定した。

表2-60 水質汚濁に係る環境基準の改定

改定内容	項 目	基 準 値
追 加	ジクロロメタン	0.02 mg/l以下
	四塩化炭素	0.002 mg/l以下
	1,2-ジクロロエタン	0.004 mg/l以下
	1,1-ジクロロエチレン	0.02 mg/l以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 mg/l以下
	1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/l以下
	1,1,2-トリクロロエタン	0.006 mg/l以下
	トリクロロエチレン	0.03 mg/l以下
	テトラクロロエチレン	0.01 mg/l以下
	1,3-ジクロロプロペン	0.002 mg/l以下
	チウラム	0.006 mg/l以下
	シマジン	0.003 mg/l以下
	チオベンカルブ	0.02 mg/l以下
	ベンゼン	0.01 mg/l以下
	セレン	0.01 mg/l以下
基準値強化	鉛	0.01 mg/l以下
	砒素	0.01 mg/l以下
基準削除	有機磷	—

(2) 河川の汚濁状況

公共用水域の水質測定計画に基づいて、4年度に調査した河川の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果は、表2-61のとおりであった。

環境基準の適合状況を BOD でみると、55地点中53地点が適合（適合率96％）しており、不適合地点は、従来から汚濁のみられる市街地の中小河川であった。

河川末端における水質の年度別推移をみると、表2-62のとおり全体として横ばい傾向にあり、中小22河川のうち、市街地の河川では、依然として生活排水の流入や流れの停滞による汚濁がみられた。

なお、カドミウム、水銀等の健康項目については、すべての地点で環境基準に適合していた。

表2-61 河川の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果（4年度）

水 域	調 査 地 点	水 域 類 型	pH	D O (mg/l)	S S (mg/l)	B O D (mg/l)	適 否	
阿 尾 川	阿 尾 橋	A	7.3	9.8	12	1.6	○	
余 川	間 島 橋	A	7.2	9.2	16	1.4	○	
上 庄 川	北 の 橋	B	7.2	8.8	13	2.3	○	
仏 生 寺 川	八 幡 橋	C	7.4	8.2	24	3.1	○	
	湊 川 中 の 橋	C	7.5	7.3	16	3.4	○	
小 矢 部 川	河 口	D	7.1	8.6	8	4.0	○	
	城 光 寺 橋	C	7.1	8.7	8	2.1	○	
	国 条 橋	A	7.3	10	13	1.3	○	
	太 美 橋	AA	7.4	11	6	0.8	○	
千 保 川	地 子 木 橋	D	7.1	9.0	10	3.7	○	
祖 父 川	新 祖 父 川 橋	B	7.2	10	6	1.6	○	
山 田 川	福 野 橋	A	7.6	11	15	1.6	○	
	ニヶ淵えん堤	AA	7.3	11	6	0.8	○	

庄	川	大 門 大 橋	A	7.7	11	2	0.7	○
		雄 神 橋	AA	7.6	11	4	0.6	○
	和 田 川	末 端	A	7.1	11	7	1.3	○
内	川	山 王 橋	C	7.0	6.6	4	3.2	○
		西 橋	C	7.1	6.6	8	5.4	×
下 条	川	稻 積 橋	B	7.2	8.8	9	2.1	○
新 堀	川	白 石 橋	B	7.2	8.3	9	1.9	○
神 通	川	萩 浦 橋	C	7.3	9.4	5	1.6	○
		神 通 大 橋	A	7.6	11	4	1.4	○
	宮 川	新 国 境 橋	A	7.3	10	7	1.0	○
	高 原 川	新 猪 谷 橋	A	7.7	11	1	0.6	○
	いたち川	四 ッ 屋 橋	C	7.2	10	6	2.0	○
	松 川	桜 橋	B	7.2	9.5	6	1.5	○
	井 田 川	高 田 橋	B	7.6	10	7	1.9	○
		落 合 橋	A	7.6	11	6	1.0	○
	熊 野 川	八 幡 橋	A	7.6	11	5	1.4	○
	岩瀬運河	岩 瀬 橋	E	7.5	6.2	8	8.6	○
	富岩運河	昭 電 水 路 橋	E	7.3	7.4	8	1.9	○
常 願 寺	川	今 川 橋	A	7.2	10	9	1.0	○
		常 願 寺 橋	AA	7.3	11	4	0.8	○
白 岩	川	東 西 橋	B	7.0	9.3	6	1.3	○
		泉 正 橋	A	7.4	10	7	2.0	○
	栃 津 川	流 観 橋	C	7.6	11	10	2.6	○
		寺 田 橋	A	7.8	11	8	0.8	○
上 市	川	魚 躬 橋	A	7.1	10	4	0.9	○
中	川	落 合 橋	B	7.1	11	6	2.1	○
早 月	川	早 月 橋	AA	7.4	11	3	<0.5	○
角	川	角 川 橋	A	7.3	11	9	1.7	○
鴨	川	港 橋	B	7.4	11	11	4.0	×
片 貝	川	落 合 橋	AA	7.8	11	4	0.9	○
	布 施 川	落 合 橋	A	7.7	11	10	1.1	○
黒 瀬	川	石 田 橋	A	7.3	11	11	1.7	○
高 橋	川	堀 切 橋	B	7.2	11	5	1.7	○

吉田川	吉田橋	B	7.1	9.9	4	2.3	○
黒部川	下黒部橋	AA	7.3	11	4	0.6	○
入川	末端	A	7.7	11	6	0.9	○
小川	赤川橋	A	7.5	11	6	0.8	○
	上朝日橋	AA	7.3	11	4	0.5	○
	舟川舟川橋	A	7.5	11	10	1.4	○
木流川	末端	B	7.1	11	7	2.8	○
笹川	笹川橋	A	7.4	11	7	0.5	○
境川	境橋	A	7.4	11	7	<0.5	○

注1 測定値は、年平均値である。(ただし、BODの測定値は、75%水質値である。)

2 「75%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$ 番目 (n はデータ数) の値であり、適否は、全データのうち75%以上のデータが環境基準を満足しているものを適 (○印) とした。

3 「水域類型」のAA、A、B、C、D及びEは、「水質汚濁に係る環境基準 (昭和46年環境庁告示第59号)」に示された「河川」の類型をいう。



河川水質調査

表2-62 河川末端における水質(BOD)の年度別推移

(単位: mg/l)

水 域		水 域 類 型		63年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	
		基準値							
主要5河川	小 矢 部 川	D	8	6.5	6.7	7.3	5.2	4.0	
	神 通 川	C	5	1.2	1.2	1.3	1.4	1.6	
	庄 川	A	2	0.5	0.5	0.7	0.5	0.7	
	常 願 寺 川	A	2	1.1	1.1	1.3	1.0	1.0	
	黒 部 川	AA	1	0.7	0.7	0.7	0.8	0.6	
中 小 河 川	都 市 河 川	上 庄 川	B	3	2.3	3.0	2.1	1.9	2.3
		仏生寺川(湊川)	C	5	5.0	4.8	3.2	3.4	3.4
		内 川	C	5	9.9	5.8	5.9	5.9	5.4
		下 条 川	B	3	2.4	2.3	1.9	2.2	2.1
		中 川	B	3	2.6	2.6	2.4	2.0	2.1
	小 河 川	角 川	A	2	1.7	1.5	1.8	1.7	1.7
		鴨 川	B	3	4.2	3.9	3.9	3.4	4.0
		黒 瀬 川	A	2	1.9	1.3	1.5	1.4	1.7
		高 橋 川	B	3	2.8	2.0	1.6	2.3	1.7
		木 流 川	B	3	2.2	2.0	1.5	1.8	2.8
	22 其 他 の 河 川	阿 尾 川	A	2	1.2	1.1	1.1	1.5	1.6
		余 川 川	A	2	1.7	1.7	1.8	2.0	1.4
		新 堀 川	B	3	1.7	2.0	2.0	2.2	1.9
		白 岩 川	B	3	1.2	1.3	1.5	1.4	1.3
		上 市 川	A	2	0.7	0.6	0.9	0.8	0.9
		早 月 川	AA	1	0.5	0.5	0.8	0.5	0.5
		片貝川(布施川)	A	2	1.0	0.9	1.3	0.8	1.1
吉 田 川		B	3	2.9	2.5	1.8	2.3	2.3	
入 川		A	2	0.9	1.3	1.3	0.8	0.9	
小 川		A	2	0.6	0.7	0.9	0.5	0.8	
笹 川		A	2	0.5	0.6	0.7	0.5	0.5	
境 川		A	2	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	

ア 小矢部川水域

本水域については、46年度に県下で初めて環境基準の水域類型が指定されたことに伴い、上乗せ排水基準を設定したが、50年度に環境基準の見直しを行い、本川下流部及び千保川をE類型からD類型に格上げするとともに、上乗せ排水基準を強化した。

主要地点における水質の年度別推移は、表2-63及び図2-16のとおりであり、本川河口部及び千保川（地子木橋）のBODについてみると、46年度以降急激に改善されたが、近年はほぼ横ばいに推移しており、4年度では、河口部4.0mg/l、地子木橋3.7mg/lでいずれも環境基準に適合していた。

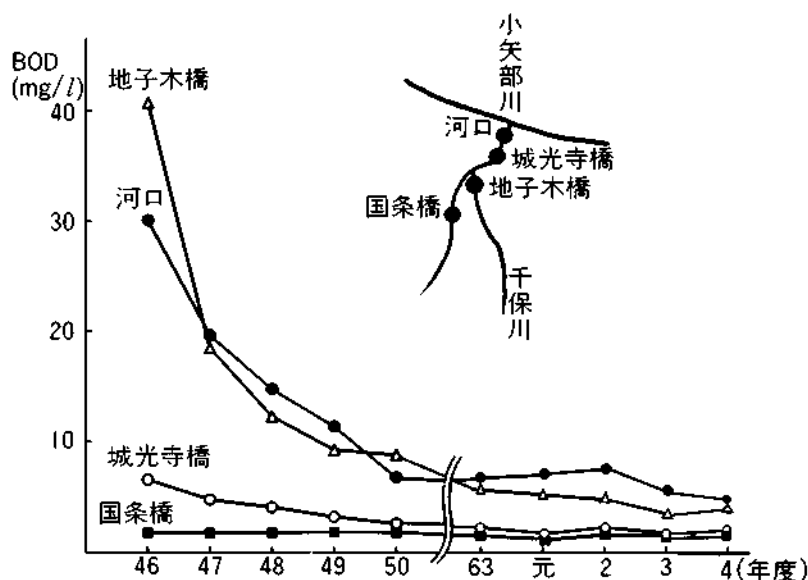
表2-63 小矢部川主要地点における水質の年度別推移

測定地点		河 口					城 光 寺 橋				
測定項目	年度	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
pH		7.2	7.2	7.1	7.0	7.1	7.2	7.2	7.1	7.1	7.1
DO (mg/l)		7.8	7.6	7.8	8.5	8.5	8.7	8.5	8.7	9.0	8.7
BOD (mg/l)		6.5	6.7	7.3	5.2	4.0	2.1	1.6	2.1	1.7	2.1
SS (mg/l)		13	11	13	16	8	12	8	13	19	8

測定地点		国 条 橋					地 子 木 橋				
測定項目	年度	63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
pH		7.1	7.2	7.2	7.1	7.3	7.0	7.1	7.1	7.1	7.1
DO (mg/l)		9.7	9.8	10	10	10	8.2	8.5	8.7	9.2	9.0
BOD (mg/l)		1.4	1.1	1.6	1.6	1.3	5.5	5.0	4.6	3.3	3.7
SS (mg/l)		17	10	15	27	13	14	12	12	11	10

注 測定値は、年平均値である。（ただし、BODの測定値は、75%水質値である。）

図2-16 小矢部川主要地点における水質(BOD)の年度別推移



イ 神通川水域

本水域については、47年度に小矢部川水域に次いで環境基準の水域類型を指定し、併せて上乘せ排水基準を設定した。

さらに、56年度には、松川についても水域類型の指定を行い、浄化用水の導入、下水道の整備等により水質の改善を図ってきた。

主要地点における水質の年度別推移は、表2-64及び図2-17のとおりであり、本川（萩浦橋、神通大橋）及びいたち川（四ツ屋橋）のBODについてみると、4年度では、萩浦橋が1.6mg/l、神通大橋が1.4mg/l、四ツ屋橋が2.0mg/lといずれも環境基準に適合していた。

なお、神岡鉱業㈱との「環境保全等に関する基本協定」に基づきカドミウムについて神通川第一発電所ダムで毎月、1日5回の測定を実施しているが、その結果はすべて不検出であった。

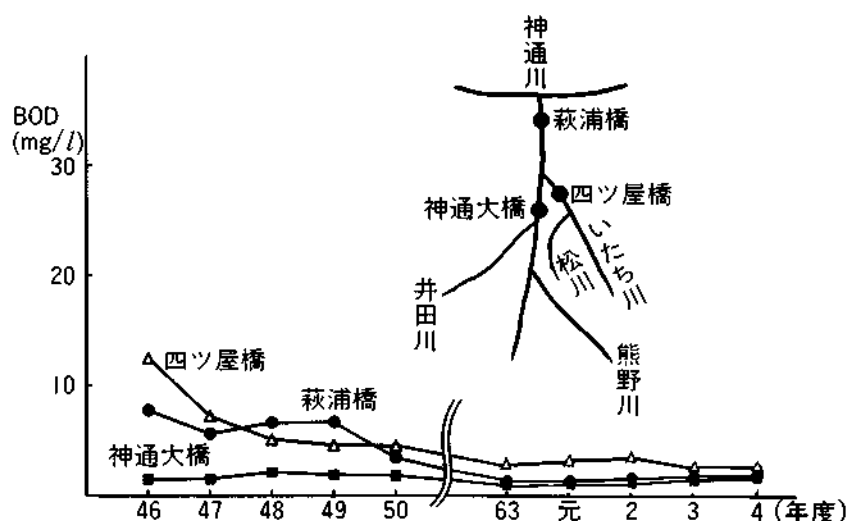
表2-54 神通川主要地点における水質の年度別推移

測定項目	測定地点	萩 浦 橋					神 通 大 橋				
		63	元	2	3	4	63	元	2	3	4
pH		7.4	7.3	7.2	7.3	7.3	7.5	7.4	7.3	7.6	7.6
DO (mg/l)		9.9	9.7	9.5	9.8	9.4	11	11	11	11	11
BOD (mg/l)		1.2	1.2	1.3	1.4	1.6	0.8	1.0	1.0	1.1	1.4
SS (mg/l)		8	7	6	8	5	6	6	9	6	4

測定項目	測定地点	四 ツ 屋 橋				
		63	元	2	3	4
pH		7.2	7.2	7.3	7.4	7.2
DO (mg/l)		9.8	9.9	10	11	10
BOD (mg/l)		2.7	2.9	3.3	2.1	2.0
SS (mg/l)		11	9	12	6	6

注 測定値は、年平均値である。(ただし、BODの測定値は、75%水質値である。)

図2-17 神通川主要地点における水質(BOD)の年度別推移

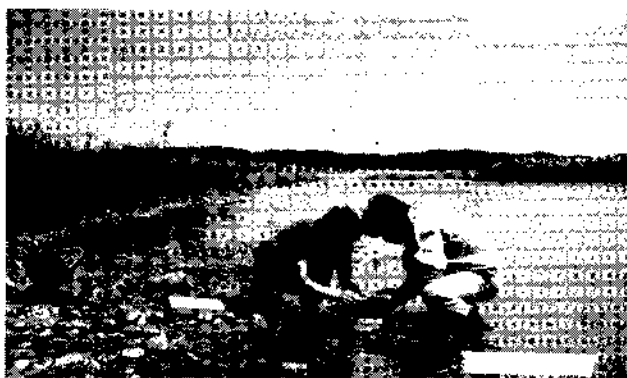


ウ その他の河川

小矢部川、神通川以外の25河川についても、50年度までにすべて環境基準の水域類型を指定し、併せて上乗せ排水基準を設定した。

これらの河川の汚濁状況を BOD についてみると、主要河川の黒部川、常願寺川及び庄川については、いずれも環境基準の AA 類型 (1 mg/l) に相当する良好な水質であった。

また、他の中小22河川については、20河川が環境基準に適合していたが、内川及び鴨川の2河川では適合していなかった。これらは、市街地を流れる河川であり、改善がみられるものの、依然として生活排水等による汚濁がみられた。



水生生物調査

(3) 湖沼の汚濁状況

公共用水域の水質測定計画に基づいて、4年度に調査した湖沼の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果は、表2-65のとおりであった。

環境基準の適合状況を COD 及び全りんで見ると、いずれの項目も環境基準に適合していた。

また、水質の年度別推移をみると、表2-66のとおり、両湖沼とも大きな変化はみられなかった。

なお、カドミウム、水銀等の健康項目については、両湖沼とも環境基準に適合していた。

表2-65 湖沼の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果（4年度）

水 域	調 査 地 点	水 域 類 型	pH	DO (mg/l)	SS (mg/l)	COD (mg/l)		全りん (mg/l)	
						適否	適否	適否	適否
有 峰 湖	えん堤付近	A, II	6.8	9.6	1	2.5	○	0.004	○
黒 部 湖	えん堤付近	A, II	6.2	9.5	2	1.7	○	0.005	○

- 注 1 測定値は、年平均値である。（ただし、CODの測定値は、75%水質値である。）
 2 「75%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$ 番目（ n はデータ数）の値であり、適否は、全データのうち75%以上のデータが環境基準を満足しているものを適（○印）とした。
 3 「水域類型」のA及びIIは、「水質汚濁に係る環境基準（昭和46年環境庁告示第59号）」に示された「湖沼」の類型をいう。
 4 全窒素については、当分の間環境基準が適用されない。

表2-66 湖沼における（COD、全りん）の年度別推移

(単位: mg/l)

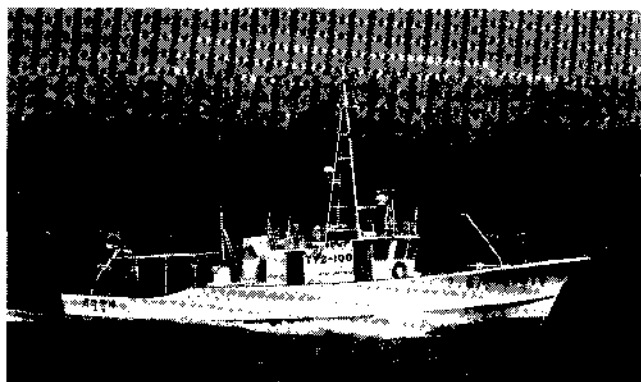
水 域	項 目	水 域 類 型		元 年 度	2 年 度	3 年 度	4 年 度
			基準値				
有 峰 湖	COD	A	3	2.0	2.2	2.3	2.5
	全りん	II	0.01	0.008	0.007	0.010	0.004
黒 部 湖	COD	A	3	—	—	1.9	1.7
	全りん	II	0.01	—	—	0.010	0.005

(4) 海域の汚濁状況

公共用水域の水質測定計画に基づいて、4年度に調査した海域の主要測定地点（環境基準点）における水質測定結果は、表2-67のとおりであった。

環境基準の適合状況を COD でみると、すべての地点で適合していた。また、水質の年度別推移をみると、表2-68のとおり、ほぼ横ばいに推移していた。

なお、カドミウム、水銀等の健康項目については、河川・湖沼と同様すべての地点で環境基準に適合していた。



調査船「はやつき」

表2-67 海域の主要測定地点(環境基準点)における水質測定結果(4年度)

水 域	調査地点	水域類型	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	適 否	
						適	否
富 山 湾 海 域	小 矢 部 川 河 口 海 域	No. 1	B	8.3	8.7	1.4	○
		No. 2	B	8.3	8.8	1.6	○
		No. 3	B	8.2	8.7	1.3	○
		No. 4	A	8.3	8.8	1.3	○
		No. 5	A	8.3	9.1	1.7	○
		No. 6	A	8.2	8.7	1.3	○
		No. 7	A	8.3	9.0	1.5	○
	神 通 川 河 口 海 域	No. 1	B	8.3	9.1	1.6	○
		No. 2	B	8.3	8.9	1.6	○
		No. 3	B	8.3	9.2	1.6	○
		No. 4	A	8.4	9.3	1.5	○
		No. 5	A	8.3	9.3	1.4	○
		No. 6	A	8.3	8.8	1.3	○
		No. 7	A	8.3	8.9	1.2	○
	そ の 他 地 先 海 域	No. 1	A	8.3	8.2	1.2	○
		No. 2	A	8.3	8.5	1.2	○
		No. 3	A	8.4	9.2	1.3	○
		No. 4	A	8.3	8.9	1.3	○
		No. 5	A	8.4	9.2	1.5	○
		No. 6	A	8.3	8.3	1.5	○
		No. 7	A	8.3	8.3	1.2	○
		No. 8	A	8.3	8.2	1.2	○
		No. 9	A	8.3	8.3	1.2	○
		No. 10	A	8.3	8.6	1.2	○
富山新港海域	港 口	B	7.8	8.1	2.2	○	
	第一貯木場	姫野橋	C	7.8	7.4	3.4	○
	中野整理場	中 央	C	7.4	5.2	3.8	○

注1 測定値は、年平均値である。(ただし、CODの測定値は、75%水質値である。)

2 「75%水質値」とは、全データをその値の小さいものから順に並べ、 $0.75 \times n$ 番目 (n はデータ数) の値であり、適否は、全データのうち75%以上のデータが環境基準を満足しているものを適(○印)とした。

3 「水域類型」のA、B及びCは、「水質汚濁に係る環境基準(昭和46年環境庁告示第59号)」に示された「海域」の類型をいう。

表2-68 海域における水質(COD)の年度別推移

(単位: mg/l)

水 域		水域類型	基準値	63年度	元年度	2年度	3年度	4年度
富山湾沿岸海域 (下記を除く富山湾全域)		A	2	1.6	1.7	1.5	1.5	1.3
小矢部川	河口から1,200mの 範囲内	B	3	2.1	2.4	1.6	1.6	1.4
河口海域	河口から2,200mの 範囲内(上記を除く)	A	2	1.8	1.7	1.5	1.3	1.4
神通川	河口から1,800mの 範囲内	B	3	1.3	1.6	1.6	1.5	1.6
河口海域	河口から2,400mの 範囲内(上記を除く)	A	2	1.3	1.6	1.5	1.5	1.4
富山新港	第1貯木場及び中野 整理場	C	8	4.0	4.1	3.9	3.9	3.6
海 域	富山新港港内(上記 を除く)	B	3	2.5	2.0	1.9	2.3	2.2

ア 富山湾海域

本水域については、50年度に環境基準の水域類型を指定するとともに、上乗せ排水基準を設定した。

4年度における環境基準点24地点の汚濁状況をCODでみると、1.2~1.7mg/lですべての地点で環境基準のA類型(2 mg/l)に相当する良好な水質であった。

イ 富山新港海域

本水域については、48年度に環境基準の水域類型を指定するとともに、上乗せ排水基準を設定した。

4年度における環境基準点3地点におけるCODは、2.2~3.8mg/lであり、49年度から引き続き環境基準のB類型(3 mg/l)又はC類型(8 mg/l)に適合していた。

(5) 地下水の汚染状況

ア 定期モニタリング調査

(ア) 環境監視調査

地下水の水質測定計画に基づいて、4年度に実施した県下の平野部79地点（4 km メッシュに1地点）における水質測定結果は、表2-69のとおりであった。

健康項目11項目のうち、砒素が小矢部市の末友地内1地点で検出されたが、評価基準以下であった。

表2-69 環境監視調査結果

(単位: mg/l)

調 査 項 目	調査地点数	検出地点数	測定結果	評価基準 超過地点数	評価基準	検出限界
カドミウム	79	0	ND	0	0.01	0.001
シアン	79	0	ND	0	検出されないこと	0.1
有機磷	79	0	ND	0	"	0.1
鉛	79	0	ND	0	0.1	0.02
六価クロム	79	0	ND	0	0.05	0.04
砒素	79	1	ND~0.010	0	0.05	0.005
総水銀	79	0	ND	0	0.0005	0.0005
アルキル水銀	79	0	ND	0	検出されないこと	0.0005
P C B	3	0	ND	0	"	0.0005
トリクロロエチレン	79	0	ND	0	0.03	0.002
テトラクロロエチレン	79	0	ND	0	0.01	0.0005

注 ND（検出されず）とは、検出限界未満をいう。

有機磷及び砒素の評価基準は、4年度時点(改正前)の値である。

(4) 汚染井戸調査

過去の調査で汚染が明らかになった井波町等の13地域で、汚染の推移をみるために調査を実施したが、表2-70のとおり、いずれの地域においても汚染範囲の拡大はみられなかった。

a 砒素

新湊市堀江千石地域等6地域12地点で調査を実施したところ、福野町三清地域を除く5地域5地点から昨年度に引き続き検出されたが、いずれも評価基準以下であった。

b トリクロロエチレン

高岡市醍醐地域では、11地点のうち3地点で検出されたが、いずれも評価基準以下であった。

小矢部市埴生地域では、5地点のうち2地点で検出された。1地点では昨年度に引き続き評価基準を超えていたが、他の1地点では評価基準以下であった。

入善町目川地域では、昨年度に引き続き検出されなかった。

c テトラクロロエチレン

高岡市今泉地域では、2地点ともに検出されなかった。

高岡市醍醐地域では、11地点のうち2地点で検出されたが、いずれも評価基準以下であった。

黒部市三日市地域及び砺波市杉木地域では、それぞれ2地点のうち1地点で昨年度に引き続き検出されたが、いずれも評価基準以下であった。

小矢部市埴生地域では、5地点のうち3地点で検出された。1地点では昨年度に引き続き評価基準を超えていたが、他の2地点では評価基準以下であった。

井波町本町地域では、3地点いずれからも検出された。汚染源に近い2地点では評価基準を超えていたが、他の1地点では評価基準以下であった。

表2-70 汚染井戸調査結果

(単位: mg/l)

調査項目	調査地域	調査地点数	検出地点数	測定結果	評価基準 超過地点数	評価基準	検出限界
砒素	新湊市堀江千石	2	1	ND~0.033	0	0.05	0.005
	小矢部市五郎丸	2	1	ND~0.009	0		
	小杉町三ヶ	2	1	ND~0.008	0		
	小杉町白石	2	1	ND~0.006	0		
	福野町三清	2	0	ND	0		
	福光町館	2	1	ND~0.005	0		
トリクロロ エチレン	高岡市醍醐	11	3	ND~0.008	0	0.03	0.002
	小矢部市埴生	5	2	ND~0.059	1		
	入善町目川	2	0	ND	0		
テトラクロ ロエチレン	高岡市今泉	2	0	ND	0	0.01	0.0005
	高岡市醍醐	11	2	ND~0.0012	0		
	黒部市三口市	2	1	ND~0.0012	0		
	砺波市杉木	2	1	ND~0.0011	0		
	小矢部市埴生	5	3	ND~0.089	1		
	井波町本町	3	3	ND~4.1	2		

注 ND (検出されず) とは、検出限界未満をいう。

イ 汚染井戸周辺地区調査

環境監視調査において、砒素が検出された小矢部市末友地域で、汚染範囲を確認するため、汚染井戸周辺地区調査を実施した。

5 地点で調査したところ、いずれの地点においても砒素は検出されなかった。また、周辺地区では砒素を使用している事業所はなく、全国の事例等からみて、この原因は地質に由来する自然的要因と考えられる。

ウ 地下水汚染追跡調査

4 年 3 月に、八尾町の電子部品工場の地下水がトリクロロエチレンにより汚染されていることが判明したため、直ちに汚染井戸周辺地区調査を実施するとともに、工場に対し汚染土壌の撤去を指導した。

4 年度は表2-71のとおり、地下水汚染の追跡調査を実施したところ、発生源の工場の井戸 1 地点では、評価基準を超えていたが、周辺の 5 地点では検出されず、汚染範囲の拡大はみられなかった。

表2-71 追跡調査結果

(単位: mg/l)

調査項目	調査地点	調査地点数	検出地点数	測定結果	評価基準 超過地点数	評価基準	検出限界
トリクロロ エチレン	発生源	1	1	0.035~0.092	1	0.03	0.002
	周辺地点	5	0	ND	0		

注 ND (検出されず) とは、検出限界未満をいう。

2 水質汚濁防止に関して講じた施策

(1) 法令等に基づく規制の概要

水質汚濁防止法による規制の概要は、次のとおりである。

ア 水質汚濁防止法に基づく規制の概要

(ア) 規制水域

全公共用水域及び地下水域

(イ) 規制対象物質及び項目

a 有害物質

カドミウム及びその化合物、シアン化合物、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等11物質

b 生活環境項目

pH、BOD、SS 等14項目

(ウ) 規制対象工場・事業場

特定施設を設置し、公共用水域に汚水等を排出又は地下に特定地下浸透水を浸透する工場・事業場

(エ) 排水基準等

水質汚濁防止法では、全国一律の排水基準を定めているが、環境基準の達成・維持が困難な水域については、都道府県が、条例により更に厳しい排水基準（上乗せ排水基準）を設定できることになっている。

本県では、現在まで主要公共用水域について、環境基準の指定に併せて、上乗せ排水基準の設定を行っている。

また、有害物質を含む汚水等については、地下への浸透が禁止されている。

(オ) 届出状況

法に基づく届出状況は表2-72のとおりで、県下全体の特定事業場数は、3,700であり、これを地域別にみると富山市が614（構成比17%）、高岡市が426（同12%）と両市で全体の28%を占めている。業種別では、食料品製造業が815（構成比22%）、旅館業が768（同21%）、畜産業が

470 (同13%)、洗たく業が391 (同11%) となっており、この4業種で全体の66%を占めている。

また、法に基づく排水基準が適用される特定事業場(排水量が50m³/日以上又は有害物質を排出するもの)数は、表2-73のとおり742で全体の20%を占めている。

これを水域別にみると、小矢部川水域が207 (構成比28%)、神通川水域が166 (同22%) と、両水域で排水基準の適用特定事業場の50%を占めている。

業種別では、し尿処理業・下水道業が151(構成比20%)、表面処理・電気めっき業が101(同14%)、洗たく業が89(同12%)、旅館業が67(同9%)

表2-72 水質汚濁防止法に基づく特定事業場数

(5年3月31日現在)

業種等 地 域	畜 産 業	食料品製造業	繊維工業	木材・木製品業	加工品製造業	化学工業	窯業・土石業	砂利採取業	鉄鋼業	非鉄金属製造業	表面処理・電気業	旅館業	飲食料品小売業	洗たく業	自動車洗浄施設	試験研究機関	下水道業	その他	計
富山市	36	117	2	3	6	28	25	18	3	1	21	59	9	126	53	14	52	41	614
高岡市	29	51		14	9	12	16	8	4	7	45	70	6	45	60	5	15	30	426
新湊市		37		9		4	5		3	4	13	10	3	12	3		5	5	113
魚津市	17	81	1	2	2	2	2	4			6	28	3	24	3	4	9	6	194
水見市	62	86		2			6		1		4	99	2	15	9	3	6	8	303
滑川市	9	39	2	1		2	5	2			10	8	1	8	4	3	5	4	103
黒部市	48	42		1	1		6	5		1	4	17	4	9	8	2	3	6	157
砺波市	49	39	2		1		12	5			9	9	4	13	11	5	4	8	171
小矢部市	16	44	6		1		10	10	1		4	21	4	18	16	4	5	5	165
上新川郡	6	18					9	1			2	73	3	8	2	3	6	1	132
中新川郡	55	37	1		1	3	13	13			6	62	4	13	2	4	10	8	232
下新川郡	49	63		2	1		9	3	1		5	91	1	27	4	2	8	7	273
婦負郡	28	43		1	3	8	19	3			11	35	2	26	5	4	13	13	214
射水郡	9	22	2	1	1	2	9	2			4	13	3	17	14	5	13	14	131
東砺波郡	39	52	4	6	2	3	14	6			5	143	3	18	11	4	7	8	325
西砺波郡	18	44	2	1		1	1	1		1	6	30	2	12	13	1	8	6	147
合 計	470	815	22	43	28	65	161	81	13	14	155	768	54	391	218	63	169	170	3,700

と、この4業種で排水基準の適用特定事業場の55%を占めている。

表2-73 水域別排水基準適用特定事業場数

(5年3月31日現在)

業種等 地 域	畜 産 業	食 料 品 製 造 業	織 維 工 業	木 製 材 ・ 木 製 品 業	パ ル プ ・ 紙 ・ 紙 業	化 学 工 業	薬 品 ・ 製 造 業	砂 利 採 取 業	鉄 鋼 業	非 鉄 金 属 製 造 業	表 面 処 理 ・ 電 気 業	旅 館 業	飲 食 店 及 小 売 業	洗 た く 業	自 車 両 洗 浄 施 設	試 験 研 究 機 関	下 水 道 業	そ の 他	計
小 矢 部 川	4	14	10	1	7	12	6		3	1	37	8	4	31		18	28	23	207
神 通 川		12		2	6	20	6	2	2	1	15	6	1	21	1	14	45	12	166
白 岩 川	1	9	1	1	1	3	1				3			4		4	10	4	42
庄 川		1	1			1	1	1			2	4		4			12	3	30
内川・下条川 新 堀 新 港	1	7		2		5	1			4	14	3	4	3	1	7	8	9	69
常 願 寺 川		1				1		2			4	13	1	3			10	2	37
黒 部 川							2				1	16	2				4		25
そ の 他	1	15	2	2		6	3		4	1	25	17	1	23		16	34	16	166
合 計	7	59	14	8	14	48	20	5	9	7	101	67	13	89	2	59	151	69	742

イ ゴルフ場における農薬安全使用指導要綱に基づく指導

(ア) 経 緯

近年、ゴルフ場における農薬の使用について、周辺住民の健康や環境に与える影響が懸念されることやゴルフ場開発計画の急増等を踏まえて、ゴルフ場における農薬の適正な使用について総合的に指導することが必要となってきた。

このため、ゴルフ場における農薬の安全かつ適正な使用を確保し、農薬の使用に伴う被害の防止及び環境の保全を図るため、ゴルフ場農薬安全使用指導要綱を制定し、2年4月から施行した。

また、農薬による水質汚濁防止を強化するため、同要綱を改正し、30種類の農薬について表2-74のとおり指導値を定め、4年3月から施行した。

なお、この指導値は、環境庁の定めた暫定指導指針値の1/10の濃度に定めている。

(4) 要綱の概要

- ・登録農薬の使用及び表示事項の遵守
- ・農薬使用管理責任者の設置
- ・農薬の使用状況等の記録と報告
- ・農薬使用による被害の防止
- ・水質の監視測定及び報告
- ・排出水の指導値
- ・農薬による事故時の措置及び報告
- ・知事の指導及び立入調査

(7) 水質の監視測定等

「ゴルフ場農薬安全使用指導要綱」の遵守状況について、13カ所のゴルフ場に立ち入り調査を行った結果、すべてのゴルフ場において、調整池に魚類を飼養することによる水質の常時監視が行われていた。また、排水の自主測定についても年2回以上実施されており、測定結果はいずれも環境庁の暫定指導指針値以下であった。なお、県の指導要綱と比較すると、一部のゴルフ場で県の指導値を超えていたため、農薬の適正使用について指導を行った。

表2-74 ゴルフ場排水水中の農薬濃度指導値

農 薬 名	指導値(mg/l)	農 薬 名	指導値(mg/l)
(殺虫剤)		(殺菌剤)	
イソキサチオン	0.008	トルクロホスメチル	0.08
イソフェンホス	0.001	フルトラニル	0.2
クロルピリホス	0.004	ベンシクロン	0.04
ダイアジノン	0.005	メプロニル	0.1
トリクロルホン (DEP)	0.03	(除草剤)	
ピリダフェンチオン	0.002	アシュラム	0.2
フェントロナオン (MEP)	* 0.003	シマジン (CAT)	0.003
(殺菌剤)		テルブカルブ (MBPMC)	0.02
イソプロチオラン	0.04	ナプロバミド	0.03
イプロジオン	0.3	アタミホス	0.004
エトリジアゾール(エクロメゾール)	0.004	プロピザミド	0.008
オキシ銅 (有機銅)	0.04	ベンスリド (SAP)	0.1
キャプタン	0.3	ベンフルラリン (ベスロジン)	0.08
クロタロニル (TPN)	0.04	ベンディメタリン	0.05
クロロネブ	0.05	メコプロップ (MCP P)	0.005
チウラム (チラム)	0.006	メチルダイムロン	0.03

* 5年2月に改正

(2) 水質環境計画（クリーンウォーター計画）の推進

3年度に改定したクリーンウォーター計画を総合的かつ計画的に推進するため、県、市町村、関係団体からなる推進協議会を開催した。

また、生活排水対策の推進を図るため、生活排水による汚濁がみられる小矢部川上流、山田川・池川及び中川水域において生活排水対策推進事業を実施した。

さらに、飲食店等の小規模事業場排水の適正処理を推進するため、小規模事業場排水対策技術マニュアルを策定した。

ア 計画の推進

(ア) 水質環境計画推進協議会の開催

推進協議会を開催し、生活排水対策等の具体的な推進について検討を行った。

a 委員の構成

関係団体……富山県消費者協会等 9 団体

行政機関……建設省北陸地方建設局等 8 機関

b 4 年度推進事業

(a) 「きれいな水」の確保

- ・下水道・農村下水道の整備・促進
- ・合併処理浄化槽の普及促進
- ・生活排水対策推進事業の推進
- ・工場・事業場排水対策の推進
- ・浚渫等の実施、河川流量の確保
- ・地下水の水質保全対策の推進

(b) 「うるおいのある水辺」の確保

- ・河川環境整備事業等の推進
- ・「親子の水とのふれあいバス教室」の開催
- ・県土美化推進運動の展開

(イ) 生活排水対策推進事業の実施

小矢部川上流、山田川・池川及び中川水域において市町村が実施す

る「家庭でできる浄化対策」の実践活動やシンポジウムの開催等生活排水対策推進事業に対して助成を行った。

なお、これらの水域において実施した主な事業及び推進組織は、表2-75及び表2-76のとおりである。

また、生活排水対策の啓発を図るため、「生活排水を考えるポスター」を作成し、市町村等に配布した。

表2-75 主な生活排水対策推進事業

- | |
|-----------------------|
| ① 生活排水対策推進協議会の設置 |
| ② 家庭でできる浄化対策の実践活動の実施 |
| ③ 地域住民の意識アンケート調査の実施 |
| ④ モデル地区における水質調査の実施 |
| ⑤ 「生活排水を考える」シンポジウムの開催 |
| ⑥ 水辺教室の開催、水生生物の調査 |

表2-76 水域別の生活排水対策推進組織

水 域	該 当 市 町	推 進 組 織 名
小矢部川上流	福 光 町	小矢部川上流等生活排水対策推進協議会 (委員…20名)
山田川・池川	城 端 町	山田川・池川等生活排水対策推進協議会 (委員…12名)
中 川	滑 川 市	中川生活排水対策推進協議会 (委員…12名)

(ウ) 小規模事業場排水対策技術マニュアルの策定

飲食店等の小規模事業場の排水については、水質汚濁防止法の規制対象外であり、また、中小河川の水質汚濁の要因ともなっている。

このため、4年度に、小規模事業場排水対策研究会を設置し、ラーメン店、一般食堂等の6業種の飲食店等を対象として、排水に対する認識の高揚を図り、必要な排水処理施設等の整備を推進するため、排水対策、処理施設の維持管理方法等の検討を行い、「小規模事業場排水

対策技術マニュアル」を策定した。

技術マニュアルの内容は、表2-77のとおりであり、今後、適正処理の普及・啓発を図ることになっている。

表2-77 技術マニュアルの内容

①	飲食店等の排水対策の必要性
②	排水処理目標（pH、BOD、COD、SS、油分）
③	排水対策 ・排水対策の基本的考え方（主な排水処理対策） ・調理場対策（調理くず等の回収・処理、廃食用油の回収等） ・排水処理施設の種類・機能等（スクリーン、合併処理浄化槽等） ・業種別処理システム（業種に応じた最適システム）
④	排水処理施設の維持管理方法（点検、清掃方法等）

イ 計画の概要

(7) 計画の基本的考え方

a 性 格

河川、海域、湖沼及び地下水の水質環境を保全するための基本となる方向を示すとともに、県及び市町村の事業、事業者の活動など水環境を利用する際の指針となるものである。

b 目 標

「きれいな水」と「うるおいのある水辺」の確保を目指して、新県民総合計画の環境目標を達成・維持するものとする。

《具体的な目標》

きれいな水	公共用水域	河川の水質（BOD）	環境基準のC類型相当以上の水質
		湖沼の水質（COD）	環境基準のA類型相当以上の水質
		海域の水質（COD）	環境基準のB類型相当以上の水質
	地下水域	健康項目	環境基準 (地下水にあっては評価基準)
うるおいのある水辺	親水性の保たれた水辺空間		

c 計画期間

長期的展望に立つて計画目標の実現を目指す。

d 対象水域

県下全域の公共用水域及び地下水域とする。

(イ) 計画の施策

水質環境を保全するため、表2-78に示す施策を総合的、計画的に推進する。

表2-78 水質環境計画の推進施策

- | | |
|---|------------|
| ① | 生活系排水対策 |
| ② | 産業系排水対策 |
| ③ | 河川浄化対策 |
| ④ | 地下水の水質保全対策 |
| ⑤ | 水辺の保全対策 |
| ⑥ | その他関連対策 |

(ウ) 計画の推進

行政、事業者、県民の役割分担を明らかにし、一体となって計画目標の実現を図る。

また、国、県、市町村、関係団体からなる水質環境計画推進協議会を設置し、計画を効果的に推進する。

(3) 監視測定体制の整備

ア 公共用水域の水質測定計画

(ア) 測定地点

水質汚濁防止法に基づき、公共用水域の水質測定計画を作成し、表2-79のとおり、27河川、2湖沼及び富山湾海域（富山新港を含む。）の123地点について水質の監視を実施した。

表2-79 水域別測定地点数（4年度）

水 域	地点数	調 査 機 関	水 域	地点数	調 査 機 関
阿 尾 川	1	富 山 県	鴨 川	1	富 山 県
余 川 川	1	"	片 貝 川	3	"
上 庄 川	1	"	黒 瀬 川	1	"
仏生寺川	2	"	高 橋 川	1	"
小矢部川	15	富山県、建設省	吉 田 川	1	"
庄 川	5	"	黒 部 川	3	建 設 省
内 川 等	4	富 山 県	入 川	1	富 山 県
下 条 川	2	"	小 川	3	"
新 堀 川	2	"	木 流 川	1	"
神通川等	24	富山県、富山市、建設省	笹 川	1	"
常願寺川	3	建 設 省	境 川	1	"
白 岩 川	7	富山県、富山市	有 峰 湖	2	富 山 県
上 市 川	1	富 山 県	黒 部 湖	2	"
中 川	1	"	富山湾 (富山新港含む)	30	富 山 県
早 月 川	2	"			
角 川	1	"	計	123	

(イ) 測定項目

a 健康項目

カドミウム、シアン、有機磷、鉛、6価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン

b 生活環境項目

pH、BOD（湖沼・海域はCOD）、SS、DO、大腸菌群数、油分、全窒素、全りん

c 特殊項目

フェノール類、銅、亜鉛、溶解性鉄、溶解性マンガン、クロム、
ふっ素

イ 地下水の水質測定計画

(ア) 調査区分

水質汚濁防止法に基づいて、地下水の水質測定計画を策定し、次の
区分で水質調査を実施した。

a 定期モニタリング調査

(a) 環境監視調査

平野部を4 km程度のメッシュに区分し、代表的な井戸で健康
項目について年1回の調査を実施する。

(b) 汚染井戸調査

過去の調査で明らかになった汚染を監視していくため、汚染地
域の代表的な井戸で、汚染項目について年2回以上の調査を実施
する。

b 汚染井戸周辺地区調査

環境監視調査等で発見された汚染については、その範囲を確認す
るため、汚染井戸の周辺において、汚染項目について調査を実施する。

(イ) 測定地点

調査は表2-80のとおり、環境監視調査を県下の平野部79地点、汚染
井戸調査を5市5町39地点で実施するとともに、環境監視調査で数値
が検出された1地域5地点で、汚染井戸周辺地区調査を実施した。

(ウ) 測定項目

a 定期モニタリング調査

(a) 環境監視調査

カドミウム、シアン、有機燐、鉛、6価クロム、砒素、総水銀、
アルキル水銀、PCB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレ
ン

(b) 汚染井戸調査

砒素、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン

b 汚染井戸周辺地区調査

砒素

表2-80 地下水の水質測定地点数（4年度）

a 定期モニタリング調査

(a) 環境監視調査

市町村名	地 点 数	測定機関	市町村名	地 点 数	測定機関
富山市	13	富山市	朝日町	2	富山県
高岡市	7	富山県	八尾町	1	"
新湊市	2	"	婦中町	3	"
魚津市	2	"	小杉町	2	"
氷見市	2	"	大門町	1	"
滑川市	3	"	下村	1	"
黒部市	4	"	大島町	1	"
砺波市	5	"	城端町	1	"
小矢部市	5	"	井波町	1	"
大沢野町	1	"	庄川町	1	"
大山町	1	"	井口村	1	"
舟橋村	1	"	福野町	2	"
上市町	2	"	福光町	2	"
立山町	3	"	福岡町	2	"
宇奈月町	2	"	合 計	79	
入善町	5	"			

(b) 汚染井戸調査

市町村名	地 点 数	測定機関	市町村名	地 点 数	測定機関
高岡市	13	富山県	小杉町	3	富山県
新湊市	3	"	井波町	3	"
黒部市	2	"	福野町	2	"
砺波市	2	"	福光町	2	"
小矢部市	7	"	合 計	39	
入善町	2	"			

b 汚染井戸周辺地区調査

市 町 村	地 点 数	測定機関
小矢部市	5	富山県

ウ 水質常時監視所

河川の水質を常時監視するため、表2-81のとおり、小矢部川の城光寺橋(県)、国条橋(建設省)、神通川の萩浦橋(建設省)及び内川の西橋(建設省)の監視所で、それぞれ水質測定を実施している。

なお、小矢部川の城光寺橋については、4年度にデータ処理装置を更新するなどデータ処理システムの整備を図った。

表2-81 水質常時監視所の概要

測定地点		測定項目	設置年度
小矢部川	城光寺橋	水温、pH、DO、導電率、濁度、COD	46年度 (元年度更新)
	国条橋	水温、pH、DO、導電率、濁度	51年度 (2年度更新)
神通川	萩浦橋	水温、pH、DO、導電率、濁度	48年度 (62年度更新)
内川	西橋	水温、pH、DO、導電率、濁度、TOC	55年度



(データ処理システム)



(水質測定装置)

小矢部川水質常時監視所

(4) 監視指導

水質汚濁防止法及び公害防止条例に基づく規制工場・事業場を対象に、排水基準の適合状況及び汚水処理施設の維持管理状況について、表2-82のとおり立入調査を行い、改善を要する工場・事業場については、排水処理施設等の改善指導を行った。

表2-82 水質関係立入調査状況（4年度）

業種等 区分	非 金 属 鉱 業	食 料 品 製 造 業	織 維 工 業	パ ル プ・紙・紙加工品製造業	化 学 工 業	窯 業・土 石製品製造業	鉄 鋼 業	非 鉄 金 属 製 造 業	金 属 製 品 製 造 業	一 般 機 械 器 具 製 造 業	電 気 機 械 器 具 製 造 業	輸 送 用 機 械 器 具 製 造 業	旅館・その他の宿泊所	し尿処理業・下水道業	ク リ ー ニ ン グ 業	そ の 他	計
立入調査件数	15 (15)	81 (60)	15 (10)	13 (8)	37 (31)	27 (27)	6 (5)	15 (15)	59 (46)	4 (4)	19 (16)	9 (8)	13 (13)	8 (5)	22 (16)	93 (63)	436 (342)
指導件数		5	1						4							2	12

注（ ）内は、工場・事業場数である。



工場排水監視状況

(5) 水質環境の各種調査

ア 窒素・りん環境調査

(ア) 調査概要

河川や海域における全窒素、及び全りんの実態を把握するため、図2-18のとおり、河川57地点、海域13地点の合計70地点で、調査を実施した。

(イ) 調査結果

調査結果は、表2-83のとおりであった。

27河川末端の平均値は、全窒素0.89mg/l、全りん0.076mg/lであった。

これを河川別にみると主要5河川のうち小矢部川では全窒素0.50～1.7mg/l、全りん0.028～0.10mg/l、神通川では全窒素1.6～1.7mg/l、全りん0.035～0.20mg/lで、その他の庄川、常願寺川及び黒部川では全窒素0.29～1.1mg/l、全りん0.006～0.038mg/lであった。また、中小河川を平均的にみると、都市河川では全窒素1.0mg/l、全りん0.11mg/l、その他の河川では、全窒素0.72mg/l、全りん0.054mg/lであった。

一方、富山湾においては、全窒素0.09～0.34mg/l(平均0.17mg/l)、全りん0.011～0.033mg/l(平均0.019mg/l)であった。

現在、河川及び海域における全窒素、全りんの判断基準はないが、その濃度は一般的に人為的汚濁源の多い河川で高く、有機汚濁とはほぼ類似した傾向を示していた。

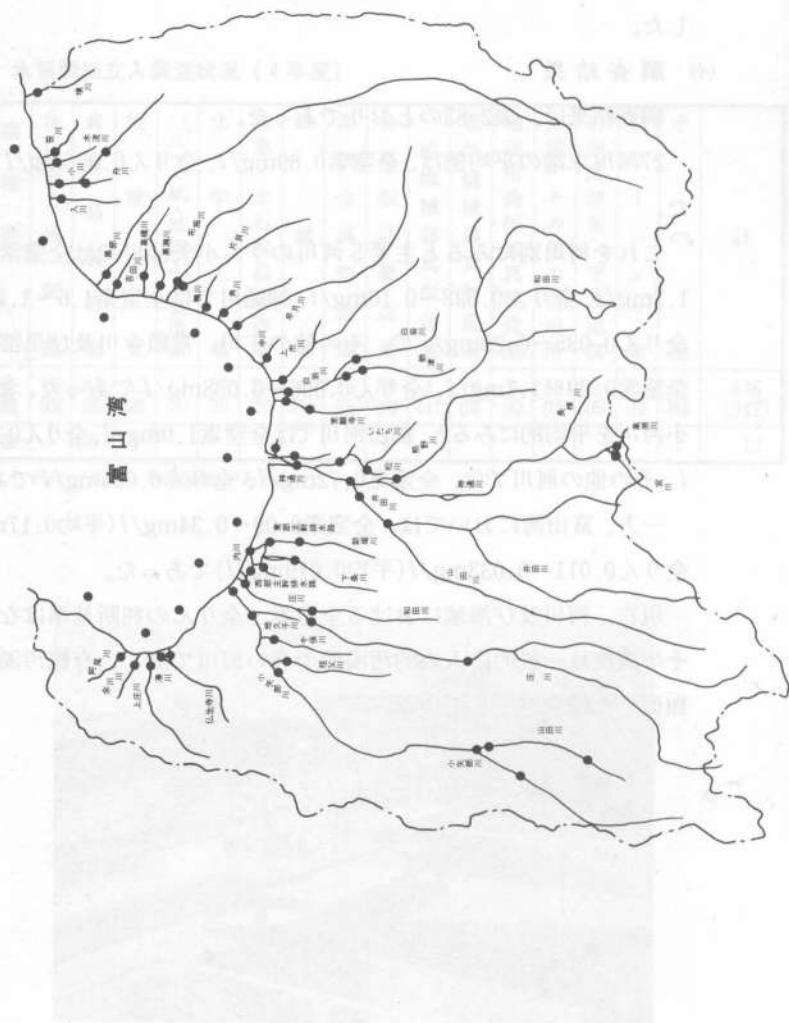


図2-18 窒素・りん環境調査地点

表2-83 全窒素、全りんの測定結果（4年度）

（単位：mg/l）

水域区分		水 域 名	地点数	全 窒 素	全 り ん
河 川	主要5河川	小 矢 部 川	4	0.50~1.7	0.028~0.10
		神 通 川	2	1.6 ~1.7	0.035~0.20
		庄 川	2	0.32~0.49	0.006~0.010
		常 願 寺 川	2	1.0 ~1.1	0.037~0.038
		黒 部 川	1	0.29	0.010
	主要5河川末端平均			1.0	0.071
	中 河 川	上 庄 川	1	0.79	0.080
		仏生寺川(湊川)	2	1.2 ~1.4	0.15 ~0.24
		内 川	2	0.70~5.1	0.069~0.21
		下 条 川	1	1.0	0.11
		中 川	1	0.82	0.064
		角 川	1	0.71	0.059
		鴨 川	1	0.75	0.11
		黒 瀬 川	1	0.76	0.095
		高 橋 川	1	0.60	0.061
		木 流 川	1	0.78	0.14
	都市河川末端平均			1.0	0.11
	小 河 川	阿 尾 川	1	0.70	0.068
		余 川	1	0.60	0.053
		新 堀 川	1	1.5	0.10
		白 岩 川	2	0.70~0.77	0.056~0.20
		上 市 川	1	0.57	0.035
		早 月 川	1	0.44	0.012
		片 貝 川(布施川)	2	0.66~0.78	0.051~0.11
		吉 田 川	1	1.2	0.054
		入 川	1	0.50	0.064
		小 川	2	0.39~0.49	0.014~0.040
		笹 川	1	0.61	0.029
		境 川	1	0.60	0.055
	その他河川末端平均			0.72	0.054
	27河川末端平均			0.89	0.076
	支 川	千 保 川	1	1.1	0.15
		祖 父 川	1	1.3	0.078
		山田川(小矢部川水系)	2	0.45~0.89	0.010~0.11
		い た ち 川	1	0.88	0.063
		松 川	1	1.1	0.061
		井 田 川	2	1.0 ~5.5	0.024~0.21
		熊 野 川	1	0.72	0.026
		宮 川	1	0.67	0.058
		高 原 川	1	0.66	0.045
		和 田 川(庄川水系)	1	0.55	0.029
	栃 津 川	2	0.50~0.59	0.036~0.046	

等	舟	川	1	0.55	0.058
	岩	瀬 運 河	1	4.7	0.048
	富	岩 運 河	1	1.1	0.10
	東	部 主 幹 排 水 路	1	1.4	0.16
	西	部 主 幹 排 水 路	1	1.3	0.21
	支 川 等	末 端 平 均		1.4	0.091
河	川	平 均		1.1	0.082
海 域	富	山 湾	12	0.09~0.34	0.011~0.033
		平 均		0.17	0.019
	富	山 新 港	1	0.28	0.058
海	域	平 均		0.18	0.022

イ 湖沼水質調査

(ア) 調査概要

本県における主要な湖沼の水質の現況を把握し、水質汚濁の未然防止に資するため調査を実施した。

a 調査湖沼

調査は、表2-84の3湖沼で実施した。

表2-84 調査対象湖沼

湖 沼	所 在 地	総貯水量	湛水面積	利 水
上市川第二ダム	上 市 町	780万m ³	39ha	発電
熊野川ダム	大 山 町	910万m ³	34ha	発電、水道
祐延ダム	大 山 町	891万m ³	60ha	発電



湖沼水質調査

b 調査地点及び調査回数

3 湖沼とも湖心及びダム堰堤付近の2地点において、5～6月及び9月に、調査を実施した。

c 調査項目

透明度、pH、COD、SS、DO、全窒素、全りん、クロロフィルa

(i) 調査結果

調査結果は、表2-85のとおりであった。

有機汚濁の指標であるCODについては、平均的にみると、上市川第二ダムは環境基準のA類型(3 mg/l)に相当し、熊野川ダム及び祐延ダムはB類型(5 mg/l)に相当していた。

また、富栄養化の指標である全窒素及び全りんについて環境基準の類型にあてはめてみると、全窒素では、熊野川ダム及び祐延ダムがⅢ類型(0.4mg/l)、上市川ダムがⅣ類型(0.6mg/l)に相当し、全りんでは祐延ダムがⅠ類型(0.005mg/l)、上市川第二ダムがⅡ類型(0.01mg/l)、熊野川ダムがⅢ類型(0.03mg/l)に相当する水質であった。

3 湖沼とも山間地にあつて、自然汚濁が主で人為汚濁は比較的少ない地域にあるが、水質については、それぞれ異なった特徴を有していた。

表2-85 湖沼水質調査結果(4年度)

湖 沼	地点数	区 分	調 定 項 目							
			透明度 (m)	pH	COD (mg/l)	SS (mg/l)	DO (mg/l)	全窒素 (mg/l)	全りん (mg/l)	クロロ フィルa (μg/l)
上 市 川 第 二 ダム	2	第1回	1.8	7.0	1.3	4	9.9	0.33	0.006	2.9
		第2回	1.5	7.8	1.9	5	5.7	0.58	0.008	1.9
		平 均	1.6	7.4	1.6	4	7.8	0.45	0.007	2.4
熊 野 川 ダム	2	第1回	2.5	7.0	3.8	15	10	0.27	0.015	19
		第2回	1.5	8.3	3.0	5	8.1	0.39	0.016	26
		平 均	2.0	7.7	3.4	10	9.0	0.33	0.016	23
祐 延 ダム	2	第1回	2.3	6.6	2.2	1	9.3	0.21	0.005	1.3
		第2回	3.0	7.4	4.6	< 1	6.8	0.31	0.006	1.6
		平 均	2.7	7.0	3.4	1	8.1	0.26	0.005	1.5

ウ 海水浴場水質調査

(ア) 調査概要

海水浴シーズンを迎えるに当たり、事前に海水浴場の水質実態を把握するため調査を実施した。

a 調査時期

5月中旬～6月上旬

b 調査海水浴場

島尾・松田江浜(水見市)、雨晴(高岡市)、八重津浜(富山市)
岩瀬浜(富山市)、石田浜(黒部市)、宮崎浜(朝日町)

c 調査項目

ふん便性大腸菌群数、COD、油膜、透明度

(イ) 調査結果

調査結果は、表2-86のとおりであった。

すべての海水浴場が、水浴に適している良好な水質であり、環境庁の判定基準によれば、雨晴及び宮崎浜の2海水浴場については「適、水質AA」であり、島尾・松田江浜、八重津浜、岩瀬浜及び石田浜の4海水浴場については「適、水質A」であった。

表2-86 海水浴場水質調査結果(4年度)

海水浴場	判定	判定項目			
		ふん便性 大腸菌群数 (個/100ml)	C O D (mg/l)	油 膜	透 明 度 (m)
島尾・松田江浜	適、水質A	9	1.8	なし	全透
雨 晴	適、水質AA	<2	1.6	なし	全透
八 重 津 浜	適、水質A	3	1.6	なし	全透
岩 瀬 浜	適、水質A	8	1.6	なし	全透
石 田 浜	適、水質A	8	2.0	なし	全透
宮 崎 浜	適、水質AA	<2	1.8	なし	全透

エ 未規制化学物質調査

(ア) 調査概要

地下水及び河川水におけるクロロホルム、四塩化炭素等の有機塩素系化学物質による汚染の実態を把握するため、水質調査を実施した。

a 調査物質

クロロホルム、1,1,1-トリクロロエタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、trans-1,2-ジクロロエチレン、cis-1,2-ジクロロエチレンの7物質

b 調査地点

- ・ 地下水 30井 (富山市、高岡市等9市11町)
- ・ 河川水 7地点 (小矢部川、庄川等7河川)

(イ) 調査結果

a 地下水

調査結果は、表2-87のとおりであり、クロロホルム等7物質ともすべての地点で不検出であった。

b 河川水

調査結果は、表2-88のとおりであり、cis-1,2-ジクロロエチレンが1地点で検出されたが、定量限界に近い値であり、また、他の6物質についてはすべての地点で不検出であった。

(ウ) その他

公共用水域における有機スズ化合物の汚染状況を把握するために、小矢部川河口海域、富山湾海域等4地点及び富山港等主要港湾3地点において、トリブチルスズ化合物及びトリフェニルスズ化合物の水質調査を実施した結果、いずれの地点においても不検出であった。

表2-87 地下水の水質測定結果（4年度）

（単位：mg/l）

調査区分	調査地点数	クロロホルム	1,1,1-トリクロロエタン	四塩化炭素	1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	trans-1,2-ジクロロエチレン	cis-1,2-ジクロロエチレン
富山市	5	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
高岡市	4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
新湊市	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
魚津市	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
水見市	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
滑川市	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
黒部市	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
砺波市	2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
小矢部市	2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
上市町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
立山町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
宇奈月町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
入善町	2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
朝日町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
八尾町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
婦中町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
小杉町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
城端町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
福野町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
福岡町	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
水道水の暫定基準			0.3					
WHOのガイドライン		0.03		0.003	0.01	0.0003		
定量限界		0.002	0.0005	0.0002	0.001	0.0001	0.0002	0.0005

注 ND（検出されず）とは、定量限界未満をいう。

表2-88 河川水の水質測定結果（4年度）

（単位：mg/l）

調査区分	調査地点	クロロホルム	1,1,1-トリクロロエタン	四塩化炭素	1,2-ジクロロエタン	1,1-ジクロロエチレン	trans-1,2-ジクロロエチレン	cis-1,2-ジクロロエチレン
小矢部川	城光寺橋	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.0006
庄川	新庄川橋	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
神通川	萩浦橋	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
常願寺川	今川橋	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
早月川	早月橋	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
片貝川	落合橋	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
黒部川	下黒部橋	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
水道水の暫定基準			0.3					
WHOのガイドライン		0.03		0.003	0.01	0.0003		
定量限界		0.002	0.0005	0.0002	0.001	0.0001	0.0002	0.0005

注 ND（検出されず）とは、定量限界未満をいう。

オ 底質調査

(ア) 重金属底質調査

a 調査概要

公共用水域における底質の重金属の現況を把握し、水質汚濁の未然防止に資するため、調査を実施した。

調査地点は、図2-19のとおりで港湾12地点、河川36地点の合計48地点であり、カドミウム、鉛、総水銀等5項目について調査を実施した。

b 調査結果

調査結果は、表2-89のとおりで総水銀については、暫定除去基準〔河川及び富山湾25ppm、富山港（運河を含む。）30ppm）を超える地点はみられなかった。

その他の項目については、判断基準はないが、港湾が全般的に高く、河川では内川で比較的高い傾向がみられた。

(イ) PCB 底質調査

a 調査概要

PCBによる環境汚染の実態を把握するため、小矢部川、神通川等の河川6地点及び古紙再生工場6工場の排水口周辺の底質について調査を実施した。

b 調査結果

調査結果は、表2-90及び表2-91のとおりで、暫定除去基準(10ppm)を超える地点はみられなかった。

表2-89 重金属底質調査結果（4年度）

（単位：ppm）

水域区分	水	城	調査地点数	カドミウム		鉛		砒素		総水銀		クロム	
				平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大	平均	最小～最大
港	伏木港	3	0.3	0.3～0.4	17	17	7.8	7.3～8.2	0.16	0.12～0.22	100	61～170	
	富山新港	4	0.3	ND～0.6	22	11～27	12	8.6～17	0.13	0.02～0.19	230	41～620	
	富山港	3	1.2	0.8～2.0	180	42～400	13	11～14	1.6	0.19～3.9	300	63～690	
	岩瀬運河	1	8.0		270		14		19		820		
	富岩運河	1	2.8		110		12		4.8		1400		
河	阿尾川	1	ND		19		10		0.07		62		
	糸川	1	0.6		19		7.4		0.19		65		
	上庄川	1	0.4		12		6.3		0.11		77		
	仏生寺川	1	0.3		11		5.2		0.10		80		
	小矢部川	2	0.2	ND～0.2	11	10～12	3.9	3.4～4.3	0.18	0.01～0.35	52	45～58	
	千保川	1	0.9		36		5.9		0.25		95		
	禮父川	1	0.2		10		4.3		0.02		21		
	庄川	1	0.1		8		2.8		ND		27		
	内川	2	1.6	0.1～3.1	98	36～160	10	4.9～16	0.20	0.06～0.34	490	62～740	
	下条川	1	0.6		16		6.8		0.15		100		
	新堀川	1	0.8		25		8.7		0.22		120		
	神通川	2	1.2	1.2	54	38～69	9.4	7.7～11	0.07	0.03～0.11	74	71～77	
	宮川	1	ND		7		4.5		0.01		40		
	高原川	1	1.0		180		11		ND		66		
	いたち川	1	1.0		48		6.2		0.30		60		
	松川	1	1.0		120		5.4		0.58		150		
	井田川	1	0.4		16		8.7		0.06		55		
	熊野川	1	0.2		11		3.2		0.02		57		
	常願寺川	1	ND		10		2.0		ND		15		
	白岩川	1	0.2		15		3.5		0.08		43		
	上市川	1	ND		6		1.8		ND		ND		
	早月川	1	0.2		13		2.7		0.01		33		
	角川	1	0.3		15		1.9		0.04		49		
	鴨川	1	0.2		18		3.6		0.04		34		
	片貝川	1	ND		5		1.7		ND		19		
	黒瀬川	1	1.2		13		4.0		0.02		45		
	高橋川	1	0.2		10		3.9		0.01		36		
	黒部川	1	0.1		6		4.5		ND		62		
	入川	1	0.3		13		5.6		0.02		97		
	小川	1	0.2		12		7.5		0.05		46		
	木滝川	1	0.4		25		7.5		0.07		58		
	菅川	1	ND		9		5.8		0.02		26		
	境川	1	0.1		10		6.5		0.02		240		

注1 ND（検出されず）とは、定量限界（カドミウム0.1ppm、総水銀0.01ppm、クロム10ppm）未満をいう。

2 平均値の算出においては、NDの値を定量限界値とした。

表2-90 河川底質(PCB)調査結果(4年度)

(単位: ppm)

水	域	調 査 地 点	調 査 結 果
小	矢 部 川	城 光 寺 橋	ND
	千 保 川	地 子 木 橋	ND
神	通 川	萩 浦 橋	ND
	い た ち 川	四 ツ 屋 橋	ND
白	岩 川	東 西 橋	ND
	枋 津 川	流 観 橋	ND

注 ND(検出されず。)とは、定量限界(0.1ppm)未満をいう。

表2-91 工場周辺底質(PCB)調査結果(4年度)

(単位: ppm)

工 場 数	調 査 結 果
6	ND~0.7

注 ND(検出されず。)とは、定量限界(0.1ppm)未満をいう。

カ ゴルフ場農薬実態調査

(ア) 水質調査

a 調査概要

ゴルフ場排水の農薬による汚染の実態を把握するため、水質調査を実施した。

(a) 調査ゴルフ場

13ゴルフ場(営業中12か所、造成中1か所)

(b) 調査項目

- ・殺虫剤 7項目(イソキサチオン、イソフェンホス、クロルピリホス、ダイアジノン、トリクロルホン、ピリダフェンチオン、フェニトロチオン)
- ・殺菌剤 12項目(イソプロチオラン、イプロジオン、エトリジアゾール、オキシ銅、キャブタン、クロロタロニル、クロロネブ、チウラム、トルクロホスメチル、フルトラニル、ベンシクロン、メブロニル)
- ・除草剤 11項目(アシュラム、シマジン、テルブカルブ、ナブ

ロバミド、ブタミホス、プロピザミド、ペン
スリド、ベンフルラリン、ペンディメタリン、
メコプロップ、メチルダイムロン)

b 調査結果

調査結果は表2-92のとおりで、調査した13ゴルフ場中11ゴルフ場から農薬が検出されたが、いずれも環境庁の定めた暫定指導指針値以下であった。なお、県の指導要綱に基づく指導値と比較すると、一部のゴルフ場で除草剤が指導値を超えていたので、農薬の適正使用について指導を行った。

(a) 殺虫剤

イソキサチオン等7種類の農薬については、すべてのゴルフ場で検出されなかった。

(b) 殺菌剤

イプロジオン等8種類の農薬については、すべてのゴルフ場で検出されなかった。

なお、イソプロチオラン、クロロネブ、トルクロホスメチル、及びフルトラニルの4種類の農薬については、一部のゴルフ場で検出されたが、いずれも県の指導値以下であった。

(c) 除草剤

ナブロパミドについては、すべてのゴルフ場で検出されなかった。また、アシュラム、テルブカルブ、ペンスリド、ベンフルラリン、ペンディメタリン及びメチルダイムロンの6種類の農薬については一部のゴルフ場で検出されたが、いずれも県の指導値以下であった。

なお、シマジン、ブタミホス、プロピザミド及びメコプロップの4種類の農薬については、県の指導値を超えるゴルフ場が一部にみられたので、使用量の低減を含め、使用管理の徹底等の指導を行った。

(イ) 農薬使用状況

ゴルフ場農薬安全使用指導要綱に基づき、13か所のゴルフ場から報告された4年の農薬使用総量は、表2-93のとおり殺虫剤が13種類6,012kg、殺菌剤が29種類10,275kg及び除草剤が28種類7,290kgであった。

表2-92 ゴルフ場排水の農薬調査結果（4年度）

（単位：mg/l）

種類	番号	農薬名	検出ゴルフ場数/ 調査ゴルフ場数	検出数/ 検体数	測定結果	暫定指導 指針値	県指導値
殺虫剤	1	イソキサチオン	0/13	0/44	ND	0.08	0.008
	2	イソフェンホス	0/13	0/44	ND	0.01	0.001
	3	クロルピリホス	0/13	0/44	ND	0.04	0.004
	4	ダイアジノン	0/13	0/44	ND	0.05	0.005
	5	トリクロロホン(DEP)	0/13	0/44	ND	0.3	0.03
	6	ピリダフェンチオン	0/13	0/44	ND	0.02	0.002
	7	フェントロチオン(MEP)	0/13	0/44	ND	0.1	0.01
殺菌剤	8	イソプロチオラン	6/13	11/44	ND-0.031	0.4	0.04
	9	イプロジオン	0/13	0/44	ND	3	0.3
	10	エトリアゾール(エクロメゾール)	0/13	0/44	ND	0.04	0.004
	11	オキシ銅(有機銅)	0/13	0/44	ND	0.4	0.04
	12	キャプタン	0/13	0/44	ND	3	0.3
	13	クロロクロニル(TPN)	0/13	0/44	ND	0.4	0.04
	14	クロロネブ	1/13	2/44	ND-0.013	0.5	0.05
	15	チウラム(チラム)	0/13	0/44	ND	0.06	0.006
	16	トルクロホスメチル	1/13	2/44	ND-0.002	0.8	0.08
	17	フルトラニル	8/13	17/44	ND-0.049	2	0.2
	18	ベンシクロン	0/13	0/44	ND	0.4	0.04
除草剤	19	メブロニル	0/13	0/44	ND	1	0.1
	20	アシュラム	2/13	3/44	ND-0.015	2	0.2
	21	シマジン(CAT)	6/13	9/44	ND-0.021	0.03	0.003
	22	テルブカルブ(MBPMC)	1/13	2/44	ND-0.003	0.2	0.02
	23	ナプロバミド	0/13	0/44	ND	0.3	0.03
	24	ブタミホス	1/13	2/44	ND-0.027	0.04	0.004
	25	プロピザミド	1/13	2/44	ND-0.050	0.08	0.008
	26	ベンスリド(SAP)	3/13	5/44	ND-0.018	1	0.1
	27	ベンフルラリン(ベスロジン)	1/13	1/44	ND-0.001	0.8	0.08
	28	ペンディメタリン	1/13	1/44	ND-0.001	0.5	0.05
	29	メコプロップ(MCPP)	1/13	2/44	ND-0.038	0.05	0.005
	30	メチルダイムロン	1/13	1/44	ND-0.023	0.3	0.03

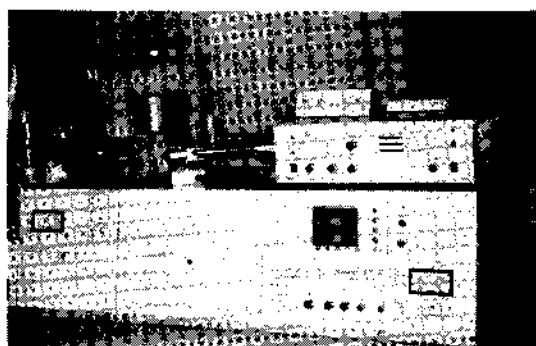
注1 ND（検出されず）とは、定量限界（0.001mg/l）未満をいう。

注2 フェントロチオンの暫定指導指針値及び県指導値は4年度時点(改正前)の値である。

表2-93 農薬使用総量（4年）

殺虫剤	殺菌剤	除草剤	計
5,999 ^{kg} (13)	10,275 ^{kg} (29)	7,290 ^{kg} (28)	23,564 ^{kg} (70)

注（ ）内は、農薬種類数である。



農業分析装置
(ガスクロマトグラフ質量分析計)

第4節 騒音及び振動の現況と対策

1 騒音及び振動の現況

(1) 騒音の状況

ア 環境騒音

騒音に係る環境基準は、公害対策基本法に基づき、表2-94のとおり定められている。

本県では、富山市、高岡市等9市17町のうち都市計画法に基づく用途地域の定められている地域（ただし工業専用地域を除く。）について、A類型（住居系の地域）とB類型（商業系、工業系の地域）とに区分して指定している。

環境騒音の実態を把握するため、23市町が335地点で測定を実施した。そのうち、環境基準が定められている測定地点で朝、昼間、夕及び夜間の4時間帯すべての時間帯について測定が実施されている302地点について環境基準の適合状況をみると、図2-20のとおりであった。

4時間帯すべてが環境基準に適合している測定点は、200点（66%）であり、4時間帯のいずれかが環境基準に適合している測定点は83点（28%）であった。また、適合地点の類型別では、B類型が80%とA類型の56%に比べて高い適合率を示していた。

表2-94 騒音に係る環境基準（46年5月25日閣議決定）

(a) 道路に面する地域以外の地域

(単位：ホン)

地 域 類 型	時 間 の 区 分		
	昼 間	朝 夕	夜 間
AA	45以下	40以下	35以下
A	50以下	45以下	40以下
B	60以下	55以下	50以下

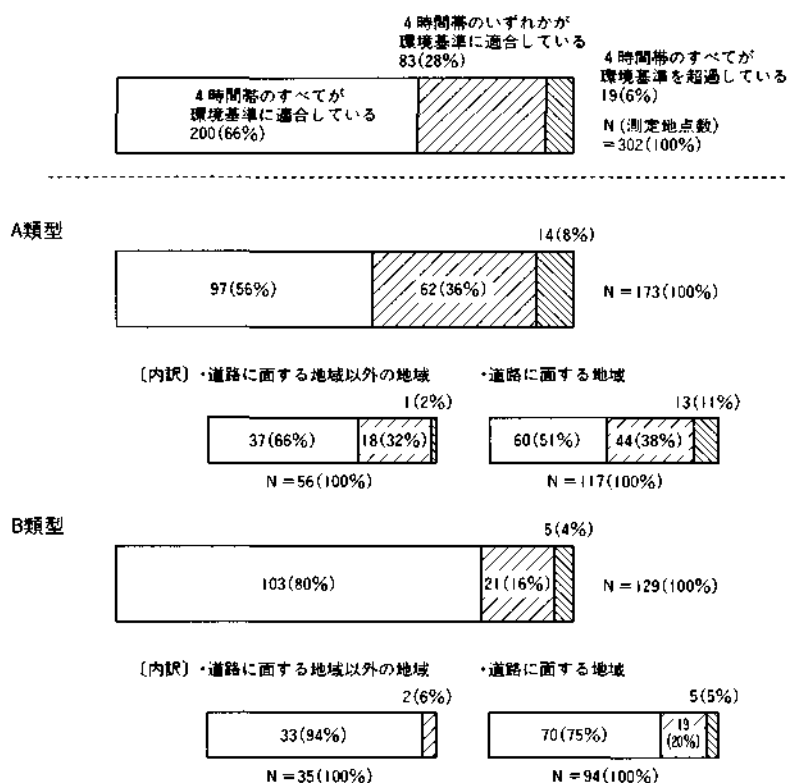
(備考) 1. AAを当てはめる地域は療養施設が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域とすること。
 2. Aを当てはめる地域は主として住居の用に供される地域とすること。
 3. Bを当てはめる地域は相当数の住居と併せて商業・工業等の用に供される地域とすること。

(b) 道路に面する地域

(単位：ホン)

地 域 の 区 分	時 間 の 区 分		
	昼 間	朝 夕	夜 間
A地域のうち2車線を有する道路に面する地域	55以下	50以下	45以下
A地域のうち2車線を超える車線を有する道路に面する地域	60以下	55以下	50以下
B地域のうち2車線以下の車線を有する道路に面する地域	65以下	60以下	55以下
B地域のうち2車線を超える車線を有する道路に面する地域	65以下	65以下	60以下

図2-20 環境騒音の環境基準の適合状況（4年度）



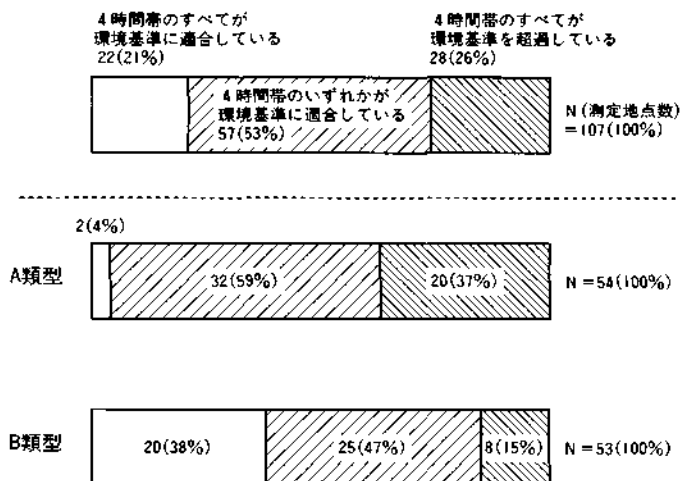
イ 自動車騒音

自動車騒音の実態を把握するため、23市町が144地点で測定を実施した。

そのうち、環境基準が定められている測定地点で、朝、昼間、夕及び夜間の4時間帯のすべての時間帯について測定がなされている107地点について環境基準の適合状況をみると、図2-21のとおりであった。4時間帯すべてが環境基準に適合している測定点は、22点(21%)であり、4時間帯のいずれかが環境基準に適合している測定点は57点(53%)であった。

適合地点の類型別では、環境騒音と同様にB類型が38%とA類型の4%に比べて高い適合率を示していた。

図2-21 自動車騒音の環境基準の適合状況（4年度）



ウ 高速道路騒音

高速道路における自動車騒音の実態を把握するため、従来から測定を実施している北陸自動車道の4地点に新たに東海北陸自動車道1地点を加え計5地点の道路端において調査を実施した。

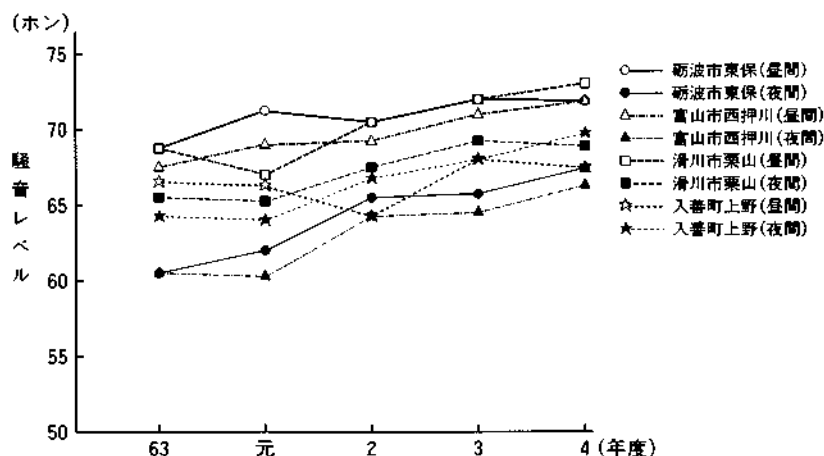
4年度の調査結果は、表2-95のとおりである。また、北陸自動車道の騒音レベルの推移は図2-22のとおりであり、4年度は3年度と比較すると全体的に高くなる傾向を示していた。

表2-95 高速道路騒音の調査結果（4年度）

（単位：ホン）

調査地点		時間区分	朝	昼間	夕	夜間	日平均交通量 (台/日)
			6時～8時	8時～19時	19時～22時	22時～6時	
北陸 自動車道	砺波市東保		67	71	73	67	21,521
	富山市西押川		68	71	72	66	20,652
	滑川市栗山		69	72	73	68	17,843
	入善町上野		66	67	72	69	12,680
東海北陸 自動車道	福野町梅ヶ島		44	47	58	45	885

図2-22 騒音レベルの年度別推移（北陸自動車道）



エ 航空機騒音

航空機騒音に係る環境基準は、公害対策基本法に基づき、表2-96(1)のとおり定められている。

本県では、60年6月富山空港周辺地域（富山市、婦中町の一部地域）について、航空機騒音に係る環境基準の地域指定を行い、その達成状況を把握するため、四季ごとに1回（7日間）4地点で調査を実施している。

4年度の調査結果は表2-96(2)のとおりで、すべての地点において環境基準を達成していた。騒音レベルの推移は図2-23のとおりであり、近年、低騒音型ジェット機の導入が図られてきているが便数の増加に伴い、4年度は3年度と比較すると、婦中町萩島及び富山市萩原の2地点で騒音レベルがやや増加している。

表2-96(1) 航空機騒音に係る環境基準
(48年12月27日環境庁告示)

(単位：WECPNL)

地域の類型	基準値
I	70以下
II	75以下

(備考) I 類型：専ら住居の用に供される地域

II 類型：I 以外の地域であって、通常の生活を保全する必要がある地域

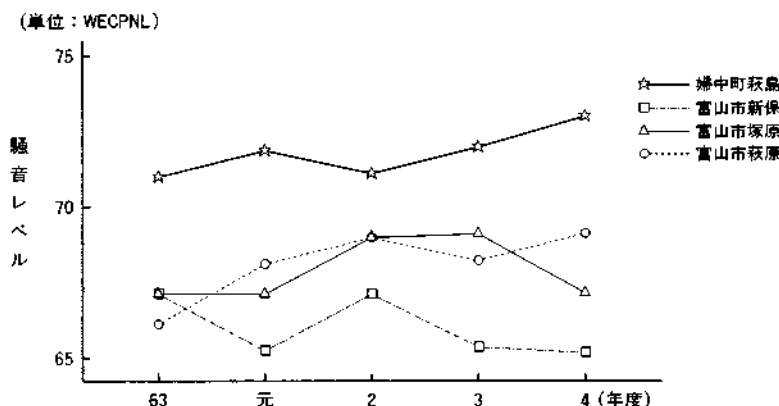
表2-96(2) 航空機騒音の調査結果(4年度)

(単位：WECPNL)

測定地点	年間平均	環境基準
富山市萩原	69	(II 類型) 75以下
〃 塚原	67	
〃 新保	65	
婦中町萩島	73	

注 航空機騒音の評価は、1日ごとのWECPNLの値を算出し、一年間のすべての値をパワー平均して行う。

図2-23 航空機騒音の年度別推移



(2) 振動の状況

道路交通振動

県下の主要道路における道路交通振動の実態を把握するため、12市町が109地点において調査を実施した。

4年度の調査結果を区域別に対比すると、表2-97のとおりであり、平均的な振動レベルは、いずれの区域においても、道路交通振動に係る公安委員会への要請基準と比較して極めて低い値であった。

表2-97 道路交通振動の調査結果 (4年度)

(単位: デシベル)

区 域 区 分		昼 間	夜 間
		8時～19時	19時～8時
第1種区域	第1種住居専用地域、第2種住居専用地域、住居地域	39(65)	35(60)
第2種区域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域	42(70)	36(65)
その他の区域	未指定地域	34	33

注1 () は、公安委員会への要請限度である。

2 振動レベルは30未満を30として計算した平均値である。

2 騒音及び振動防止に関して講じた施策

(1) 騒音の規制

ア 騒音規制法による規制

(ア) 規制地域（9市17町）

富山市、高岡市、新湊市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、大沢野町、大山町、上市町、立山町、入善町、朝日町、八尾町、婦中町、小杉町、大門町、大島町、城端町、庄川町、井波町、福野町、福光町及び福岡町の9市17町のうち、都市計画法に基づく用途地域の定められている地域を規制している。

(イ) 規制対象騒音

工場騒音、特定建設作業騒音及び自動車騒音

(ウ) 規制対象施設・作業

a 工場騒音

金属加工機械（機械プレス、鍛造機等）、織機等30種類の施設

b 特定建設作業騒音

くい打機を使用する作業等8種類の作業

(エ) 規制基準

a 工場騒音

工場騒音の規制基準は、区域及び時間帯ごとに表2-98のとおり定められている。

b 特定建設作業騒音

特定建設作業騒音の規制基準は敷地境界において85ホン以下で、日曜・祭日の作業禁止や一日当たりの作業時間の制限等も併せて実施している。

c 自動車騒音

自動車の走行によって発生する騒音については、定常走行時及び加速走行時について許容限度を定め規制されている。

なお、指定地域内の道路周辺部における自動車走行騒音の許容限

度は、表2-99のとおりで、この値を超える場合には市町村長が公安委員会等に対して、交通規制や道路構造の改良等について要請できることになっている。

表2-98 工場等において発生する騒音の規制基準

(単位：ホン)

区 域 区 分		朝	昼 間	夕	夜 間
		6時～8時	8時～19時	19時～22時	22時～6時
第1種区域	第1種住宅専用地域	40	45	40	40
第2種区域	第2種住宅専用地域 住居地域	45	55	45	40
第3種区域	近隣商業地域、 商業地域、準工業地域	60	65	60	50
第4種区域	工業地域、工業専用地域の 境界から50m以内	65	70	65	63

注1 第1種区域又は第2種区域に接する第4種区域の当該接する境界線から当該第4種区域内へ50メートルの範囲内における基準は、上の表の第4種区域の基準にかかわらず、昼間にあっては65ホン、朝夕にあっては60ホン、夜間にあっては55ホンとする。

注2 第2種区域、第3種区域及び第4種区域内に所在する学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校、児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する保育所、医療法（昭和23年法律第205号）第1条の2第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者の収容施設を有するもの、図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館並びに老人福祉法（昭和38年法律第133号）第14条第1項第2号に規定する特別養護老人ホームの敷地の周囲50メートルの区域内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの基準にかかわらず、同表に掲げるそれぞれの基準（第2種区域の夜間の基準を除く。）から5ホンを減じた値とする。

表2-99 指定地域内における自動車騒音の許容限度（公安委員会への要請限度）

区 域 区 分		朝	昼 間	夕	夜間
		6時～8時	8時～19時	19時～22時	22時～6時
第1種区域 (第1種住宅専用地域)	1車線の道路に面する区域	50	55	50	45
	2車線の道路に面する区域	65	70	65	55
第2種区域 (第2種住宅専用地域、住居地域)	1車線の道路に面する区域	55	60	55	50
	2車線の道路に面する区域	65	70	65	55
	2車線を超える道路に面する区域	70	75	70	60
第3種区域 (近隣商業地域、商業地域、準工業地域)	1車線の道路に面する区域	65	70	65	60
	2車線の道路に面する区域	70	75	70	65
	2車線を超える道路に面する区域	75	80	75	65
第4種区域 (工業地域、工業専用 地域の境界から50m以内)					

(オ) 届出状況

騒音規制法に基づく特定施設の届出状況は、表2-100のとおり1,597工場・事業場、19,538施設となっている。

表2-100 騒音規制法に基づく特定施設の届出状況

(5年3月31日現在)

特定施設 工場・事業場数			金属加工機械	空送気圧風縮機械	土石用破砕機	織機	建製造用資材機	穀物用製粉機	木材加工機械	抄紙機	印刷機械	射出成型機	鋳造型機	計
市・町														
富山市	467	734	1,454	154	444	18	2	235	4	540	150	4	3,739	
高岡市	565	779	1,393	62	426	11		362	23	122	59	138	3,375	
新湊市	76	320	658	47		3	1	192		17	6		1,244	
魚津市	46	23	177	20	1,159			25		18	20		1,442	
氷見市	15	16	59	3	20	4		4		5		5	116	
滑川市	35	90	170	10		4		11	1	9	20		315	
黒部市	23	531	677	39	1,832			14		33		592	3,718	
砺波市	37	13	14	20	215	7		17		12	20		318	
小矢部市	40	39	90	8	16	3	16	27		23	5	1	228	
大沢野町	32	51	194	19				6		3	11		284	
大山町	1		1										1	
上市町	13		71		1,435	1	1	5		3	13		1,529	
立山町	17	18	47	2				4	4	3			78	
入善町	10	6	54	5	114				7			4	190	
朝日町	15	8	4		1			4		2			19	
八尾町	20	5	24	1						11	6		47	
婦中町	13	2	263	3		1				17	7		293	
小杉町	25	40	32		21			14		2	2		111	
大門町	14	31	9	16	1,078	2		9		4	18		1,167	
大島町	14	15	45	22		11		7					100	
城端町	6		1		321			1			1		324	
庄川町	18		106					28			33		167	
井波町	22	1	51		50			46		7			155	
福野町	31	16	82	2	186	1		24		7	11	1	330	
福光町	24	1	51		54			44		10	21		181	
福岡町	18	26	24	2		2		8		5			67	
計	1,597	2,765	5,751	435	7,372	68	20	1,087	39	853	403	745	19,538	

イ 条例に基づく規制

公害防止条例による規制は、騒音規制法による規制を補完するものであり、法の指定地域以外の地域及び規制対象外の施設（ファスナー自動植付機、走行クレーン等）を対象として、県下全域にわたって規制している。

規制基準は、騒音規制法に準じて、区域及び時間帯ごとに定められている。

なお、条例に基づく届出状況は、表2-101のとおり、1,939工場・事業場となっている。

表2-101 条例に基づく騒音の届出工場・事業場の状況

(5年3月31日現在)

市 町 村	工場・事業場数	市 町 村	工場・事業場数	市 町 村	工場・事業場数
富 山 市	257	上 市 町	39	大 島 町	8
高 岡 市	369	立 山 町	51	城 端 町	52
新 湊 市	33	宇 奈 月 町	25	平 村	8
魚 津 市	67	入 善 町	27	上 平 村	16
氷 見 市	101	朝 日 町	34	利 賀 村	1
滑 川 市	125	八 尾 町	40	庄 川 町	22
黒 部 市	119	婦 中 町	74	井 波 町	8
砺 波 市	77	山 田 村	1	井 口 村	2
小 矢 部 市	131	細 入 村	6	福 野 町	66
大 沢 野 町	14	小 杉 町	16	福 光 町	69
大 山 町	31	大 門 町	13	福 岡 町	32
舟 橋 村	4	下 村	1	計	1,939

ウ 監視取締りと行政指導

騒音規制法及び公害防止条例の対象工場・事業場等について、表2-102のとおり、市町が立入検査を実施し、規制基準の適合状況及び対象施設の維持・管理状況を調査するとともに技術指導を行った。

表2-102 騒音関係立入検査状況（4年度）

業 種 等 区 分	食 料 品 製 造 業	織 維 工 業	木 材 ・ 木 製 品 製 造 業	パ ル プ ・ 紙 ・ 紙 加 工 品 製 造 業	化 学 工 業	プ ラ ス チ ック 製 品 製 造 業	窯 業 ・ 土 石 製 品 製 造 業	鉄 鋼 業	非 鉄 金 属 製 造 業	金 属 製 品 製 造 業	一 般 機 械 器 具 製 造 業	電 気 機 械 器 具 製 造 業	電 気 業	そ の 他	合 計
立入検査 件数	2	8	6	7	8	2	2	2	4	5	5	7	1	11	70

(2) 振 動 の 規 制

ア 振動規制法による規制

(ア) 規制地域（9市17町）

富山市、高岡市、新湊市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、大沢野町、大山町、上市町、立山町、入善町、朝日町、八尾町、婦中町、小杉町、大門町、大島町、城端町、庄川町、井波町、福野町、福光町及び福岡町の9市17町のうち、都市計画法に基づく用途地域の定められている地域を規制している。

(イ) 規制対象振動

工場振動、特定建設作業振動及び道路交通振動

(ウ) 規制対象施設・作業

a 工場振動

金属加工機械（機械プレス、鍛造機等）、織機等20種類の施設

b 特定建設作業振動

くい打機を使用する作業等6種類の作業

(エ) 規制基準

工場振動に係る規制基準及び道路交通振動に係る公安委員会等への要請限度は、それぞれ、表2-103及び表2-104のとおりである。

また、特定建設作業振動の規制基準は75デシベル以下で、日曜・祭日の作業の禁止や1日当たりの作業時間の制限等も併せて実施している。

表2-103 工場振動に係る規制基準

(単位：デシベル)

区 域 区 分		昼 間	夜 間
		8時～19時	19時～8時
第1種区域	第1種住宅専用地域、 第2種住宅専用地域、 住居地域	60	55
第2種区域(1)	近隣商業地域、商業地域、 準工業地域	65	60
第2種区域(2)	工業地域	70	65

注 次に掲げる区域内における基準は、上の表に掲げるそれぞれの基準にかかわらず、同表に掲げるそれぞれの基準から5デシベルを減じた値とする。

- (1) 第1種区域、第2種区域(1)及び第2種区域(2)内に所在する学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校、児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条に規定する保育所、医療法(昭和23年法律第205号)第1条の2第1項に規定する病院及び同条第2項に規定する診療所のうち患者の収容施設を有するもの、図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館並びに老人福祉法(昭和38年法律第133号)第14条第1項第2号に規定する特別老人ホームの敷地の周囲50メートルの区域
- (2) 第1種区域に接する第2種区域(2)の当該接する境界線から当該第2種区域(2)内へ50メートルの範囲内の区域(1)に掲げる区域を除く)

表2-104 道路交通振動に係る要請基準

(単位：デシベル)

区 域 区 分		昼 間	夜 間
		8時～19時	19時～8時
第1種区域	第1種住宅専用地域、 第2種住宅専用地域、 住居地域	65	60
第2種区域	近隣商業地域、商業地域、 準工業地域、工業地域	70	65

(オ) 届出状況

振動規制法に基づく届出状況は、表2-105のとおり、828工場・事業場、10,392施設となっている。

表2-105 振動規制法に基づく特定施設の届出状況

(5年3月31日現在)

特定施設 工場・事業場 市町	特定施設	金属加工機械	圧縮機	土石用破砕機等	織機	建設用資材製造機	木材加工機械	印刷機械	ゴム・樹脂・練用又は合成機	合射出成形機	鋳造機	計
富山市	234	677	300	62	440	8	24	159	1	138	4	1,813
高岡市	305	1,091	565	64	298		40	45		47	132	2,282
新湊市	38	49	44	44			26	3		6		172
魚津市	21	30	87	5	1,159		3			10		1,294
氷見市	6	6	13		20						3	42
滑川市	22	88	123				3	6	5			225
黒部市	15	101	56	22	80		3	15	30	149		456
砺波市	10	15	3	1	168			20		19		226
小矢部市	24	60	33	7	16	6	1	4	8	5		140
大沢野町	25	51	81	18				6		11		167
大山町	0											0
上市町	9		16		1,435					13		1,464
立山町	10	12	31	1						3		47
入善町	8	5	39	1	114			1			3	163
朝日町	13		8		1		4					13
八尾町	17	5	20	1						6		32
婦中町	4	4		105								109
小杉町	5	3	3									6
大門町	3			1	841	1						843
大島町	4	4	12	15								31
城端町	6		1		321		1			1		324
庄川町	8		12							33		45
井波町	3		11		50		2					63
福野町	14	17	50		186			4		11		268
福光町	12	8	12		46	3				19		88
福岡町	12	51	14	3		8		3				79
計	828	2,277	1,534	350	5,175	26	107	266	44	471	142	10,392

イ 監視取締りと行政指導

振動規制法の対象工場・事業場等について、表2-106のとおり、市町が立入検査を実施し、規制基準の適合状況及び対象施設の維持・管理状況を調査するとともに技術指導を行った。

表2-106 振動関係の立入検査状況（4年度）

業 種 等 区 分	織 維 工 業	パ ル プ ・ 紙 ・ 紙 加 工 品 製 造 業	化 学 工 業	プ ラ ス チ ク 製 品 製 造 業	窯 業 ・ 土 石 製 品 製 造 業	鉄 鋼 業	非 鉄 金 属 製 造 業	金 属 製 品 製 造 業	一 般 機 械 器 具 製 造 業	電 気 機 械 器 具 製 造 業	そ の 他	合 計
立入検査 件数	7	0	3	0	2	3	2	2	3	2	13	37

第5節 悪臭の現況と対策

1 悪臭の現況

悪臭は、感覚公害として、日常生活に身近なものであり、発生源が化学工業、畜産業からサービス業にいたるまで多種多様であるため、実態の把握や防止対策については、困難な面がある。

本県では、従来から問題にされていたパルプ工業の悪臭については、かなり改善されてきているが、一般に苦情の多い畜産業や魚腸骨処理場については、防止対策を指導しているものの依然として苦情がみられる。

2 悪臭防止に関して講じた施策

(1) 法令等に基づく規制の概要

ア 悪臭防止法に基づく規制

(ア) 規制地域（9市17町）

富山市、高岡市、新湊市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、大沢野町、大山町、上市町、立山町、入善町、朝日町、八尾町、婦中町、小杉町、大門町、大島町、城端町、庄川町、井波町、福野町、福光町及び福岡町の9市17町のうち、都市計画法に基づく用途地域の定められている地域を規制している。

(イ) 規制対象物質

アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、スチレン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸及びイソ吉草酸の12物質

(ウ) 規制基準

本県では、表2-107のとおり、工業専用地域とその他の地域に区分し、規制基準を設定している。

表2-107 悪臭防止法に基づく規制基準

悪臭物質の種類	規 制 基 準			
	工 業 専 用 地 域		その他の地域	第一種及び第二種住居専用地域、住居地域、近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域
アンモニア	2 (ppm)	臭気強度 3.0	1 (ppm)	臭気強度 2.5
メチルメルカプタン	0.004		0.002	
硫化水素	0.06		0.02	
硫化メチル	0.05		0.01	
二硫化メチル	0.03		0.009	
トリメチルアミン	0.02		0.005	
アセトアルデヒド	0.1		0.05	
スチレン	0.8		0.4	
プロピオン酸	0.07		0.03	
ノルマル酪酸	0.002		0.001	
ノルマル吉草酸	0.002		0.0009	
イソ吉草酸	0.004		0.001	

イ 条例に基づく規制

公害防止条例では、悪臭に係る特定施設の届出を義務付けている。条例による届出状況は、表2-108のとおり、1,035工場・事業場で、ほとんど養豚等の家畜飼養施設である。

表2-108 公害防止条例に基づく悪臭の届出工場・事業場の状況

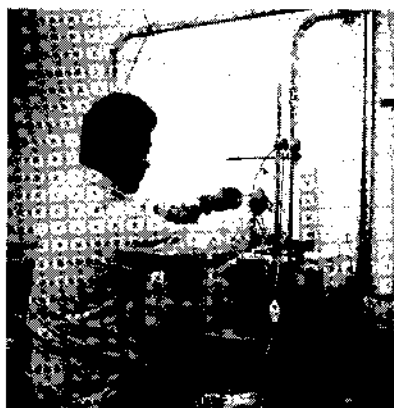
(5年3月31日現在)

市 町 村	工場・事業場数	市 町 村	工場・事業場数	市 町 村	工場・事業場数
富山市	123	上市町	33	大島町	1
高岡市	146	立山町	74	城端町	22
新湊市	1	宇奈月町	13	平村	2
魚津市	90	入善町	26	上平村	0
氷見市	88	朝日町	2	利賀村	1
滑川市	22	八尾町	18	庄川町	0
黒部市	101	婦中町	28	井波町	23
砺波市	27	山田村	3	井口村	7
小矢部市	53	細入村	1	福野町	44
大沢野町	35	小杉町	15	福光町	16
大山町	5	大門町	0	福岡町	7
舟橋村	7	下村	1	計	1,035

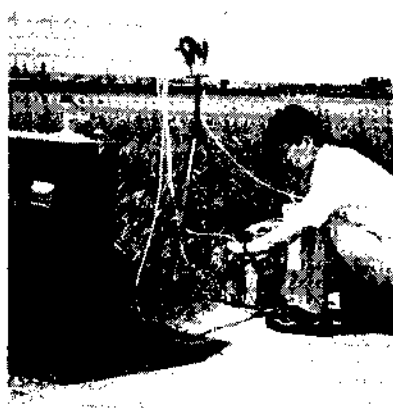
(2) 悪臭実態調査

悪臭の実態を把握し、悪臭防止対策の基礎資料を得ることを目的として、畜産業、飼料製造業、廃棄物処理業及びと畜場の5工場・事業場を選定し、発生源、敷地境界及びその周辺環境において、悪臭10物質（アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸、イソ吉草酸）を対象に調査を実施した。

調査結果は、表2-109のとおりで、発生源における測定値については、いずれの物質も排出口における規制基準を下回っていたが、敷地境界における測定値については、畜産業の1事業所ではノルマル酪酸が、飼料製造業の2事業所のうち1事業所ではメチルメルカプタン、トリメチルアミン及びノルマル酪酸の3物質が、もう一方の事業所ではメチルメルカプタンが規制基準の臭気強度2.5を超えていた。このため、畜産業の1事業所に対しては維持管理の徹底等の指導を行い、飼料製造業の2事業所に対しては悪臭発生施設の改善等の指導を行った。



悪臭分析装置



悪臭測定装置

表2-109 悪臭実態調査結果（4年度）

業種 工場・事業場数		畜産業	飼料製造業	廃棄物処理業	と畜場
悪臭物質		1	2	1	1
アンモニア	敷地境界	ND~0.2	ND~0.9	ND~0.9	0.32
	周辺環境	ND	—	0.2	—
	発生源	—	ND~4.1	—	—
メチルメルカプタン	敷地境界	ND	ND~0.021	ND	ND
	周辺環境	ND	—	ND	—
硫化水素	敷地境界	ND	ND~0.016	ND~0.001	ND
	周辺環境	ND	—	ND	—
	発生源	—	ND	—	—
硫化メチル	敷地境界	ND	ND~0.002	ND~0.001	ND
	周辺環境	ND	—	ND	—
二硫化メチル	敷地境界	ND	ND~0.003	ND~0.006	ND
	周辺環境	ND	—	ND	—
トリメチルアミン	敷地境界	ND	ND~0.033	ND	ND
	周辺環境	ND	—	ND	—
	発生源	—	ND~0.088	ND	—
プロピオン酸	敷地境界	ND~0.0013	ND~0.0205	ND	0.001
	周辺環境	ND	—	ND	—
ノルマル酪酸	敷地境界	ND~0.0012	ND~0.0238	ND	0.0004
	周辺環境	ND	—	ND	—
ノルマル吉草酸	敷地境界	ND	ND~0.0002	ND	ND
	周辺環境	ND	—	ND	—
イソ吉草酸	敷地境界	ND	ND~0.0009	ND	ND
	周辺環境	ND	—	ND	—

注 ND（検出されず。）とは、定量限界（アンモニア0.1ppm、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン0.001ppm、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸、イソ吉草酸0.0002ppm）未満をいう。

第6節 土壤汚染の現況と対策

1 土壤汚染の現況

(1) 土壤汚染の環境基準

環境庁では、環境として土壤が果たしている多様な機能のうち、主として水質を浄化し、地下水をかん養する機能、並びに食料を生産する機能を保全する観点から、カドミウム等10物質について「土壤の汚染に係る環境基準」を定めている。

(2) 農用地の土壤汚染

ア 神通川流域

神通川流域では、43年にイタイイタイ病に対する厚生省見解が発表されてから、土壤汚染の問題が表面化してきた。46年に土壤汚染防止法が施行されたことに伴い、神通川流域の農用地におけるカドミウム汚染調査を開始した。

46～51年度の6年間にわたって、両岸の農用地約3,130haを対象に、玄米2,570点、土壤1,667点について調査した。調査結果の概要は、表2-110のとおりである。

玄米中カドミウム濃度が1.0ppm以上の汚染米が検出された地点は231地点、汚染米発生地域の面積は約500haであったが、これらの地域では水稻の作付が停止されている。

この調査結果に基づき、汚染米発生地域とその近傍地域のうち汚染米が発生する恐れがある地域を合わせた1,500.6haを農用地土壤汚染対策地域（以下、「対策地域」という。）として指定した。対策地域内の汚染状況は表2-111のとおりで、玄米中カドミウム濃度の平均は0.99ppm、土壤中カドミウム濃度の平均は、作土で1.12ppm、次層土では0.70ppmであった。

表2-110 玄米及び土壤中カドミウム濃度（神通川流域）

玄米中カドミウム濃度 (ppm)	左 岸		右 岸		全 体	
	点 数	比率(%)	点 数	比率(%)	点 数	比率(%)
0.40 未 満	729	52	860	74	1,589	62
0.40～0.99	523	37	228	20	751	29
1.00～1.99	133	9	65	6	198	8
2.00 以 上	26	2	6	0	32	1
計	1,411	100	1,159	100	2,570	100

土壤中カドミウム濃度 (ppm)	左 岸		右 岸		全 体	
	点 数	比率(%)	点 数	比率(%)	点 数	比率(%)
0.50 未 満	135	16	50	6	185	11
0.50～0.99	447	52	278	34	725	44
1.00～1.99	219	26	281	35	500	30
2.00 以 上	52	6	205	25	257	15
計	853	100	814	100	1,667	100

表2-111 対策地域内の玄米及び土壤中カドミウム濃度（神通川流域）

地域区分	玄 米 中 (ppm)				土 壌 中 (ppm)							
	点数	最高	最低	平均	作 土				次 層 土			
					点数	最高	最低	平均	点数	最高	最低	平均
左岸地域	362	4.23	0.25	1.02	362	4.50	0.46	1.09	203	4.86	0.06	0.64
右岸地域	182	2.74	0.25	0.93	182	4.85	0.47	1.16	101	5.17	0.09	0.72
全 体	544	4.23	0.25	0.99	544	4.85	0.46	1.12	304	5.17	0.06	0.70

イ 黒部地域

45年に、黒部市の日鉱亜鉛(株) (旧日本鉱業(株)三日市製錬所) 周辺地域の農用地が、カドミウムによって汚染されていることが判明し、カドミウム環境汚染要観察地域に指定された。このため、46年～48年の3年間にわたって同社周辺の農用地約250haを対象に、玄米316点、土壌(作土)225点についてカドミウム濃度を調査した。調査結果の概要は、表2-112のとおりである。

玄米中カドミウム濃度が1.0ppm以上の汚染米が検出された地点は7地点で、汚染米発生地域の面積は約8haであった。

この調査結果に基づき汚染米発生地域と近傍地域をあわせた129.5haを対策地域として指定した。対策地域内の汚染状況は表2-113のとおりであった。

表2-112 玄米及び土壌中のカドミウム濃度 (黒部地域)

玄米中カドミウム濃度 (ppm)	点 数	比 率 (%)	土壌中カドミウム濃度 (ppm)	点 数	比 率 (%)
0.40 未 満	80	26	2.00 未 満	29	13
0.40～0.99	229	72	2.00～5.99	130	58
1.00～1.99	7	2	6.00～9.99	45	20
2.00 以 上	0	0	10.00以 上	21	9
計	316	100	計	225	100

表2-113 対策地域内の玄米及び土壌中カドミウム濃度 (黒部地域)

地域区分	玄 米 中 (ppm)				土 壌 中 (ppm)							
	点数	最高	最低	平均	作 土				次 層 土			
					点数	最高	最低	平均	点数	最高	最低	平均
黒部地域	44	1.34	0.47	0.79	44	22.60	3.85	7.57	19	3.24	0.14	0.85

2 農用地の土壌汚染防止に関して講じた施策

(1) 神通川流域

ア 対策計画の策定

神通川流域の対策地域面積は約1,500haで、1市3町の広大な地域に及ぶことから、対策計画を上流部から順次分割して策定し、土壌汚染対策事業の促進を図ることとした。

土壌汚染防止法に基づき、表1-5のとおり第1次地区の96.4haについては55年2月、第2次地区の450.5haについては59年1月(3年9月に変更)、残る第3次地区の953.7haについては4年2月に、それぞれ対策計画を策定した。

(ア) 第1～3次地区の区域、面積及び利用区分

第1～3次地区の位置は図2-24に示すとおりであり、これらの面積(実測)と土地利用区分は表2-114のとおりである。

(イ) 事業の内容

第1～3次地区の復旧方式等は表2-115のとおりである。

図2-24 第1～3次地区位置図

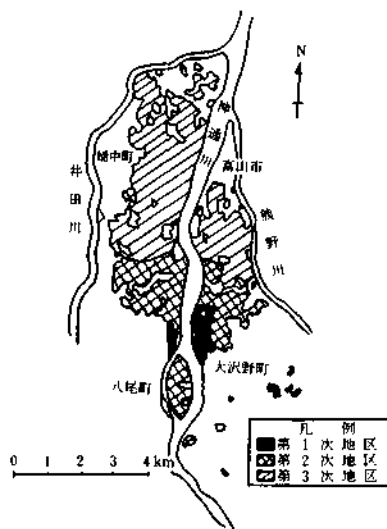


表2-114 土地利用区分と面積（実測）

（単位：ha）

計画区分	対策地域の面積			①のうち農用地として利用する面積					①のうち農用地以外として利用する面積
				事業対象面積			事業対象面積(砂利採取田)	計	
	①農用地(田)	農用地以外	計	田	畑	計			
第1次地区	96.7	11.3	108.0	76.2	0.6	76.8	11.8	88.6	8.1
第2次地区	427.2	53.9	481.1	326.6 292.1	5.9 3.8	332.5 295.9	73.7 80.9	406.2 376.8	21.0 50.4
第3次地区	960.5	94.8	1,055.3	402.0	5.5	407.5	14.3	421.8	538.7
計	1,484.4	160.0	1,644.4	804.8 770.3	12.0 9.9	816.8 780.2	99.8 107.0	916.6 887.2	567.8 597.2

注 第2次地区及び計の上段は当初計画、下段は変更計画である。

表2-115 第1～3次地区の復旧方式等

区 分	第1次地区	第2次地区	第3次地区
復 旧 方 式	区画整理方式	区画整理方式 現状回復方式	区画整理方式 現状回復方式
対 策 工 法	埋込客土工法 上乗せ客土工法	埋込客土工法 上乗せ客土工法	埋込客土工法 上乗せ客土工法
客土母材の採土地	大沢野町市場地内の山林	大沢野町市場地内の山林 八尾町横ノ手地内の山林	八尾町卯花地区の山林

(ウ) 対策計画に係る事業費の概算等

事業費は、第1次地区が1,783,000千円、第2次地区が10,940,000千円（変更後は9,054,865千円）、第3次地区が19,291,900千円であり、第1～3次地区に係る公害防止事業費事業者負担法に基づく費用負担計画は、表2-116のとおりである。

表2-116 公害防止事業に係る費用負担計画の概要

区 分	第1次地区	第2次地区	第3次地区
告示年月日	55年2月6日第 94号 59年7月28日第 641号	59年1月20日第 42号 3年9月4日第 635号	4年2月3日第 98号
公害防止事業の種類	農用地の土壌の特定有害物質による汚染を除去するための客土その他の事業		
費用を負担させる事業者の名称	三井金属鉱業株式会社		
負 算 担 定 総 額 基 及 び 礎	公害防止事業費 ①	1,783,000千円 2,247,436千円	10,940,000千円 9,054,865千円
	汚 染 寄 与 度 ②	0.527 0.5908	0.5908
	概 定 割 合 ③	2/3	2/3
	負 担 率 ②×③	0.3513 0.3939	0.3939
	負 担 総 額 ①×②×③	626,368千円 885,265千円	4,309,266千円 3,566,711千円
	そ の 他	物価等の変動により、事業費に変更が生じたときは、変更後の事業費に上記の負担率を乗じて得た額を負担総額とする。	

注 第1次・第2次地区の告示年月日、負担総額及び算定基礎の上段は当初計画、下段は変更計画

イ 公害防除特別土地改良事業の実施

対策計画が策定されると、土地改良法等に基づき公害防除特別土地改良事業（以下、「公特事業」という。）が実施されることになる。第1次地区については、55年10月、県営公特事業として事業計画が確定し、同月から工事に着手し、58年度には面工事が完了した。

また、第2次地区については、59年6月に事業計画が確定し、同月から工事に着手し、4年度には面工事が完了した。

さらに、第3次地区については、4年9月に事業計画が確定し、10月から工事に着手した。

(ア) 事業計画

公特事業では、指定地域の他、隣接する地域でこれに準じて一体的に施工することが必要な地域及びこれらと併せて事業を行うことが必要かつ妥当な地域についても区画整理を施工している。

各地区の事業計画面積は表2-117のとおりである。

表2-117 神通川流域における公特事業の計画面積

(単位：ha)

区 分	全 体	内 訳		
		指定地域	隣接地域	併せ地域
第1次地区	91.2	73.4	6.2	11.6
第2次地区	441.5	332.5	16.5	92.5
	371.7	295.9	9.8	66.0
第3次地区	436.9	394.5	22.0	20.4
計	969.6	800.4	44.7	124.5
	899.8	763.8	38.0	98.0

注 第2次地区及び計の上段は当初計画、下段は変更計画

(イ) 土壌復元工事の実施状況

表2-118のとおり、第1次地区では、全面積において作付が可能となり、第2次地区についても、5年度に作付可能になる客土水田面積は280haとなった。

なお、4年度に作付した第2次地区の客土水田(129ha)においてカドミウム濃度調査を実施したところ、玄米中カドミウム濃度は0.38～0.06ppm、土壌中カドミウム濃度は0.39～0.11ppmであった。

表2-118 作付可能面積（5年度）

（単位：ha）

区 分	田		畑		合 計
	客 土	非客土	客 土	非客土	
第1次地区	75.8	13.2	1.2	—	90.2
第2次地区	279.9	72.5	3.9	0.3	356.6
合 計	355.6	85.7	5.1	0.4	446.8

ウ 対策地域の一部指定解除

第1次地区の工事が終了した地域の追跡調査を実施して、安全性が確認されたため、62年6月9日、95.2ha（台帳）について、対策地域の指定の一部を解除（第1回）した。

また、第2次地区のうち、調査を実施して安全性が確認された189.9ha（台帳）についても、3年6月18日に第2回目として対策地域の指定の一部解除を実施した。

(2) 黒 部 地 域

ア 対策計画の策定

黒部地域の対策地域は129.5haで、黒部市の中心部近くに位置している。

当該地域については、土壤汚染防止法に基づき、3年11月に対策計画を策定した。

(ア) 対策地域の区域、面積及び利用区分

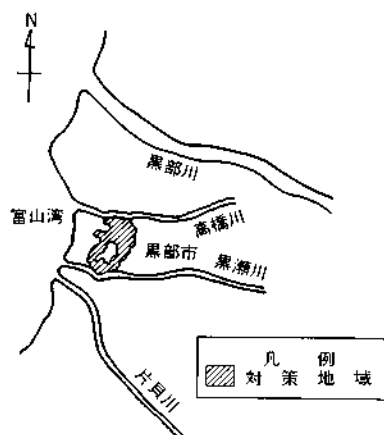
対策地域は図2-25に示すとおりであり、この面積（実測）と土地利用区分は表2-119のとおりである。

表2-119 土地利用区分と面積（実測）

（単位：ha）

市 名	対策地域の面積				①のうち農用地 として利用する 面積			左のうち 事業対象面積			①②のうち 農用地以外 として利用 する面積
	① 農用地 (田)	② 農用地 (畑)	農用地 以 外	計							
	田	畑	計	田	畑	計					
黒部市	115.8	0.2	16.1	132.1	44.0	0.2	44.2	44.0	—	44.0	71.8

図2-25 対策地域位置図



(イ) 事業の内容

対策地域の復旧方式等は表2-120のとおりである。

表2-120 対策地域の復旧方式等

区 分	黒部地域
復 旧 方 式	現状回復方式
対 策 工 法	排土客土工法
客土母材の採土地	黒部市田畑地内の山林

(ウ) 対策計画に係る事業費の概算等

事業費は2,936,000千円であり、対策地域に係る公害防止事業費事業者負担法に基づく費用負担計画は、表2-121のとおりである。

表2-121 公害防止事業に係る費用負担計画の概要

告 示 年 月 日	3年11月19日第 798号
公 害 防 止 事 業 の 種 類	農用地の土壌の特定有害物質による汚染を除去するための客土その他の事業
費用を負担させる事業者の名称	株式会社日鉱共石
負 担 費 用	公害防止事業費 ① 2,936,000千円
汚 染 寄 与 度	② 1
概 定 割 合	③ 2/3
負 担 率	②×③ 0.6667
負 担 総 額	①×②×③ 1,957,431千円
そ の 他	物価等の変動により、事業費に変更が生じたときは、変更後の事業費に上記の負担率を乗じて得た額を負担総額とする。

イ 公特事業の実施

公特事業については、4年1月に県営公特事業として事業計画が確定し、2月から工事に着手した。

第7節 地下水の現況と対策

1 地下水の現況

(1) 地下水位の変動

本県における地下水位の観測は、高岡・砺波地域10か所、富山地域7か所、魚津・滑川地域4か所及び黒部地域9か所の合計30観測井において実施している。

最近5年間の地下水位の変動は、表2-122のとおりであり、一部の地点では、消雪による地下水利用の影響などにより水位の低下がみられたが、全体的には大幅な変動がなく、ほぼ横ばいに推移している。

また、主な観測井における月毎の地下水位の変動は、図2-26のとおりであり、高岡・砺波地域、富山地域、魚津・滑川地域及び黒部地域とも市街地では、積雪時に低下がみられるが、春を迎えると回復している。



地下水位観測井

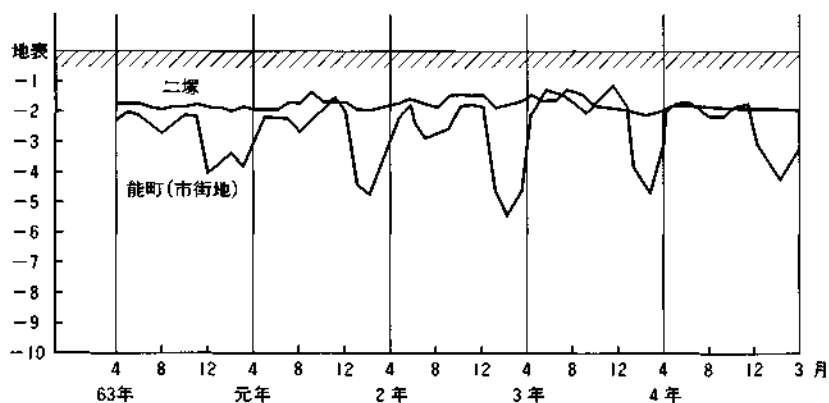
表2-122 地下水位年平均値の年度別推移

地域名	観測井の名称	所在地	井戸の深さ(m)	平均地下水位(cm)				
				63年度	元年度	2年度	3年度	4年度
高岡・砺波地域	能町	高岡市	260	～ 230	～ 224	～ 251	～ 212	～ 199
	上関	"	240	+ 359	+ 350	+ 314	+ 357	+ 359
	二塚	"	40	～ 141	～ 144	～ 150	～ 150	～ 156
	寺塚原	新湊市	150	～ 332	～ 260	～ 278	～ 252	～ 240
	作道	"	100	～ 70	～ 74	～ 86	～ 73	～ 74
	日詰	砺波市	100	～ 1,378	～ 1,420	～ 1,417	～ 1,436	～ 1,422
	五郎丸	"	80	～ 3,214	～ 3,283	～ 3,275	～ 3,280	～ 3,320
	水島	小矢部市	80	～ 801	～ 843	～ 852	～ 846	～ 884
	布袋	福野町	80	～ 1,110	～ 1,160	～ 1,176	～ 1,168	～ 1,219
富山地域	江尻	福岡町	80	+ 48	+ 50	+ 55	+ 59	+ 54
	下飯野	富山市	200	～ 47	～ 53	～ 93	～ 74	～ 78
	奥田北	"	93	～ 227	～ 221	～ 254	～ 254	～ 260
	山室	"	20	～ 117	～ 141	～ 140	～ 127	～ 154
	西の番	"	100	～ 1,426	～ 1,439	～ 1,432	～ 1,428	～ 1,460
	三郷	"	150	～ 79	～ 66	～ 91	～ 83	～ 103
	前沢	立山町	100	～ 389	～ 405	～ 408	～ 403	～ 419
	速星	婦中町	100	～ 135	～ 152	～ 160	～ 154	～ 144
魚津・滑川地域	住吉	魚津市	50	～ 126	～ 126	～ 125	～ 121	～ 130
	北鬼江	"	70	～ 561	～ 567	～ 568	～ 574	～ 643
	下島	滑川市	80	～ 34	～ 30	～ 18	～ 192	～ 62
	四ッ屋	"	100	～ 2,122	～ 2,164	～ 2,168	～ 2,144	～ 2,237
黒部地域	金屋	黒部市	150	～ 693	～ 656	～ 661	～ 691	～ 662
	三日市	"	100	～ 847	～ 853	～ 850	～ 821	～ 879
	五郎八	"	50	～ 1,405	～ 1,339	～ 1,363	～ 1,392	～ 1,539
	生地	"	100	—	—	—	—	+ 96
	青木	入善町	150	～ 1,319	～ 1,318	～ 1,332	～ 1,381	～ 1,428
	入膳	"	100	～ 1,884	～ 1,877	～ 1,778	～ 1,833	～ 1,976
	小摺戸	"	50	～ 1,209	～ 1,203	～ 1,189	～ 1,224	～ 1,246
	園家	"	55	—	—	—	—	+ 333
	月山	朝日町	100	～ 716	～ 730	～ 725	～ 699	～ 798

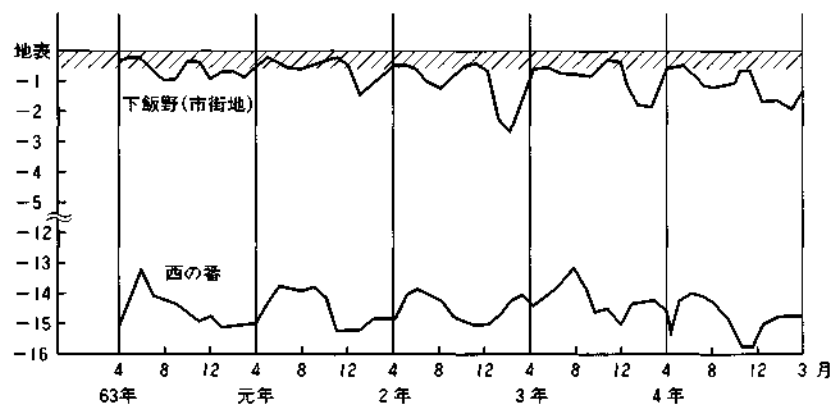
注1 地下水位は、地表面を基準として地上を+、地下を-と表わす。

図2-26 主な観測井の地下水位（月平均）

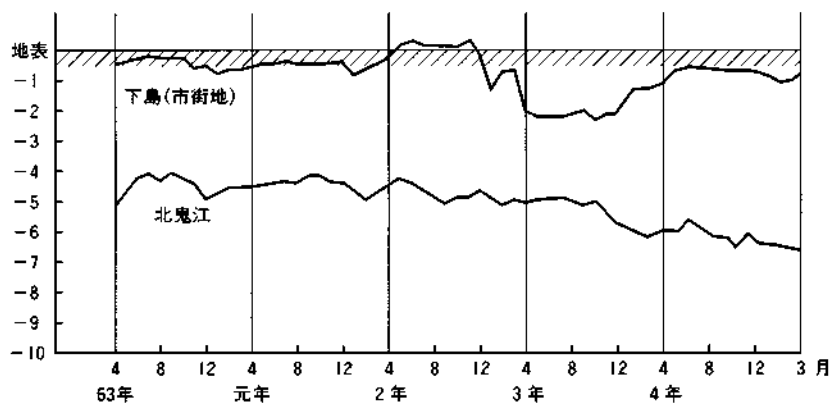
高岡・砺波地域



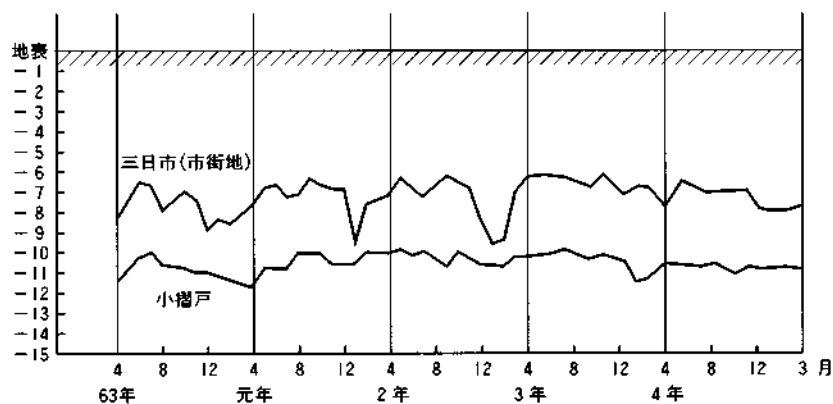
富山地域



魚津・滑川地域



黒部地域



(2) 地下水の塩水化

地下水の塩水化の状況については、県内海岸部(氷見地域10地点、高岡・新湊地域50地点、富山地域30地点、魚津・滑川地域20地点、黒部地域20地点)の計130地点で実態を調査している。

塩素イオン濃度分布は、図2-27のとおりであり、富山地域及び魚津・滑川地域については、ここ数年大幅な変化はみられないが、高岡・新湊地域については、高濃度の塩素イオン濃度が分布している範囲は以前と比較して縮小傾向がみられる。

ア 氷 見 地 域

本地域では、塩素イオン濃度100mg/l以上の地点はみられない。

イ 高岡・新湊地域

本地域では、小矢部川下流域から富山新港周辺にかけて比較的広範囲に塩水化がみられる。

地区別にみると、高岡地区では塩素イオン濃度100mg/l以上の地域は小矢部川河口から約9 km 上流の内陸部までに及んでおり、塩素イオン濃度1,000mg/l以上の地域は伏木港周辺にみられる。

また、新湊地区では、塩素イオン濃度100mg/l以上の地点は、海岸線から内陸部約3 km までみられ、富山新港周辺では塩素イオン濃度10,000 mg/l以上の地点もみられるが、高濃度の塩素イオン濃度範囲は以前と比較して縮小する傾向がみられる。

ウ 富 山 地 域

本地域では、塩素イオン濃度100mg/l以上の地点は、富山港から約1 km 内陸部の東岩瀬地区までの比較的狭い地域にみられる。

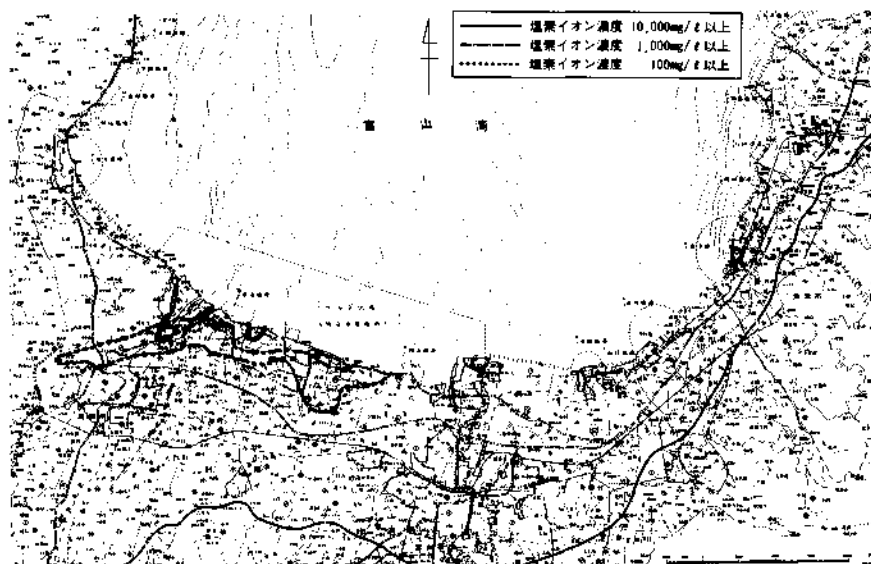
エ 魚津・滑川地域

本地域では、塩素イオン濃度100mg/l以上の地点は、魚津港・経田漁港にわずかにみられる。

オ 黒 部 地 域

本地域では、塩素イオン濃度100mg/l以上の地点はみられない。

図2-27 平成4年度塩素イオン濃度分布



2 地下水に関して講じた施策

(1) 地下水条例による規制

ア 指定地域

区分 \ 地域	富山地域	高岡地域
規制地域	富山市の一部	高岡市、大門町の一部 新湊市、大島町の全部
観察地域	富山市、大沢野町、大山町、上市町、立山町、八尾町及び婦中町の一部、舟橋村の全部	高岡市、砺波市、小杉町、大門町及び福岡町の一部、下村の全部

イ 規制対象揚水設備

動力を用いて地下水を採取するための設備で、揚水機の吐出口の断面積が 21cm^2 を超えるもの。(ただし、温泉や可燃性ガスの採掘に伴う揚水設備及び河川区域内の揚水設備は除く。)

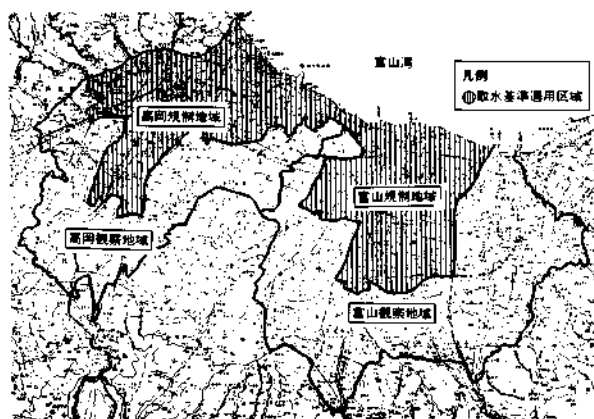
ウ 取 水 基 準

規制地域内の工業用、建築物用の対象揚水設備については、取水基準を段階的に適用してきたが、62年4月1日から表2-123のとりの基準を適用している。

表2-123 取 水 基 準

区 分		項 目	揚水機の吐出口 断面積 (cm ²)	採取する地下水 の量 (m ³ /日)
既 設	52年3月1日までに設置 された揚水設備		200 以下	1,000 以下
新 設	52年3月2日以降に設置 された揚水設備		150 以下	800 以下

図2-28 条例に基づく取水基準適用区域



エ 揚水設備の届出状況

条例に基づく届出状況は、事業所数が2,327、揚水設備数が3,018であり、その内訳は、表2-124のとおりである。

市町村別では、富山市が988事業所、1,267設備、高岡市が550事業所、757設備と両市で全体の設備数の約3分の2を占めている。

また、用途別では、建築物用が最も多く997事業所、1,165設備であり、次いで、道路等消雪用が806事業所、902設備、工業用が429事業所、822設備の順となっており、近年、道路等消雪用の設備が増加している。

表2-124 地下水採取条例に基づく揚水設備の届出状況

(1) 市町村別の届出状況

(5年3月31日現在)

地域	区分	規制地域		観察地域		合計	
	市町村	事業所数	揚水設備数	事業所数	揚水設備数	事業所数	揚水設備数
富山地域	富山市	852	1,099	136	168	988	1,267
	大沢野町			65	93	65	93
	大山町			12	18	12	18
	舟橋村			2	2	2	2
	上市町			112	141	112	141
	立山町			61	74	61	74
	八尾町			20	25	20	25
	婦中町			98	136	98	136
	小計	852	1,099	506	657	1,358	1,756
高岡地域	高岡市	529	726	21	31	550	757
	新湊市	82	102			82	102
	大門町	27	30	8	10	35	40
	大島町	22	35			22	35
	砺波市			164	188	164	188
	小杉町			44	50	44	50
	下村			12	12	12	12
	福岡町			60	78	60	78
	小計	660	893	309	369	969	1,262
合計		1,512	1,992	815	1,026	2,327	3,018

(2) 用途別届出状況

(5年3月31日現在)

用途	区分	規制地域		観察地域		合計	
		事業所数	揚水設備数	事業所数	揚水設備数	事業所数	揚水設備数
工業用		278	546	151	276	429	822
建築物用		742	870	255	295	997	1,165
水道用		5	17	36	47	41	64
農業・水産業用		11	11	43	54	54	65
道路等消雪用		476	548	330	354	806	902
計		1,512	1,992	815	1,026	2,327	3,018

オ 地下水採取状況

条例に基づき報告された4年度の年間地下水採取量は134.5百万 m^3 /年で、その内訳は表2-125のとおりである。

市町村別では、富山市が55.7百万 m^3 /年と最も多く、次いで高岡市が21.6百万 m^3 /年となっており、両市で全体の57%を占めている。

用途別では、工業用が79.0百万 m³/年と最も多く、全体の59%を占めており、次いで水道用の21.5百万 m³/年、建築物用の20.8百万 m³/年の順となっている。

表2-125 地下水採取状況（4年度）

(1) 市 村 町 別

(単位：百万m³/年)

市町村 \ 区 分		規 制 地 域	観 察 地 域	合 計
富 山 地 域	富 山 市	43.6	12.1	55.7
	大 沢 野 町		4.8	4.8
	大 山 町		1.9	1.9
	舟 橋 村		0.0	0.0
	上 市 町		9.0	9.0
	立 山 町		2.7	2.7
	八 尾 町		2.7	2.7
	婦 中 町		17.1	17.1
	小 計	43.6	50.2	93.8
高 岡 地 域	高 岡 市	20.1	1.5	21.6
	新 湊 市	1.8		1.8
	大 門 町	0.9	3.5	4.4
	大 島 町	4.2		4.2
	砺 波 市		5.3	5.3
	小 杉 町		0.2	0.2
	下 村		0.1	0.1
	福 岡 町		3.1	3.1
	小 計	27.0	13.7	40.7
合 計		70.6	63.9	134.5

(2) 用 途 別

(単位：百万m³/年)

用 途 \ 区 分	規 制 地 域	観 察 地 域	合 計
工 業 用	46.4	32.6	79.0
建 築 物 用	14.1	6.7	20.8
水 道 用	3.3	18.2	21.5
農 業 ・ 水 産 業 用	0.8	3.1	3.9
道 路 等 消 雪 用	6.0	3.3	9.3
計	70.6	63.9	134.5

(2) 地下水指針の策定

ア 指針の基本的考え方

(ア) 趣 旨

地下水の保全と適正利用を図り、将来にわたって県民共有の財産である地下水を次の世代に引き継ぐため、長期的な展望にたって、保全目標達成のための施策を明らかにしたものである。

(イ) 期 間

計画の期間は特に定めない。なお、概ね5年を目途に施策等の見直しを図るものとする。

(ウ) 対象地域

地下水の賦存する平野部の地域とする。

イ 地下水の保全目標

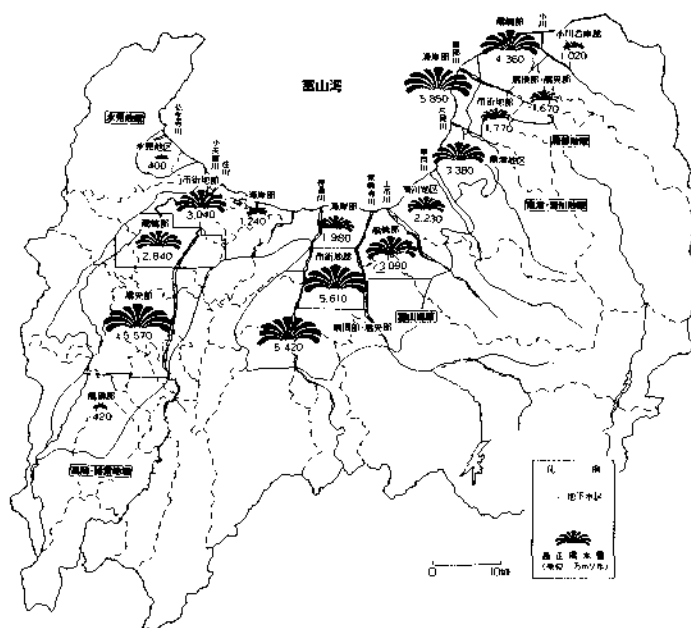
(ア) 保 全 目 標

「豊かで清らかな地下水を将来にわたって確保する」こととし、その保全目標を達成するため、各地下水区ごとに「適正揚水量」を設定した。

(イ) 適正揚水量

「塩水化の進行や大幅な地下水位の低下等の地下水障害を生じさせない揚水量で、かつ、地下水の使用状況、天然記念物や名水地帯の分布状況等地域の特性や住民の意向などの社会的条件を考慮した量」である。

図2-29 各地域における適正揚水量



ウ 地下水の保全、適正利用施策

地下水の保全目標を達成するため、次の施策を推進する。

- ① 地下水条例による規制
- ② 開発行為に対する事前指導
- ③ 地下水利用の合理化等
- ④ 観測体制の整備・拡充
- ⑤ 地下水の涵養
- ⑥ 調査・研究の推進
- ⑦ 地下水保全関係団体の育成
- ⑧ 地下水保全意識の啓発

エ 指針の推進体制

行政、事業者、県民の役割分担を明らかにするとともに、関係団体で構成する「富山県地下水保全・適正利用推進会議」を設置し、本指針をより効果的に推進する。

(3) 観測体制の整備

本県における地下水位の観測体制は、34年度に高岡市二塚及び富山市山室に観測井を設置して以来、逐次増設され、現在、高岡・砺波地域10井、富山地域7井、魚津・滑川地域4井、黒部地域9井、また、4年度に新たに整備された氷見地域2井の合計32観測井となっている。これらの観測井の位置及び構造は、表2-126のとおりである。

(4) 監視指導

地下水条例の対象工場・事業場について、立入検査を実施し、取水基準の遵守状況及び揚水記録等設備の維持管理状況について調査するとともに技術指導を行った。

表2-126 地下水観測井の位置と構造

地域	観測井 の名称	位置	設置 年度	管理者	井戸の構造			標高 (m)
					深度 (m)	口径 (mm)	ストレーナ位置 (m)	
高岡・砺波地域	能町	高岡市萩布	42	県	260	300	156~178	3.48
	上関	高岡市京田	42	県	240	300	164~175	12.59
	二塚	高岡市二塚	34	県	40	250	34~39	14.11
	寺塚原	新湊市寺塚原	42	県	150	350	102~124	6.22
	作道	新湊市殿村	54	県	100	250	40~54	2.41
	日詰	砺波市日詰	52	県	100	250	78~89	41.08
	五郎丸	砺波市五郎丸	60	県	80	250	48~59 65~70	72.54
	水島	小矢部市水島	60	県	80	250	43~49 54~60 65~71	41.21
	布袋	福野町布袋	60	県	80	250	43~54 60~65	60.42
富山地域	江尻	福岡町江尻	60	県	80	250	56~67 72~78	20.46
	下飯野	富山市下飯野	49	県	200	250	106~139	7.11
	奥田北	富山市下新北町	49	県	93	250	65~82	6.44
	山室	富山市山室	57	県	20	250	15~20	29.05
	西の番	富山市西の番	49	県	100	250	50~83	88.96
	三郷	富山市三郷	59	県	150	250	106~139	10.18
	前沢	立山町前沢	49	県	100	250	23~50	63.18
	速星	婦中町速星	53	県	100	250	84~95	14.18
魚津・滑川地域	住吉	魚津市住吉	61	県	50	250	23~34	6.67
	北鬼江	魚津市北鬼江	61	県	70	250	59~71	12.64
	下島	滑川市下島	61	県	80	250	66~77	5.84
	四ッ屋	滑川市四ッ屋	61	県	100	250	65~82	35.48
黒部地域	金屋	黒部市金屋	51	県	150	250	112~134	15.84
	三日市	黒部市三日市	51	県	100	250	51~73	18.85
	五郎八	黒部市五郎八	51	県	50	250	28~45	46.78
	生地	黒部市生地経新	3	県	100	250	85~96	1.30
	青木	入善町青木	51	県	150	250	117~145	25.58
	入膳	入善町入膳	51	県	100	250	73~95	27.63
	小摺戸	入善町小摺戸	51	県	50	250	34~50	69.67
	園家	入善町下飯野	3	県	55	250	40~51	1.92
	月山	朝日町月山新	51	県	100	250	56~78	23.29
水見地域	朝日丘	水見市朝日丘	4	県	80	250	32~38 71~77	5.63
	柳田	水見市柳田	4	県	100	250	79~90	5.48

第8節 廃棄物の現況と対策

1 廃棄物処理の現況

(1) 一般廃棄物の処理

日常生活に伴って生じるごみ、し尿などの「一般廃棄物」については、市町村がその処理計画を定め、行政サービスの一環として処理を行っている。

ア ごみ処理

ごみ処理状況の年度別推移及びごみ処理施設の整備状況は、表2-127及び表2-128のとおりである。

3年度における収集人口は112万5千人で県人口の99.9%を占めている。収集されたごみは年間37万6千tで、そのうち可燃物31万1千t(構成比82.7%)は焼却、不燃物4万6千t(同12.2%)は埋立、その他は資源化有効利用されている。

なお、ごみの焼却施設は、14施設(処理能力1,389t/日)となっている。

また、粗大ごみ処理施設は、富山、新川、砺波、射水の各広域圏と高岡市の合わせて5施設(処理能力225t/日)が整備されている。

表2-127 ごみ処理状況の推移

年 度	総人口(人)	計 画 収 集 区 域							計画収 集人口 率(%)
		人 口(人)	総排出量 (t/年)	収 集 処 理 量 (t/年)				自 家 処 理 量 (t/年)	
				焼 却	埋 立	そ の 他	計		
62	1,126,006	1,125,983	393,677	291,050	62,976	12,770	366,796	26,886	99.9
63	1,125,623	1,125,602	399,375	298,992	64,462	13,260	376,714	22,661	99.9
元	1,124,417	1,124,393	395,989	303,336	63,305	14,768	381,409	14,580	99.9
2	1,124,897	1,124,877	384,883	309,573	42,817	16,846	369,236	15,647	99.9
3	1,124,575	1,124,554	391,965	311,381	45,571	19,283	376,235	15,730	99.9
4 (推計)	1,125,000	1,125,000	391,000	311,000	45,000	20,000	376,000	15,000	100

表2-128 ごみ処理施設の整備状況

(1) ごみ焼却施設

(5年3月31日現在)

広域圏	市町村・事務組合	名 称	型 式	能 力 (t/日)
富 山	滑 川 市	衛生センター	機械化バッチ	35
	上 市 町	清掃センター	"	16
	富山地区広域圏事務組合 (富山市・滑川市・大沢野町・大山町・舟橋村・ 上市町・立山町・八尾町・婦中町・山田村・細 入村)	クリーンセンター	連続	600
高 岡	高 岡 市	環境クリーン工場	"	270
	氷 見 市	西部清掃センター	機械化バッチ	50
	小 矢 部 市	環境センター	"	30
	福 岡 町	環境センター	バッチ	10
新 川	新川広域圏事務組合 (魚津市・黒部市・宇奈月町)	西部清掃センター	機械化バッチ	90
	新川広域圏事務組合 (入善町・朝日町)	東部清掃センター	"	50
砺 波	砺波広域圏事務組合 (砺波市・庄川町・井波町・福野町)	"	準連続	70
	砺波広域圏事務組合 (城端町・井口村・福光町)	西部清掃センター	機械化バッチ	40
	砺波広域圏事務組合 (平村・上平村)	平・上平清掃センター	バッチ	5
	利賀村	鹽芥焼却場	"	3
	射水地区広域圏事務組合 (新湊市・小杉町・大門町・下村・大島町)	射水郷清掃センター	準 連 続	120
計		14 施 設		1,389

(2) 粗大ごみ処理施設

(5年3月31日現在)

広域圏	市町村・事務組合	名 称	型 式	能 力 (t/日)
富 山	富山地区広域圏事務組合 (富山市・滑川市・大沢野町・大山町・八尾町・婦 中町・山田村・細入村・上市町・立山町・舟橋村)	クリーンセンター 南分場	圧 縮	75
高 岡	高岡市	粗大ごみ処理工場	破 砕・圧 縮	50
新 川	新川広域圏事務組合 (魚津市・黒部市・宇奈月町・入善町・朝日町)	宮沢清掃センター	"	40
砺 波	砺波広域圏事務組合 (砺波市・井波町・庄川町・福野町)	東部清掃センター	圧 縮	30
射 水	射水地区広域圏事務組合 (新湊市・小杉町・大門町・下村・大島町)	射水郷清掃センター	破 砕・圧 縮	30
計		5 施 設		225

イ し尿処理

し尿処理状況の年度別推移及びし尿処理施設の整備状況は、表2-129及び表2-130のとおりである。

3年度における衛生処理人口は、くみ取りし尿収集人口43万9千人と水洗化人口64万人を合わせた107万9千人で、県人口の96.0%を占めている。収集されたし尿(浄化槽汚で12万5千kℓを含む。)36万2千kℓは、そのほとんどがし尿処理施設で処理されている。

なお、し尿処理施設は、11施設(処理能力1,074kℓ/日)となっている。

また、水洗便所のし尿は、公共下水道及び浄化槽で処理されているが、浄化槽については水洗化への強い要望から、急激に増加しており、その設置基数も4年度末には約10万8千基となり、年間約2千基の増加をみている。

表2-129 し尿処理状況の年度別推移

年度	総人口(人)	くみとり 便所	水洗便所			衛生処理 人口(人)	収 集 内 訳 (kℓ/年)			処 理 内 訳 (kℓ/年)		
		計画収集 人口(人)	浄 化 槽		公下 共 水道 道 人口(人)		くみとり し 尿	浄 化 槽 汚 泥	計	し尿処理 施 設	公共下水道マン ホール投入	農村還元 そ の 他
			基数(基)	人口(人)								
63	1,125,623	493,140	93,390	370,091	195,317	1,058,548	259,053	108,615	367,668	343,606	24,062	0
元	1,124,417	472,389	98,733	379,490	210,201	1,062,080	247,529	116,033	363,562	339,431	24,131	0
2	1,124,897	455,808	102,817	394,120	223,657	1,073,584	237,803	116,986	354,789	330,183	24,606	0
3	1,124,575	438,726	105,885	397,673	243,094	1,079,493	237,052	124,776	361,828	335,769	26,059	0
4 (推計)	1,125,000	410,000	100,000	410,000	256,000	1,084,000	233,000	124,000	361,000	337,000	24,000	0

表2-130 し尿処理施設の整備状況

(5年3月31日現在)

広域圏	市町村・事務組合	名 称	型 式	能 力 (kt/日)
富山	富山市	つばき園	固液分離	90
	清川市	し尿処理場	消化・活性汚泥	33
	婦中町	衛生センター	活性汚泥	40
	富山県中央衛生 処 理 組 合 (富山市・大沢野町・大 山町・八尾町・細入村)	万 淨 園	消化・活性汚泥	217
	富山県中部衛生 センター組合 (富山市・上市町・立山町)	し尿処理場	活性汚泥	80
高岡	高岡市	四屋下水処理場	消化・活性汚泥	150
	水見市	クリーンセンター	高負荷靱窒素	45
新川	新川広域圏 事 務 組 合 (魚津市・黒部市・入善町・朝日町・宇奈月町)	中部清掃センター	活 性 汚 泥	155
砺波	砺波地方衛生 施 設 組 合 (砺波市・小矢部市・城端町・井波町・庄川町・ 福野町・福光町・福岡町・井口村・利賀村)	砺波衛生組合	消化・活性汚泥	144
	砺波広域圏 事 務 組 合 (平村・上平村)	平・上平 衛生センター	酸 化	4
射水	射水地区広域圏 事 務 組 合 (新湊市・小杉町・大門町・下村・大島町・ 富山市)	射水郷衛生センター	活 性 汚 泥	116
計		11 施設		1,074

(2) 産業廃棄物の処理

2年度の実態調査結果（元年実績）から、工業出荷額等の伸びに基づいて推計すると、3年度において事業活動に伴って排出された量は全体として、701万8千tであり、そのうち自社再利用又は有償売却等の資源化有効利用は、185万tで、残りの516万8千tが法に規定する産業廃棄物となっている。

産業廃棄物発生量を種類別にみると、図2-30のとおり無機汚泥が285万6千t（構成比55.3%）と最も多く、次いで有機汚泥が116万t（同22.4%）、建設廃材が45万5千t（同8.8%）、集じんダストが21万9千t（同4.2%）の順となっており、この4種類で全体の90.7%を占めている。

また、業種別にみると、図2-31のとおり製造業が252万3千t（構成比48.8%）と最も多く、次いで建設業が139万3千t（同26.9%）、電気・ガス・水道業が98万5千t（同19.1%）の順となっており、この3業種で全体の94.8%を占めている。

一方、地域別にみると、図2-32のとおり高岡地域が210万5千t（構成比40.7%）、次いで富山地域が190万4千t（同36.9%）、射水地域が62万1千t（同12.0%）、新川地域が34万8千t（同6.7%）、砺波地域が19万t（同3.7%）の順となっており、高岡地域及び富山地域の両地域で全体の77.6%を占めている。

図2-30 種別別発生量（3年度）

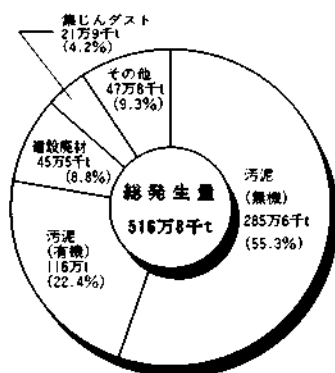


図2-31 業種別発生量（3年度）

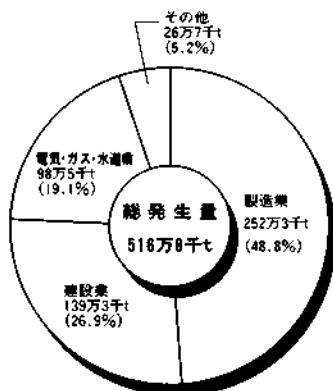
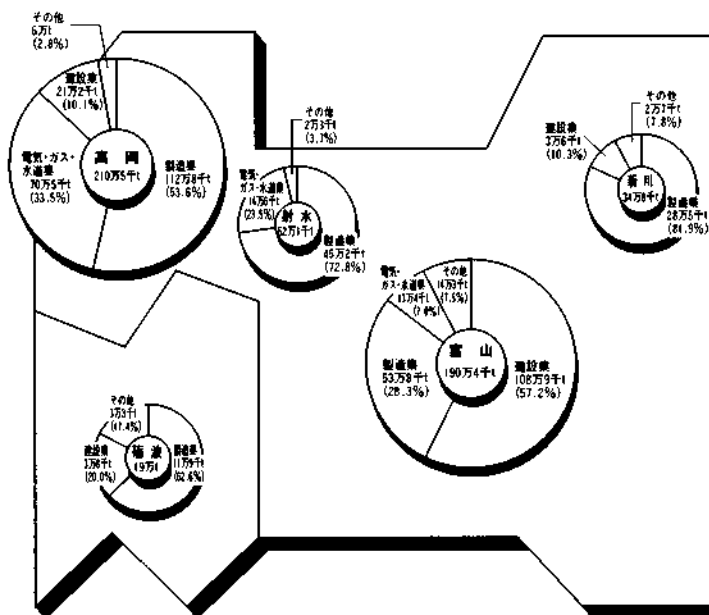


図2-32 地域別発生量（3年度）

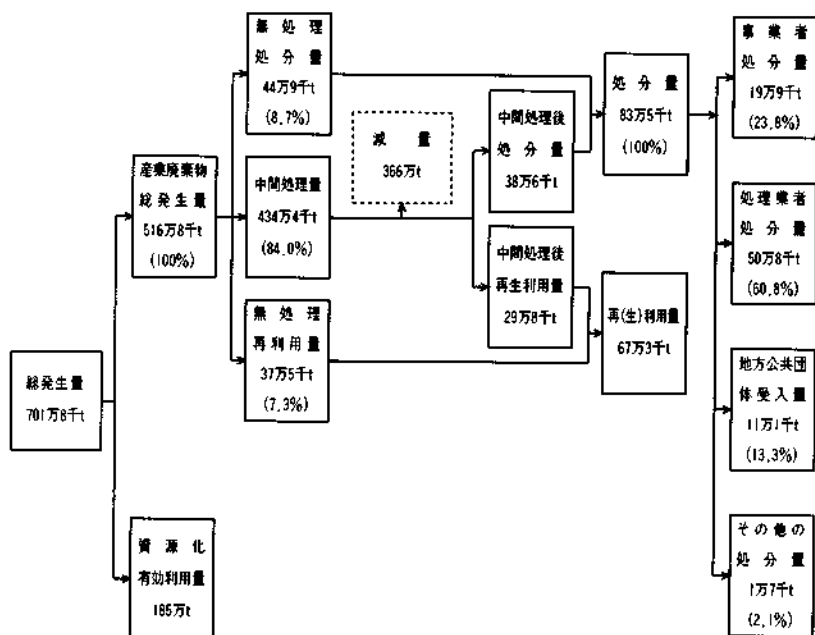


次に、処理処分状況については、図2-33のとおり、産業廃棄物総発生量516万8千tのうち、中間処理(焼却、脱水、乾燥、中和等)されたものは、434万4千t(構成比84.0%)、無処理処分(埋立)されたものは、44万9千t(同8.7%)、無処理再利用されたものは37万5千t(同7.3%)となっている。

また、最終的に再(生)利用されたものは、無処理のものと同中間処理後のものとを合わせた67万3千tであり、埋立処分されたものは83万5千tである。

埋立処分されたものを処分先別にみると、事業者自身によるものが19万9千t(構成比23.8%)、処理業者委託によるものが50万8千t(同60.8%)の順となっており、この両処分地で埋立量の84.6%を占めている。

図2-33 産業廃棄物の処理状況(3年度)



2 廃棄物に関して講じた施策

(1) 法令に基づく規制の概要

ア 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく施策

生活環境の保全と公衆衛生の向上を図ることを目的として、廃棄物を適正に処理し、生活環境を清潔にするため、46年9月24日に法律が制定された。なお、その後3年10月5日に、廃棄物の減量化・再生の推進、廃棄物の適正処理の確保、処理施設の確保を主な柱として法律が大幅に改正され、4年7月4日から施行されている。

㏍ 廃棄物の定義

廃棄物は一般廃棄物と産業廃棄物に区別されている。一般廃棄物とは、ごみ、し尿等産業廃棄物以外の廃棄物をいい、産業廃棄物とは事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸等の法で規定されている19種類のものをいう。

また、一般廃棄物及び産業廃棄物のうち、爆発性、毒性、感染性等人の健康又は生活環境に被害を生じるおそれのある廃棄物を特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物として区分している。

(イ) 処理業の許可

一般廃棄物及び特別管理一般廃棄物又は産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集・運搬又は処分を業として行おうとする者は、それぞれの地域の市町村長又は知事の許可を受けなければならない。

(ウ) 処理基準

廃棄物の処理にあたっては、保管、収集・運搬及び処分の基準に従わなければならない。なお、汚泥、鉋さい等で一定基準以上の有害物質が溶出するものや感染性を有するものなどは、特別管理産業廃棄物として、厳しい基準が設定されている。

(エ) 許可施設

ごみ、し尿の一般廃棄物処理施設及び汚泥処理施設、廃油処理施設等15種類の産業廃棄物処理施設を設置する場合、事前に県知事の許可

を受けることになっている。なお、市町村が設置する一般廃棄物処理施設については、県へ届出することになっている。

(㌥) 施設の技術上の基準

廃棄物処理施設について、維持管理等に関する技術上の基準が規定されている。

(㌦) 廃棄物処理計画

一般廃棄物については、市町村長が「一般廃棄物処理計画」を定め、適正処理の推進に努めている。

また、産業廃棄物については、3年度に改定した「産業廃棄物処理計画」に基づき、監視・指導の強化、減量化及び有効利用の推進、最終処分場の確保等の施策を推進している。

イ 浄化槽法に基づく施策

生活環境の保全と公衆衛生の向上を図ることを目的として、浄化槽の製造、設置、保守点検及び清掃について規制を強化するほか、関係者の責任と義務を明確にするため、60年10月に浄化槽法が施行された。

これに伴い、富山県浄化槽保守点検業者の登録に関する条例を制定し、61年1月から浄化槽保守点検業者の登録を行っている。

(㌧) 設置等の届出

建築物の建築と併せて浄化槽を設置しようとする場合は、特定行政庁に建築確認申請、くみ取り便所を水洗化して浄化槽を設置しようとする場合等には、県知事に届出しなければならない。

(㌨) 保守点検業者の登録等

工事業者、保守点検業者は県知事に登録、清掃業者は市町村長の許可を受けて事業を行わなければならない。

(㌩) 保守点検等の基準

浄化槽の保守点検や清掃は技術上の基準に従って行わなければならない。なお、保守点検の業務は保守点検業者に、清掃の業務は清掃業者に委託することができる。

(㌪) 設置後の水質検査及び定期検査

浄化槽の使用開始後6か月及びその後毎年1回、指定検査機関((社)富山県浄化槽協会)の行う検査を受けなければならない。

(2) 一般廃棄物対策

市町村における一般廃棄物処理施設の過去5年間の整備状況は、表2-131のとおりであり、粗大ごみ処理施設を除き施設の整備をはば完了し、施設の更新や高度化が中心となっている。

また、処理施設の高度化に伴い、市町村及び一部事務組合の技術者を対象として、技術研修会を開催し、技術の向上を図った。

ダイオキシンについては、国において策定した「ダイオキシン類発生防止等ガイドライン」に基づき、市町村に対して焼却炉の燃焼管理や、排ガス処理設備の管理等、ダイオキシンの発生防止対策について指導している。

さらに、ごみの減量化や再生利用の推進を図るため、パンフレットやビデオの作成、ごみ減らしシンポジウムの開催等を行ったほか、4年12月に学識経験者や市町村、事業者代表等で構成する「ごみ減量化・再生利用推進検討会」を設置し、県内におけるごみ減量化等の推進方策を示した指針の策定について検討した。

浄化槽については、放流水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、

表2-131 一般廃棄物処理施設の整備状況

年 度	ごみ焼却施設			粗大ごみ処理施設			埋立処分施設			し尿処理施設		
	施設数	規模	事業主体	施設数	規模	事業主体	施設数	規模	事業主体	施設数	規模	事業主体
63	—	t/日	—	—	t/日	—	—	—	—	1	k/日	氷見市
元	—	—	—	1	40	新川広域圏 事務組合	1	135 167	小矢部市 新川広域圏 事務組合	1	90	富山市
2	1	70	砺波広域圏 事務組合	—	—	—	—	—	—	1	170人	舟橋村*2
3	1	135	富山市*1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	1	270	高岡市	1	75	富山地区広域 圏事務組合	—	—	—	—	—	—

注1 ()内は整備中の施設を示す。

注2 *1は、廃棄物中継・中間処理施設、*2は、コミュニティ・プラントを示す。

設置者に対し講習会を開催し、浄化槽の構造、維持管理方法等正しい知識の普及に努めるとともに、約1,600基の浄化槽の立入調査を実施し、指導の徹底を図った。

また、指定検査機関の財団法人富山県浄化槽協会では約10,600基の浄化槽の検査を実施した。

なお、富山県浄化槽保守点検業者の登録に関する条例に基づく浄化槽保守点検業者は、4年度末で82業者が登録されている。

(3) 産業廃棄物対策

法に基づく産業廃棄物処理業の許可状況は、表2-132のとおり総数は620件であり、収集及び運搬業が526件（構成比84.8%）とほとんどを占めている。

また、特別管理産業廃棄物処理業の許可については、収集及び運搬業の1件のみである。なお、5年6月30日までは、従来の産業廃棄物処理業の許可で特別管理産業廃棄物を取り扱えることになっている。

近年の特色としては、建設廃材の有効利用のため、中間処理（破碎、選別）の許可を取得する事業所が多くなっている。

また、産業廃棄物処理施設の許可（届出）状況は、表2-133のとおりで、全体では170施設であり、内訳は、汚泥の脱水施設が85施設（構成比50.0%）で最も多く、次いで廃プラスチック類の焼却施設31施設、最終処分場（安定型、管理型）の29施設の順となっている。

これらの産業廃棄物の処理業者や排出事業所等については立入検査を実施し、適正処理を指導するとともに、減量化や再利用の促進及び処理業者

表2-132 産業廃棄物処理業の許可状況

（5年3月31日現在）

許可区分	収集及び運搬	中間処理		最終処分				計
		中間処理	収集・運搬及び中間処理	収集・運搬及び最終処分	中間処理及び最終処分	収集・運搬、中間処理及び最終処分	最終処分のみ	
産業廃棄物	526	30	47	6	1	7	3	620
特別管理産業廃棄物	1	0	0	0	0	0	0	1

の育成を図っている。

4年度の監視指導状況については、表2-134のとおりであり、産業廃棄物の処理業者及び排出事業者等233事業所を立入調査し、そのうち10事業所に対して適正処理等について改善の指導を行った。

表2-133 産業廃棄物処理施設の許可(届出)状況

(5年3月31日現在)

施 設	処 理 能 力	施設数	施 設	処 理 能 力	施設数	
汚 泥 の 脱 水 施 設	10m³/日以上	85	廃プラスチック類の焼却施設	0.1t/日以上	31	
汚 泥 の 乾 燥 施 設	10m³/日以上	3	有害物質等のコンクリート固型化施設	すべてのもの	3	
汚 泥 の 焼 却 施 設	5 m³/日以上	8	汚泥等に含まれるシアン化合物の分解施設	すべてのもの	1	
廃油の油水分離施設	10m³/日以上	4	最終処分場	安 定 型	3,000m²以上	15
廃油の焼却施設	1 m³/日以上	3		管 理 型	1,000m²以上	14
廃酸又は廃アルカリの中和施設	50m³/日以上	2	計			170
廃プラスチック類の破碎施設	5 t/日以上	1				

表2-134 産業廃棄物関係の立入検査状況 (4年度)

区 分	産 業 廃 棄 物処理業者	内 訳			排 出 事 業 所	計
		収集及び搬運	中間処理	最終処分		
立入検査数	115	24	35	56	118	233
指導件数	5	0	2	3	5	10

第9節 自然環境保全の現況と対策

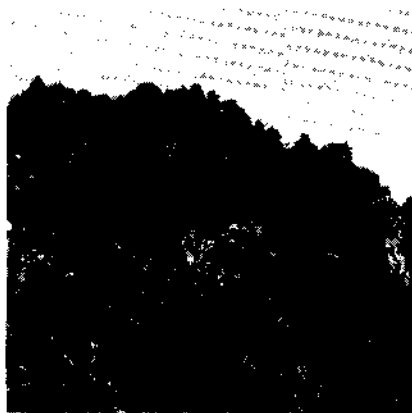
1 自然環境保全の現況

「自然環境の保全は、自然環境が人間の健康で文化的な生活に欠くことのできないものであることにかんがみ、広く国民がその恵沢を享受するとともに、将来の国民に自然環境を継承することができるよう適正に行わなければならない。」という基本的理念に立脚して、法律や条例などに基き次のような諸施策を講じている。

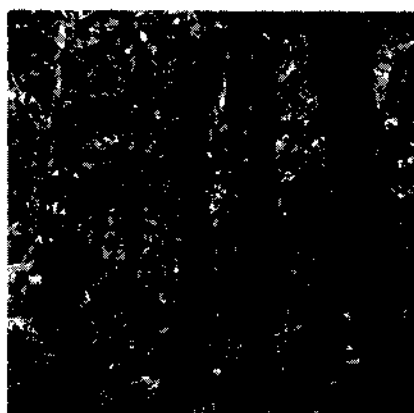
(1) 自然環境保全地域等

自然環境の適正な保全を推進し、もって現在及び将来の県民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的として、富山県自然環境保全地域を指定している。現在までの指定状況は表2-135のとおりである。

また、指定すると同時にその地域の保全計画も併せて策定し、順次保全事業を実施し、その保全を図っている。



日 尾 御 前



山 の 神

表2-135 自然環境保全地域の指定状況

(5年3月31日現在)

名 称	場 所	面 積 (ha)	指 定 年 月 日	特 別 地 区 指 定 年 月 日	野 生 動 植 物 保 護 地 区 指 定 年 月 日	主 な 保 全 対 象
沢杉自然環境保全地域	下新川郡入善町吉原	2.7 (2.7)	48年10月20日 県告示 1,037号	51年12月25日 県告示 1,234号		黒部川末端扇状地の伏流水とサワスキ等の植生
縄ヶ池・若杉自然環境保全地域	東砺波郡城端町大堀屋敷	315.7	48年10月20日 県告示 1,037号			低山帯における池沼湿原のミズバショウ及びブナ、ミズナラの天然林
愛本自然環境保全地域	下新川郡宇奈月町中ノ口他	11.8 (1.9)	51年6月1日 県告示 548号	51年12月25日 県告示 1,234号		黒部川扇頂部の地形とウラジロガシ林
東福寺自然環境保全地域	滑川市東福寺他	71.5	51年6月1日 県告示 548号			河岸段丘等の地形と安山岩で形成された節理の露頭
神通峡自然環境保全地域	婦負郡細入村片掛他 上新川郡大沢野町寺津他	152.7 (45.0)	51年6月1日 県告示 548号	51年12月25日 県告示 1,234号		神通川のV字峡谷とウラジロガシ、アカシゲ林
深谷自然環境保全地域	婦負郡八尾町深谷	8.5 (1.8) (1.8)	53年7月11日 県告示 717号	53年12月14日 県告示 1,305号	53年12月14日 県告示 1,306号	オオミズゴケ、モウセンゴケ等の湿性植物の群生地とハッチョウトンボの生息地
山の神自然環境保全地域	東砺波郡利賀村岡別当	12.5 (12.5)	54年8月7日 県告示 934号	55年1月5日 県告示 1号		ブナ、ミズナラの天然林
池の尻自然環境保全地域	魚津市ニヶ	1.4 (1.4)	56年1月17日 県告示 23号	56年2月12日 県告示 116号		県内最大のミズバショウの純群落と、モリアオガエル、クロサンショウウオの繁殖地
日尾御前自然環境保全地域	婦負郡八尾町内名	34.9 (34.9)	56年11月26日 県告示 1,210号	56年11月26日 県告示 1,212号		安山岩質凝灰岩の特異な地形とすくれた天然林
常楽寺自然環境保全地域	婦負郡堀中町千里	11.0 (0.7)	61年7月9日 県告示 1,046号	61年10月17日 県告示 1,567号		低山丘陵地帯にあるウラジロガシの天然林
谷内谷自然環境保全地域	東砺波郡利賀村百瀬川	1.1 (0.2) (0.2)	61年7月9日 県告示 1,046号	61年10月17日 県告示 1,567号	61年10月17日 県告示 1,568号	低山帯におけるオオミズゴケを中心とする湿性植物の群生地
計	11 地 域	623.8 (101.1) (2.0)				

注 ()内は特別地区面積、()内は野生動植物保護地区面積。

一方、工場の進出や市街地の過密化によって生活環境に影響があると思われる富山港臨海工業地帯を、50年4月17日に岩瀬環境緑化促進地域として指定し、緑豊かな街づくりをめざし、関係機関の協力を得て、緑化を推進している。

表2-136 環境緑化促進地域の指定状況

(5年3月31日現在)

名 称	場 所	面 積	指 定 年 月 日
岩瀬環境緑化促進地域	富 山 市 岩 瀬 他	1,160ha	50年4月17日

(2) 自然公園等

本県には、自然公園法に基づいて指定されている国立公園、国定公園、県立自然公園の3種類の自然公園とこれらに準ずる地域として県の規則に基づいて指定されている県定公園があり、その現況はつぎのとおりである。

ア 自然公園

本県は、平野部が都市や農耕地として開発されているのに対して、これを東、南、西の三方から取り囲む山岳地は標高が高く、特に東部から南部にかけては、地形が峻険であるため、豊かな自然が十分に残されている。また、県東部及び西部の富山湾沿岸一帯も、かなり人手が加わっているが、自然景観に恵まれた地域である。これらの優れた自然風景地を保護し、またこれを国民の保健、休養、教化の場として適正な利用を推進するため、表2-137のとおり8か所の自然公園が指定されている。

表2-137 自然公園の概要

(5年3月31日現在)

区分	名 称	面 積 (ha)	左のうち 特別地域 面積 ※ (ha)	指 定 年 月 日	関 係 市 町 村
国立公園	中部山岳	76,431	73,837※	9年12月4日	朝日町、宇奈月町、 魚津市、上市町、 立山町、大山町
	白 山	2,742	2,742※	37年11月12日	上平村
	小 計	79,173	76,579※		
国定公園	能登半島	1,005	964※	43年5月1日	高岡市、氷見市
県立自然公園	朝 日	9,623	9,355	48年3月13日	朝日町
	有 峰	11,600	11,600	"	大山町
	五 箇 山	3,856	3,275	"	平村、上平村
	白木水無	11,554	6,473	49年3月30日	八尾町、利賀村、 平村
	医王山	2,943	1,548	50年2月22日	福光町
	小 計	39,576	32,251		
合計	8 か 所	119,754	109,794※		

注 ※は、特別保護地区を含む。

(ア) 国立公園

中部山岳国立公園は剣岳、立山、薬師岳等の山岳、弥陀ヶ原、五色ヶ原、雲の平等の溶岩台地、称名、黒部に代表される峡谷等地形の変化に富み、地獄谷、祖母谷、黒薙等の温泉なども見られ、これを彩る高山植物群落や原生林、そこに生息する野生鳥獣、昆虫の種類も極めて豊富である。

公園の大半が特別地域に指定（13年）されて景観の保護が図られ、さらに、特別地域のうち主な山陵部、峡谷等は、特別保護地区に指定（40年）され、厳正に保護されている。

白山国立公園には、上平村の西部の一部が含まれており、庄川支流境川の溪谷と、これを取り囲む大門山、大笠山、笈ヶ岳等石川・岐阜県境部の山岳地帯が全域特別地域（特別保護地区を含む。）に指定（37年）され、景観の保護が図られている。

法的には、かなり厳しい保護規制下におかれてはいるが、現実には、国立公園の自然環境保護上、種々の問題が顕在しつつある。特に、中部山岳国立公園のうち、立山黒部アルペンルートの沿線一帯においては、46年6月の同ルートの全線開通以来、利用者の急激な増加に伴い、宿泊施設からの雑排水の流出、利用者によるゴミ、残飯等の投棄や高山植物帯の踏み荒し等の行為がみられるようになった。また、48年頃から室堂や弥陀ヶ原等の車道沿線に外来牧草等のこの地域としてはふさわしくない植物が目立つようになった。これらの現象は、放置すれば立山一帯の自然生態系に悪影響を及ぼすことが考えられる。このようなことから公園利用に伴う自然環境へのインパクトを極力軽減するため、公園管理面で地道な努力を積み重ねる必要がある。また、今後、これら自然環境の変化を適確に把握するための科学的調査を継続し、その結果を踏まえた各種保全対策を積極的に推進する必要がある。

(イ) 国定公園

県北西部富山湾沿岸の二上山、雨晴、島尾、灘浦海岸とその地先海面が、能登半島国定公園に指定（43年）されている。陸域は一部を除

いて大半が特別地域（蛇ヶ島特別保護地区を含む。）となっており、自然景観保護と各種行為との調整が図られている。

(ウ) 県立自然公園

朝日、有峰、五箇山、白木水無及び医王山の5地区が、富山県立自然公園条例に基づき指定されている。区域の大半が特別地域となっており、自然景観保護と各種行為との調整を図っている。

a 朝日県立自然公園

県東部の宮崎海岸、城山から黒部川支流の北又谷に至る海岸、丘陵、山岳、溪谷等の地形と自然景観の変化に富んだ公園である。特に北部城山からの海岸線の眺望及び南部北又谷の峡谷美と原生林の景観は、当公園の圧巻である。利用形態も魚釣、海水浴、温泉、野営、自然探勝、登山と幅広く、あさひ国民休養地を中心に年間約43万人の利用者がある。耕地、集落地を除く大部分が特別地域となっている。

b 有峰県立自然公園

県下最大の湛水面積をもつ有峰湖（発電用人造湖）を取り囲む山地と歙崎山を含む一帯である。広大な湖水景観と湖畔からの薬師岳等立山連峰の眺望が優れている。ダムサイトの猪根平には、国民休養地が整備されているとともに、青少年の家や有峰記念館、ビクターセンターがあつて、有峰地区の利用拠点になっており、年間約12万人の利用者がある。また、現在、大規模林道高山・大山線の整備が進められている。

c 五箇山県立自然公園

庄川上流部に臨む平・上平村一帯で、自然環境に恵まれ、庄川の溪谷美と合掌造り集落や民謡、伝説、踊り等有形、無形の文化財が多い。相倉に国民休養地、菅沼に青少年旅行村が設置され、利用拠点として整備されている。国道の改良で交通の便が良くなり、年間約60万人の利用者がある。集落地、耕地等を除き、大部分が特別地域となっている。

d 白木水無県立自然公園

県南部飛越国境にまたがる1,000mから1,800mの高原性山地とその山麓部を区域とした公園である。白木峰、金剛堂山、水無山、三ヶ辻山、人形山等の山陵部には亜高山帯の自然景観が展開しており、高茎草原地帯の所々に高層湿原が発達している。各山頂部からは北アルプスや白山々系の眺望に優れ、また、水無山西麓湿原のミズバショウ群落は貴重である。年間約3万人の利用者がある。区域の半分が特別地域となっている。

e 医王山県立自然公園

県西部の県境部にそびえたつ医王山塊東面とその山麓一帯が区域となっている。最高地点は海拔939mの奥医王山で南北に緩く東西に急傾斜をなしている。山麓部はスギの造林地が多いが500m付近から上部はナラ類、ツツジ類等の自然林となり、山頂部は風衝現象による変化の多い植生が見られる。日本海の遠望や砺波平野の散居村の眺望に優れている。従来から年間約3万人の利用者があったが、スキー場の開設により、利用者は飛躍的に増大した。区域の半分が特別地域に指定されている。

イ 県定公園

県立自然公園に次ぐ県内の優れた風景地のうち、比較的用户の多い地域が県定公園として12か所指定されている。

県定公園の区域内では、特に行為の規制はなく、関係市町村がその責任において、公園としての管理を行っている。

各公園の概要は、表2-138のとおりである。

表2-138 県定公園の概要

(5年3月31日現在)

名 称	面積(ha)	指定年月日	関係市町村	備 考
神通峡	1,160	42年10月7日	大沢野町、細入村	
呉羽丘陵	487	"	富山市	一部都市公園と重複
高岡古城	22	"	高岡市	都市公園と重複
俱利伽羅	758	"	小矢部市	
庄川峡	835	43年4月16日	庄川町	一部都市公園と重複
大岩眼目	2,880	44年10月25日	上市町	
松倉城跡	1,083	4年3月26日	魚津市	
増山城跡	345	"	砺波市	一部都市公園と重複
夢の平	221	"	砺波市	
稲葉山峡	757	"	小矢部市	
桜ヶ池	485	"	城端町	一部都市公園と重複
八乙女山 八乙女寺	633	"	井波町、庄川町	"
計	9,666			

(3) 県民公園

県民公園は、表2-139のとおり、富山、高岡、新湊、砺波、婦中、小杉、大門及び大島の8市町にまたがる面積約2,600haの県民公園地域内において設置された、都市公園及び自然風致公園である。また、これらの県民公園と有機的かつ一体的に機能を図る公園その他のレクリエーション施設として中央サイクリングロード等が指定公園となっている。

この射水丘陵を中心とするこの地域の自然環境は、都市地域から近い割には、比較的良好な状態に保たれている。

ア 県民公園新港の森

県民公園新港の森は、公害の防止のための緩衝緑地を確保するとともに、休息、散歩、遊戯、運動等総合的なレクリエーションの場として利用されることを目的とした都市公園である。51年度からグリーンベルト造成事業として公害防止事業団が整備を行い、57年10月に一部開園、58年4月に庭球場が、7月に野球場や陸上競技場がオープンし、年間約18万人に利用されている。

表2-139 県民公園の現況

(5年3月31日現在)

名 称	種 別	規 模	設 置 の 目 的	主 要 施 設	現 況
県民公園新港の森	都市公園	面積 25ha	公害の防止のための緩衝緑地を確保するとともに、県民に休息・散歩・遊戯・運動等総合的なレクリエーションの場を提供すること。	園路、芝生広場、植栽地、野球場、陸上競技場、庭球場	57年10月開園 (庭球場: 58年4月供用開始) (野球場、陸上競技場: 58年7月供用開始) 年間利用者 18万人
県民公園太閤山ランド	都市公園	面積 117ha	県民に休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的なレクリエーションの場を提供すること。	・水辺のゾーン 入口広場、中央広場(百年の泉)、公園管理センター ・こどもの国ゾーン プール広場、ピクニック広場、わんぱくの丘、こどもみらい館 ・スポーツゾーン スポーツ広場、ファミリー・スポーツグラウンド、ふるさとパレス、JETタワー	58年7月開園 年間利用者56万人
県民公園頼成の森	自然風致公園	面積 110ha	県民に森林を生かした休養の場を提供すること。	・樹木園地、遊歩道 ・芝生広場、水生植物園	50年4月開園 年間利用者 20万人
県民公園自然博物館 (自然博物館センター)	自然風致公園 (指定公園)	面積 12.9ha (0.8ha)	県民に自然に関する学習の場を提供すること。	・フィールド 野鳥の庭、かんさつ広場、自然かんさつ路、休けい広場 ・展示館	56年6月開園 年間利用者 4~5万人
県民公園野鳥の園	自然風致公園	面積 73ha	野鳥の保護を図るとともに、県民に自然の探勝の場を提供すること。	・遊歩道	60年10月開園
中央サイクリングロード	指定公園	延長 15km (3.7km連絡路除く。)	県民公園と有義のかつ一体的に機能する公園その他のレクリエーション施設として指定	サイクリングセンター 休憩所、便所、水呑場	富山一小杉間: 49年4月開通 富山市花ノ木から小杉間に遊歩道を併設 小杉一大門間: 52年4月開通 年間利用者 1~2万人
いこいの村	指定公園	面積 16.5ha		本館、芝生広場、リンリンコース、こどもの丘、冒険の谷、水生庭苑	54年5月開村 年間利用者 18万人
公園街道		延長 19km	県民公園を結ぶ自然歩道	標識、休けい広場	58年4月開通
県民公園地域		面積 約2,600ha			

イ 県民公園太閤山ランド

県民公園太閤山ランドは、県民の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的なレクリエーションを目的とした都市公園である。「集い楽しむ」をテーマに、北陸最大のプール広場のあるこどもの国ゾーンや、トリムコースやユニークな多目的体育館のあるスポーツゾーンなどの整備が進められ、58年7月に開園し、年間約50万人に利用されている。

4年度には第1回ジャパンエキスポ富山'92が開催された。

ウ 県民公園頼成の森

県民公園頼成の森は、44年に開催された全国植樹祭会場を中心に、保

健康休養林として整備を行い、50年に開園以来、森林に親しみながら休養する場として年間約20万人に利用されている。立山の美女平とともに「森林浴の森100選」に選ばれ、縦横に延びた遊歩道を利用し森林浴や野鳥観察の場として活用されている。

また、平成4年にサンクンガーデン方式を導入した水生植物園が開園し、公園内の大きな利用拠点となっている。

エ 県民公園自然博物館

県民公園自然博物館は、「自然に親しむ、自然に学ぶ、自然を守り育てる」をテーマに、56年に開園し、「ねいの里」の愛称で親しまれており、年間約4～5万人の利用者が訪れている。この中には、全国的にもユニークな自然博物館センターの展示館や鳥獣保護センター等の施設や自然かんさつ路で巡るフィールドがあり、自然保護教育、環境教育の拠点として活用されている。

オ 県民公園野鳥の園

県民公園野鳥の園は、富山市三ノ熊地内の古洞池周辺において水鳥や渡り鳥を中心とする野鳥の保護を図るとともに、都市近郊にあって手軽に野鳥観察や自然探勝のできる場として60年に開園した。この中には、池を望みながら散策できる観察路がある。

カ 指定公園

指定公園では、自然博物館センターのほか、宿泊施設の整った「いこいの村」が54年に開かれており、年間18万人を越える利用者が訪れ、隣接する県民公園自然博物館との有機的な利用が図られている。

また、中央サイクリングロードは、52年に富山～大門間15kmが開通し、富山、大門の両センターに貸自転車を備え、県民に利用されてきているが、太閤山ランドがオープンしたことに伴い、関係施設が整備されている。

キ 公園街道

公園街道は県民公園の太閤山ランドから野鳥の園、自然博物館、頼成の森を結ぶ延長19kmの自然歩道として58年開通し、自然観察のための遊歩道として利用されている。

(4) 立山山麓家族旅行村

立山山麓家族旅行村は、立山山麓観光レクリエーション地区整備計画の一環として、大山町本宮地内で、恵まれた自然の中で家族連れやグループで手軽にレクリエーション活動を楽しみながら自然に親しむことができるよう施設整備を進めてきたもので、56年7月に開村した。

53年度から55年度までは、運輸省の補助事業を中心に、それ以後は県単独事業で施設の充実に努めているが、4年度までに整備された施設の概要は表2-140のとおりである。

大品山自然歩道、県営ゴンドラ、山野スポーツセンター等の周辺施設とともに四季を通じて利用され、年間8～10万人の利用者が訪れている。

表2-140 立山山麓家族旅行村の主要施設

地 区	主 要 施 設
中央管理地区	管理棟(鉄筋コンクリート平屋建、343m ²)、休憩所(合掌造)、駐車場(60台収容)、芝生広場(7,890m ²)、イベント広場
ファミリー広場	芝生広場(5,069m ²)、遊水池
野 外 広 場	テントサイト(6人用60張分)、野外ステージ、バーベキュー卓、炊事棟、多目的ハウス、トリムコース、シャワー棟
チビッコ広場	芝生広場(2,200m ²)、石の山、遊水池、パークゴルフコース
宿泊施設地区	ケビン(4人用15棟、8人用5棟)、バーベキュー卓
森 の 広 場	芝生広場(9,200m ²)、フィールドアスレチック、展望広場、ロックガーデン



ケ ビ ン



多 目 的 ハ ウ ス

2 自然環境保全に関して講じた施策

(1) 自然環境保全地域の保全及び管理

地域指定に際して策定された保全計画に基づき、4年度では、つぎのとおり保全と管理のための事業を実施した。

ア 巡視員の配置

4月から11月まで各自然環境保全地域に巡視員を配置し、各地域の管理を行った。

イ 保全事業

沢杉、愛本、池の尻の各自然環境保全地域において標識の設置を行った。

(2) 自然公園等の保護及び管理

ア 国立公園

(ア) 許認可

自然公園法に基づく4年度中の工作物の新築等に係る許認可取扱状況は、表2-141のとおりである。

表2-141 工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）

（単位：件）

国立公園	許 可		認 可(承認)	計
	大 臣	知 事		
中部山岳	14	31	24	69
白山	0	9	1	10
計	14	40	25	79

(イ) 現地管理

中部山岳国立公園一帯においては、春から秋にかけて利用者が集中する室堂及び劔沢地区に管理職員が常駐（室堂地区4月～11月、劔沢

地区 6 月～10 月)し、自然保護パトロール、施設の維持管理、登山者、キャンパー等の利用者指導を行った。特に室堂については、立山自然保護センターが現地管理の中核基地としての機能を発揮した。

(ウ) 美化清掃

国立公園利用者及び事業者の美化意識の向上を図るため、N. P. C. (ナショナルパーククリーン)作戦により、ゴミ持ち帰り運動を一層推進するキャンペーンとして、ゴミ袋、ポスター、タバコの吸い殻入れ等を配布するとともにターミナル等のゴミ箱の数を半減した。

なお、立山黒部環境保全協会は前年度に引き続きゴミ持ち帰り運動を展開した。その中心行事として、8 月21日と10月23日に立山美化清掃大会を開催して利用者に対しても参加を呼びかけ、国立公園の自然保護及び美化意識の高揚に努めた。

(エ) 植生復元事業

室堂地区において、現地の植物による植生復元工事を行った。

(オ) 山岳遭難防止等

12 月 1 日から翌年 5 月15 日までの登山届出条例適用期間において、剋岳一帯での遭難事故を防止するため、馬場島をはじめ各主要地点に登山指導員を配置し、登山届出内容のチェック、装備、行程等の指導、現場の登山者との緊急連絡に当たった。

4 年12 月 1 日から 5 年 5 月15 日までの条例に基づく届出件数及び事故発生状況は、表2-142のとおりである。

また、春山スキー(4 月～5 月)、初滑り(11 月)の両シーズンには、室堂を中心に指導員を配置し、スキーヤーによる遭難事故防止や環境保全に努めた。

なお、夏の利用最盛期には、剋沢(7 月20 日～8 月20 日)と雷鳥沢(7 月15 日～8 月25 日)に山岳診療所を開設して、負傷者や急患の診療を行った。そのほか、県山岳遭難対策協議会の事業(遭難対策無線の充実、アマチュア無線局の新設及びテレフォンサービス等)に対し、県費助成を行った。

表2-142 登山届出及び遭難事故の概要

(4年12月1日～5年5月15日)

区 分	12月1日 ～2月15日	2月16日 ～4月15日	4月16日 ～5月15日	合 計
登 山 届	64パーティー (280人)	15パーティー (59人)	146パーティー (709人)	225パーティー (1,048人)
遭 難 事 故	1人死亡		1人重傷	1人死亡 1人重傷

(カ) 立山道路のマイカー規制

立山一帯の貴重な自然環境の保護を目的として環境庁の方針に基づき、県道富山立山公園線（桂台～室堂）へのマイカー乗り入れ禁止を従来どおり継続した。

(キ) 高山蝶の保護対策

薬師岳及び後立山連峰周辺に生息する高山蝶（タカネヒカゲ等）を保護するため、標識等による啓発やパトロールを行った。

(ク) 立山マウントピア構想

立山黒部アルペンルートの利用者サービスのあり方を見直すとともに、立山カルデラの適正な保護と利用の方策について検討を行った。

イ 国 定 公 園

(ア) 認 許 可

自然公園等に基づく4年度中の工作物の新築等に係る許認可取扱状況は、表2-143のとおりである。

表2-143 工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）

(単位：件)

国 定 公 園	許 可(協議)	認 可(承認)	計
能 登 半 島	14	1	15

(イ) 美化清掃、施設維持管理等

雨晴野営場、雨晴、島尾、大境駐車場、大境ビジターセンター等の維持管理に努めた。また、8月2日、全国統一の自然公園クリーンデーに呼応し、ゴミの持ち帰り運動の実施など、美化清掃活動を行った。

ウ 県立自然公園

(ア) 許 認 可

県立自然公園条例に基づく4年度中の工作物の新築等に係る許認可取扱状況は、表2-144のとおりである。

表2-144 工作物の新築等に係る許認可取扱状況（4年度）

（単位：件）

県立自然公園	許 可(協 議)	認 可(承 認)	計
朝 日	3	0	3
有 峰	2	0	2
五 箇 山	0	0	0
白 木 水 無	4	0	4
医 王 山	5	1	6
計	14	1	15

(イ) 美化清掃、施設維持管理

7月5日、公園区域内の各利用拠点において、ごみの持ち帰り運動を行うとともに、既整備の公園施設等の美化清掃等維持管理を関係町村と協力して実施した。

エ 県 定 公 園

県定公園の管理は、県定公園規則の主旨にのっとり、関係市町村において行った。

(3) 自然公園等の施設整備

自然公園は、優れた自然の風景地を保護するとともに、自然環境を適正に利用することによって、国民及び県民の保健、休養、教化の場として役立てることを目的としている。

この趣旨に沿って公園事業として各公園で施設の整備を実施してきた。4年度中に整備した施設は、表2-145のとおりである。

表2-145 主たる施設整備実績（4年度）

公園名	地区名	公園事業名	事業内容						公共便所
			園地	野営場	歩道	駐車場	避難小屋	管理事務所	
中部山岳国立公園	宝室集団施設地区	宝室園地	標識整備						
	奥黒部地区	薬師峠野営場							公共便所新築
	立山周辺地区	朝沢野営場							公共便所新築
		太郎山三保連敷山線歩道			L=1500m				
		立山登山線歩道							別山乗越公共便所改修
		折立園地							公共便所改修
	朝日岳地区	イブリー山朝日岳線歩道			夕日ヶ原 L=1,000m				
	奥黒部地区	黒部湖五色ヶ原線歩道			五色ヶ原 L=1,000m				
	奥黒部地区	折立太郎山線歩道			折立～太郎山 L=2,000m				
	高岡市地区	南畠園地							公共便所改修
お民さの森公園	朝日町地区	あさひ園地							公共便所改修

(4) 県民公園の整備

県民公園頼成の森では、園内道路の整備を進めるとともに花しょうぶ園を拡大し、水生植物園として整備した。

(5) とやまの滝の整備

とやまの滝等選定委員会において選定された「とやまの滝」について歴史文化にはぐくまれた景勝の地としてさらに自然との語らいの空間として親しんでいただくために滝の周辺の整備を進めた。

(6) 野生鳥獣の管理

ア 野生鳥獣の保護と生息数調査

(ア) ライチョウの保護対策

特別天然記念物であり、県鳥でもあるライチョウの保護対策には、特に力を入れている。調査と保護事業の実績は、次のとおりである。

a 生息数調査

47年度から、北アルプスの主要山岳において、順次ライチョウの生息数をカウントしているものである。4年度は赤牛岳で調査を実施し、630haにおいて68羽の生息を確認した。現在まで20山岳、11,970haにおいて1,296羽を確認している。

b 生息環境調査

生息数調査と同一の山域において、植生、生息鳥獣、天敵等を調査している。生息数調査と生息環境調査は、万一ライチョウの生息数や生息に変化が起きた場合、調査時の状況と現況を比較し、保護対策を決定するための資料とするものである。

c 生態調査

51年度から、立山の浄土山から室堂にかけての一带で、ライチョウの繁殖状況、社会行動等を追跡調査している。

d 冬山調査

夏期に、ライチョウ保護に万全を期しても、越冬地や冬期の採餌場が保全されていなければライチョウは生息できなくなる。

このため、53年度から冬期の植物の露出地や越冬地を調査している。

e 保護柵設置

観光客、登山者の多い立山、薬師岳、朝日岳において、登山道外への踏み込み防止の保護柵（延長9.7km）を48年度から53年度に設置し、この維持管理に努めた。

f スキー規制

50年度から、ライチョウの繁殖期（5月20日～7月31日）に、立

山の一部の地域(室堂山周辺100ha)においてスキー行為を規制している。

g 病 理 検 査

ライチョウの糞便検査による汚染調査を行っている。

h そ の 他

ライチョウ保護のため、保護管理員4名を立山、朝日岳、薬師岳、剋岳に配置し、パトロール等を実施した。

(i) 鳥獣保護員の配置

鳥獣保護員を県内に50名配置し、鳥獣保護の実施と啓発を図った。

(ii) 鳥獣保護区の管理

県内33か所の鳥獣保護区において区域表示のための制札の整備や管理を行った。

(エ) 工作物の許可

鳥獣保護及び狩猟ニ関スル法律に基づく4年度中の鳥獣保護区特別保護地区の工作物の新築等に係る許可取扱状況は表2-146のとおりである。

表2-146 工作物新築等に係る許可取扱状況(4年度)

(単位:件)

鳥 獣 保 護 区	許 可
国 設	2
県 設	—
計	2

(オ) 愛鳥思想の普及啓発

5月10日からの愛鳥週間に際し、表2-147のとおり各種の行事を開催し、愛鳥思想の普及啓発に努めた。

(カ) 鳥獣の保護・増殖

野鳥の多くすんでいる森に小学生の手により巣箱を架設した。

傷病鳥獣や幼令鳥獣の救護と野化訓練を富山県鳥獣救護の会に委託

し、実施した。近年、自然保護、鳥獣保護思想の普及とともに、救護事業は増加の一途をたどっている。

また、日米、日ソ、日蒙、日中の渡り鳥保護条約の実効を高めるため、カスミ網による渡り鳥の密猟の取締りを実施した。

近年の野生動物の生息状況並びに略奪狩猟から管理狩猟への移行にあわせて、キジの放鳥を休猟区を中心に実施した。

(※) 有害鳥獣の駆除

人と野生鳥獣とが、同じ土地に共存している現状から、人畜や農林業に被害を与える鳥獣の駆除は避けられない現状である。4年度には表2-148のとおり鳥獣を捕獲し、人畜の危害防止と農林作物の被害の軽減を図った。

表2-147 愛鳥週間行事（4年度）

月日	行 事 名	場 所	行 事 内 容	備 考
5月10日(日)	探鳥の日	富山市三ノ熊 野鳥の園 (古瀬池)	・愛鳥思想の普及と体験のため、広く一般の方を対象にバードウォッチングを開催した。 指導者 富山県バードマスター及び野鳥保護の会会員	
5月11日(月)	野鳥友の日	富山県木材利用 普及センター(ウ ッドリム富山)	・野鳥をモチーフとした彫刻を、専門家の指導により行い野鳥への関心を高めた。	
5月12日(火)	ツバメの日	県 下 全 域	第22回ツバメ調査の実施 ・県下一斉に小学校6年生の豆調査員により、ツバメの生息調査を実施し、ツバメの巣のある家に「ツバメのお宿」シールを貼った。	調査日 小学校 246校 (内、分校5) 生徒 16,000人
5月13日(水)	野鳥愛護表彰の日	県 庁 4 階 大ホール	・自然保護功労者、野生生物保護功労者、愛鳥ボ スター及び標語入選者等の表彰式 自然保護功労者 1個人 野生生物保護功労者 1団体 2個人 愛鳥ボスター 69点 愛鳥標語 9点	入選ポスター展示 CIC5階いきいきKAN 5月10日～15日 ねいの里 (自然博物館) 5月20日～6月20日
5月14日(木)	学校愛鳥の日	黒 部 市 立 東布施小学校	平成4年度愛鳥モデル校指定証の伝達式 黒部市立東布施小学校を指定 児童が、愛鳥活動について発表した。 また、教護鳥の里帰り(放鳥)と、実のなる木を植栽した。	
5月15日(金)	野鳥観察の日	呉 羽 山 一 帯	・富山女子短期大学幼児教育学科の学生を対象に、野鳥を中心とした自然教室を開き、野外教育のあり方を体験した。 参加者 95名 指導者 富山県バードマスター	
5月16日(土)	野鳥相談の日	繰 中 町 住 吉 自然博物館 「ねいの里」	・野鳥教護、野鳥を庭に呼び寄せる方法、巣箱や給餌台の作り方、バードウォッチングの楽しみ方などについて「野鳥相談所」を開設し、電話相談を行った。	

表2-148 有害鳥獣駆除状況（4年度）

種 類(鳥類)	捕 獲 数(羽)	種 類(獣類)	捕 獲 数(頭)
カ ラ ス	2,840	ノ ウ サ ギ	182
ス ズ メ	3,245	ク マ	35
ド バ ト	2,962	サ ル	67
ム ク ド リ	1,082	そ の 他	15
カ ル ガ モ	177		
そ の 他	164		
計	10,470	計	299

(ク) 野生鳥獣の調査

ライチョウの各種調査は前述のとおりであるが、このほかに次のような調査を実施している。

愛鳥週間の初日にあたる5月10日にツバメの調査を実施し、39,319羽の成鳥を確認した。

また、環境庁の全国一斉調査の一環として、ガンカモ科鳥類の生息数を5年1月16日に調査し、カモ類28,421羽、ハクチョウ類116羽を確認した。

なお、環境庁では、渡り鳥の生態を把握するため、49年に婦中町高塚地内に1級婦中鳥類観測ステーションを設置し、県内のバンダー(Bander)の協力により標識調査を実施してきている。4年度には、65種、3,173羽の鳥類を捕獲し、標識（足輪）をつけて放した。

野猿による農業被害について、種の保存に配慮した効果的な被害防止対策を確立するため、3年度にひき続き野生動物保護対策事業（電気柵設置）を実施した。

イ 狩猟行政

(ク) 狩猟免許試験、狩猟者講習会

鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律に基づき、新たに狩猟免許を取得しよ

うとする者に試験を実施し、55名が合格した。

また、免許更新をしようとする者には講習会を開き、81名が受講した。

(イ) 狩猟者登録

狩猟者登録をした者の数は、表2-149のとおりである。全国的に減少傾向にある。

(ウ) 休猟区の設定

狩猟鳥獣の増殖を図るため、休猟区を表2-150のとおり設定した。この結果、休猟区は既設のものと合わせて、26か所23,337haとなった。

表2-149 狩猟者登録の実績

(単位：人)

区 分		県 内 者	県 外 者	計
免 許 の 種 類	甲 種	107	—	107
	乙 種	1,135	354	1,489
	丙 種	140	2	142
計		1,382	356	1,738

注) 甲種：網及びわな
乙種：ライフル銃及び散弾銃
丙種：空気銃及びガス銃

表2-150 休猟区の設定状況（4年度）

名 称	所在地	変更等内容	面積	設 定 期 限
田 家 休 猟 区	黒 部 市	新 設	870ha	平成4年11月15日から 平成7年11月14日まで
八 木 山 "	大 沢 野 町	新 設	950ha	"
貉 峯 "	八 尾 町	新 設	920ha	"
鍋 谷 "	山 田 村	新 設	750ha	"
極楽坂山 "	大 山 町	新 設	1,900ha	"
加 賀 沢 "	細 入 村	新 設	600ha	"
勝 木 原 "	高 岡 市	新 設	975ha	"
養 谷 "	城 端 町	新 設	838ha	"
小 原 "	上 平 村	新 設	980ha	"
宿 坊 "	山 田 村	新 設	182ha	"

(エ) 狩猟事故、狩猟違反の防止

3年度安全狩猟推進対策を次のとおり実施した。

a 安全狩猟重点パトロール

休猟区解除地7か所を「安全狩猟重点パトロール地域」として、11月15日から11月26日までの12日間重点パトロールした。

b 普及啓蒙の強化

(a) 鳥獣保護区等位置図に学校区域等を図示し、その周辺での安全狩猟を徹底させた。

(b) 安全狩猟推進のパンフレットを狩猟登録者全員に配布した。

(7) 自然保護思想の普及啓蒙

自然保護思想についての県民の関心は、近年特に高まってきているものの、まだ十分とは言えない。このため県では、自然を大切にする心が県民日常の行動として定着するよう4年度においては、次の事業を実施し、自然保護思想の普及啓蒙活動を積極的に推進した。

ア ナチュラリストの配置

中部山岳国立公園立山地区では49年度から、県民公園頼成の森地区では53年度から、県民公園自然博物園地区では56年度から、また中部山岳国立公園称名地区では58年度から、ナチュラリストを配置し、訪れた人々に自然に対する理解を深めるため解説を行い、自然保護思想の普及を図っている。

また、新たに餌とやま環境財団にナチュラリストバンクを設置し、個別団体の要請に対し、ナチュラリストを派遣した。

(7) 立山地区

夏山シーズン中（7月20日から8月31日まで）毎日、室堂の立山自然保護センターを基地として、室堂周辺や弥陀ヶ原周辺を巡回しながら登山者や観光客に自然解説を行った。また、同センター内の展示室を利用したの解説や、レクチャールームでのビデオを通して自然のしくみについて解説を行った。

(イ) 頼成の森地区

4月28日から11月3日の毎日曜日・祝日に訪れる人々に遊歩道を歩きながら自然解説を行った。

(ウ) 自然博物園地区

4月26日から11月3日の間の毎日曜日・祝日に訪れる人々に展示館と自然かんさつ路を使って自然解説を行った。

(エ) 称名地区

7月5日から10月10日までの間の毎日曜日・祝日に称名園地等において自然解説を行った。

イ 自然保護指導員の配置

31名の自然保護指導員を県内各地に配置し、自然公園等の利用者の指導や公園内のパトロールを行った。

ウ 自然環境保全講演会の開催

3年3月13日、富山市において一般県民を対象に自然環境保全講演会を開催した。

○「地球環境の危機」

伊藤和明（NHK解説委員）

エ 自然観察読本の作成

自然観察読本「立山の自然」を作成し、関係行政機関に配布した。

オ 自然に親しむ集いの開催

一般県民を対象に、自然観察を行い自然に対する理解を深め、自然保護の精神の高揚を図るため自然に親しむ集いを4月29日高岡市二上山、10月4日立山町大辻山において開催した。

カ 自然とのふれあい推進事業

(ア) 有峰フェスティバル

有峰の大自然の中で自然にふれ親しみ、自然の中での体験活動の増進を図る目的で、8月1日～2日の2日間有峰フェスティバルを開催した。

(4) 立山修験道登山イベント

立山登山の深い歴史を思い起こし、立山のすばらしい自然を満喫できるイベントを8月28日～29日に実施し、自然保護意識の高揚と安全登山の徹底を図った。

(8) 自然環境の各種調査

ア 立山道路沿線自然生物定点調査

中部山岳国立公園立山地区の利用者は、46年に立山黒部アルペンルートが開通して以来、急激な増加をみている。このことが高山帯をはじめとした立山の自然にいかに関与をおよぼしているかについて長期的に把握するため、63年度を初年度として平成4年度までの5か年を第Ⅲ期として調査を実施してきている。4年度は、その最終年度として次のとおり調査を実施した。(第Ⅰ期調査：53～57年度)(第Ⅱ期調査：58～62年度)(第Ⅲ期調査：63～4年度)

(ア) 調査項目

自然生態系の変化を顕著に表すものとして、植生（主要樹種の活性度の測定等）、土壌（理化学的性質）、の2項目を調査した。

(イ) 調査範囲

桂台～美女平～弥陀ヶ原～室堂～黒部平にわたるアルペンルート沿いに、代表的な植物群落を指標とした調査区を設けた。

調査区数は、合計55か所である。

(ウ) 調査結果

a アルペンルート沿線では、森林帯の主要構成樹種であるブナの樹勢が引き続き低下していた。

b 利用者が最も集中する室堂平においては、依然として土壌、土砂の流亡が目立ち、植生の退行が進んでいた。

イ 立山ブナ林保全調査

昨年に引き続き樹勢に低下傾向が見られる立山道路沿線のブナ林の保全のため、「立山ブナ林保全調査委員会」の指導、助言に基づき、保全調査

を実施した。

ウ 自然環境指針の検討

山岳の原生的で貴重な自然から身近な緑や水辺に至るまでの自然環境について、人間と自然が共生し、“うるおいとやすらぎ”に満ちた、快適な環境を形成・維持していくための方向づけを示す自然環境指針の策定について検討した。

(9) 自然環境保全地域等の公有地化

ア 自然環境保全基金

自然環境の保全を積極的に推進するため、47年度に富山県自然環境保全基金制度を設置し、市町村と共同して土地の公有化を進めてきている。取得の対象は、自然環境保全地域等の民有地のうち自然環境が極めて優れており、厳正に保全する必要がある土地並びに自然公園の集団施設地区及びその周辺の自然景観が優れておりその環境を保全する必要がある土地等である。

これまでに公有化した土地は全部で144ha となっている。

イ 特定民有地等買上補助

優れた自然環境を有する中部山岳国立公園内立山カルデラ地内の自然の保護と適正な利用を図るため、国の特定民有地等買上補助制度を利用して県で買上げ公有化している。

表2-151 富山県自然環境保全基金による土地の公有化実績

(5年3月31日現在)

年 度	買 取 内 訳		所有区分(持分)		買収金負担区分		備 考
	地 域	面 積(m ²)	県	市町村	県 (円)	市町村(円)	
48・ 49	五箇山県立自然公園 ・平村相倉地内	23,264.41	$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{3}$	9,398,822	4,699,410	保全地区 集団施設地区
"	五箇山県立自然公園 ・上平村西赤尾地内	183,443.64	$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{3}$	10,061,914	4,938,308	
49	縄ヶ池・若杉自然環境保 全地域 ・城端町夫婦滝周辺	126,916	$\frac{3}{4}$	$\frac{1}{4}$	14,468,424	4,822,808	
"	白木水無県立自然公園 ・八尾町杉ヶ平地内	378,896	$\frac{3}{4}$ $\frac{2}{3}$	$\frac{1}{4}$ $\frac{1}{3}$	10,415,890	4,021,258	保全地区 集団施設地区
"	朝日県立自然公園 ・朝日城山地内	24,094.46	$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{3}$	5,505,028	2,752,508	
"	医王山県立自然公園 ・福光町祖谷地内外	381,517.62	$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{3}$	27,214,946	13,607,378	
"	県民公園野島の園 ・婦中町高坂地内	52,394	$\frac{10}{10}$	—	—	—	地上権
49・ 50	能登半島国定公園 ・高岡市雨晴地内	10,178.11	$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{3}$	18,918,776	9,459,378	
50・ 51	能登半島国定公園 ・氷見市九蔵浜・窪地内	8,362	$\frac{2}{3}$	$\frac{1}{3}$	12,994,534	6,497,266	
50 51 53 54 55 56 2	県民公園野島の園 ・富山市三ノ熊・山本地内 ・小杉町入会地、上野 (古洞池) (恩坊池)	250,576	$\frac{10}{10}$	—	181,725,250	—	
	合 計	1,439,642.24			290,703,584 341,501,898	50,798,314	

第10節 快適環境づくりの展開

1 県土美化推進運動の実施

県民の生活水準が向上し、生活様式が変化してきたことに伴い、廃棄物の量の増大と種類が多様化し、近年、道路や海岸、観光地等に散乱ごみが目立ち、社会問題化している。

このようなことから、県土美化推進県民会議を中心に市町村の協力のもとに、県民の美化意識や公德心の高揚に努めるとともに、「日本一のきれいな県土」をつくるため、県民総ぐるみの県土美化推進運動を展開した。

また、第一回ジャパンエキスポ富山'92の開催にあわせ、JET クリーン運動を展開し、県内外にきれいな県土をアピールした。

(1) 推 進 期 間

年間を通じて本運動を進めたが、特に、次の強調期間、強調週間等を設け重点的に実施した。

ア JET クリーン運動

4年6月1日～9月30日、特に7月1日から7日までを「JET クリーンウィーク」とし、7月5日を「JET クリーンデー」とした。

イ まちやむらを美しくする運動

4年4月1日～5月31日、特に4月19日から25日までを「県土美化強調週間」とした。

ウ 川をきれいにする運動

4年6月1日～6月30日、9月1日～9月30日、特に6月7日を「県土美化の日」とした。

エ 山や海岸をきれいにする運動

4年7月1日～8月31日、特に7月5日を「海岸美化の日」、「自然公園クリーンデー」とした。

オ 空カンゼロ運動 4年9月1日～9月30日、特に9月27日を「空カンゼロの日」とした。

(2) 主な実施事業

ア 啓発活動

県民の美化意識の高揚や清掃実践活動の実施と参加等呼びかけるため、次の事業を実施した。

- ポスターの掲示……………2種類、各5千枚 公共施設、ガソリンスタンド等 (4、9月)
- ごみ持ち帰り袋の配布……………35万枚 運転者、観光客等(4～10月)
- ポスターの募集及び展示……小中学生からポスターの募集、優秀作品の展示
- 啓発用ビデオの貸出……………県内各地の清掃活動等紹介ビデオテープの各種団体、市町村等への貸出
- 各種広報媒体による啓発……市町村、各種団体の広報紙、チラシ、ポスター、横断幕等

イ 清掃活動

市町村を中心に地域住民、自治会、青年団、婦人会、保健衛生協議会等関係団体や企業等の協力を得て、公園、道路、河川、海岸等の清掃、草刈、空き缶回収等を実施した。さらに、児童・生徒等による「ふるさとの大クリーン作戦」が夏休み期間中に展開された。また、6月7日に小杉町で第9回富山県清掃美化大会を開催した。

- 参加人員 延41万6千人

ウ 施設等の整備活動

ごみの投げ捨て防止を図るため、市町村が中心となり、ごみ回収容器を道路、公園等に配置するとともに、ごみの不法投棄防止を呼びかける立看板を河川、海岸等に設置した。

- ごみ回収容器の設置 約370個
- 立看板の設置 約980か所

エ 県土美化モデル地区の活動

地域に根ざした環境美化活動を推進するため、3年度に指定した県土美化モデル地区において、それぞれ美化目標を掲げ啓発活動、清掃活動等を実施した。

○ 県土美化モデル地区 35か所

(特別美化モデル地区 1か所、一般美化モデル地区34か所)

○ 主な美化活動 ・看板、回覧板、チラシ等による啓発

・清掃日の設定等による清掃、草刈、空き缶回収

・花壇、フラワーポット等の造成

○ 参加人員 延3万5千人

オ 県民会議の活動

県土美化推進県民会議において、県土美化推進運動を総合的に推進するため、本運動の検討や対策を立てるとともに、県土美化功労者の表彰を行った。

○ 県土美化功労者の表彰 ・10個人、20団体

2 快適なトイレの整備

生活水準の向上や余暇の増大に伴い、県民の身近な生活環境に対するニーズは、ますます快適性を求めてきており、県、市町村では、清らかな水辺や豊かな緑など自然とのふれあい、街並みの美しい歴史的なたたずまい等、魅力ある郷土づくりのための施設整備を積極的に推進している。

このような状況を背景に、公共トイレに対する住民意識も単なる便所から「生活空間」や「人間空間」としての認識が深まり、豊かな街づくりを創出する「第3の空間」として迎えられるようになってきている。

このため、きれいで利用しやすい公共トイレの整備の推進に向け、快適な公共トイレへの3つのアプローチ（「きれい」、「ゆとり」、「やすらぎ」）を踏まえ、市町村が実施した5か所のモデル的な公共トイレの整備や7か所の公共トイレの模様替えや改築などの事業に対し補助を行った。

また、グッドトイレコンテストや設置担当者、維持管理担当者などを対象としたセミナーを開催し、公共トイレに対する意識の高揚を図った。

表2-152 グッドトイレコンテスト「さわやか賞」受賞施設

受賞年度	施設名	所在地
元 年 度	五福公園園内便所	富 山 市
	岩瀬大町公園公共トイレ	同 上
	マリエとやま店トイレ	同 上
	みつづかパブリックトイレ	同 上
	東中江公衆便所	平 村
2 年 度	富山空港旅客ターミナルビルトイレ	富 山 市
	伏木2丁目(如意の渡し)緑地公衆トイレ	高 岡 市
	雨晴観光駐車場公衆トイレ	同 上
	利賀緑の一里塚	利 賀 村
	駅前通りふれあい公園公共トイレ	福 岡 町
3 年 度	古城公園本丸広場トイレ	高 岡 市
	万葉線市役所駅前トイレ	新 湊 市
	風の城トイレ	大沢野町
	宇奈月公園かえでトイレ	宇奈月町
	歴史公園公衆トイレ	朝 日 町
4 年 度	小竹藪トイレ	高 岡 市
	湊川トイレ	氷 見 市
	小杉駅南公衆トイレ	小 杉 町
	ファーストグリーンピット	同 上
	ヘリオストイレ	福 野 町

3 グリーンプランの推進

うるおいに満ちた「日本一の花と緑の県」づくりをめざし、県民総ぐるみで生活環境の緑化を推進するため、新しいグリーンプランに基づき、各種施策を展開した。

- ① 公共的施設に花壇やフラワーポットを設置するとともに、花と緑のまちのシンボルづくり事業や学校花と緑のモデル事業により地域緑化、学校緑化を一層推進した。
- ② 第1回ジャパンエキスポ富山'92の開催にあわせ、会場や会場へのアクセス道路等に立体花壇やフラワーポットを設置するとともに、富山駅には花文字等を設置し、県内の緑化の推進と緑化意識の高揚を図った。
- ③ 緑化木や花の種を配布するとともに、花と緑のフェスティバル（夏・冬）や県民緑花カレッジを開催するなど、普及啓発活動を積極的に展開した。
- ④ グリーンキーパー（地域花と緑の指導員）を増員するとともに、花と緑のグループやそのリーダー等の育成を図り、地域に密着した緑化推進のための環境づくりを行った。
- ⑤ 散居の屋敷林を保全し良好な景観形成を維持するため、意識啓発冊子を作成した。
- ⑥ 富山県植物公園ネットワークの中核的施設となる中央植物園の管理研修棟及び造園施設の建設を推進するとともに、林業試験場樹木園の植栽工事等を行ったほか、市町村の専門植物園整備事業に対して補助並びに指導を行った。

第11節 その他の環境保全対策

1 緩衝緑地の整備

(1) 県民公園新港の森

県民公園新港の森は、富山新港をとりまく臨海工業地帯からの公害を防止するため、その緩衝緑地として、工業地帯の西側に造成された南北1,700m、東西150mの25haの広さをもつグリーンベルトである。

園内にはクロマツを主に、針葉樹、広葉樹とともに、各種の花木が約11万本植えられており、四季の変化が楽しめる。これらの樹林の間には、7つの芝生広場、野球場、陸上競技場、テニスコートが、さらに薬草園、市町村木コーナー、万葉の木コーナーなどの施設も配置され、はりめぐらされた遊歩道は、緑の中の散策やジョギング、あるいはサイクリングに利用

表2-153 県民公園新港の森の概要

施設名	概要
野球場	1 規模 両翼90m、センター120m 2 施設 バックスクリーン、電光式スコアボード、バックネット、ダッグアウト、放送設備等
陸上競技場	1 規模 300mトラック（6コース）、直線コース125m 2 施設 跳躍、設けき施設
テニスコート	硬式4面
駐車場	4か所（乗用車約200台駐車）
その他	管理事務所1棟、園路遊歩道6,000m、休養施設3か所、便所5か所、公衆電話

されている。

なお、施設等の概要及び利用状況は、表2-153及び表2-154のとおりである。

表2-154 県民公園新港の森施設利用状況

(単位：人)

年 度		63 年 度	元 年 度	2 年 度	3 年 度	4 年 度
入 園 者 数		174,925	138,810	185,040	185,660	168,230
施 設 利 用 人 員	野 球 場	6,562	10,116	13,011	9,059	13,031
	テニスコート	2,718	1,963	1,089	1,136	1,290
	陸 上 競 技 場	1,689	1,081	7,113	9,324	10,961
	計	10,969	13,160	21,213	19,519	25,282

(2) 空港スポーツ緑地

空港スポーツ緑地は、隣接する富山空港のジェット化に伴い、空港に離着陸する航空機の騒音が周辺地域に及ぼす影響を軽減するために設けられた長さ約2.3km、面積13.2haの都市公園である。

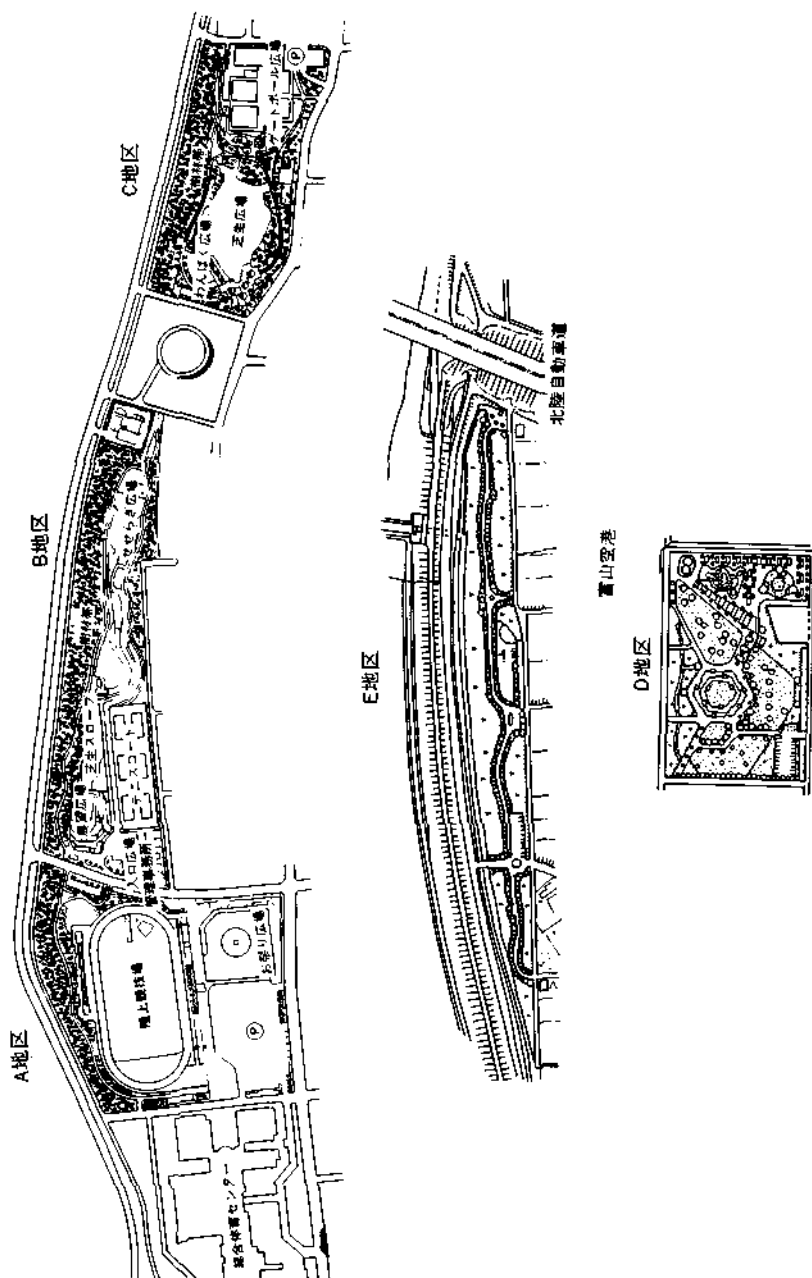
この公園は、騒音を緩衝するために、常緑広葉樹を中心とした多層構造の植栽がされている。また、主な施設として、陸上競技場、テニスコート等の運動施設や展望広場、せせらぎ広場、わんぱく広場、ゲートボール広場等が配置され、子供からお年寄りまでの多くの人に利用されている。

なお、主な施設の内容は表2-155のとおりである。

表2-155 空港スポーツ緑地の概要

地区	主な施設	面積 ha	特徴
A地区	陸上競技場 お祭り広場 その他	3.5	第3種公認。トラックはウレタンチップ系全天候型舗装。 カラーアスファルト舗装。イベントの会場としても利用可能。 園路、植栽地等
B地区	庭球場 入口広場 展望広場 芝生スロープ せせらぎ広場 その他	3.3	ウレタン系全天候型コートが6面ある。 空港スポーツ緑地の「玄関」となる広場。 小高い丘の上にあり、飛行機の離着陸が眺められる。 なだらかな芝生のスロープ。冬はミニスキーに利用できる。 長さ208.5mに及ぶ滝、流れ、池がある。 園路、植栽地等
C地区	わんぱく広場 芝生広場 ゲートボール広場 駐車場 その他	2.9	コンビネーション遊具やスプリング遊具、砂場がある。 多目的に利用できる広々とした芝生の広場。 ダスト舗装コートが4面ある。 自動車62台が駐車可能。 園路、植栽地等
D地区	林間広場 緑陰広場 レインボープラザ 駐車場 その他	1.7	ダスト舗装の広場に高木の林 芝生の広場 7色のシャワーモニュメントを配したサンクン広場 自動車26台駐車可能 園路、植栽地等
E地区	児童遊園地 駐車場	1.8	遊具、砂場等
合 計		13.2	

図2-34 空港スポーツ緑地平面図



2 下水道等の整備

本県における下水道等の整備は全国平均に比べ遅れており、県民の健康で快適な生活環境を確保し、公共用水域の水質保全を図るため、県と市町村が一体となって全県域の下水道化を推進する必要がある。このため、各種下水処理方式の最適配置を進め、地域に適した効率的な下水処理を促進するための長期指針として、全県域下水道化構想を2年度に策定した。

(1) 下 水 道

ア 下水道事業

県では、全県域下水道化構想に基づき、複数の市町村にまたがり水質保全を効率的に図る流域下水道、主に市街地における生活環境の改善を図る公共下水道及び自然環境の保全や農山漁村の整備を目的とする特定環境保全公共下水道を計画的に進めることとしている。

下水道の整備状況は、24年度に県内で事業着手して以来、4年度までに、24市町村1事務組合で整備を進めており、このうち20市町村において一部供用を開始している。なお、下水道の事業種別ごとの整備は、次のようになっている。

流域下水道……高岡市など4市7町1村を対象とした小矢部川流域下水道事業は、小矢部川の水質保全を図るため56年度に着手し、62年度末から高岡市、元年度末から小矢部市、福野町、福光町及び福岡町、2年度末から砺波市を対象に一部供用を開始したところである。また、3年度末から、新湊市、井波町及び庄川町が新たに一部供用を開始している。新湊市など3市5町1村を対象とした神通川左岸流域下水道事業については、神通川等の水質保全を図るため、3年度に着手した。

公共下水道……9市13町1事務組合（2町1村）で事業を実施

しており、このうち、小矢部川流域関連の3市5町と富山市、新湊市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、大沢野町、小杉町及び大山町で一部供用を開始している。

特定環境保全……7市8町4村で事業を実施しており、このうち、
公共下水道 小矢部川流域関連の福野町、福光町と富山市、魚津市、氷見市、滑川市、上市町、宇奈月町及び山田村で一部供用開始している。

表2-156 公共下水道の計画及び整備状況

(平成4年3月31日現在)

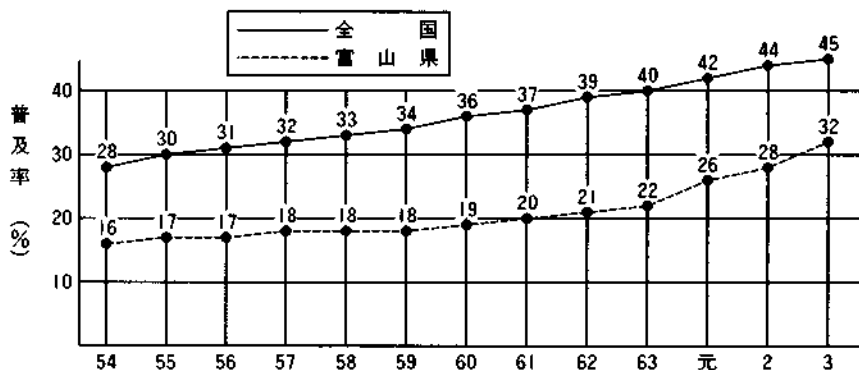
都 市 名	着手 年度	供用 開始 年度	認 計 画面積 (ha)	可 計 画面積 (ha)	汚水管渠 整備面積 (ha)	処 理 面積 (ha)	認 計 画人口 (千人)	処 理 人口 (千人)	人 口 普及率 (%)	備 考
富 山 市	27	37	4,360	2,757	2,702	214.8	151.2	47	特環含む	
高 岡 市	24	40	3,115	1,684	1,658	180.3	89.4	51	特環含む	
新 湊 市	34	49	278	245	245	24.4	20.1	50		
魚 津 市	60	1	276	227	210	19.1	14.8	30	特環含む	
氷 見 市	50	58	581	338	316	29.6	19.1	31	特環含む	
滑 川 市	54	1	350	149	149	15.9	6.4	20	特環含む	
黒 部 市	61	3	368	95	78	16.3	2.6	7		
砺 波 市	59	2	290	121	109	7.9	3.4	9		
小矢部市	57	1	188	56	53	12.5	3.5	10		
大沢野町	61	3	225	140	140	11.3	5.5	26		
大 山 町	54	62	285	145	107	11.8	7.6	69		
上 市 町	3		30			1.2			特環	
宇奈月町	52	61	27	24	24	1.1	1.0	14	特環	
山 田 村	60	1	54	42	42	1.5	1.3	61	特環	
小 杉 町	42	45	266	248	248	17.9	12.4	40		
大 門 町	63		56	16		2.4			特環含む	
城 端 町	63		99	11		3.5				
上 平 村	3		17	17		0.3			特環	
庄 川 町	60	3	72	40	40	3.8	2.0	27		
井 波 町	60	3	76	40	36	4.5	2.0	18		
井 口 村	2		39	3		1.5			特環	
福 野 町	59	1	130	104	99	8.6	5.0	33	特環含む	
福 光 町	46	1	348	223	219	15.0	11.1	50	特環含む	
福 岡 町	58	1	73	45	45	2.9	2.2	17		
中新川※	62		232	68		9.6				
計			11,835	6,837	6,520	617.7	360.6	32		

※ 中新川公共下水道事務組合（舟橋村、上市町、立山町）

イ 下水道普及率

本県の下水道普及率は図2-35のとおり、3年度末で全国平均普及率45％に対し32％と著しく立ち遅れており、普及率の向上になお一層努力をしなければならない状況にある。

図2-35 下水道の普及率の推移



(2) 農村下水道

農村下水道は、従来から農業集落排水事業、農村総合整備モデル事業、農村基盤総合整備事業及び小集落を対象とした富山県農村下水道整備事業により実施し、整備を進めている。

4年度末現在では、表2-157のとおり、全体で既に27市町村75地区において事業を実施しており、計画処理人口60,097人のうち約25,800人の供用を達成している。

表2-157 農村下水道の整備状況

(平成5年3月31日現在)

区 分	市町村名	地区数	計画処理人口(人)	備 考
国庫補助 事業	利 賀 村	3	1,870	供用2地区
	富 山 市	4	5,980	供用1地区、一部共用1地区
	氷 見 市	4	6,220	供用1地区、一部供用1地区
	大 山 町	2	3,330	供用1地区
	大 門 町	2	3,300	供用1地区
	下 村	2	2,140	供用2地区
	城 端 町	2	2,320	供用1地区
	庄 川 町	1	1,150	供用1地区
	福 光 町	2	2,390	供用1地区
	福 岡 町	3	3,120	供用2地区
	新 湊 市	2	3,450	一部供用1地区
	黒 部 市	4	4,960	供用1地区
	上 平 村	3	1,100	供用2地区
	大 島 町	1	470	供用1地区
	宇奈月町	3	3,180	一部供用3地区
	平 村	2	1,710	供用1地区
	山 田 村	3	630	供用2地区、一部共用1地区
	小 杉 町	2	1,880	供用1地区
	小矢部市	1	790	供用1地区
	八 尾 町	2	1,280	供用1地区
	高 岡 市	1	1,960	
	上 市 町	2	1,570	一部供用1地区
	魚 津 市	1	380	
	福 野 町	1	450	
	滑 川 市	1	780	
	砺 波 市	1	1,870	
	婦 中 町	1	160	
	計	56	58,440	
県 単 独 事業	全 体	19	1,657	富山市外8市町村で実施
	計	19	1,657	
合 計		75	60,097	

(3) コミュニティ・プラント

コミュニティ・プラント（地域し尿処理施設）は、郊外型ミニ下水道ともいべき生活雑排水とし尿を合わせて処理する施設で、廃棄物処理施設整備事業によりその普及推進が図られている。3年度末現在で表2-158のとおり、9市町村、17施設（計画処理人口19,886人）が供用されている。

表2-158 コミュニティ・プラントの整備状況

（4年3月31日現在）

市町村名	施設数	処 理 人 口(人)
富 山 市	5	8,120
高 岡 市	4	6,376
魚 津 市	1	400
氷 見 市	1	3,000
砺 波 市	1	150
大 沢 野 町	2	608
舟 橋 村	1	170
上 市 町	1	262
大 門 町	1	800
合 計	17	19,886

(4) 合併処理浄化槽

し尿と生活雑排水を併せて処理する合併処理浄化槽は、比較的安価かつ容易に設置できる上に、放流水の水質も良いことから生活雑排水による公共用水域の水質汚濁を防止する有効な手段である。

このため、国においては、62年度から合併処理浄化槽の設置に対する市町村への補助制度が創設され、県においても設置の推進を図るため、63年度から補助を行っている。

4年度は、表2-159のとおり新たに1市1町において本事業が実施され、13市町村において277基の合併処理浄化槽が設置された。

表2-159 合併処理浄化槽設置整備事業の状況

市町村名	設 置 基 数				
	63年度	元年度	2年度	3年度	4年度
富山市	5	3	10	6	14
高岡市	2	4	4	3	3
新湊市	—	6	4	4	2
魚津市	4	2	2	18	45
氷見市	5	11	13	19	35
滑川市	—	—	—	—	6
黒部市	—	9	20	21	9
大沢野町	—	15	20	24	27
入善町	—	—	19	24	15
朝日町	—	—	29	26	40
八尾町	6	17	26	35	32
婦中町	—	—	—	—	2
上平村	—	—	—	2	—
福岡町	2	3	20	38	47
計	24	70	167	220	277

3 畜産環境保全対策

(1) 指導及び技術研修会の開催

県、市町村及び各種農業団体の連携による総合的な指導体制のもとに、畜産経営環境保全に係る畜産農家の実態調査、巡回指導、水質の検査、畜舎内環境衛生調査等を実施した。さらにふん尿の適正処理技術研修会の開催、衛生害虫駆除研修会の開催とパンフレットの配布及び県外のふん尿処理の優良施設の視察研修などを実施することにより、畜産経営が起因する苦情発生の未然防止に努めた。

また、県の東西両地域において、畜産経営環境保全対策会議を開催し、指導の徹底を図った。

ア 畜産環境保全実態調査

この調査は毎年7月に実施するものであるが、4年度は442戸の畜産農家について調査した。その結果、ふん尿処理施設の設置及び処理利用状況は表2-160のとおりであり、各畜種とも発酵処理施設による利用が最も多かった。

表2-160 畜産環境保全実態調査結果

(4年7月1日現在)

区分 畜種	調査 戸数	処 理 施 設 (か所)							ふん尿処理施設の状況(%)		
		天日 乾燥	火力 乾燥	堆積 発酵	強制 発酵	焼却	液肥	浄化	乾燥処理 施設に よるもの	発酵処理 施設に よるもの	その他
乳 用 牛	156	—	—	117	1	—	59	1	—	66	34
肉 用 牛	132	—	—	95	2	15	11	—	—	79	21
豚	88	—	—	72	3	3	13	24	—	67	33
採 卵 鶏	55	6	9	40	17	—	1	—	21	78	1
ブロイラー	11	—	—	6	1	4	—	—	—	64	36
計	442	6	9	330	24	24	84	25			

イ 巡回指導及び水質検査、悪臭調査

畜産農家周辺の混住化は年々進み、付近住民から寄せられる苦情内容も複雑多様化し、畜産を取りまく環境は大変厳しくなっている。

このため、畜産農家の巡回指導を強化し、悪臭や衛生害虫による苦情発生の未然防止を図るとともに、畜舎排水及び処理施設からの放流水の水質検査を実施し、汚水の流出の事前チェックに努めた。

その実施状況は、表2-161のとおりである。

表2-161 巡回指導等の実施状況（4年度）

（単位：件）

区 分	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	ブロイラー	計
巡回指導(延)	34	9	78	32	1	154
水質検査(延)	—	—	24	—	—	24
悪臭調査(延)	—	—	6	—	—	6

(2) 健全な畜産経営の育成

家畜の飼養にともなう衛生環境阻害要因の除去、施設の改善及び畜舎周辺の美化運動等を推進し、地域社会と調和した清潔で快適な畜産環境の維持をめざした。

また、地力増強と作物の生産性の向上を図るため、畜産農家と耕種農家との有機的な連携による家畜ふん尿を適正に処理した堆肥づくり、堆肥利用の組織づくり、並びに制度資金を活用した処理施設の設置等について、積極的に指導した。

なお、4年度の農業近代化資金の実績は表2-162のとおりである。

表2-162 制度資金の融資実績

区 分	件数	承認実績(千円)	担 当 課
農業近代化資金 堆 肥 の 舎 他	2	6,840	農業経済課

4 漁場環境保全対策

(1) 海水汚染の防止

前年度に引き続き、国の助成を得て、調査指導員による漁場環境の監視及び漁業公害に関する情報の収集を行った。

また、漁業者に対し、漁業公害に関する講習会を開催し、知識の普及に努めた。

(2) 定置網における水質調査

ア 調査目的

富山湾沿岸部を漁場とする定置漁場の水質を把握するため、水質調査を実施した。

イ 調査概要

3年度に引き続き図2-36のとおり宮崎から氷見に至る定置漁場を中心とする31地点において、4年4月から5年3月まで各調査定点毎に3回～12回、pH、塩分、濁度、CODについて測定を行うとともに、海況、水温及び漁獲量も併せて調査し、その結果を取りまとめ関係者に報告した。

ウ 調査結果

調査結果は表2-163のとおりであった。測定項目の各調査定点における年間の最大値～最小値をみると、pHについては、8.7（大門沖ほか1定点）～7.2（小矢部川前）、塩分については、34.02（宮崎（沖））～0.66‰（小矢部川前）、濁度については、10.0（茂渚二番）～0.1mg/l（宮崎（沖）ほか6定点）、CODについては、3.6（小矢部川前）～0.1mg/l（宮崎（沖））であった。

赤潮は、6～9月に3回確認された。

2-36

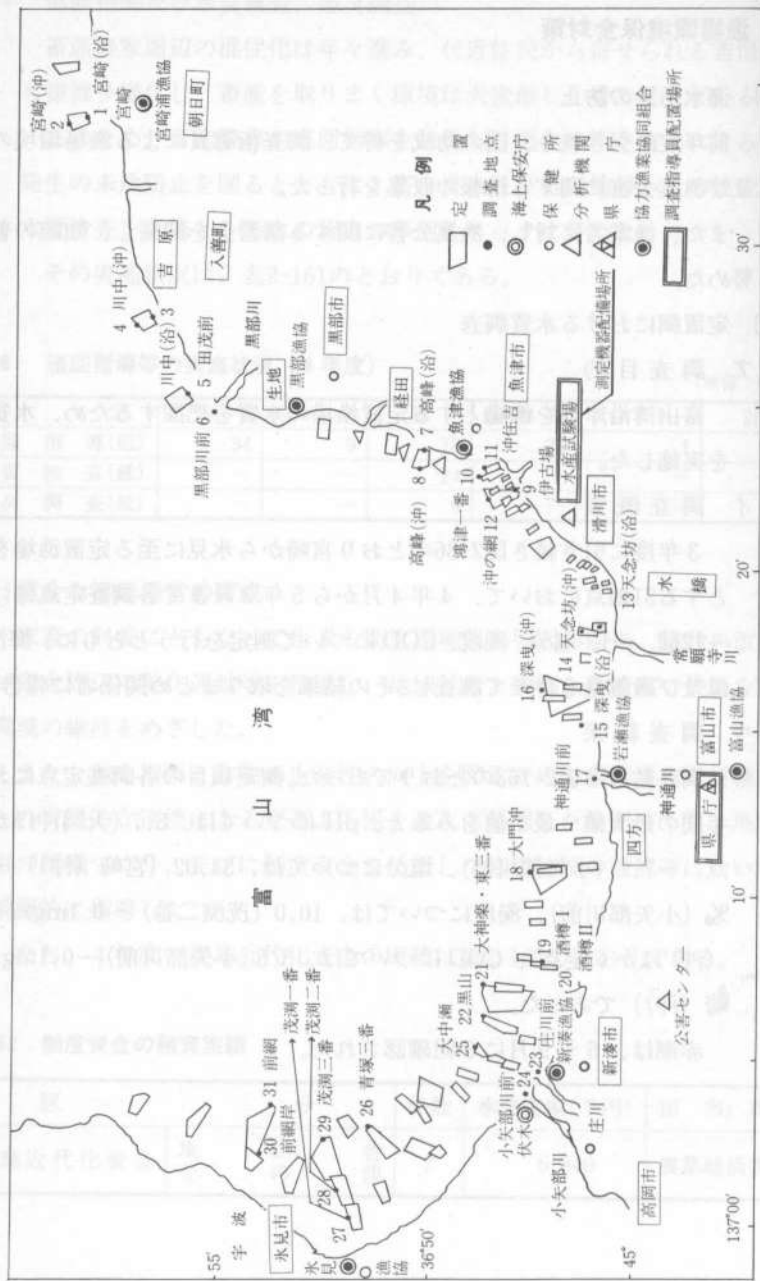


表2-163 漁場環境保全対策事業調査結果（4年度）

No	調査地点名	調査回数	水温		pH				塩分 (%)		濁度 (mg/l)		COD (mg/l)					
			最低値	最高値	最低値	最高値	平均値	前年最高値	前年最低値	最小値	最大値	平均値	前年平均値	最小値	最大値	平均値	前年平均値	
1	宮崎(沿)	10	9.0	25.0	8.1	8.3	8.3	31.83	33.83	24.96	32.96	0.2	3.1	1.5	0.2	1.7	0.8	
2	宮崎(沖)	10	8.0	25.0	8.2	8.3	8.2	8.2	32.17	34.02	23.48	33.03	0.1	6.5	2.2	1.5	0.1	0.8
3	川中(沿)	9	8.8	26.5	8.1	8.4	8.3	8.3	26.70	33.36	20.15	32.72	0.2	3.4	1.5	1.1	0.2	1.0
4	川中(沖)	9	8.8	26.0	7.9	8.4	8.3	8.3	23.90	33.47	19.55	32.46	0.1	7.5	2.1	1.1	0.7	2.2
5	田茂前	9	8.8	26.5	8.2	8.5	8.3	8.3	23.19	33.50	18.55	32.84	0.4	3.7	1.4	1.1	0.4	0.9
6	黒部川前	9	8.0	25.5	8.0	8.4	8.2	8.2	9.35	30.04	3.27	29.86	0.5	3.2	1.4	1.7	0.4	1.4
7	高瀬(沿)	6	8.2	26.0	8.2	8.4	8.3	8.3	30.95	32.97	12.87	32.52	0.1	2.0	1.3	0.8	0.7	1.4
8	高瀬(沖)	6	10.0	25.0	8.2	8.4	8.3	8.3	33.05	33.59	32.56	34.06	0.1	2.8	0.9	0.4	0.3	1.2
9	伊古橋	5	8.5	22.4	8.2	8.4	8.3	8.4	24.38	31.68	18.96	24.06	0.8	2.7	1.3	2.3	0.2	1.1
10	鴻津一番	5	8.5	22.5	8.2	8.3	8.3	8.3	21.89	31.48	21.13	25.41	0.3	2.3	1.3	1.9	0.2	1.2
11	沖住吉	6	8.0	24.0	8.2	8.4	8.3	8.3	15.50	32.42	13.63	31.79	0.5	2.0	1.4	0.9	0.5	1.4
12	沖の瀬	6	7.9	24.0	8.2	8.4	8.3	8.3	25.81	32.01	15.39	31.75	0.2	5.5	2.0	0.8	0.5	1.1
13	天念坊(沿)	10	6.0	24.4	7.9	8.3	8.2	7.9	15.38	26.24	0.36	21.89	0.9	5.5	2.3	2.9	0.8	1.3
14	天念坊(沖)	10	6.0	24.4	8.1	8.5	8.3	8.2	11.51	31.87	10.84	31.30	0.9	5.5	2.0	2.4	0.7	1.4
15	深気(沿)	7	9.0	22.3	8.2	8.3	8.3	8.2	21.34	30.77	13.15	33.01	0.9	3.5	2.4	2.3	0.6	1.3
16	深気(沖)	7	8.2	22.0	8.2	8.4	8.3	8.3	16.77	29.63	10.21	33.28	1.2	5.8	2.8	2.4	0.7	1.6
17	神通川前	7	7.5	18.5	7.6	8.3	8.0	7.8	3.14	31.24	0.18	18.91	1.1	3.6	2.2	2.5	0.5	2.0
18	大門沖	11	8.0	25.5	8.1	8.7	8.3	8.3	18.51	32.83	13.78	32.13	0.5	9.0	2.8	2.1	0.5	1.7
19	酒樽(1)	10	10.0	24.5	7.7	8.4	8.2	8.2	11.52	32.03	11.82	31.76	0.6	6.5	2.5	1.8	0.7	2.2
20	酒樽(11)	10	10.0	25.0	8.0	8.5	8.2	8.1	12.13	31.13	8.50	28.34	0.7	7.0	3.4	2.2	0.5	2.4
21	大神楽・東三番	3	12.0	21.0	8.0	8.2	8.1	8.2	15.25	33.68	16.60	33.25	1.0	3.7	2.0	1.3	1.2	1.3
22	黒山	8	8.5	25.7	8.1	8.4	8.3	8.1	14.02	30.37	11.32	27.46	0.4	4.2	2.4	2.0	0.7	1.5
23	庄川前	8	4.7	25.0	7.7	8.3	8.1	7.9	4.52	15.59	0.93	14.83	0.8	2.8	2.1	2.3	0.2	1.2
24	小矢部川前	8	6.6	23.2	7.2	7.8	7.4	7.4	0.66	4.84	0.57	2.30	1.7	6.0	3.7	3.8	1.4	3.6
25	大田中	8	9.5	25.5	8.0	8.2	8.2	8.1	17.33	26.92	7.56	28.69	0.5	3.4	2.3	1.8	0.9	1.6
26	青森三番	11	9.5	25.5	8.0	8.5	8.3	8.2	24.83	33.45	14.42	33.25	0.4	9.1	3.1	1.5	0.7	2.5
27	茂洲一番	12	8.4	24.5	8.2	8.4	8.3	8.2	22.88	33.44	18.17	33.21	0.2	7.0	3.1	1.8	0.6	2.5
28	茂洲二番	12	8.0	24.0	8.1	8.7	8.3	8.2	22.72	33.41	16.61	33.13	0.1	10.0	3.1	1.6	0.8	3.4
29	茂洲三番	11	9.7	26.0	8.2	8.6	8.3	8.2	22.64	33.50	20.92	33.37	0.1	3.9	2.2	0.7	0.5	2.9
30	茂洲四番	10	10.1	26.2	8.2	8.3	8.3	8.3	31.99	33.84	19.44	33.66	0.1	4.3	2.1	1.0	0.3	1.4
31	前瀬	10	10.3	26.1	8.2	8.4	8.3	8.3	29.46	33.63	18.85	33.66	0.2	7.2	2.2	0.9	0.3	2.4

5 環境保健対策

(1) イタイイタイ病対策

ア 経緯

神通川流域で発生を見ているイタイイタイ病は、30年に学会で発表されてから、県内外の研究者による発表があいついで行われた。その後、36年には富山県地方特殊病対策委員会、厚生省医療研究イタイイタイ病研究委員会及び文部省イタイイタイ病研究班が発足するなど、各方面において総合的な研究と調査がなされた。これらの調査結果に基づき、43年5月「イタイイタイ病はカドミウム汚染に起因する公害病」として厚生省見解が発表された。

患者等の救済を図るため、42年、県はイタイイタイ病患者及び疑似患者等に関する特別措置要綱を制定し、43年1月から公費による医療救済を実施した。44年12月、公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法が公布され、45年2月から同法による医療費の救済が行われた。

一方、47年8月のイタイイタイ病公害訴訟控訴審判決により、48年度からは原因者の負担となり、患者及び要観察者に対し、医療費等が支給されるようになった。

49年9月には、公害健康被害補償法が施行されている。(63年3月、法律名が公害健康被害の補償等に関する法律に改称)

県は、公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法施行以降、法に基づく機関委任事務として、47年6月の環境庁公害課長通知などの国の示す基準に従い、県公害健康被害認定審査会に諮ったうえで、イタイイタイ病の認定を行ってきている。5年3月31日現在、イタイイタイ病に認定された患者は165名、要観察者は330名となっている。

なお、県が62年12月に行ったイタイイタイ病不認定処分7件について、国の公害健康被害補償不服審査会に審査請求がなされ、6回の口頭審理を経て4年10月の裁決で、4件について県の処分が取り消され、3件について審査請求が棄却された。取り消しの4件については4年11月に認

定処分を行ったが、棄却の3件については、5年2月に県の不認定処分の取り消しを求める訴えが富山地方裁判所に提起された。

表2-164 市町村別イタイイタイ病患者及び要観察者生存数 (平成5年3月31日現在)

区 分	富 山 市	婦 中 町	大沢野町	八 尾 町	そ の 他	計
患 者(人)	3	9	1	1	1	15
要観察者(人)	—	6	3	1	—	10

イ 家庭訪問指導

43年11月イタイイタイ病患者等に対する指導要領を策定し、患者及び要観察者の治療の促進と発病の予防を図るため、保健婦及び栄養士等による家庭訪問を行い、保健指導を実施している。

3年度には78件の家庭訪問指導を行った。

ウ 要観察者の健康管理

住民健康調査の結果等から経過を観察する必要がある者に対し、43年度から毎年管理検診を実施し、病状の把握と適切な指導を行い、その健康管理に努めている。

エ 住民健康調査

42年度から神通川流域で患者の発生のおそれのある地域に対し、患者の早期発見と住民の健康管理を目的として、年1回の住民検診を実施している。54年度からは、環境庁から要望のあった検査項目を一部取り入れ、公害健康被害の補償等に関する法律及び農用地の土壌の汚染防止等に関する法律に定める指定地域の住民を対象に実施している。

(2) カドミウム環境汚染要観察地域対策

黒部市の日鉱亜鉛㈱（旧日本鉱業㈱三日市製錬所）周辺地域は、45年に実施した環境汚染精密調査の結果に基づき、45年5月に国がカドミウム環境汚染要観察地域として指定した地域であり、県では、45年から毎年住民検診を実施し、住民の健康管理に努めている。

(3) 地域住民の健康管理対策

県では、生活環境要因の変化に伴う健康障害を防止し、地域住民の健康管理に資するため、45年環境保健調査実施要綱を定めている。また、富山市においては、51年10月から富山市公害健康被害者の救済に関する条例を施行し、関連企業の協力により市が認定する24名（5年3月31日現在）の健康被害者に対し、公害健康被害の補償等に関する法律に準じた独自の救済制度を実施している。

6 食品等の汚染対策

(1) 魚介類の水銀調査

魚津、氷見の産地市場で採取した富山湾産魚介類17魚種、25検体について調査を実施した。

その結果は、表2-165のとおりで、いずれも暫定的規制値(総水銀0.4ppm、メチル水銀0.3ppm)以下であった。

表2-165 魚介類の水銀調査結果(4年度)

魚 種	検体採取市場	検体数	総 水 銀 (ppm)
あ じ	魚 津	2	0.02, 0.05
ふ く ら ぎ	"	1	0.04
か つ お	"	1	0.27
た ち う お	"	1	0.05
し ま だ い	"	1	0.01
う ま づ ら は ぎ	"	1	0.01
さ ん ま	"	1	0.11
ま だ い	"	1	0.09
か ま す	"	1	0.03
い わ し	"	1	0.01
か れ い	"	1	0.05
さ け	氷 見	1	0.02
あ じ	"	1	0.02
ふ く ら ぎ	"	1	0.04
か つ お	"	1	0.29
か ま す	"	1	0.02
ま い か	"	1	0.11
あ か い か	"	1	0.10
し ま だ い	"	1	0.01
ふ ぐ	"	1	0.03
か わ は ぎ	"	1	0.02
か れ い	"	1	0.10
ま だ い	"	1	0.04
こ ち	"	1	0.04

(2) 食品等のPCB調査

ア 流通過程における魚介類、牛乳及び卵について調査したところ、表2-166のとおりで、食品中の残留PCBは、いずれも暫定的規制値以下であった。

表2-166 食品中のPCB調査結果（4年度）

対 象		検体数	調 査 結 果 (ppm)	備 考
魚 介 類	遠洋沖合魚介類	4	ND~0.03	たら、かつお、あおりいか ほっけ
	内海内湾魚介類	6	ND~0.03	あじ、ふくらぎ、かます しまだい、かわはぎ
牛	乳	4	ND	

注 ND（検出されず）とは定量限界（0.01ppm）未満をいう。

（参考）食品中に残留するPCBの暫定的規制値

遠洋沖合魚介類 0.5ppm

内海内湾（内水面を含む）魚介類 3 ppm

牛 乳 0.1ppm

(3) 食品等の残留農薬調査

生産地で採取した野菜、果実及び牛乳など16食品（48検体）について、農薬の検査を実施したところ、いずれも基準値以下であった。

7 公害に関する紛争と苦情処理

(1) 公害紛争処理制度

公害紛争処理制度は、公害に関する紛争の多発化とその態様の特殊性に対応し、紛争の迅速かつ適正な解決を図るため、45年6月に設けられたものであり、国に公害等調整委員会、都道府県に公害審査会が設置され、公害紛争処理法に基づき、あっせん、調停、仲裁等を行っている。

45年11月の本制度の施行から5年3月31日までに、公害等調整委員会及び都道府県の公害審査会に係属した事件数は1,312件で、そのうち1,223件が終結している。

なお、4年度までに本県の公害審査会に係属した事件数は、4件である。

表2-167 公害審査会に係属した事件

手続の種類	市町名	申請年月	対 象	終結年月	終 結 区 分
調 停	魚津市	52年4月	工 場 騒 音 ・ 振 動	52年9月	調 停 成 立
	富山市	57年8月	工場騒音・粉じん・悪臭	58年3月	一部取下げ 一部打切り
	婦中町	60年5月	事業場悪臭・粉じん・砂じん	60年10月	調 停 成 立
	富山市	2年2月	住宅マンション建設・ 騒 音 ・ 振 動	2年8月	調停打切り

(2) 公害苦情相談員制度

公害苦情相談員制度は、公害にかかる苦情の適切な処理を図るため、公害紛争処理制度の一環として公害紛争処理法に基づき設けられたものである。

公害苦情相談員は、公害苦情について住民の窓口となり、かつ、相談相手となって苦情の処理に当たることを職務としており、都道府県及び市町村に必要に応じて置かれることになっている。

本県では、本庁の公害担当課の各係長及び公害センターの各課長を公害相談員に任命し、県民からの苦情相談に当たっている。

(3) 公害に関する苦情の受理状況

ア 公害種類別

63年度から4年度までの過去5か年において、県及び市町村が受理した苦情は表2-168のとおりである。

4年度の苦情件数は180件であり、3年度に比べ5件(2.9%)増加した。

公害の種類別では、水質汚濁が42件(構成比23.3%)と最も多く、次いで騒音41件(同22.8%)、大気汚染34件(同18.9%)、悪臭25件(同13.9%)などの順である。

これを3年度と比べると、水質汚濁は増加した(8件増)のに対し、悪臭は大幅に減少し、大気汚染、騒音はわずかに減少した。

表2-168 公害種類別苦情受理状況の年度別推移

(単位：件)

種類 年度	典 型 7 公 害							(典小 型七 公害 計)	産 業 廃 棄 物	そ の 他	合 計
	大 気 汚 染	水 質 汚 濁	土 壌 汚 染	騒 音	振 動	地 盤 沈 下	悪 臭				
63	49	58	—	70	9	—	41	227	14	20	261
元	43	48	—	60	9	—	42	202	4	22	228
2	30	53	—	42	6	—	33	164	14	11	189
3	37	34	—	44	4	—	38	157	9	9	175
4	34	42	—	41	5	—	25	147	8	25	180

イ 市町村別

4年度における市町村別の苦情受理状況は、表2-169のとおりである。

市部、町村部の苦情件数は、市部では、129件(構成比71.7%)で、町村部では、51件(同28.3%)である。

苦情の内容では、市部は、騒音、大気汚染、水質汚濁、悪臭で苦情件数の83.7%を占めているが、町村部では、大気汚染、水質汚濁、悪臭、騒音で66.7%となっている。

また、3年度と比べ、市部では、2件増加し、町村部では3件増加した。

表2-169 市町村別苦情受理件数（4年度）

（単位：件）

種類 市町村	典 型 7 公 害							（小 計） （典型七公害）	産業 廃棄物	そ の 他	合 計
	大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭				
富山市	6	5		8	3		3	25			25
高岡市	11	1		14			3	29		2	31
新湊市	3							3			3
魚津市	3	5		3			2	13	1	4	18
氷見市		2		1	1			4	1		5
滑川市		3					1	4		2	6
黒部市	3	1		3			2	9		5	14
砺波市		10		3			1	14			14
小矢部市	1	3		3			4	11	1	1	13
市 計	27	30		35	4		16	112	3	14	129
大沢野町											
大山町							2	2		1	3
舟橋村											
上市町		1		1				2			2
立山町									1	1	2
宇奈月町											
入善町				1				1	2		3
朝日町		1						1			1
八尾町	1							1		1	2
婦中町		1			1		2	4			4
山田村											
細入村											
小杉町	2	1		1				4	1		5
大門町											
下島町		1		1				2			2
大城端町		1						1			1
平村							2	2			2
上平村											
利賀村											
庄川町											
井波町											
井口村											
福野町		1					1	2	1		3
福光町							1	1			1
福岡町	4	5		2			1	12		8	20
町村計	7	12		6	1		9	35	5	11	51
合 計	34	42		41	5		25	147	8	25	180

ウ 発 生 源 別

4年度の典型7公害に関する苦情を発生源別に分類すると、表2-170のとおりである。

発生源別では、生産工場によるものが54件（構成比30.0%）と最も多く、次いで、廃品回収業14件（同7.8%）、畜産業13件（同7.2%）、建築・土木工事12件（同6.7%）などの順であった。

表2-170 発生源別苦情受理状況（4年度）

（単位：件）

業 種 \ 種 類		大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	計
生産工場	食料品	3	2					3	8
	繊維・衣服・その他の繊維製品							1	1
	木材・木製品・家具	3			2				5
	パルプ・紙製品	2			1				3
	化学工業・石油・石炭製品		2						2
	窯業・土石製品	2	2						4
	鉄鋼・非鉄金属・金属製品	6	2		9	3		1	21
	機械器具		1		1			1	3
	その他の生産工場	2			2			3	7
	小計	18	9		15	3		9	54
修理工場									
建築・土木工事		3	2		7				12
交通機関	自動車	1			3	1			5
	その他				1				1
畜産業			5					8	13
下水・清掃事業			1						1
娯楽・遊興・スポーツ施設					1				1
家庭生活		1	2					2	5
鉱業施設・採石業		2							2
商店・飲食店		1	3		6			1	11
事務所					1			1	2
クリーニング・理容・美容・浴場業			1		1	1			3
廃品回収業		8	4		2				14
教育関連施設									
農作業					1			2	3
その他			6		3			1	10
不明			9					1	10
合 計		34	42		41	5		25	147

これを3年度と比べると、廃品回収業によるものが9件、建築・土木工事によるものが4件増加した反面、生産工場によるものが19件、農作業によるものが6件それぞれ減少した。また、近年の特色としては、苦情発生源が多様化している。

(4) 公害に関する苦情の処理状況

4年度における県及び市町村が受理した苦情の処理状況は、表2-171のとおりである。

直接処理（解決）したものは、160件（構成比88.9%）、他の機関へ移送したものの1件（同0.6%）、翌年度へ処理を繰越したものの6件（同3.3%）、その他（原因不明で処理方法がないもの等）13件（同7.2%）となっている。

表2-171 苦情の処理状況（4年度）

（単位：件）

種 類 内 訳		典 型 7 公 害							小 （典型七公害計）	産 業 廃 棄 物	そ の 他	合 計
		大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭				
苦 情 件 数		34	42		41	5		25	147	8	25	180
処 理 状 況	直接処理（解決）	32	34		36	5		22	129	8	23	160
	他 機 関 へ 移 送				1				1			1
	その他（原因不明 等により処理方法 のないもの等）		8		2			1	11		2	13
	翌 年 度 へ 繰 越	2			2			2	6			6

第12節 環境保全に関する試験、研究

1 公害センター

課 題	目 的	結 果
樹木による大気浄化作用に関する研究	樹木による二酸化窒素吸収量の測定法の開発	前年度開発した測定法に改良を加えるとともに、椿の苗木を用いて蒸散量と二酸化窒素吸収量の関係について検討した。
エアロゾルに関する研究	粒径別エアロゾルの分布状況及び発生源寄与についての解析	入善、黒部及び宇奈月地域において、エアロゾルの成分及び分布状況について粒径別に調査し、主成分分析法、CMB(化学成分バランス)法等により、発生源別寄与について解析した。
自動車排出ガスによる環境影響に関する研究	自動車から排出される汚染物質の道路周辺の環境に及ぼす影響についての解析	幹線道路のトンネル出口周辺において、自動車排出ガスによる汚染の実態を調査し、環境大気中の窒素酸化物及び粉じんの濃度分布や距離減衰について解析した。
酸性雨の生成機構と影響に関する研究	霧水の酸性化及び酸性雨の生成過程並びに土壌の理化学特性についての解析	立山地域の室堂及び美女平において、霧水や雨水、エアロゾル等を調査し、霧の酸性化及び酸性雨の生成過程について解析した。また、県内の代表的な非農用地土壌の理化学特性について解析した。
水質汚濁物質の測定方法に関する研究	排水中の農薬の迅速な分析方法の検討	ゴルフ場で使用される農薬のうち、GC-MS(ガスクロマトグラフィ質量分析)測定対象物質について、迅速な分析方法を検討した。
有機塩素化合物の分解に関する研究	排水中の有機塩素化合物の光分解による処理法の開発	水中のテトラクロロエチレン等の有機塩素化合物について、紫外線を照射し分解する排水処理装置の実用化試験を行い、効果的な処理方法を確立した。
湖沼における水質特性とプランクトンに関する研究	湖沼の水質特性やプランクトン等の自然特性の検討	縄ヶ池において、水質組成とプランクトンの関係や水域周辺の環境状況等を調査し、湖沼の特性について検討した。
産業廃棄物の処理方法に関する研究	自動車の解体に伴い発生するシュレッターダストの埋立処分方法の検討	シュレッターダストについて埋立処分のモデル実験を行い、浸出水の性状等を把握し、覆土厚さ等を検討した。

2 衛生研究所

課 題	目 的	結 果
不快昆虫の多発防止対策の調査研究	環境の変化により多発している不快害虫などの発生防止と駆除対策に関する検討	立山山岳観光地で発生している、蚊類の殺虫剤感受性とその特異性を明らかにした。 新設企業団地において、工場内の生産ラインで混入する飛翔性昆虫の侵入実態を明らかにした。
食品中の残留農薬及びその他の有害物質に関する調査研究	残留農薬等による食品の汚染状況の継続調査	農薬の分析を妨害するような油脂成分を多く含む果実類に、ローヘキサン-アセトニトリルの液々分配法を適用し、油脂成分の影響を除去できることを明らかにした。 本法を用いて、県内産の果実、野菜類12検体について、各々23種の農薬を分析したところ、すべて検出しなかった。さらに、精製法として、ゲル浸透クロマトグラフィを用いたところ、農薬とその妨害成分である植物性油脂や色素成分とを効率よく分離できた。
イタイイタイ病に関する研究	骨障害の早期診断とイタイイタイ病の予防	骨障害の生化学指標として骨に特異的で高感度な血清骨型アルカリフォスファターゼ及び酒石酸抵抗性酸フォスファターゼの多検体測定方法を確立した。
環境汚染物質と生体影響に関する研究	環境化学物質の生体汚染指標の確立	農薬暴露による生態影響について、農薬散布前後の血液生化学成分の変化を農薬の消長とあわせて検討した。

3 工業技術センター中央研究所

課 題	目 的	結 果
工業材料の分析法に関する研究	食品産業から生ずる油脂系廃棄物の性状把握のための迅速な分析法の体系化の検討	食品産業から排出する油脂系廃棄物の有機成分を約1000ppm程度にすることにより、TOD法(全酸素要求量分析法)による測定で十分対応できることが分かった。しかし、含有するNaClが意外に多いことから処理方法を更に検討する必要がある。

4 農業技術センター農業試験場

課 題	目 的	結 果
カドミウム汚染 田土地改良後の施 肥改善に関する試 験	神通川流域公特 事業実施地区にお ける水稻栽培指針 の実証展示	富山市(1か所)、婦中町(3か所)、八 尾町(1か所)の造成田で栽培指針に基 いて水稻を栽培し、施肥方法や地力増強 対策について検討した。
公害防除特別土 地改良事業に伴う 客土水田の調査	神通川流域公特 事業実施地区の客 土水田における玄 米・土壌中カドミ ウム濃度調査	第2次地区(富山市、婦中町、八尾町) の客土水田を対象に、代表地点で採取し た玄米及び土壌中のカドミウム濃度を分 析した。また、復元工法の安全性を確認 するための木杵調査を5か所で実施した。

5 畜産試験場

課 題	目 的	結 果
積雪地域におけ る良質堆肥生産利 用技術に関する研 究	低温多湿条件下 における良質堆肥 の生産方式につい ての検討	高床式豚飼養における豚舎内糞尿堆肥 化処理を試み、オガクズを副資材として 利用した場合、その発酵状況は良好で、 しかも豚の発育等には異常を認めなかつ た。

6 水産試験場

課 題	目 的	結 果
赤潮に関する調 査・研究	赤潮発生状況の 把握	5～9月までに、8回、延べ52日の赤 潮を確認した。 発生範囲は氷見地先から魚津地先にか けての沿岸一帯であった。 赤潮生物は、5月下旬から6月中旬に かけては夜光虫が主体であった。それ以 外の時期は例年と同様に珪藻類(キート セロス、スケルトネマ)が主体であった。
富山湾の汚染指 標の底生生物の調 査・研究	富山湾の底質の 汚濁状況の把握	富山湾内8カ所で採泥を行い、底生生 物の種類・現存量の分析を行った。湾内 で底質の汚濁が特に進んでいる地点は確 認されなかった。

7 林業技術センター林業試験場

課 題	目 的	結 果
酸性降下物が森林土壌に与える影響に関する研究	樹幹流や林内雨に含まれる酸性降下物質等の実態解明	山地と市街周辺地のスギ林において、降水によって発生する林内雨や樹幹流の化学的特性を明らかにし、地域間差について検討した。
酸性雨等森林影響予察に関する調査	酸性雨等による影響予察のための森林環境の現状把握	定点調査地で酸性雨実態調査、森林土壌調査、森林健全度調査等のモニタリング調査を行い、森林環境の実態を明らかにした。

第13節 民間における公害防止体制の整備

1 県 の 助 成

(1) 中小企業公害防止資金

この制度は、中小企業を対象として公害防止施設の整備促進を図るため融資を行うものであり、県が金融機関に県費を預託し、これに金融機関の協調融資額を加え融資を行っている。その概要は表2-172のとおりである。

なお、4年度における融資の実績は表2-173及び表2-174のとおりである。

表2-172 中小企業公害防止資金融資制度の概要

資 金 の 使 途	貸付対象者	金 利	償還期限	融資限度額
(1) 公害防止施設の整備 (産業廃棄物の処理施設を含む。)	中小企業者	3.8%以内	7年以内 (据置1年以内)	個別 2,000万円 共同 4,000万円
(2) 公害防止に必要な工場等の移転、 工場に隣接する民家等の買収				
(3) 公害防止のために必要な緑地の 設置に要する資金				
(4) 土砂運搬用トラックによる著し い道路の汚損又は粉じん発生の防 止のために必要な洗車施設の設置 及び路面清掃車の購入				

表2-173 中小企業公害防止資金の融資実績(公害の種類別)の年度別推移

年 度	公 害 の 種 類										合 計					
	汚 水	ば い じ ん 煙	臭 悪	有 害 ガ ス		騒 音 振	産 業 廃 棄 物	そ の 他			金 額 (千円)	件 数				
				金 額 (千円)	件 数								金 額 (千円)	件 数	金 額 (千円)	件 数
62	12	141,165	1	20,000	1	30,000	—	—	3	51,000	4	72,500	—	—	21	314,665
63	8	106,400	2	15,000	—	—	—	—	—	—	3	42,900	—	—	13	164,300
元	3	43,900	4	63,860	1	7,000	—	—	2	28,000	1	5,000	—	—	11	147,760
2	12	146,940	4	45,740	—	—	—	—	2	23,400	—	—	—	—	18	216,080
3	6	85,399	2	40,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	125,399
4	9	124,994	2	40,000	—	—	2	17,450	—	—	—	—	—	—	13	182,444

表2-174 中小企業公害防止資金の融資実績(市町村別)の推移

年度 市町村	63		元		2		3		4	
	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)
富 山 市	3	25,400	—	—	1	14,000	2	40,000	2	31,000
高 岡 市	3	40,000	5	56,160	7	70,780	1	20,000	2	12,444
新 湊 市	1	20,000	1	20,000	1	17,510	—	—		
魚 津 市	—	—	—	—	4	80,000	—	—		
氷 見 市	1	20,000	—	—	—	—	—	—		
滑 川 市	—	—	1	10,000	—	—	—	—		
黒 部 市	—	—	—	—	—	—	1	20,000		
砺 波 市	1	20,000	—	—	1	2,400	1	12,000	1	5,500
小 矢 部 市	—	—	—	—	1	16,000	2	30,000	2	40,000
上 市 町	1	6,000	—	—	—	—	1	3,399	1	6,500
立 山 町	—	—	1	16,600	—	—	—	—	1	20,000
入 善 町	—	—	—	—	—	—	—	—	1	20,000
八 尾 町	—	—	—	—	1	7,500	—	—		
婦 中 町	—	—	1	5,000	—	—	—	—		
小 杉 町	—	—	1	20,000	—	—	—	—		
大 門 町	—	—	—	—	—	—	—	—	1	17,000
下 村	—	—	—	—	—	—	—	—	1	10,000
大 島 町	—	—	—	—	1	3,090	—	—		
井 波 町	1	2,900	—	—	—	—	—	—		
福 野 町	—	—	1	20,000	—	—	—	—		
福 光 町	1	20,000	—	—	1	4,800	—	—		
福 岡 町	1	10,000	—	—	—	—	—	—	1	20,000
計	13	164,300	11	147,760	18	216,080	8	125,399	13	182,444

(2) その他の融資制度

公害防止施設等に対するその他の融資制度のうち、県が取り扱っているのは、中小企業設備近代化資金、中小企業設備貸与資金、中小企業高度化資金、中小企業振興融資資金及び農業近代化資金であり、実績は表2-175のとおりである。

表2-175 公害防止施設等に対するその他融資制度の実績の推移

種 別	63 年 度		元 年 度		2 年 度		3 年 度		4 年 度	
	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)	件数	金 額 (千円)
中小企業設備近代化資金	—	—	4	65,230	2	24,940	—	—	—	—
中小企業設備貸与資金	2	4,506	1	2,350	—	—	—	—	—	—
中小企業高度化資金	—	—	—	—	—	—	1	36,500	—	—
中小企業振興融資資金	2	50,000	1	40,000	—	—	—	—	—	—
農 業 近 代 化 資 金	1	1,860	1	8,370	—	—	1	7,500	2	6,840
計	5	56,366	7	115,950	2	24,940	2	44,000	2	6,840

2 公害防止管理者制度

特定工場における公害防止組織の整備に関する法律に基づき、特定工場には、排出ガス量、排水量等の規模により公害防止統括者、公害防止主任管理者、公害防止管理者を専任し、公害防止体制の整備を図ることとなっている。

公害防止管理者等の専任届出状況は、表2-176のとおり、244特定工場に590名の公害防止管理者等が選任されている。

なお、届出事務の一部が富山市ほか26市町に委任されている。

表2-176 公害防止管理者等の選任届出状況

(5年3月31日現在)

区 分		届 出 状 況
公 害 防 止 統 括 者		201 (52)
公 害 防 止 主 任 管 理 者		22
大気関係公害防止管理者	第 1 種	10
	第 2 種	10
	第 3 種	33
	第 4 種	73
水質関係公害防止管理者	第 1 種	14
	第 2 種	49 (3)
	第 3 種	17 (1)
	第 4 種	49 (9)
粉 じ ん 関 係 公 害 防 止 管 理 者		13
騒 音 関 係 公 害 防 止 管 理 者		46 (32)
振 動 関 係 公 害 防 止 管 理 者		53 (42)
総 数		590 (139)

注 ()は市町への委任分で、内数である。

第3章 平成5年度において講じよう とする環境保全に関する施策

平成5年度においては、第1章、第2章に述べたような環境の状況を踏まえ、環境汚染の未然防止については、とやま環境計画に基づき、ブルースカイ計画、クリーンウォーター計画等を推進し、環境影響評価の実施や環境情報管理システムの拡充を進めるほか、(財)とやま環境財団を中心に地域に根ざした環境保全活動を推進する。

監視指導体制については、環境の状況を的確に把握するため、大気、水質等の常時監視や各種調査を引き続き実施するとともに、大気汚染形態の変化などに対応するため、大気汚染常時観測局の適正配置を進める。また、工場等に対しては、公害の発生を監視し、未然防止を指導する。

地下水については、水質の状況を把握するとともに、地下水指針に基づき地下水の保全と適正利用の推進を図る。

廃棄物対策については、ごみの減量化や再生利用の推進方策を示した指針の活用により、ごみの減量化等の推進に努めるとともに、産業廃棄物処理計画に基づき廃棄物の適正処理の推進を図る。

自然環境の保全については、自然環境指針に基づき適正な保護と利用を推進するとともに、自然公園内の施設整備、立山マウントピア構想の策定、ナショナルパーククリーン作戦の実施や自然保護教育の拡充等の施策を積極的に展開する。

快適な環境づくりについては、日本一のきれいな県土づくりをめざして、美化清掃運動の展開や地域美化活動の推進を図るとともに、市町村が実施するとやまの滝や快適な公共トイレの整備事業を支援する。

地球環境問題については、講演会、教材等による環境保全意識の啓発、酸性雨調査を実施するほか、地球サミットのフォローアップとして、国際環境協力のあり方等についての国際会議の開催等各種施策を展開する。

また、公害の防止技術の開発や環境汚染メカニズム、動植物等の自然環境に

についての調査研究を行う。

1 総合的な環境保全対策

(1) とやま環境計画の推進

長期的展望に立って良好な環境を確保するため、「清らかな水と豊かな緑に恵まれた快適な環境」を計画目標に掲げたとやま環境計画に基づき、ブルースカイ計画やクリーンウォーター計画等の個々の計画を推進する。

(2) 環境影響評価の実施

大規模開発による環境汚染の未然防止を図るため、環境影響評価要綱に基づき、地域住民や市町村長の意見等を取り入れた環境影響評価の実施について事業者を指導する。

(3) 公害防止計画の推進

元年度に策定した富山・高岡地域公害防止計画に基づき、5年度を目標に主要幹線道路の騒音、都市河川の水質汚濁、神通川流域のカドミウム汚染田の復元等の公害防止対策事業の推進を図る。

(4) 環境情報管理システムの整備

とやま環境計画や環境影響評価の推進のほか、複雑・多様化する環境問題に的確に対応するため、環境情報の体系的な整備など、環境情報管理システムの拡充を図る。

2 大気汚染防止対策

(1) 大気環境計画(ブルースカイ計画)の推進

硫黄酸化物及び窒素酸化物について、今後とも環境基準を維持し、良好な大気環境を保全していくため、将来の燃料使用計画、交通量及び企業の新規立地計画等をもとに3年度に改定したブルースカイ計画を推進する。

(2) 大気汚染常時観測局適正配置計画の推進

大気汚染常時観測局適正配置計画に基づき、衛星回線を利用したデータ収集と市町村へ情報提供する大気環境ネットワークを充実するとともに、自動車排出ガス観測局1局を増設する。

(3) 大気汚染の常時監視

環境基準の達成状況等を把握し、適切な対応を図るため、一般環境観測局25局及び自動車排出ガス観測局6局で、硫黄酸化物、窒素酸化物等の常時監視を実施する。

(4) 環境大気基礎調査

大気環境の実態を把握するため、40地点で硫黄酸化物、窒素酸化物及び降下ばいじんについて1か月ばく露法等の調査を実施するほか、一般環境及び工場周辺で浮遊粉じんの成分等の調査を実施する。

(5) ばい煙発生施設等の監視・指導

工場のばい煙発生施設の排出基準の遵守状況を監視するため、立入調査を実施するほか、ばい煙発生防止対策等を指導する。

(6) 特定ガス環境大気調査

未規制物質で、その使用が多岐にわたっており大気汚染が懸念されているトリクロロエチレン等について排出実態等の調査を実施する。

また、石炭利用の拡大など、燃料の多様化に伴う環境影響を把握するため、大気中の水銀、ひ素及びベンゾ(a)ピレンについて調査を実施するとともに、土壌及び玄米中の水銀について調査を実施する。

(7) 自動車排出ガス等環境調査

自動車排出ガスによる環境影響を把握するため、主要交差点2か所で、一

酸化炭素、炭化水素等について調査を実施する。

また、スパイクタイヤによる道路粉じんの実態を把握するため、主要道路近傍25地点で、降下ばいじん等の調査を実施する。

(8) 酸性雨調査

酸性雨の実態を把握するため、雨水、湖沼のpHや酸性成分について調査を実施するとともに、県及び関係市で構成する酸性雨対策連絡会議において連絡調整や情報交換を行い、調査の効果的かつ円滑な推進を図る。

また、環境庁の酸性雨対策調査の一環として、国設酸性雨観測局が設置され、pHや酸性成分等について調査を実施する。

(9) 環境放射能調査

環境放射能の実態を把握するため、科学技術庁のモニタリング調査の一環として、大気浮遊じん、降水、日常食等について調査を実施する。

3 水質汚濁防止対策

(1) 水質環境計画（クリーンウォーター計画）の推進

「きれいな水」と「うるおいのある水辺」の確保を目標に、下水道の整備や合併処理浄化槽の普及促進を図るほか、小矢部川上流、山田川・池川、中川水域において、生活排水対策のモデル実践活動を実施するなど、3年度に改定したクリーンウォーター計画を推進する。

(2) 公共用水域の水質監視

河川や湖沼、海域における環境基準の達成状況を把握するため、公共用水域の水質測定計画に基づき、河川、湖沼及び海域の合計123地点において健康項目（カドミウム、水銀等）、生活環境項目（BOD、COD等）などについて、水質調査を実施する。

また、主要海水浴場において水質調査を実施するほか、県東部の河川に

において、水生生物を環境指標とする水質モニタリング調査を実施する。

(3) 地下水の水質監視

地下水の水質の状況を把握するため、地下水の水質測定計画に基づき、平野部の76地点において、健康項目について水質調査を実施する。

(4) 工場排水等の監視・指導

工場排水の排水基準の遵守状況を監視するため、立入調査を実施するほか、ゴルフ場における農薬の実態を把握するため、排水の水質調査を実施する。

(5) 湖沼水質調査

主要な湖沼の水質の現況を把握し、汚染の未然防止を図るため、上市川ダム、藤ヶ池、桑の院ダムにおいて、全窒素、全りん等について、水質調査を実施する。

(6) 化学物質使用実態調査

化学物質の多種多様化に伴い、製造、使用、貯蔵等の実態を把握するため、調査を実施する。

(7) 底質環境調査

河川及び港湾における底質の実態を把握するため、重金属(水銀、鉛等)及びPCBについて調査を実施する。

(8) 小規模事業場排水対策の推進

飲食店等の小規模事業場排水の適正処理を推進するため、排水処理技術マニュアルにより普及・啓発を図る。

4 騒音・振動防止対策

道路交通騒音等の防止対策や環境基準達成のための基礎資料を得るため、高速道路の沿道において騒音・振動の実態を調査する。また、航空機騒音に係る環境基準の達成状況について調査を実施する。

5 悪臭防止対策

畜産業、飼料肥料製造業等における悪臭の実態を把握するため、アンモニアや硫化水素等の悪臭物質について調査を実施する。

6 土壌汚染対策

神通川流域の第2次地区においては、復元工事を完了したので、作付可能となった客土水田に、展示ほを設置して技術指導を推進するとともに、客土水田の水稻収量やカドミウム濃度等の調査を行う。第3次地区においては復元事業を推進する。

黒部地域については、復元事業を推進する。

7 地下水対策

(1) 地下水指針の推進

地下水の保全と適正利用を図るため、地下水の合理的な利用や地下水保全意識の啓発を図るとともに、高岡・砺波及び富山地域の揚水量実態調査を実施するなど地下水指針を推進する。

(2) 地下水位の観測

地下水位の変動状況を把握するため、32観測井において地下水位の常時観測を実施する。

(3) 地下水塩水化調査

地下水塩水化の実態を把握するため、海岸部130地点において、地下水の塩素イオン濃度調査を実施する。

(4) 地下水利用対策協議会の支援

地下水の適正かつ合理的利用を図るため、高岡・砺波地域、富山地域、魚津・滑川地域及び黒部地域に設置されている地下水利用対策協議会を側面的に支援する。

8 一般廃棄物対策

(1) ごみの減量化・再生利用の推進

ごみの減量化や再生利用の推進を図るため、小学生用の副読本の作成やリサイクル推進キャンペーン等を実施し、普及啓発に努めるとともに、ごみの減量化や再生利用の推進方策を示した指針を策定する。

(2) 浄化槽の適正維持管理の推進

生活環境の保全と公衆衛生の向上を図るため、浄化槽の設置者及び保守点検業者に対し、浄化槽の構造、維持管理方法等正しい知識の普及啓発に努め、指導の徹底を図る。

(3) 合併処理浄化槽の普及

生活排水による公共用水域の汚濁を防止するため、合併処理浄化槽設置推進事業実施要綱に基づき、市町村と協力して、設置者に助成するなど、合併処理浄化槽の普及を図る。

9 産業廃棄物対策

(1) 監視及び指導の強化

特定有害産業廃棄物の排出事業所や処理業者等の最終処分場について重点的に監視し、適正処理を推進するほか、マニフェストシステムの普及を図り、産業廃棄物の排出から最終処分までの管理の徹底を図るよう指導する。

また、感染性廃棄物処理マニュアルや建設廃棄物処理ガイドラインについても、その周知徹底を図り、適正処理の推進に努める。

(2) 中間処理、有効利用の促進

産業廃棄物の減量化、有効利用の促進を図るため、中間処理施設の整備を指導するとともに、多量の産業廃棄物を排出する事業者に対し排出実態等を調査し、必要に応じ処理計画の作成の指示等、廃棄物の減量化や適正処理について指導する。

また、広域交換制度の積極的な活用による有効利用の促進を図るため、情報交換を進める。

(3) 最終処分場の確保

最終処分場の確保を図るため、処理業者に対して地元市町村や住民との協議のもとに計画的整備を図るよう指導する。また、広域移動する産業廃棄物については、県内産業の健全な育成、処分場に対する地元住民の意識を考慮し、受託の適正化を図るよう指導する。

(4) 処理業者の育成

処理業者の指導育成を図るとともに、関係団体の行う適正処理活動を支援し、自主管理体制の確立を推進する。

(5) 産業廃棄物の適正処理推進方策の研究

産業廃棄物の適正処理を推進するため、研究会を設置し、産業廃棄物の

処理方法や処理体系等について検討する。

10 自然環境保全対策

(1) 自然環境指針の策定

本県の自然を、各種開発行為などとの調整を図り、適正に保全しながら、持続的に利用していくことにより、うるおいとやすらぎに満ちた快適な県土の形成に努めるため、自然環境指針を策定する。

(2) 自然環境保全地域の管理

自然環境保全計画に基づき、自然環境保全地域において標識の整備等の保全事業を実施するとともに、巡視等の適正な管理を行う。

(3) 自然公園の整備及び管理

ア 中部山岳国立公園については、継続事業として、千寿ヶ原地区で駐車場の拡張整備や公衆便所の整備を行い、新規事業として、美女平、ブナ坂地区で「大自然と歴史の登山道」として立山登山道の復活整備を行う。

また、室堂では、地獄谷歩道の復旧整備を行い、五色ヶ原、雲の平や弥陀ヶ原においては、歩道を改良整備するほか黒部湖野営場の公衆便所等を建設する。

イ 白山国立公園については、桂湖周辺の利用のあり方等について調査研究する研究会を設け、基本的な方針を検討する。

ウ 旧街道（案）をテーマとし、その周辺の自然、文化、伝統等に恵まれた地域を結ぶ歩道ネットワークの形成のための「中部北陸自然歩道」の整備計画を策定する。

エ 松倉城跡県定公園等6公園について早急に整備を図るため、特別整備補助制度を設け整備を行うとともに、朝日町等9市町村の既存の県立自然公園及び県定公園については、引き続き市町村が行う施設整備事業に対し助成する。

- オ 立山黒部アルペンルートの利用者サービスのあり方を見直すとともに、立山カルデラの適正な保護と利用の方策についても検討してきた立山マウントピア構想を策定する。
- カ N.P.C 作戦(ナショナル・パーク・クリーン作戦)として、公衆便所の汲み取り(1か所、空輪)を実施するとともに、ターミナル等からごみ箱を撤去し、ごみ持ち帰り運動を一層推進するキャンペーンを実施する。
- キ 立山の植生復元については、引き続き室堂地区において緑化工事を実施する。
- ク 室堂平を中心に公園パトロール、美化清掃及び利用者指導等を行うとともに、薬師岳及び後立山連峰周辺に生息する高山蝶(タカネヒカゲ等)を保護するため、標識等による啓発やパトロールの強化を行う。
- ケ 山岳遭難防止対策として、テレフォンサービスに加えて立山室堂ターミナルに登山相談コーナーを開設するとともに遭難防止対策無線連絡網の充実を図り、安全登山を推進する。

(4) 県民公園の整備及び運営

- ア 富山県置県百年記念県民公園条例に基づく新港の森、太閤山ランド、頼成の森、自然博物館及び野鳥の園の管理を財団法人県民福祉公園に委託し、諸施設の有機的かつ一体的な利用が図られるよう適切な管理運営に努める。
- イ 県営新港野球場のフェンスを衝撃吸収フェンスに改良し、利用者の安全を図る。

(5) 家族旅行村の整備及び運営

- ア 立山山麓家族旅行村については、荒天時にもアウトドアレクリエーションを楽しむことができるようにバーベキュー広場にテント施設を設ける。
- イ とやま・ふくおか家族旅行村については、継続事業として多目的広場・多目的遊歩道の造成、管理棟、駐車場等の整備を図る。

(6) 野生鳥獣の保護と管理

ア ライチョウ保護対策の一環として、薬師岳で生息数調査、生息環境調査、生態調査及び冬期調査等の調査を実施する。

さらに、室堂山周辺100haにおいて、繁殖期(5月20日～7月31日)にスキーヤーなどのハイマツ地帯への立入りを規制する。

イ 愛鳥週間において、ツバメの調査、バードウォッチング、愛鳥ポスターならびに標語の募集を行うなど愛鳥思想の啓発を図る。

ウ オオハクチョウのための給餌活動、カスミ網による密猟の取締り、キジの放鳥等を行い積極的に野生鳥獣の保護と増殖を図るほか、鳥獣保護センターにおいて、傷病鳥獣の救護を実施する。

エ 県内各地に鳥獣保護員を配置し、保護の実効と啓発を図るとともに、有害鳥獣については、必要に応じて駆除隊を編成し、的確で迅速な駆除を実施する。

オ 狩猟の適正化を図るため、各種の講習会、研修会や取締りを実施するとともに、狩猟事故の防止を図るため、必要に応じ銃猟禁止区域、銃猟制限区域を設置する。

カ 近年、農作物への被害をもたらしている野猿について、3年度から実施した野生動物保護対策事業(電気柵設置)を引き続き実施する。

キ ツキノワグマの保護対策として、国、県の指導のもと、県猟友会は4年度の猟期から1か月間(1月15日～2月15日)クマ猟を自粛しており、今年度も引き続き実施する。

(7) 自然保護思想の普及

ア 次の各地域にナチュラリストを配置し、公園利用者に自然解説を行う。

県民公園(自然博物館及び頼成の森)

4月25日～11月3日の間の毎日曜日及び祝日(自然博物館については第2土曜日も)

称名地区

7月4日～10月11日の間の毎日曜日及び祝日

立山（室堂及び弥陀ヶ原）

7月20日～8月31日の毎日

その他、ナチュラリストバンクを通じてナチュラリストの個別派遣を積極的に行う。

イ 県内各地に自然保護指導員を配置し、自然公園等の利用者の指導、公園内のパトロールを行う。

ウ 自然博物園「ねいの里」において、誰もが自然に親しみ学べるように、四季を通じての自然観察会をはじめとした各種プログラムを実施することによって、環境教育の普及を図る。

エ 自然保護思想の普及のため、自然に親しむ集いや講演会を開催する。

オ 有峰湖一帯において、自然に触れることにより、すばらしい郷土の自然を守り育てていこうとする意識を培うことを目的として開催される有峰フェスティバルを支援する。

カ 立山登山の深い歴史を思い起こし、すばらしい立山の自然を満喫できる立山修験道登山イベントを支援する。

(8) 自然環境の各種調査

ア 53～55年に設定した立山道路沿線の調査区において、引き続き植生（植生及び標本木の活力度）を中心とした定点調査を行うとともに、新たにブナ林再生調査を行う。

イ 環境庁の委託による自然環境保全基礎調査（湿地調査、動植物分布調査）を行う。

11 快適な環境づくり

(1) 県土美化推進運動の展開

日本一きれいな県土づくりをめざし、県土美化推進県民会議を中心に県民総ぐるみによる県土美化推進運動を次のとおり実施する。

ア 県民会議活動の推進

県民総ぐるみによる日本一のきれいな県土づくりを進めるため、県土美化推進県民会議の開催、県土美化功労者の表彰、機関紙の発行、清掃美化大会の開催等を実施する。

イ 県民意識の高揚

ポスター、シール、ごみ持ち帰り袋等の配布や、テレビ、ラジオ、新聞を活用して、県民の環境美化モラルの高揚を図る。

ウ 県民総ぐるみ大クリーン作戦の展開

県土美化推進県民会議を中心に、地域住民や関係団体等の協力を得て、「まちやむらを美しくする運動」、「川をきれいにする運動」、「山や海岸をきれいにする運動」、「空カンゼロ運動」を県民総ぐるみで展開し、清掃活動や緑化活動を県下一斉に行う。

エ 地域美化活動の推進

地域に根ざした環境美化活動を推進するため、特別美化モデル地区1地区、一般モデル地区34地区を中心に県土美化活動を展開する。

(2) 親水思想の高揚

水に対する関心を高めるため、水生生物の観察、名水巡りなどを組み入れた「親子の水とのふれあいバス教室」や「名水巡りバス」を開催する。

(3) グリーンプランの推進

うるおいに満ちた「日本一の花と緑の県」づくりをめざし、県民総ぐるみで生活環境の緑化を推進するため、新しいグリーンプランに基づき各種施策を展開する。

ア 公共的施設に花壇やフラワーポットを設置するとともに、花と緑のまちのかおづくり事業や花と緑のまちのシンボルづくり事業、学校花と緑のモデル事業により地域緑化、学校緑化を引き続き推進する。

イ 緑化木や花の種を配布するとともに、花と緑のフェスティバル（夏・冬）や県民緑花カレッジ、花と緑の銀行設立20周年記念大会を開催するなど、普及啓発活動を積極的に展開する。

ウ グリーンキーパーを増員するとともに、花と緑のグループやそのリーダー等の育成を図り、地域に密着した緑化推進のための環境づくりを行う。

エ 緑化技術の普及啓発を図るため、花屋、種苗店など民間組織の協力を得ながら、花と緑の情報提供を積極的に推進する。

オ 富山県植物公園ネットワークの中核的施設となる中央植物園の屋外展示園を部分開園するほか、展示温室の建設に着手するとともに、林業試験場樹木園を開園する。

また、市町村の専門植物園整備事業に対しての補助並びに指導を引き続き行う。

(4) 快適な公共トイレの整備

きれいで利用しやすい公共トイレの整備促進を図るため、モデル的な施設の設置や改築に対して市町村に助成する。

また、県民の公共トイレに対する意識の啓発を図るため、シンポジウムやグッドトイレコンテスト等を実施する。

12 環境保全活動等の推進

(1) 環境保全活動の推進

ア 励とやま環境財団への支援

地域に根ざした環境保全活動を県民、事業者、行政が一体となって取り組むため、励とやま環境財団が実施する環境情報の収集・提供、環境教育資料等の作成、新聞・テレビ等による普及啓発、環境保全団体への助成やナチュラリストバンク事業等に対して支援する。

イ 環境保全相談室の活動

県民、事業者等に対する環境保全活動の普及啓発を推進するため、環境保全相談室においてボランティア団体等の活動支援及び環境保全に関する情報提供や相談業務を実施する。

ウ 環境保全活動推進員養成講座の開催

環境保全活動の推進、環境保全に関する知識の普及等、地域に根ざした環境保全活動の推進役となるリーダーを養成するため、環境保全活動推進員養成講座を開催する。

(2) 環境教育の推進

ア 「環境月間」諸行事の実施

6月の環境月間には、ポスターの募集・展示、講演会の開催、企業に対する環境行事の実施の呼びかけ等を行う。

イ 一日環境大学校の開催

ごみの減量化、リサイクルと私たちの暮らしとのかかわりについて考える一日環境大学校を開催する。

ウ バス教室の開催

人間と環境のかかわりについての理解と関心を深め、環境に配慮した生活・行動ルールを確立するため、廃棄物処理施設や自然博物館センター等を巡る「暮らしと環境を考えるバス教室」を開催する。

エ 各種教材の整備

環境教育を円滑に推進するため、ビデオ、リーフレット等、各種啓発用教材の整備を進めるとともに、総合的な環境教育の在り方を研究し、環境教育学習指導資料を作成する。

(3) 地球環境問題への取り組み

ア とやま国際環境会議の開催

地球サミットのフォローアップの一環として、国際協力の推進と東アジア酸性雨監視ネットワーク構想の策定のための国際会議を環境庁等と共催で開催する。

イ 地球環境問題講演会の開催

地球環境問題の普及啓発と地球にやさしい暮らしの確立を目的に地球環境問題講演会を開催する。

13 公害防止事業に対する助成

中小企業における公害防止施設の整備を促進するため、中小企業者が設置する施設に対し、長期・低利な資金を融資する。

14 その他の環境保全対策

(1) 県民公園新港の森等緩衝緑地の整備

富山新港地区の「県民公園新港の森」及び富山空港地区の「空港スポーツ緑地」の管理について、財富山県民福祉公園に委託し、県民に親しまれる公園として運営、整備を図る。

(2) 下水道等の整備

小矢部川流域下水道、神通川左岸流域下水道、公共下水道（9市13町1事務組合）及び特定環境保全公共下水道（7市8町4村）の整備を推進し下水道の普及を図る。

また、農村下水道やコミュニティ・プラントの整備を進める。

(3) 畜産環境保全対策

ア 畜産経営の環境保全対策の指導強化

畜産経営環境保全対策会議を開催し、県、市町村及び農業団体を一丸とする総合的な指導体制を整備強化するとともに、畜産環境保全に係る畜産農家の実態調査、巡回指導、ふん尿の適正処理技術研修会の開催等を行う。また、苦情の発生源となる汚水、悪臭、衛生害虫の発生を未然に防ぐよう検査・調査を実施し、徹底した指導をしながら畜産経営による環境汚染の防止を図る。

イ 畜産環境対策の促進

畜産農家の組織化と集団化を図るとともに、畜産農家と耕種農家の連携による合理的な家畜ふん尿の処理利用を推進し、安定的経営を指導す

る。

ウ 家畜ふん尿有効利用の促進

家畜ふん尿を土壤改良資材及び肥料として土地還元することにより、畜産公害の防止と地力の増強を図り、土地基盤と結びついた安定的な畜産経営の育成を図る。

エ 助成及び融資

畜産環境保全に係る施設導入に対し、補助事業の検討及び資金の融資を行うとともに、リース事業の積極的活用についても指導を行う。

(4) 漁場環境保全対策

ア 漁場環境の監視

調査指導員による漁場環境の監視及び漁業公害に関する情報の収集を行う。

また、漁業者に対し漁業公害に関する講習会を開催し、知識の普及に努める。

イ 定置網付近の水質調査

定置漁場を中心とした31地点について、水質調査を実施する。

(5) 環境保健対策

ア イタイイタイ病対策

イタイイタイ病患者等の治療の促進と発病の予防を図るため、家庭訪問指導や管理検診を実施するほか、神通川流域における住民健康調査を実施する。

イ カドミウム環境汚染要観察地域対策

黒部市の日鉱亜鉛(株)(旧日本鉱業(株)三日市製錬所)周辺住民の要追跡者に対し健康調査を実施し、住民の健康管理に努める。

ウ 地域住民の健康管理対策

市町村が生活環境要因の変化に係る健康調査を実施するにあたっては、技術協力をする。

エ 光化学スモッグ対策

光化学スモッグが発生した場合には、被害状況の調査等を実施し、地域住民の健康管理に努める。

15 環境保全に関する試験・研究

(1) 公害センター

ア 樹木による大気浄化作用に関する研究

前年度開発した方法により、各種樹木の二酸化窒素吸収量を比較するとともに、蒸散量から二酸化窒素吸収量を推定する方法について研究する。

イ エアロゾルに関する研究

新湊、小杉及び氷見地域におけるエアロゾルの成分及び分布状況について、粒径別の精密調査を行い、それぞれの地域特性等を研究する。

ウ 酸性雨の生成機構と影響に関する研究

立山地域において、霧水、雨水、エアロゾル等を調査し、霧の酸性化及び酸性雨の生成過程について研究する。また、県内の代表的な非農用地土壌の理化学特性や緩衝能について研究する。

エ 水質汚濁物質の測定方法に関する研究

ゴルフ場で使用される農薬のうち、高速液体クロマトグラフ測定対象物質について、排水を対象として迅速な分析方法を研究する。

オ 有機塩素化合物の分解に関する研究

有機塩素化合物を含む排水について、光分解（紫外線）による処理の基礎的な研究を行う。

カ 湖沼における水質特性とプランクトンに関する研究

有峰湖等において、水質特性とプランクトンとの関係や水域周辺の環境状況等を調査し、それぞれの湖沼の特性について検討する。

キ 産業廃棄物の処理方法に関する研究

自動車の解体に伴い発生するシュレッダーダストについて、4年度の

基礎検討結果を踏まえて埋立処分のモデル実験を行い、浸出水の性状や必要な覆土厚さ等について研究する。

(2) 衛生研究所

ア 不快昆虫の多発防止対策の調査研究

観光地、都市部小河川（排水路）等にも多発する不快害虫並びに家畜舎から発生するハエ類、各種事業所周辺で発生するユスリカ類の発生防止対策を研究する。また、新設企業団地において、製品に混入する飛翔性昆虫の侵入阻止法の開発研究を行う。

イ 食品中の残留農薬及びその他の有害物質に関する調査研究

残留農薬や水銀等による県内食品の汚染状況について調査する。

ウ イタイイタイ病の予防に関する研究

カドミウムによる慢性中毒からイタイイタイ病への進展を予防するため、イタイイタイ病要観察者の生化学的変化を調査検討する。

エ 環境汚染物質と生体影響に関する研究

有機リン系農薬の暴露と体内残留状況を調査検討する。

(3) 工業技術センター中央研究所

ア 生分解性プラスチックに関する研究

生分解性プラスチックを使用した製品の開発に伴う微生物分解に関する基礎的な研究を進める。

イ プラスチックの再生・処理高度化技術開発研究

廃棄プラスチックの再生技術・再資源化技術を調査し、より効率的な処理技術を検討する。

(4) 農業技術センター農業試験場

ア 公害防除特別土地改良事業に伴う客土水田の調査

神通川流域の公害防除特別土地改良事業（第2次地区）完了地区の客土水田において、玄米及び土壌中のカドミウム濃度調査等、対象地域の

指定解除のための諸調査を実施する。

イ 農用地における酸性降下物の調査研究

農用地に降下・流入する酸性降下物の実態を明らかにし、年間負荷量及び農地土壌に与える影響について研究する。

(5) 畜産試験場

積雪地域における良質堆肥生産利用技術に関する研究

高床式豚飼養と豚舎内発酵堆肥化処理技術を組合せ、悪臭の少ない糞尿混合物の堆積処理方法を検討するとともに、低温多湿条件下でのバーク堆肥生産方式について研究する。

また、バーク堆肥の腐熟度判定と施用技術について、指標植物等を用いて研究する。

(6) 水産試験場

ア 赤潮に関する調査

赤潮の発生状況を調査し、富山湾の水質環境の現状を把握する。

イ 富山湾の汚染指標の底生生物の調査

富山湾海域の環境を監視するため、富山湾内8か所で採泥を行い、底生生物の消長を調査する。

(7) 林業技術センター林業試験場

ア 酸性雨等森林影響予察に関する調査

森林に流入する酸性降下物等の負荷量調査や森林土壌調査、森林健全度調査を実施し、森林への影響についての基礎資料を得る。

イ 酸性降下物が森林土壌に与える影響に関する研究

林内雨や樹幹流によって林地土壌に流入した酸性降下物質等の動態について研究する。

年 月	資 料
36・8	・富山県立総合運動場設置
37・8	・ばい菌製鉄新法
38・11	・富山県鳥獣保護及び狩猟に關する法律施行細則制定
39・9	・富山県鳥獣保護員就養所制定
40・10	・富山化学工業株式会社工場に地味類害防除部設置
40・11	・富山県公害対策協議会設置
41・3	・富山県登山届出条例制定
42・4	・富山県動物園に動物生息に公害防止設備
42・11	・富山県山岳遭難防止対策委員会設置
43・1	・富山県立公園管理条例制定
43・2	・国、新幹線の解凍アイス見張りカメラ(CO 監視カメラ)
43・3	・厚生省研究班、イタイイタイ病の発症に關する研究発表
43・4	・小笠原川下流のイタイイタイ病の調査
43・5	・国、イタイイタイ病についての調査
43・6	・富山県公害防止条例制定(公害防止施設等設置)
43・7	・富山県公害防止施設等設置
43・8	・富山県公害防止施設等設置
43・9	・富山県公害防止施設等設置
43・10	・富山県公害防止施設等設置
43・11	・富山県公害防止施設等設置
44・1	・富山県公害防止施設等設置
44・2	・富山県公害防止施設等設置
44・3	・富山県公害防止施設等設置
44・4	・富山県公害防止施設等設置
44・5	・富山県公害防止施設等設置
44・6	・富山県公害防止施設等設置
44・7	・富山県公害防止施設等設置
44・8	・富山県公害防止施設等設置
44・9	・富山県公害防止施設等設置
44・10	・富山県公害防止施設等設置
44・11	・富山県公害防止施設等設置
45・1	・富山県公害防止施設等設置
45・2	・富山県公害防止施設等設置
45・3	・富山県公害防止施設等設置
45・4	・富山県公害防止施設等設置
45・5	・富山県公害防止施設等設置
45・6	・富山県公害防止施設等設置
45・7	・富山県公害防止施設等設置
45・8	・富山県公害防止施設等設置
45・9	・富山県公害防止施設等設置
45・10	・富山県公害防止施設等設置
45・11	・富山県公害防止施設等設置
46・1	・富山県公害防止施設等設置
46・2	・富山県公害防止施設等設置
46・3	・富山県公害防止施設等設置
46・4	・富山県公害防止施設等設置
46・5	・富山県公害防止施設等設置
46・6	・富山県公害防止施設等設置
46・7	・富山県公害防止施設等設置
46・8	・富山県公害防止施設等設置
46・9	・富山県公害防止施設等設置
46・10	・富山県公害防止施設等設置
46・11	・富山県公害防止施設等設置
47・1	・富山県公害防止施設等設置
47・2	・富山県公害防止施設等設置
47・3	・富山県公害防止施設等設置
47・4	・富山県公害防止施設等設置
47・5	・富山県公害防止施設等設置
47・6	・富山県公害防止施設等設置
47・7	・富山県公害防止施設等設置
47・8	・富山県公害防止施設等設置
47・9	・富山県公害防止施設等設置
47・10	・富山県公害防止施設等設置
47・11	・富山県公害防止施設等設置
48・1	・富山県公害防止施設等設置
48・2	・富山県公害防止施設等設置
48・3	・富山県公害防止施設等設置
48・4	・富山県公害防止施設等設置
48・5	・富山県公害防止施設等設置
48・6	・富山県公害防止施設等設置
48・7	・富山県公害防止施設等設置
48・8	・富山県公害防止施設等設置
48・9	・富山県公害防止施設等設置
48・10	・富山県公害防止施設等設置
48・11	・富山県公害防止施設等設置
49・1	・富山県公害防止施設等設置
49・2	・富山県公害防止施設等設置
49・3	・富山県公害防止施設等設置
49・4	・富山県公害防止施設等設置
49・5	・富山県公害防止施設等設置
49・6	・富山県公害防止施設等設置
49・7	・富山県公害防止施設等設置
49・8	・富山県公害防止施設等設置
49・9	・富山県公害防止施設等設置
49・10	・富山県公害防止施設等設置
49・11	・富山県公害防止施設等設置
50・1	・富山県公害防止施設等設置
50・2	・富山県公害防止施設等設置
50・3	・富山県公害防止施設等設置
50・4	・富山県公害防止施設等設置
50・5	・富山県公害防止施設等設置
50・6	・富山県公害防止施設等設置
50・7	・富山県公害防止施設等設置
50・8	・富山県公害防止施設等設置
50・9	・富山県公害防止施設等設置
50・10	・富山県公害防止施設等設置
50・11	・富山県公害防止施設等設置
51・1	・富山県公害防止施設等設置
51・2	・富山県公害防止施設等設置
51・3	・富山県公害防止施設等設置
51・4	・富山県公害防止施設等設置
51・5	・富山県公害防止施設等設置
51・6	・富山県公害防止施設等設置
51・7	・富山県公害防止施設等設置
51・8	・富山県公害防止施設等設置
51・9	・富山県公害防止施設等設置
51・10	・富山県公害防止施設等設置
51・11	・富山県公害防止施設等設置
52・1	・富山県公害防止施設等設置
52・2	・富山県公害防止施設等設置
52・3	・富山県公害防止施設等設置
52・4	・富山県公害防止施設等設置
52・5	・富山県公害防止施設等設置
52・6	・富山県公害防止施設等設置
52・7	・富山県公害防止施設等設置
52・8	・富山県公害防止施設等設置
52・9	・富山県公害防止施設等設置
52・10	・富山県公害防止施設等設置
52・11	・富山県公害防止施設等設置
53・1	・富山県公害防止施設等設置
53・2	・富山県公害防止施設等設置
53・3	・富山県公害防止施設等設置
53・4	・富山県公害防止施設等設置
53・5	・富山県公害防止施設等設置
53・6	・富山県公害防止施設等設置
53・7	・富山県公害防止施設等設置
53・8	・富山県公害防止施設等設置
53・9	・富山県公害防止施設等設置
53・10	・富山県公害防止施設等設置
53・11	・富山県公害防止施設等設置
54・1	・富山県公害防止施設等設置
54・2	・富山県公害防止施設等設置
54・3	・富山県公害防止施設等設置
54・4	・富山県公害防止施設等設置
54・5	・富山県公害防止施設等設置
54・6	・富山県公害防止施設等設置
54・7	・富山県公害防止施設

第1 年表 (昭和36年度～平成3年度)

年 月	内 容
36・8	・富山県鉱工業公害対策協議会設置
37・6	・ばい煙規制法制定
38・11	・富山県鳥獣保護及び狩猟に関する法律施行細則制定 ・富山県鳥獣保護員設置規則制定
39・9	・富山化学工業㈱富山工場で塩素漏洩事故発生
10	・県衛生研究所に公害調査課設置
40・11	・富山県公害対策協議会設置
41・3	・富山県登山届出条例制定
4	・県厚生部環境衛生課に公害係設置 ・富山県山岳遭難防止対策審議会設置 ・富山県定公園規則制定
9	・国、新型車の排出ガス規制告示 (CO 濃度 3%) ・厚生省研究班、イタイイタイ病の原因に関する見解発表
12	・小矢部川下流の底質から有機水銀発見、県、追跡調査実施
42・1	・県、イタイイタイ病についての報告書発表
4	・県総合計画部に公害課設置
5	・富山県中小企業公害防止施設整備資金融資要綱及び富山県公害防止施設整備資金融資利子補給金交付要綱制定
6	・富山県公害対策連絡会議設置
7	・富山市、高岡市、新湊市の区域、ばい煙規制法の規制地域に指定 ・国及び県、高岡、新湊地区地下水利用適正化調査開始
8	・公害対策基本法制定
12	・県、イタイイタイ病患者及び疑似患者等に対する特別措置要綱制定
43・3	・富山県公害防止条例制定 (公害防止計画の届出、水銀の測定義務、公害対策審議会の設置) ・イタイイタイ病患者、三井金属鉱業㈱を相手どって訴訟提起
4	・富山県公害対策審議会設置
5	・厚生省、イタイイタイ病の原因は、三井金属鉱業㈱神岡鉱業所の排出したカドミウムである旨の見解を発表 ・イタイイタイ病裁判の第一回口頭弁論が富山地裁で開始 ・庄川下流地域地下水利用対策協議会設立
6	・富山県公害防止条例施行規則制定 ・大気汚染防止法、騒音規制法制定
7	・国及び県、大気拡散調査開始

年 月	内 容
43・8	・厚生省、水銀による環境汚染防止暫定対策要領を都道府県知事に通達
11	・県、北陸電力㈱と公害防止協定締結
12	・県、工場又は事業所の事故時に関する措置要綱制定
	・富山市、高岡市、新湊市の区域、大気汚染防止法の規制地域に指定
44・2	・魚津地先海域、小矢部川下流部、岩瀬運河、水質保全法のメチル水銀規制水域に指定
	・国、硫黄酸化物に係る環境基準を設定
	・県、住友化学工業㈱と公害対策に関する細目協定締結
3	・富山市、高岡市、騒音規制法に基づく規制地域に指定
9	・国、新型車の排出ガス規制告示（CO濃度2.5%）
	・国、カドミウムによる環境汚染防止暫定対策要領を都道府県知事に通達
12	・公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法制定
45・1	・富山県公害被害者認定審査会設置
	・国、一酸化炭素に係る環境基準を設定
	・神通川の水銀汚染が表面化、発生源は福寿製薬㈱富山工場と判明
5	・富山県公害関係部長会議設置
	・日本鉱業㈱三日市製錬所による黒部市のカドミウム汚染が表面化、県、同製錬所周辺を中心とするカドミウム暫定汚染区域設定
6	・日本鉱業㈱三日市製錬所4割操短を実施
	・公害紛争処理法制定
	・富山県総合計画部公害課を知事直属の公害課に所属変更するとともに公害センター設置
	・富山県公害防止条例全面改正（公害対策の責務、工場等に対する規制、特定物質の測定義務、小規模事業者に対する助成措置）
	・魚津地先海域、小矢部川下流部、岩瀬運河、熊野川下流部、水質保全法のアルキル水銀規制水域に指定
7	・厚生省、米の中のカドミウム濃度の安全基準を設定
	・県、日本鉱業㈱三日市製錬所周辺を中心とする地域にカドミウム要精密調査区域設定
8	・富山県公害防止条例施行規則全面改正（規制基準の設定、特定施設の拡大）
	・富山県環境保健健康調査実施要綱制定
	・富山県公害対策本部設置
	・住民の直接請求による富山県公害防止条例改正の臨時県議会開催
	・日本鉱業㈱三日市製錬所、豊羽鉱山（北海道）の付属製錬所となり鉱

年 月	内 容
45・9	山保安法の適用 ・富山県公害行政推進協議会設置 ・富山県環境保健健康調査協議会設置 ・富山県公害紛争処理条例制定
10	・富山県公害部を新設（公害管理課、公害防止課、保安整備課、交通安全課） ・県、生活環境要因の変化に伴う健康障害者に対する特別措置要綱制定 ・住民の直接請求による富山県公害防止条例改正の臨時県議会開催
11	・富山県公害審査会設置 ・知事「ふっ素化合物の環境基準、りん酸化物及び窒素酸化物の排出基準の設定」を県公害対策審議会に諮問
12	・第64臨時国会で公害関係14法成立 ・国、小矢部川を水質保全法の指定水域に指定
46・1	・富山県公害被害者認定審査会設置
2	・富山県公害防止条例及び同施行規則改正（年次報告、直罰規定等の新設、深夜騒音等の規制、使用開始の報告）
3	・富山県立自然公園条例制定
4	・公害センターを2課制（監視課、調査課）
5	・富山県大気汚染緊急時対策実施要綱制定及び大気汚染中央監視室開設 ・婦中町、富山市、大沢野町、イタイイタイ病に関連して支出した公費について、三井金属鉱業㈱に対し損害賠償請求 ・国、小矢部川に水質汚濁に係る環境基準を設定 ・国、騒音に係る環境基準を設定
6	・悪臭防止法、特定工場における公害防止組織の整備に関する法律制定 ・県、ふっ素及びふっ素化合物に係る環境基準を設定 ・富山県産業廃棄物処理対策研究会設置 ・第1次イタイイタイ病訴訟結審（富山地裁） ・知事「富山県公害防止条例施行規則の一部改正」を県公害対策審議会に諮問、同審議会「富山県公害防止条例施行規則の一部改正」を知事に答申 ・第1次イタイイタイ病訴訟の第1審判決（富山地裁）、即日、三井金属鉱業㈱控訴 ・環境庁発足
7	・富山県水質審議会設置 ・富山県公害防止条例施行規則改正（特定施設、規制物質の追加）
8	・知事「大気汚染防止法に係る上乗せ排出基準の設定」を県公害対策審

年 月	内 容
	議会に、「神通川水域に係る環境基準の水域類型指定及び上乗せ排水基準の設定」、「白岩川水域に係る環境基準の水域類型指定及び上乗せ排水基準の設定」、「小矢部川水域に係る上乗せ排水基準の設定」を県水質審議会に諮問
46・8	・県公害対策審議会「大気汚染防止法に係る上乗せ排出基準の設定」、「りん酸化合物及び窒素酸化合物に係る指導排出基準の設定」を知事に答申 ・県、第1回の公害白書発表
9	・県水質審議会、「小矢部川水域に係る上乗せ排水基準の設定」について知事に答申
10	・県、大気汚染防止法に基づく排出基準及び水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例制定（有害物質に係る上乗せ排出基準及び小矢部川に係る上乗せ排水基準の設定） ・富山市、大気汚染防止法に基づく政令市に指定 ・富山市、婦中町、大沢野町と三井金属鉱業㈱との間で、知事を立会人としてイタイイタイ病に基づいて支出した医療費については、イタイイタイ病裁判の判決が確定したとき、時効と関係なく原因者が支払う等の内容の覚書を交換
12	・大気汚染防止法施行令及び同規則改正（K 値改正）
47・1	・国、浮遊粒子状物質に係る環境基準を設定 ・県水質審議会、「神通川水域に係る環境基準の水域類型指定と上乗せ排水基準の設定」について、知事に答申
2	・県、北陸電力㈱及び富山共同火力発電㈱と公害防止協定締結 ・富山県大気汚染緊急時対策実施要綱改正 ・知事、「騒音規制法の指定地域の拡大及び環境基準の地域類型指定」、「黒部地区のカドミウム汚染問題に係る農用地土壌汚染対策地域の指定」について、県公害対策審議会に諮問
3	・県、三井金属鉱業㈱と環境保全等に関する基本協定締結及び汚染米対策に関する覚書交換 ・富山県自然環境保全基金条例制定
4	・知事直轄として自然保護室設置 ・県、神通川水域の水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定及び神通川水域に係る上乗せ排水基準設定 ・県、主要工場に対し、PCB 使用の自粛、PCB 関係製品等の在庫調査、PCB 回収方法等の管理体制について要請
5	・知事、「シアン及びび素に係る上乗せ排水基準の設定」、「庄川水域及び富山新港等に係る環境基準の水域類型指定及び上乗せ排水基準の設定」

年 月	内 容
47・5	及び「小矢部川水域に係る上乗せ排水基準（既設工場）の設定」について、県水質審議会に諮問 ・県水質審議会、「白岩川水域に係る環境基準の水域類型指定及び上乗せ排水基準の設定」について、知事に答申 ・知事、「いおう酸化物に係る環境保全対策」について、県公害対策審議会に諮問
6	・公害等調整委員会設置法制定 ・大気汚染防止法及び水質汚濁防止法改正（無過失損害賠償責任） ・自然環境保全法制定 ・廃棄物処理施設整備緊急措置法制定 ・県、白岩川水域に係る環境基準の水域類型の指定
7	・県、白岩川水域に係る上乗せ排水基準設定 ・富山県自然保護指導員設置要領及び業務要領制定 ・富山県自然環境保全条例制定 ・富山県大境ビジターセンター条例制定
8	・公害センター新庁舎完成 ・国及び県、富山・高岡・新湊地区大気関係産業公害総合事前調査開始 ・三井金属鉱業㈱、イタイイタイ病第1次訴訟控訴審で敗訴しても、上告を断念する旨を表明 ・イタイイタイ病第1次訴訟控訴審判決（名古屋高等裁判所金沢支部） ・イタイイタイ病訴訟原告等、東京で三井金属鉱業㈱からイタイイタイ病の原因が神岡鉱業所から排出されたカドミウム等の重金属であることを認め今後争わない、第1～第7次訴訟原告に対し請求額どおり8月いっぱいをめどに支払うなどの誓約書、農業被害の賠償と汚染土壌復元の義務をもった誓約書を受理するとともに、同社と住民の立入調査権を認めた公害防止協定を締結
9	・県水質審議会、「シアン及びヒ素に係る上乗せ排水基準の設定」について、知事に答申 ・知事、「産業廃棄物に関する処理計画策定上の基本的考え方」について、県公害対策審議会に諮問
10	・県公害対策審議会、「黒部市に係る農用地土壌汚染対策地域の指定」について、知事に答申 ・県、富山市、大沢野町、婦中町と三井金属鉱業㈱との間で「イタイイタイ病対策に支出した経費に対する三井金属鉱業㈱の負担等に関する覚書」を交換 ・県、シアン及びヒ素に係る上乗せ排水基準設定

年 月	内 容
47・10	・富山県自然環境保全調整会議設置要領制定
11	・富山県自然環境保全審議会規則制定 ・富山県自然環境保全審議会設置 ・県水質審議会、「小矢部川水域に係る上乗せ排水基準（既設工場）の設定」について、知事に答申 ・知事、「ふっ素等に係る上乗せ排水基準の設定」、「悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定」及び「神通川流域に係る農用地土壌汚染対策地域の指定」について、県公害対策審議会に諮問 ・県公害対策審議会、「ふっ素等に係る上乗せ排出基準の設定」について、知事に答申
12	・県公害対策審議会、「騒音に係る規制基準の区域の区分の一部変更」について、知事に答申 ・知事、「住みよい富山県をつくる総合計画」について、県総合開発審議会に諮問 ・三井金属鉱業㈱と富山市、婦中町の地元農業協同組合とでカドミウム汚染に係る47年度以降の産米の取扱いに関する覚書締結 ・県、ふっ素等に係る上乗せ排出基準設定 ・県、小矢部川水域に係る上乗せ排水基準設定 ・県、住友化学工業㈱との公害対策に関する付属協定を改定 ・財団法人神通川流域振興協力財団設立
48・1	・富山県立自然公園条例施行規則制定 ・県公害対策審議会、「硫黄酸化物に係る環境保全対策」及び「悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定」について、知事に答申
2	・県、「硫黄酸化物環境保全計画」策定 ・県、騒音規制法に基づく騒音について規制する地域の指定等及び富山県公害防止条例施行規則の改正（第4種区域の一部規制基準の強化）
3	・富山県立自然公園（朝日、有峰、五箇山）の指定 ・県、悪臭防止法に基づく規制地域の指定等告示（高岡市の一部地区の指定、規制基準の設定）
4	・公害センターを4課制（総務課、大気課、水質課、特殊公害課）
5	・金属鉱業等鉱害対策特別措置法制定 ・国、二酸化窒素及び光化学オキシダントに係る環境基準を設定 ・国、二酸化硫黄に係る新環境基準を設定 ・熊本大学第2次水俣病研究班、第3水俣病を提起 ・知事、「富山県自然環境保全基本方針」について、県自然環境保全審議

年 月	内 容
48・5	会に諮問、同日同審議会答申 ・県、県内水銀使用8工場の水銀を含む廃棄物等の総点検開始 ・知事、「カドミウムに係る上乗せ排水基準」について、県水質審議会に諮問
6	・県、富山湾一帯の魚介類の水銀調査開始 ・日本鉱業㈱三日市製錬所、鉱山保安法から適用除外 ・第1回環境週間始まる ・厚生省、魚介類に係る水銀の暫定的基準発表 ・環境庁、9水域（水俣、八代、有明、徳山、新居浜、水島、氷見、魚津、酒田）を水銀汚染について環境調査を実施する水域として指定 ・富山県自然環境保全基本方針の制定
7	・富山・高岡地域公害防止計画策定の基本方針が、内閣総理大臣から指示 ・富山県土地対策要綱制定施行 ・県漁業協同組合連合会、水銀使用企業6社と水銀問題で被った損害補償について交渉開始 ・国及び県、富山湾海域産業公害総合事前調査開始 ・富山県自然環境保全基金事務取扱要綱制定 ・大気汚染防止法施行規則改正（窒素酸化物の排出基準設定） ・公害健康被害補償法制定 ・知事、「カドミウムに係る上乗せ排出基準」について、県公害対策審議会に諮問、同日同審議会答申 ・県水質審議会、「カドミウムに係る上乗せ排水基準」、「庄川水域等に係る環境基準の水域類型指定及び上乗せ排水基準の設定」について、知事に答申 ・知事、「窒素酸化物及び浮遊粉じんに係る環境保全対策」について、県公害対策審議会に諮問 ・県、北陸電力㈱及び富山共同火力発電㈱との公害防止協定を強化改定
8	・県、黒部市に係る農用地土壌汚染対策地域の指定（27.8ha）
9	・都市緑地保全法制定 ・県総合開発審議会、「住みよい富山県をつくる総合計画」について、知事に答申、県、「住みよい富山県をつくる総合計画」を策定 ・県のあっせんにより、県漁業協同組合連合会と水銀使用企業の間で補償交渉妥結 ・知事、「縄ヶ池・若杉、沢杉自然環境保全地域及び保全計画」について、県自然環境保全審議会に諮問、同日同審議会答申

年 月	内 容
48・9	・ 県、庄川水域等に係る環境基準の水域類型の指定及び上乗せ排水基準設定 ・ 県、カドミウムに係る上乗せ排出基準及び排水基準設定
10	・ 工場立地法改正 ・ 動物の保護及び管理に関する法律制定 ・ 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律制定 ・ 富山県自然環境保全条例施行規則制定 ・ 富山県自然環境保全地域（縄ヶ池・若杉、沢杉）の指定 ・ 国、自然環境保全基本方針制定 ・ 富山県浄化槽協会発足
11	・ 環境庁、富山湾の魚介類に係る水銀汚染について安全である旨を公表 ・ 新湊市、婦中町、小杉町、大門町、大島町騒音規制法に基づく規制地域に指定
12	・ 流通加工業者、水銀使用企業両者から水銀補償交渉について、県にあっせん依頼 ・ 富山県立自然公園条例及び富山県自然環境保全条例改正
49・1	・ 国、自動車排出ガス50年度規制告示
2	・ 富山県立自然公園条例施行規則及び富山県自然環境保全条例施行規則改正 ・ 県公害対策審議会、「硫黄酸化物に係る環境保全対策の改定」について知事に答申
3	・ 県のあっせんにより、流通加工業者と水銀使用企業の間で補償交渉妥結 ・ 県、「硫黄酸化物環境保全計画」改定 ・ 大気汚染防止法施行令及び同規則改正（K 値改正） ・ 県公害対策審議会、「神通川流域（左岸地域）に係る農用地土壌汚染対策地域の指定」について、知事に答申 ・ 県自然環境保全審議会、「白木水無県立自然公園の指定及び公園計画」について、知事に答申 ・ 県、白木水無県立自然公園の指定
4	・ 富山県環境部発足（環境管理課、公害防止課、保安整備課、土地対策課、自然保護課、公園緑地課） ・ 富山市、高岡市、新湊市、魚津市、滑川市、砺波市、婦中町、小杉町、大門町及び大島町、悪臭防止法に基づく規制地域に指定 ・ 中央サイクリングロード（富山市五福～小杉町黒河間8.9km）開設
5	・ 富山市、水質汚濁防止法に基づく政令市に指定

年 月	内 容
49・5	・高岡広域圏公害センター発足
	・作道、上市地区等でカドミチ問題発生
	・第26回全国公害行政協議会、富山市で開催
6	・大気汚染防止法の一部を改正する法律（総量規制）公布
	・公害紛争処理法改正（紛争処理制度の整備）
	・県公害対策審議会、「窒素酸化物及び浮遊粉じんに係る環境保全対策」について、知事に答申
	・県、窒素酸化物及び浮遊粉じん環境保全計画策定
	・国土利用計画法制定
	・行政管理庁設置法改正（環境庁所管事務追加）
7	・国及び県、富山市周辺地域地下水利用適正化調査開始
	・立山環境保全協会設立
	・県、自然解説員（ナチュラリスト）を立山地区に初めて配置（自然に親しむ運動月間中）
8	・県、神通川流域左岸地域を農用地土壌汚染対策地域に指定（647.4ha）
9	・通商産業省、ガソリン無鉛化の指導開始
	・国、水銀に係る環境基準を改正
	・水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める総理府令改正（水銀排水基準強化、49、10、30施行）
10	・富山県公害健康被害認定審査会設置
	・福岡町で井戸水汚染問題発生
	・国及び県、公害健康被害補償法に基づく基礎調査開始
	・国設渡り鳥観測ステーション、婦中町に開設
11	・県水質審議会、「常願寺川水域等に係る環境基準の水域類型指定及び上乗せ排水基準の設定」について、知事に答申
	・水質汚濁防止法施行令改正（特定施設追加）
	・県、黒部市に係る農用地土壌汚染対策地域の変更告示（129.5ha）
	・県、第1回の環境白書発表
12	・県、常願寺川水域等に係る環境基準の水域類型の指定
	・県、常願寺川水域等に係る上乗せ排水基準制定
	・国、「富山・高岡地域公害防止計画」を承認
	・魚津市、滑川市、砺波市、騒音規制法に基づく指定地域に指定
50・1	・知事、「医王山県立自然公園の指定及び公園計画」について、県自然環境保全審議会に諮問
	・県自然環境保全審議会、「医王山県立自然公園の指定及び公園計画」について、知事に答申

年 月	内 容
50・2	・国、PCBに係る環境基準を設定 ・富山地域地下水利用対策協議会設立 ・県、医王山県立自然公園の指定 ・国、自動車排出ガスの51年度規制告示
3	・富山県大気汚染緊急時対策実施要綱改正 ・知事、「東福寺自然環境保全地域の指定及び保全計画」、「岩瀬環境緑化促進地域の指定及び緑化計画」、「吉峰及び高岡古城公園鳥獣保護区の設定」及び「ムササビの保護獣指定」について、県自然環境保全審議会に諮問、同月同審議会答申 ・富山県公害防止条例施行規則改正（水銀、PCB排水基準強化） ・富山県中小企業公害防止資金融資要綱改正及び富山県公害防止資金融資利子補給金交付要綱改正
4	・県公害対策審議会、「神通川流域右岸地域に係る農用地土壌汚染対策地域の指定」について、知事に答申 ・県民公園「頼成の森」（115ha）開園
7	・黒部峡谷環境保全協会設立 ・「富山市南西部とその周辺地域の広域的土地利用計画」策定のためのプロジェクトチーム設置 ・国、新幹線鉄道騒音に係る環境基準を設定 ・富山県地下水対策研究会設置
8	・県、地盤変動水準測量調査を呉西地区について開始
9	・国、自動車騒音の大きさの許容限度告示
10	・県、神通川流域右岸地域に係る農用地土壌汚染対策地域の指定（356ha）
12	・大気汚染防止法施行令及び施行規則改正（ばい煙発生施設「コークス炉」の追加、窒素酸化物の排出基準改定） ・中央公害対策審議会環境保健部会、富山市北部地域、高岡市吉久地区及び新湊市庄西地区の地域を公害健康被害補償法に基づく指定地域にしないことを決定 ・油濁損害賠償補償法公布
51・1	・県水質審議会、「早月川水域等及び富山湾海域に係る環境基準の水域類型の指定並びに上乘せ排水基準の設定（小矢部川水域の一部改正含む。）」について、知事に答申
2	・富山県し尿浄化槽指導要綱制定（51.2.20施行） ・県地下水対策研究会「富山県における地下水規制のあり方について」の報告書発表

年 月	内 容
51・2	・ 県公害対策審議会、「硫黄酸化物に係る環境保全対策の改定」について知事に答申
3	・ 県、「硫黄酸化物環境保全計画」改定 ・ 県、「産業廃棄物処理計画」策定 ・ 県、北陸電力㈱及び富山共同火力発電㈱との公害防止協定を改定 ・ 富山県し尿浄化槽審査会設置 ・ 知事、「愛本及び神通峡自然環境保全地域の指定」、「神通峡県定公園及び五箇山県立公園の区域の変更」及び「白木、奥神通、医王山及び小川鳥獣保護区の設定」について、県自然環境保全審議会に諮問、同日同審議会答申 ・ 県、早月川水域等及び富山湾海域に係る環境基準の水域類型の指定（小矢部川水域の一部改正含む。） ・ 県、早月川水域等及び富山湾海域に係る上乗せ排水基準設定（小矢部川水域の一部改正含む）(51.4.1 施行) ・ 富山県地下水の採取に関する条例制定
4	・ 富山県生活環境部発足（環境管理課、公害対策課、土地対策課、自然保護課、公園緑地課、県民生活課）
5	・ 高岡・新湊地区に初めてオキシダント緊急情報発令 ・ ふるさと歩道第1号開通（大沢野町御前山、神通峡のコース）
6	・ 愛本自然環境保全地域（面積11.8ha）、東福寺自然環境保全地域（面積71.5ha）、神通峡自然環境保全地域（面積152.7ha）の指定 ・ 僧ヶ岳に県内最大のクロサンショウウオ群生地発見 ・ 振動規制法公布（12.1施行） ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律一部改正公布（52.3.15施行）
7	・ 立山自然保護センターオープン
8	・ 中央公害対策審議会、「大気中炭化水素濃度の指針値」を答申 ・ グリーンベルト都市計画決定 ・ 悪臭防止法施行令一部改正公布（10.1施行） ・ 富山・高岡新産都市計画の新5か年基本計画(案)策定 ・ 大気汚染防止法施行令及び同規則改正（K 値改正）
11	・ 白木峰鳥獣保護区（面積4,590ha）、奥神通鳥獣保護区（面積460ha）、奥五位鳥獣保護区（面積280ha）、医王山鳥獣保護区（面積1,790ha）、小川鳥獣保護区（面積600ha）の設定 ・ 県公害対策審議会、「神通川流域に係る農用地土壌汚染対策地域の区域の変更」及び「富山新港地区緩衝緑地造成事業に係る費用負担計画の策定」について知事に答申

年 月	内 容
51・11	・神通川左岸地域（左岸350ha）の追加指定 ・グリーンベルト事業実施決定（事業費総額85億2千百万円）
12	・県地下水審議会、「地下水規制地域の指定、取水基準の設定及び観察地域の指定」及び「富山県地下水の採取に関する条例施行規則の制定」について知事に答申 ・53年度自動車排出ガス規制の告示 ・沢杉自然環境保全地域特別地区（面積2.67ha）、愛本自然環境保全地域特別地区（面積1.89ha）、神通峡自然環境保全地域特別地区（面積45.04ha）の指定
52・1	・地下水採取条例施行規則公布（3.1施行） ・地下水採取条例に基づく指定地域及び取水基準の告示
3	・神通川流域振興協力財団解散 ・朝日県立自然公園城山地区一帯約60haをあさひ国民休養地として指定（環境庁）
4	・立山連峰登山情報テレホンサービス開始 ・中央サイクリングロード（小杉～大門）オープン ・県公害審査会へ機業場の振動・騒音公害の調停申請を住民から提出
5	・第31回愛鳥週間全国野鳥保護のつどい開催（常陸宮夫妻御臨席、於富山県民会館、県民公園頼成の森）
6	・特定工場における公害防止組織の整備に関する法律施行令の一部改正（6.21施行規則の一部改正） ・大気汚染防止法施行規則の一部改正公布（窒素酸化物第3次規制6.18施行）
8	・県公害対策審議会、「神通川流域に係る農用地土壌汚染対策地域の区域の変更」について知事に答申 （神通川左岸地域8ha、右岸地域126haを追加） ・知事「振動規制法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定」及び「悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定」を県公害対策審議会に諮問
9	・県公害審査会調停委員会で機業場の振動・騒音公害の調停成立
12	・県、カドミウム汚染田の復元工法を4種類選定 ・中央公害対策審議会、「自動車排出ガス許容限度長期設定方策」を答申
53・1	・54年度自動車排出ガス規制告示 （住みよい富山県をつくる総合計画の修正計画）
2	・県公害対策審議会、「振動規制法、悪臭防止法に基づく地域指定及び規制基準の設定」について知事に答申

年 月	内 容
53・3	・中央公害対策審議会、「二酸化窒素の人の健康影響に係る判定条件等」を答申 ・県自然環境保全審議会、「自然環境保全地域の指定」、「俱利伽羅鳥獣保護区の設定」及び「キツネの捕獲規制」について知事に答申
4	・富山県生活環境部内の行政機構を一部変更(県民生活課、土地対策課、環境整備課、公害対策課、自然保護課、自然公園課) ・「振動規制法に基づく規制地域の指定等」、「騒音規制法に基づく規制地域の指定等」の一部改正、「悪臭防止法に基づく規制地域の指定等」の一部改正」の告示 ・窒素酸化物に係る乗用車の53年度規制の実施
5	・「振動規制法に基づく規制地域の指定等」、「騒音規制法に基づく規制地域の指定等」の一部改正、「悪臭防止法に基づく規制地域の指定等」の一部改正」の施行 ・オキシダント緊急時の注意報を初めて高岡、新湊地区に発令
6	・水質汚濁防止法の一部改正が告示され、総量規制の導入が図られる(54.6.12施行)
7	・深谷地区自然環境保全地域(8.5ha)の指定 ・二酸化窒素に係る環境基準の改定告示(0.04~0.06ppmのゾーン内又はそれ以下)
10	・県公害対策審議会、「硫酸酸化物及び窒素酸化物に係る環境保全対策の改定」について知事に答申 ・県、「硫酸酸化物及び窒素酸化物に係る環境保全計画」の改定
54・1	・窒素酸化物及び加速走行騒音に係るガソリン、LPG車の54年規制の実施 ・運輸省、「整備五新幹線に関する環境影響評価の実施について」運輸大臣通達
3	・県、北陸電力㈱及び富山共同火力発電㈱との公害防止協定を強化改定 ・県自然環境保全審議会、「山の神自然環境保全地域の指定」について知事に答申 ・財団法人県民福祉公園理事会、自然博物館センター整備事業を承認 ・県山岳遭難防止対策審議会、登山届出条例の見直しについて協議 ・中央公害対策審議会、「水質の総量規制に係る総量規制基準の設定方法及び汚濁負荷量の測定方法等を定めるに当たっての基本的考え方について」を答申
5	・「水質汚濁防止法施行令の一部改正」を公布(病院施設、一般廃棄物処理施設を特定施設として追加)

年 月	内 容
54・8	・窒素酸化物排出基準（第4次規制）の改正（規制対象施設の拡大） ・山の神自然環境保全地域（12.5ha）の指定 ・「自動車排出ガスの量の許容限度の一部改正」の施行
9	・富山・高岡地域公害防止計画の策定について国が県に基本方針を指示 ・知事、「神通川流域農用地土壌汚染対策地域に係る対策計画及び費用負担計画」について県公害対策審議会に諮問
11	・県公害対策審議会、「神通川流域農用地土壌汚染対策地域に係る対策計画及び費用負担計画」を答申
55・2	・神通川流域農用地土壌汚染対策について第1次対策計画、費用負担計画を策定し公表 ・富山県自然環境保全審議会、「池の尻自然環境保全地域の指定及び保全計画」並びに「朝日鳥獣保護区の設定」を答申
3	・国、「富山・高岡地域公害防止計画」を承認 ・グリーンベルト起工式
4	・北陸電力および関西電力、朝日小川第1、第2及び新愛本の三水力発電所の建設を県に申し入れるとともに環境影響調査書を県に提出 ・自然博物館センター建設工事に着手（事業主体御富山県民福祉公園）
9	・「自動車排出ガスの量の許容限度の一部改正」の施行 ・白馬岳ライチョウ生息調査実施（10月5日まで）
10	・氷見市に朝日山鳥獣保護区（390ha）を設定 ・環境庁、深夜営業騒音規制について通達 ・神通川流域地区県営公害防除特別土地改良事業の安全祈願式典
12	・知事、「富山新港地区緩衝緑地造成事業に係る費用負担計画の変更」について県公害対策審議会に諮問、同日同審議会答申
56・1	・中央公害対策審議会企画部会、「1980年代の環境政策を展開するための検討課題について」の報告書をまとめる。 ・池の尻自然環境保全地域（1.4ha）の指定 ・中央公害対策審議会、「湖沼環境保全のための制度の在り方について」を環境庁長官に答申
2	・県自然環境保全審議会、「日尾御前自然環境保全地域の指定」について知事に答申
3	・環境庁の「エネルギーと環境問題懇談会」、エネルギー問題について報告書をまとめる。 ・「県中小企業公害防止資金融資要綱の一部改正」及び「県公害防止資金融資利子補給金交付要綱の廃止」を告示
4	・富山・高岡両商工会議所に「廃棄物交換コーナー」を開設

年 月	内 容
56・4	・環境影響評価法案が国会に提出される。
6	・自然博物館センター「ねいの里」を開園
8	・環境庁、自動車排出ガス及び自動車騒音の58年規制を告示
9	・富山共同火力発電所が、県及び新湊市に対し「富山新港共火1号、2号機の燃料を石炭に転換する計画」について協力要請
10	・「振動規制法」、「騒音規制法」、「悪臭防止法」に基づく規制地域として黒部市、小矢部市等2市10町を追加指定告示
11	・北陸電力から県に対し、七尾火力発電所（大田）の建設申し入れ ・「キツネの捕獲禁止及び制限」について告示 ・八尾町日尾御前自然環境保全地域（34.9ha）の指定 ・県公害対策審議会、「硫酸酸化物及び窒素酸化物に係る環境保全計画の改定」について知事に答申 ・水質汚濁防止法施行令の一部改正（合板製造業等8業種11施設を規制対象に追加）告示
57・1	・「松川に係る環境基準の水域類型の指定」について告示
2	・県自然環境保全審議会、「第5次鳥獣保護事業計画」について知事に答申
3	・「水質汚濁に係る環境基準について」の一部改正（測定方法の変更）告示 ・鉄道建設公団、北陸新幹線のルート、駅の概要について公表
4	・環境庁長官、湖沼のリン・窒素に係る環境基準の設定について中央公害対策審議会に諮問
5	・鉄道建設公団、県内33か所で騒音、振動調査開始 ・環境庁、自動車騒音に係る第2段階規制の59年度実施を決定 ・大気汚染防止法施行規制の一部改正（ばいじん規制の強化）を告示
6	・水質汚濁防止法施行令の一部改正（地方卸売市場を規制対象に追加）を告示 ・県、富山新港共同火力発電所の石炭転換に伴う環境保全計画について審査結果を公表
7	・五龍岳ライチョウ生息調査実施 ・富山新港共同火力発電所の石炭転換に伴い県と北陸電力及び富山共同火力発電所との公害防止協定を改定
8	・県、神通川流域カドミウム汚染田復元事業の第2次地区を公表
9	・県下一斉に空カン回収活動実施
10	・県民公園新港の森一部供用開始
12	・鉄道建設公団、北陸新幹線に係る環境影響評価報告書案を公表

年 月	内 容
57・12	・富山新港東部埋め立て計画について県と地元3漁協との間で覚書を締結
58・1	・知事、「新幹線鉄道騒音の環境基準に係る地域指定の基本方針」について県公害対策審議会に諮問、同日同審議会答申
2	・知事、鉄道建設公団に対し、北陸新幹線に係る環境影響評価報告書案に対する意見書を提出
3	・富山県置県百年記念県民公園条例を制定
4	・「県土美化推進県民会議」を設立し、県土美化運動を展開
6	・北陸電力㈱、七尾大田火力発電所の建設開始
7	・唐松岳ライチョウ生息調査開始 ・環境庁、「酸性雨水対策検討会」を設置し、検討開始
9	・大気汚染防止法施行規則の一部改正（石炭ボイラーの窒素酸化物排出規制の強化） ・環境庁、富山県等関係23道府県に対し、スパイクタイヤ使用自粛等を通知
10	・自動車騒音の大きさの許容限度の一部改正（大型トラック等の規制強化）を告示
11	・鉄道建設公団、北陸新幹線（小杉～高岡間）に係る環境影響評価報告書案を公表 ・衆議院の解散に伴い、環境影響評価法案は審議未了
12	・県、硫酸酸化物及び窒素酸化物に係る環境管理計画（ブルースカイ計画）を改定
59・1	・厚生省・通商産業省が日本電池器具工業会に対し、使用済電池の処理対策について要請 ・県、「スパイクタイヤ使用自粛要綱」を制定 ・厚生省、水道水中に含まれるトリクロロエチレン等3物質について暫定水質基準を設定 ・神通川流域カドミウム汚染田・第2次地区の復元事業に係る対策計画及び費用負担計画策定 ・知事、鉄道建設公団に対し、北陸新幹線に係る環境影響評価報告書案に対する意見書を提出
3	・県自然環境保全審議会「東福寺鳥獣保護区及びねいの里鳥獣保護区の設定」について知事に答申
6	・高岡市二上山で第1回清掃美化大会を開催 ・県公害対策審議会、知事に対し「神通川流域カドミウム汚染田（第1次地区）の復元事業に係る費用負担計画の一部変更について」答申

年 月	内 容
59・7	・鬼岳ライチョウ生息調査開始（7月11日まで） ・県、富山空港周辺地域で航空機騒音実態調査を実施 ・湖沼水質保全特別措置法を制定
8	・環境庁、トリクロロエチレン等の有機塩素系化学3物質の排出に係る暫定指導指針を設定 ・大津市で世界湖沼環境会議を開催 ・国、環境影響評価実施要綱を閣議決定
9	・内閣総理大臣、知事に対し「富山・高岡地域公害防止計画」の策定を指示
10	・環境庁、ディーゼル乗用車の排出ガス及び大型車等の自動車騒音に係る許容限度を強化 ・県自然環境保全審議会「キツネの捕獲規則」の継続について知事に答申
11	・県環境影響評価制度検討会を設置し環境影響評価に係る調査検討を開始
60・3	・内閣総理大臣「富山・高岡地域公害防止計画」を承認 ・県公害対策審議会「騒音に係る環境基準及び航空機騒音に係る環境基準の地域指定について」知事に答申 ・環境庁の「名水百選」に本県の「穴の谷の霊水」「黒部川扇状地の湧水群」「瓜裂清水」「立山玉殿の湧水」の4件を選定
5	・富山県野鳥観察指導員（バードマスター）47名を認定 ・環境庁、ディーゼル乗用車排出ガスの窒素酸化物及び小型二輪車の騒音の規制強化を決定 ・水質汚濁防止法施行令の一部改正（富栄養化しやすい湖沼に係る窒素・リンの排水基準の設定） ・同上に基づき、黒部湖、有峰湖等の県内10湖沼についてリンの排水基準適用を告示
6	・騒音の環境基準、航空機騒音の環境基準の地域指定 ・大気汚染防止法施行規則を一部改正し、小型ボイラーを規制対象に追加
7	・国の生活環境審議会・廃棄物処理部会（適正処理専門委員会）が水銀を含む乾電池の処理について報告
9	・「富山県浄化槽保守点検業者の登録に関する条例」を公布
10	・県民公園「野鳥の園」オープン
12	・鉄道建設公団、北陸新幹線に係る環境影響評価報告書案についての知事意見に対する見解書を知事に提出

年 月	内 容
60・12	・鉄道建設公団、北陸新幹線に係る環境影響評価報告書を提出するとともに、運輸省に対し、工事実施計画の認可を申請
61・1	・水質汚濁防止法の一部改正により富山県水質審議会を富山県公害対策審議会に併合
	・県、硫酸酸化物及び窒素酸化物に係る環境管理計画（ブルースカイ計画）を改定（61年～63年度）
2	・県、「とやまの名水」として55件を選定
3	・県、「産業廃棄物処理計画」（61年度～65年度計画）を策定
4	・富山県企画県民部発足（企画調整室、新幹線対策室、水雪対策室、秘書課、県民生活課、広報課、婦人青少年課、環境整備課、公害対策課）
	・県、「とやまの名水」環境整備事業費補助金交付要綱を制定
5	・県自然環境保全審議会、「常楽寺自然環境保全地域」及び「谷内谷自然環境保全地域」の指定について知事に答申
7	・県、「常楽寺自然環境保全地域（11.0ha）」及び「谷内谷自然環境保全地域（1.1ha）」を指定
	・知事、公害対策審議会に「水質環境管理計画」を諮問
	・県、小学生を対象とした「親子の水とのふれあい教室」を開催
9	・国、クロルデン及びヘブタクロルを化学物質審査規制法の特定物質に指定
62・1	・国、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等有機塩素系溶剤6物質を化学物質審査規制法により特定化学物質に指定
	・環境庁、デイズルトラック排出ガスの窒素酸化物の規制を強化
2	・県公害対策審議会「水質環境管理計画」を知事に答申
	・知事、県公害対策審議会に「神通川流域農用地土壌汚染対策地域の指定の一部解除」を諮問
	・県自然環境保全審議会「朝日県立自然公園園計画の変更及び第6次鳥獣保護事業計画の策定」について知事に答申
	・県、「水質環境管理計画（クリーンウォーター計画）」を策定
3	・県、大気汚染テレメータシステムを整備拡充（中央監視局を公害センターへ移設）
5	・県、クリーンウォーター計画（水質環境管理計画）を推進するため、関係団体等からなる協議会を設置
	・県、公害対策審議会「神通川流域（左岸、右岸地域）農用地土壌汚染対策地域」の指定の一部解除について答申
6	・県、「神通川流域（左岸、右岸地域）農用地土壌汚染対策地域」の指定の一部解除（95.2ha）

年 月	内 容
62・6	・厚生省、「合併処理浄化槽設置事業実施要綱」を制定し、各県に通知 (63年4月1日より適用)
8	・有峰フェスティバル開催(8月8日～9日)
9	・県自然環境保全審議会「野鳥の園鳥獣保護区の設定」、「ムササビの捕獲禁止」及び「キツネの捕獲規制」について知事に答申 ・国、公害健康被害補償法を改正し、第1種地域41地域の指定を解除 ・庄川・小矢部川地域地下水利用対策協議会の設立
10	・環境庁、大気汚染防止法施行令を一部改正し、ガスタービン、ディーゼル機関を規制対象に追加
12	・県「登山届出条例に基づく勧告基準」の一部改正 ・滑川市、福光町が、環境庁の「スターウォッチング・星空の街」に選定される
63・2	・環境庁、中央公害対策審議会・水質部会に水質汚濁防止法の特定施設として、弁当製造業等4業種の追加諮問
3	・小矢部川流域下水道二上浄化センター一部供用開始 ・県、富山県合併処理浄化槽設置推進事業実施要綱を策定し、各市町村に通知(4月1日より適用)
5	・国、「特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律」(フロン等規制法)を可決
6	・有峰ビクターセンター開館 ・国、公害等調整委員会において、「国内主要タイヤメーカー7社は、平成2年12月末限り、スパイクタイヤの製造を中止し、平成3年3月末限り、同タイヤの販売を中止する」との調停成立
7	・知事、「有峰湖及び枳津川下流水域に係る環境基準の水域類型及び排水基準について」を公害対策審議会に諮問(63年12月15日答申)
8	・中央公害対策審議会は、弁当製造業等4業種5施設を水質汚濁防止法の特定施設追加について答申 ・国、水質汚濁防止法施行令の一部改正。弁当製造業等4業種5特定施設を追加(63年10月1日から施行)
9	・環境庁、「底質調査方法」を改定、全窒素、全りん、の調査方法追加・改正
10	・環境庁、「生活雑排水対策推進指導指針」を発表
11	・環境庁、中央公害対策審議会に「地下水質保全対策のあり方と事故の措置について」諮問(元年2月15日答申) ・環境庁、「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準の一部改正」の告示

年 月	内 容
元・1	・通商産業省、「特定フロンの排出抑制・使用合理化指針」を策定
	・県、硫酸酸化物及び窒素酸化物に係る環境管理計画（ブルースカイ計画）を改定（元年度～3年度）
2	・環境庁、中央公害対策審議会に「水質汚濁に関する環境基準等の項目追加等について」諮問（元年2月18日答申）
3	・中央公害対策審議会、「アスベスト製品等製造工場に対する規制制度のあり方」について、環境庁長官に答申
	・知事、有峰ダム貯水池（有峰湖）水域及び栃津川下流水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定及び改正
	・県、有峰ダム貯水池（有峰湖）水域に係る上乗せ排水基準を設定
	・国、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及び四塩化炭素を化学物質審査規制法の第2種特定化学物質に指定
	・国、水質汚濁防止法施行令の一部改正、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンを有害物質に追加
4	・全国スパイクタイヤ対策行政連絡協議会設立
	・環境庁、四塩化炭素の地下浸透及び排水にかかる指導指針を通達
5	・魚津・滑川地域地下水利用対策協議会の設立
6	・環境庁、中央公害対策審議会に「悪臭物質の指定及び規制基準の範囲の設定について」諮問（元年9月4日答申）
	・国、大気汚染防止法の一部改正。粉じんの定義改正（粉じんを「特定粉じん」と「一般粉じん」に区分）
	・国、水質汚濁防止法を改正し、有害物質の地下浸透を禁止
7	・立山自然保護センター新装・展示更新オープン記念式典開催
	・称名滝見台完成式典開催
	・国、りん規制対象湖沼に熊野川ダム、上市川第2ダムを追加指定
8	・黒部市において、「第5回全国水環境保全市町村シンポジウム（全国名水シンポ）」を開催（1,000人参加）
	・環境庁、第1次酸性雨対策調査結果を公表
	・知事、「環境影響評価制度の基本的な考え方について」を公害対策審議会に諮問（平成2年3月27日答申）
9	・環境庁、悪臭防止法施行令及び悪臭防止法施行規則の一部改正（プロピオン酸等4悪臭物質を追加指定及び規制基準の範囲を設定、2年4月1日から施行）
10	・井波町において、クリーニング業者が埋め立てたテトラクロロエチレン廃液による地下水汚染が発覚
	・環境庁、「悪臭物質の測定の方法」を改定（プロピオン酸等4悪臭物質

年 月	内 容
元・12	- の測定方法追加) ・国、大気汚染防止法施行令及び同施行規則の一部改正。アスベストを特定粉じん指定、アスベストに係る規制基準の設定(元年12月27日から施行)
2・2	・知事、公害対策審議会に「地下水の水質測定計画の策定に当たっての基本的な考え方」について諮問(2年3月27日答申) ・知事、「悪臭防止法に基づく規制地域の指定及び規制基準の設定について(プロピオン酸等4悪臭物質の追加)」を公害対策審議会に諮問(2年3月27日答申)
3	・県、「富山県ゴルフ場農薬安全使用指導要綱」を制定(4月1日施行) ・内閣総理大臣「富山・高岡地域公害防止計画」を承認 ・中央公害対策審議会、「生活排水対策強化について」を答申 ・富山県環境保全基金条例制定 ・知事、「富山県公害防止条例等の改正について(トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンの排出基準の設定等)」を公害対策審議会に諮問(同日答申)
4	・高岡・新湊地区にオキシダント情報を発令 ・「悪臭防止法に基づく規制地域の指定等についての一部改正」告示(プロピオン酸等4悪臭物質追加)
5	・国、ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針について通知(殺虫剤、殺菌剤及び除草剤の21農薬に指針値を設定)
6	・県、酸性雨対策連絡会議を設置 ・「黒部ダム貯水池(黒部湖)水域に係る環境基準の水域類型及び排水基準について」県公害対策審議会に諮問(12月答申、3月上乗せ排水基準の条例公布、水域類型指定告示) ・環境保全相談室の設置 ・環境影響評価要綱の制定(10月施行) ・国、水質汚濁防止法を改正し、生活排水対策の推進を追加 ・国、スパイクタイヤ規制法公布、施行 ・県、公害防止条例を改正し、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンを有害物質に追加するとともに、有害物質の地下浸透を禁止(8月施行規則改正、10月施行)
8	・「地下水管理指針の策定」について県地下水審議会へ諮問
10	・県、大気汚染常時観測局適正配置計画の策定 ・国、地球環境保全に関する関係閣僚会議において「地球温暖化防止行

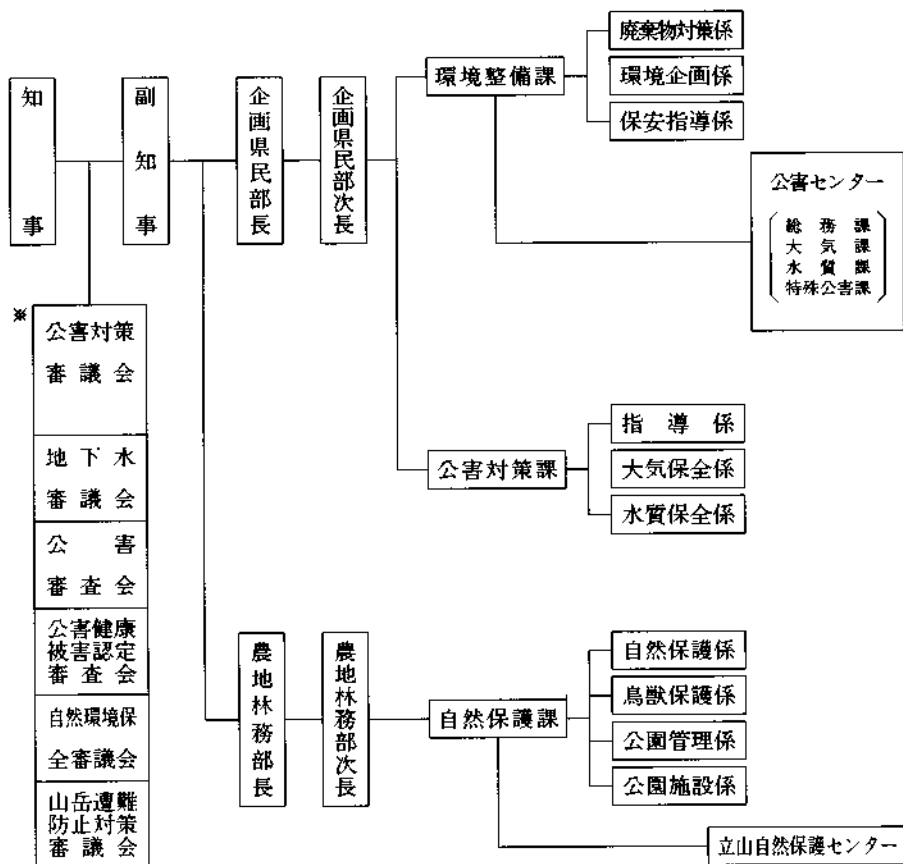
年 月	内 容
	動計画」を決定
2・11	・国、大気汚染防止法を改正し、ばい煙発生施設にガス・ガソリン機関を追加
3・2	・国、スパイクタイヤ規制法に基づき、富山市、高岡市等27市町村を指定地域に指定
3	・立山カルデラ地内の民有地買い上げ契約締結 ・県東部地域における地下水質測定結果を公表 ・知事、公害対策審議会に「富山新港地区緩衝緑地（県民公園新港の森）に係る管理事業の費用負担計画」「神通川流域（左岸地域、右岸地域）農用地土壌汚染対策地域」の指定の一部解除（第2回）」等について諮問
4	・国、再生資源の利用の促進に関する法律公布（10月施行）
5	・知事、公害対策審議会に次の案件を諮問 「黒部地域農用地土壌汚染対策地域に係る対策計画及び費用負担計画」（10月答申）、「大気環境管理計画の改正」（12月答申）、「水質環境管理計画の改正」（4年3月答申）、「富山県環境管理計画の策定」（12月答申）
7	・県、「産業廃棄物処理計画」を改定（3～7年度計画） ・勸とやま環境財団設立 ・国、水質汚濁防止法施行令を一部改正し、特定施設にトリクロロエチレン又はテトラクロロエチレンによる洗浄施設及び蒸留施設を追加（10月施行） ・国、「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針対象農薬」を追加
8	・国、土壌の汚染に係る環境基準を設定
10	・知事、「神通川流域（左岸地域・右岸地域）農用地土壌汚染対策地域（第3次地区）に係る対策計画及び費用負担計画」について諮問（12月答申） ・国、廃棄物の処理及び清掃に関する法律を改正
11	・県、「黒部地域農用地土壌汚染対策地域に係る対策計画及び費用負担計画」を策定
4・1	・県、「硫酸酸化物及び窒素酸化物に係る大気環境計画」（ブルースカイ計画）を改定（4～6年度計画）
2	・県、「とやま環境計画」を策定 ・県、「神通川流域（左岸地域・右岸地域）農用地土壌汚染対策地域（第3次地区）に係る対策計画及び費用負担計画」策定
3	・八尾町におけるトリクロロエチレンによる地下水汚染を発見

年 月	内 容
4・3	「富山県ゴルフ場農薬安全使用指導要綱」を一部改正し、排出水中の農薬濃度の指導値を設定（同日施行） ・県、「水質環境計画」（クリーンウォーター計画）を改定

第 2 日誌（4 年度）

月 日	内 容
4・1	・ 働とやま環境財団にナチュラリストバンク設立
20	・ 「県土美化推進県民会議」4 年度総会を開催
26	・ ナチュラリスト頼成の森、ねいの里で活動開始
29	・ 自然に親しむみどりの日の集い
5・20	・ 県、「地下水指針」を策定
6・7	・ 小杉町下条川河川公園で第 9 回富山県清掃美化大会を開催
28	・ 赤牛岳でライチョウ生息数調査開始（7 月 4 日まで）
8・1	・ 有峰フェスティバル開催（2 日まで）
2	・ 自然公園クリーンデー
21	・ 第17回立山美化清掃大会
28	・ 立山修験道登山イベント（29日まで）
9・25	・ 環境庁、中央公害対策審議会に「水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準の項目追加等について」及び「海域の窒素及び磷に係る環境基準等の設定について」諮問
30	・ 知事、自然環境保全審議会に「自然環境指針の策定」について諮問（3 月29日答申）
10・4	・ 全国一斉に自然歩道を歩こう大会（立山町大辻山）
12・21	・ 国、「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針」を一部改正し、排出水中のフェニトロチオン濃度の指針値を改正
1・18	・ 中央公害対策審議会は、「水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準の項目追加等について」答申
2・3	・ 「富山県ゴルフ場農業安全使用指導要綱」を一部改正し、排出水中のフェニトロチオン濃度の指導値を改正（同日施行）
17	・ 大気環境ネットワークの運用開始
3・8	・ 国、「水質汚濁に係る環境基準について」を一部改正し、トリクロロエチレン等15物質を水質環境基準健康項目に追加
29	・ 知事、公害対策審議会に「平成 5 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画」について諮問（同日答申）
	・ 4 年度地下水水質測定結果を公表

第3 富山県環境関係行政組織図



※ 付属機関は環境行政関係に限る。

第 4 富山県環境関係付属機関

名 称	設置年月日	委員数	根拠法令	審議事項等	専門部会等
公害対策審議会	43年 4月1日	31	公害対策 基 本 法	公害対策の基本的 事項について、調 査審議する。	・大気専門部会 ・水質専門部会 ・騒音、振動専 門部会 ・土壌専門部会 ・産業廃棄物専 門部会
地 下 水 審 議 会	51年 3月27日	20	県地下水 採取に関 する条例	地下水の基本的 事項について、調 査審議する。	・専門委員会議
公害審査会	45年 11月1日	12	公害紛争 処理法	公害紛争について、 必要なあっせん、 調停、仲裁を行う ことにより、解決 を図る。	・あっせん委員 ・調停委員会 ・仲裁委員会
公害健康被 害認定審査 会	49年 10月1日	13	公害健康 被害補償 法	公害に係る健康被 害の認定に関し、 審査する。	
自然環境保 全審議会	47年 11月1日	20	自然環境 保 全 法	自然環境の保全等 の基本的事項につ いて、調査審議す る。	・自然環境部会 ・自然公園部会 ・鳥獣部会 ・温泉部会
山岳遭難防 止対策審議 会	41年 4月1日	19	県登山届 出 条 例	山岳遭難防止につ いて、必要な事項 を調査審議する。	

第5 富山県環境関係分掌事務

(1) 企画県民部

ア 本 庁

課	係	主 な 分 掌 事 務
環境整備課	廃棄物対策係	清掃業務の運営指導 産業廃棄物の許可、監視、指導 清掃施設の建設・指導 県土美化運動の推進 県民公園新港の森の管理運営
	環境企画係	環境保全対策の企画及び調整 環境影響評価の実施 公害に係る市町村の指導 公害施策に関する年次報告書の作成 公害防止計画の推進 中小企業公害防止資金の貸付け 公害に係る苦情処理及び紛争処理
	保安指導係	火薬類、猟銃等の製造販売等の許可及び取締り 電気工事業の登録及び保安指導 高圧ガス事業の許可及び保安指導
公害対策課	指 導 係	公害防止条例による規制、指導 騒音、振動、悪臭の規制、指導 企業における公害防止組織の整備に関する指導 地下水採取の規制、指導 毒物及び劇物の業務上取扱者の指導
	大気保全係	大気汚染の監視 大気汚染防止の規制、指導 ブルースカイ計画の推進
	水質保全係	水質汚濁の監視 水質汚濁防止の規制、指導 クリーンウォーター計画の推進

イ 出先機関

公害センター	課	主 な 分 掌 事 務
	総務課	公害センター各課業務の調整 公害センターに属する予算
	大気課	浮遊粉じん、自動車排出ガスの調査研究 酸性雨、特定ガスに係る調査研究 大気汚染の常時監視
	水質課	水質環境の測定及び調査研究 工場排水の監視及び測定
	特殊公害課	騒音、振動、悪臭、土壌汚染、産業廃棄物、環境放射能等に係る調査研究及び監視測定

(2) 農地林務部

ア 本 庁

課	係	主 な 分 掌 事 務
自然保護課	自然保護係	自然保護対策の総合調整 自然環境保全地域の指定、保全計画の策定 自然環境指針の策定 自然保護思想の普及啓もう 自然環境保全基金
	鳥獣保護係	鳥獣保護、狩猟取締り 鳥獣保護区等の設定管理 狩猟免許、有害鳥獣駆除 鳥獣生息調査、負傷鳥獣の救護
	公園管理係	自然公園の指定及び保護管理 山岳遭難防止、立山自然保護センターの管理運営 県民公園計画及び管理
	公園施設係	自然公園の公共施設の整備及び管理 国民休養地等の計画及び実施 家族旅行村の施設の整備 植生復元事業

(3) その他の関係機関

ア 本 庁

部	課	公害関係の分掌事務
厚生部	健康課	公害等による健康被害者の救済
商工労働部	中小企業課	中小企業設備近代化資金等の貸付
農業水産部	農業経済課	汚染米の対策
	普及指導課	土壌汚染防止の対策
	畜産課	家畜ふん尿処理の対策
	水産漁港課	内水面、海面の公害対策
土木部	下水道課	下水道の整備
農地林務部	耕地課	汚染田の復元

イ 出先機関

機 関	公 害 関 係 の 分 掌 事 務
保健所	公害一般の相談、し尿処理施設の指導取締り
衛生研究所	公衆衛生に必要な試験研究調査及び技術指導
工業技術センター	産業廃棄物等の試験研究及び大気、水質試料の分析 製紙排水の調査研究
農業技術センター	汚染土壌の試験研究
水産試験場	漁業資源の公害の調査研究
畜産試験場	家畜ふん尿処理の試験研究
家畜保健衛生所	家畜ふん尿処理の指導
林業技術センター・林業試験場	公害による樹木への影響の調査研究

第6 市町村環境関係担当課(係)一覧

(5年4月1日現在)

市 町 村	公害担当課(係)	自然保護担当課(係)	電 話 番 号
富山市	環境整備課	公園緑地課	(0764)31-6111
高岡市	環境保全課	公園緑地課	(0766)20-1353 (公直)(0766)20-1418
新湊市	市民生活課	都市開発課	(0766)82-8141 (市直)(0766)82-8255
魚津市	市民生活課	企画広報室	(0765)22-2200
氷見市	環境課	農地林務課	(0766)74-8066 (市直)(0766)74-8091
滑川市	健康環境課	企画財政課	(0764)75-2111
黒部市	生活環境課	生活環境課	(0765)54-2111
砺波市	生活環境課	生活環境課	(0763)33-1111
小矢部市	環境課	農林課	(0766)67-1760
大沢町	町民課	産業課	(0764)68-1111
大舟町	福祉課	商工観光課	(0764)83-1211
上橋町	厚生課	住民課	(0764)64-1121
立山町	住民生活課	都市振興課	(0764)72-1111
宇奈月町	住民福祉課	商工観光課	(0764)63-1121
入善町	環境保健課	企画観光課	(0765)65-0211
朝日町	住民課	環境保健課	(0765)72-1100
八尾町	環境保健課	商工観光課	(0765)83-1100
婦中町	環境保健課	商工観光課	(0764)54-3111
山田村	産業建設課	環境課	(0764)65-2111
細入村	住民福祉課	産業建設課	(0764)57-2111
小杉町	環境課	産業建設課	(0764)85-9001
大下村	健康福祉課	環境課	(0766)56-1511
大島町	住民福祉課	産業建設課	(0766)52-0410
城平村	健康福祉課	産業建設課	(0766)59-2101
上平村	住民福祉課	産業振興課	(0766)52-0065
利賀村	住民福祉課	農業課	(0763)62-1212
井川町	総務課	農業観光課	(0763)66-2131
井波町	住民福祉課	農林観光課	(0763)67-3211
福野町	住民福祉課	企画課	(0763)68-2111
福光町	住民福祉課	都市開発課	(0763)82-1901
福岡町	住民福祉課	経済課	(0763)82-1180
	総務課	産業課	(0763)64-2211
	環境保健課	産業振興課	(0763)22-1105
	環境保健課	保健課	(0763)52-1111
	環境保健課	産業課	(0766)64-5333

第7 市町村の環境関係条例制定状況

条 例	公 布 日	施 行 日
新湊市公害防止条例	45年3月14日	45年4月1日
大島町空地の環境保全に関する条例	45年9月28日	45年11月1日
婦中町公害防止条例	45年12月23日	46年2月1日
高岡市公害防止条例	46年2月17日	46年3月1日
大沢野町公害防止条例	46年3月20日	46年4月1日
大島町公害防止条例	46年3月20日	46年4月1日
黒部市公害防止条例	46年3月25日	46年3月25日
滑川市公害防止条例	46年3月26日	46年3月26日
滑川市緑化推進条例	46年3月26日	46年3月26日
富山市公害防止条例	46年6月23日	46年9月1日
砺波市公害防止条例	46年9月25日	47年1月1日
氷見市公害防止条例	46年9月29日	46年12月20日
魚津市大気の汚染等に伴う療養措置者に対する医療費の助成に関する条例	46年12月20日	46年12月20日
福岡町公害防止条例	46年12月21日	47年4月1日
八尾町自然環境保全条例	46年12月28日	47年3月1日
魚津市公害防止条例	47年10月1日	47年10月1日
富山市緑化推進条例	47年10月2日	47年10月2日
小矢部市公害防止条例	47年12月27日	47年12月27日
小杉町公害防止条例	48年3月28日	48年3月28日
立山町公害防止条例	48年3月28日	48年4月1日
新湊市緑化推進条例	48年4月1日	48年4月1日
新湊市健康障害者医療費助成に関する条例	49年11月16日	49年11月16日
入善町公害防止条例	50年4月1日	50年6月1日
上市町地下水保全に関する条例	50年4月1日	50年10月1日
滑川市地下水の採取に関する条例	51年3月27日	51年3月27日
富山市公害健康被害者救済に関する条例	51年9月28日	51年10月1日
福岡町緑化推進条例	53年3月25日	53年4月1日
八尾町公害防止条例	54年3月26日	54年3月26日
高岡市緑化条例	57年4月1日	57年4月1日
大山町公害防止条例	4年9月18日	5年4月1日
大門町公害防止条例	5年3月31日	5年4月1日

第 8 市町村の公害防止協定締結状況

市 町 村	締 結 企 業 (工 場)	業 種	進 出・ 既設の別	締結年月日
富 山 市	富山昭和電工㈱	鉄 鋼	既 設	47・3・21 (58・1・19改定)
	新日本化学工業㈱富山工場	化 学	"	47・3・21
	富山製紙㈱	パルプ・紙	"	" (61・3・22改定)
	日本海石油㈱	石 油	"	"
	三菱アセテート㈱富山工場	化 学	"	" (59・10・8改定)
	太平洋ランダム㈱岩瀬工場	窯 業	"	"
	㈱不二越東富山製鉄所	鉄 鋼	"	"
	太平洋製鋼㈱富山工場	"	"	49・4・22 (59・7・1改定)
	東京タングステン㈱	非 鉄 金 属	"	"
	東洋曹達工業㈱富山工場	化 学	"	"
	富山化学工業㈱	"	"	49・5・11
	㈱不二越富山工場	機 械	"	50・10・8
	藤沢薬品工業㈱富山工場	化 学	進 出	57・8・31
	㈱富山村田製作所	電 機 器 具	"	58・9・16
高 岡 市	北陸金属工業㈱	非 鉄 金 属	進 出	46・8・31
	中越パルプ工業㈱能町工場	パルプ・紙	既 設	46・12・24
	日置鋼機工業㈱	鉄 鋼	進 出	47・8・9
	ホクセイアルミニウム工業㈱第一工場	非 鉄 金 属	既 設	48・1・20
	中越パルプ工業㈱二塚工場	パルプ・紙	"	48・5・14
	十条製紙㈱伏木工場	"	"	48・6・12
	三協アルミニウム工業㈱第二工場	非 鉄 金 属	"	48・9・13
	日本曹達㈱高岡工場	化 学	"	48・9・28 (55・7・7改定)
	日本ゼオン㈱高岡工場	"	"	48・9・28
	東亜合成化学工業㈱高岡工場	"	"	"
	藤沢薬品工業㈱高岡工場	"	進 出	49・9・11
	高岡銅器団地 (協組)	非 鉄 金 属	"	52・9・9
新 湊 市 湊 小 大 杉 門 大 島 町	北陸金属工業㈱	非 鉄 金 属	進 出	46・9・30
	新 湊 市			
新 湊 市	北陸電力㈱、富山共同火力発電㈱	電 力	既 設	47・3・9 (63・3・31改定)
	日本鋼管㈱富山電気製鉄所	鉄 鋼	"	48・7・6
	三精工業㈱	金 属 製 品	進 出	48・10・4 (62・3・18改定)
	日本高周波鋼業㈱富山工場	鉄 鋼	既 設	49・2・12 (62・5・20改定)

市 町 村	締 結 企 業 (工 場)	業 種	進 出・ 既設の別	締結年月日
新 湊 市	スズキ軽合金㈱	非 鉄 金 属	進 出	49・12・23
	磷化学工業	化 学	"	50・11・6 (59・1・12改定)
	富山軽金属工業㈱	金 属 製 品	既 設	52・9・28
	大建工業㈱	合 板	"	"
	志貴野メッキ㈱	金 属 製 品	進 出	58・10・21
	エスエス製薬㈱	化 学	"	60・2・16
	三協アルミニウム工業㈱新湊工場	金 属 製 品	"	61・3・19
	大谷製鉄㈱	鉄 鋼	"	63・5・10
	㈱富山食肉総合センター	そ の 他	"	元・12・25
	立山電化工業㈱	金 属 製 品	"	2・10・4
魚 津 市	日本カーバイト工業㈱魚津工場	化 学	既 設	48・8・22
	松下電子工業㈱	電 機 器 具	進 出	59・9・6
氷 見 市	氷見鍍金工業共同組合、㈱氷見メッキ 工業所、昭和精密工業㈱	金 属 製 品	既 設	48・4・27
	立山カセイ㈱	"	進 出	48・7・16
	三協アルミニウム工業㈱第五工場	"	"	48・8・23
	日東製網㈱漁網加工工場	製 網	"	49・1・28
	氷見冷蔵㈱上庄工場	冷 凍	"	49・2・21
	氷見金属工業センター	金 属 製 品	"	53・9・27
	氷見工業団地協同組合	"	"	56・2・16
	ヤマダアルミ建材㈱	"	"	62・7・2
	氷見観光開発㈱	ゴ ル フ 場	"	2・8・8
滑 川 市	㈱加積製作所	金 属 製 品	進 出	46・11・25
	三友商事㈱滑川工場	魚 腸 骨 処 理	"	48・10・5
	北陸丸紅飼料販売㈱	畜 産	"	55・10・9
	㈱北陸富士	電 機 器 具	既 設	59・7・30
	㈱滑川不二越	機 械	進 出	60・2・10
	㈱不二越滑川工場	"	"	61・1・24
	安田工業団地	金 属 製 品	"	2・4・1
	滑川地区YKKグループ	"	既 設	4・7・1
黒 部 市	日本鉱業㈱三日市製錬所	非 鉄 金 属	既 設	46・5・29
	吉田工業㈱黒部工場、生地工場、古御 堂工場、越前工場、荒俣事業場	金 属 製 品	"	46・12・4
	富山県東部畜産農業協同組合	畜 産 食 料 品	進 出	55・12・25
	黒部スチール工業協同組合	金 属 製 品	"	56・9・29
	北星ゴム㈱	ゴ ム 製 品	"	61・8・19
砺 波 市	富山松下電器㈱	電 気 部 品	進 出	45・6・22
	三協アルミニウム工業㈱福野工場	金 属 製 品	"	49・2・21
	㈱古池自動車工業所	自動車修理販売	"	53・2・4

市町村	締結企業(工場)	業種	進出・既設の別	締結年月日
砺波市	池田屋製あん所	製あん業	既設	53・3・29
	富山県金型協同組合	金属製品	進出	59・3・27
	ワシマイヤー㈱	"	"	63・8・12
	松下電子工業㈱	電子部品	"	3・12・12
	日本製麻㈱	食料品製造	"	4・10・21
	日石硝子工業㈱	ガラス加工	"	5・1・18
小矢部市	山口ニット㈱小矢部工場	染色	進出	47・5・27
	タキヒョー㈱北陸センター	縫製	"	48・12・28
	三協アルミニウム工業㈱福野工場	金属製品	"	49・3・12
	津沢染工㈱福上工場	染色	"	49・10・23
	鈴木自動車工業㈱富山工場	輸送機器	既設	49・11・29
	弘進ゴム工業㈱北陸工場	ゴム製品	"	50・4・22
	千本松毛晒工業㈱北陸工場	染色	"	51・4・10
	赤座繊維工業㈱	"	"	52・6・11
	㈱松本建材	産廃処理	"	62・12・1
	伊藤ハム食品㈱	食品	"	63・7・1
	㈱スズキ部品富山	機械	"	"
	㈱エイゼット	染色	"	"
	たち建設㈱	産廃処理	進出	2・10・19
	新日軽㈱	金属製品	"	4・1・29
大沢野町	日本カーボン㈱富山工場	窯業・土石	既設	50・10・24
大山町	㈱セイアグリーシステム	養鶏	既設	
上市町	土肥機業㈱	繊維・機械	既設	46・3・31
	㈱国際電気エルテック	電気機器	進出	4・3・23
立山町	佐藤工業㈱富山工場	機械	進出	45・9・1
	黒谷金属㈱	金属製品	"	46・2・12
入善町	富山日本電気㈱	電気機械	進出	62・8・12
	アイシン新和㈱	輸送機器	既設	3・3・22
	北星ゴム工業㈱	ゴム製品	進出	4・9・28
朝日町	朝日電子㈱	電機器具	進出	60・11・18
	㈱トータルサウンドスタック	機械	"	61・8・18
	㈱ロイヤル工房	塗装	"	3・12・11
八尾町	日眼製薬㈱	医薬品	進出	59・9・21
	㈱赤山熱交研究所	機械	"	59・12・11
	㈱武田精密	金属製品	"	60・3・23
	㈱スギタ	"	"	60・3・30
	㈱北陸メカトロニクス	電気機械	"	60・4・16

市 町 村	締 結 企 業 (工 場)	業 種	進 出・ 既設の別	締結年月日
八 尾 町	SMK㈱	電 気 機 械	進 出	60・4・18
	松代電子㈱	〃	〃	60・6・14
	㈱三洋化学研究所	医 薬 品	〃	61・2・5
	㈱片山製薬所	〃	〃	62・3・2
	㈱向陽無線工業	電 気 機 械	〃	63・8・11
	㈱富山富士通	〃	〃	63・11・24
	国際電気㈱	研 究 所	〃	元・2・21
	㈱筒井	金 属 製 品	〃	2・6・1
	アルプス薬品工業㈱	医 薬 品	〃	3・3・4
婦 中 町	北陸砂利鉱業㈱	砂 利 採 取	既 設	46・7・30
	大東スチール工業㈱	金 属 製 品	進 出	〃
	日産化学工業㈱富山工場	化 学	既 設	46・11・25
	㈱婦中興業	窯 業・土 石	進 出	〃
	長岡工業㈱	高圧容器検査	〃	47・2・15
	吉森ブロック製作所	窯 業・土 石	〃	47・11・9
	婦中铁工業団地協同組合	金 属 製 品	〃	〃
	余川工業㈱婦中工場	窯 業・土 石	〃	47・12・2
	富山交易㈱	〃	〃	48・3・29
	日新メッキ工業所	金 属 製 品	既 設	〃
	神通コンクリート工業㈱	窯 業・土 石	進 出	48・8・11
	神通川石産㈱	砂 利 採 取	〃	49・7・31
	富山車体㈱	鉄 鋼	〃	51・6・4
	シンワ精密㈱	機 械	〃	52・11・7
	㈱フジチク	畜産食料品	〃	53・2・28
	佐藤道路㈱富山支店	窯 業・土 石	〃	53・6・13
	富山ミツウロコ㈱	石 油 卸 売	〃	56・1・26
	シマダバック工業㈱	紙 製 造	既 設	56・6・3
	㈱水野鉄工所	金 属 製 品	進 出	59・10・11
	富南工業㈱	〃	既 設	59・10・12
	㈱ワイ・アイ・シー	医 薬 品	進 出	63・10・5
	朝日印刷紙器㈱	印 刷 業	〃	元・8・9
細 入 村	テック富山電気㈱	電気機械器具	既 設	55・1・17
小 杉 町	ホクヨー工業㈱	金 属 製 品	進 出	49・8・1
	燐化学工業㈱	化 学	〃	51・3・4
	立山化成㈱	〃	〃	52・8・13
	㈱富山環境整備	産 廃 処 理	〃	60・10・9 (3・10・14改定)
	マグナス環境開発㈱	〃	〃	61・3・25
	立山化成㈱本社工場	化 学	既 設	63・9・6

市 町 村	締 結 企 業 (工 場)	業 種	進 出・ 既 設 の 別	締 結 年 月 日
小 杉 町	伸光	塗 装 業	進 出	元・9・6
	㈱富山食肉総合センター	そ の 他	"	元・12・25
	荏原興業㈱小杉C C	ゴ ル フ 場	"	2・8・29
	アイエス総合開発㈱	産 廃 処 理	既 設	3・10・14
大 門 町	日本電工㈱北陸工場	鉄 鋼	進 出	48・3・30
	大門町企業団地協同組合	そ の 他	"	59・3・29
	伸光	塗 装 業	既 設	元・10・3
下 村	燐化学工業㈱	化 学	進 出	51・3・10
大 島 町	玖洋建設㈱	窯 業・土 石	既 設	47・12・1
	日本電工㈱北陸工場	鉄 鋼	"	48・1・25
	北陸紙器㈱	パ ル プ・紙	"	48・12・22
	米原商事㈱高岡営業所レッカー一部	リ ー ス 業	"	50・4・16
庄 川 町	丸長木材工業㈱	木材・木製品	進 出	47・8・5
	小田繊維工業協同組合	染 色	"	51・12・21
	第一編物㈱	"	既 設	" (50・12・21改定)
	庄川町青島工業団地企業協議会	木材・木製品	進 出	54・2・1
	㈱丸長	プラスチック	"	46・6・8
井 口 村	日之出金属㈱	美術銅器製品	進 出	46・6・8
福 野 町	三協アルミニウム工業㈱福野工場	金 属 製 品	進 出	49・2・21
	㈱日平トヤマ富山工場	機 械	"	63・5・20
福 野 町	㈱第一メンテナンス	クリーニング	進 出	63・7・15
	ユニプラス北陸㈱	織 維	"	元・6・2
	㈱ロゼフテクノロジー	機 械	"	2・3・1
	㈱日平トヤマ富山工場	機 械	"	2・3・22
福 光 町	三和食品㈱	農産食料品	進 出	55・8・29
	棚田弘	再生資源卸売	"	55・11・1
	㈱福光ワカバ	畜産食料品	"	55・12・22
	㈱ナカムラ食品	食 肉 小 売	"	"
	ハート運輸㈱	貨 物 運 送	"	63・8・8
	中越木材㈱	バ ー ク 堆 肥	"	4・11・12
	中越パッケージ㈱	印 刷	"	4・12・28
福 岡 町	立山アルミニウム工業㈱福岡工場	金 属 製 品	進 出	47・5・1 (55・3・5改定)
	タテヤマ静電㈱	"	"	47・11・10
	福岡金属工業団地	金 属 製 品	"	47・12・1
	ヤマダアルミ建材㈱	"	"	48・5・4
	いずみ化成㈱	化 学	既 設	48・12・18
	㈱北陸ヨシナカ	金 属 製 品	"	49・3・30

市 町 村	締 結 企 業 (工 場)	業 種	進 出・ 既設の別	締結年月日
福 岡 町	光陽製器㈱	非 鉄 金 属	進 出	49・6・13
	ヤヨイ化学工業㈱	化 学	"	49・7・13
	福岡フレーム工業㈱	金 属 製 品	"	51・11・25
	㈱小田原製作所	非 鉄 金 属	"	"
	富士コン㈱	窯 業・土 石	既 設	51・8・18
	高田アルミ㈱	非 鉄 金 属	進 出	54・12・4
	鉄道機器㈱	機 械	既 設	56・8・4
	三協化成㈱	金 属 製 品	進 出	元・7・12
高 岡 市 新 湊 市 砺 波 市 小 矢 部 町 大 門 町 城 端 町 庄 川 町 井 口 村 福 野 町 福 光 町	二上浄化センター	下 水 道 処 理	進 出	58・12・27

第9 最近の環境用語

1 愛鳥週間 (バードウィーク)

毎年、5月10日からの1週間。この期間は、ちょうど野鳥の繁殖の時期にあたるため、この週間行事を通じて野鳥に対する愛鳥の精神を普及しようとするものである。

愛鳥週間には、「全国野鳥保護のつどい」をはじめ各地でいろいろな行事が開催される。本県でも、小学校6年生によるツバメの県下一斉生息調査や探鳥会など多彩な行事を開催している。

2 赤 潮

海中のプランクトンが異常増殖し、海水が赤褐色を呈する現象。発生のメカニズムは完全に究明されていないが、海洋沿岸や河川の注ぐ湾内に、しかも雨後に強い日射と海面の静かな日が続くときに発生しやすい。海水中の窒素、磷等の栄養塩類濃度、自然条件の諸要因が相互に関連して発生すると考えられている。魚介類に対する被害の原因として、(1)赤潮プランクトンが魚介類のえらに詰って窒息する。(2)赤潮プランクトンの細胞分解のため海水中のDOが欠乏する。(3)有毒物が赤潮プランクトンにより生産排出される。(4)細菌が増殖する。などの諸説がある。

3 アメニティ

アメニティ (amenity) ということばは、英国の識者によると、「適切なものが適切なおところにあること」(The right thing in the right place) と定義されている。

もっと分かりやすく言えば、私たちの生活環境を構成する自然や施設、歴史的・文化的伝統などが互いに他を活かし合うようにバランスがとれ、その中で生活する私たち人間との間に真の調和が保たれている場合に生ずる好ましい感覚を、アメニティという。

4 硫黄酸化物 (SO_x)

二酸化硫黄 (SO_2)、三酸化硫黄 (SO_3) など、硫黄の酸化物を総称して硫黄酸化物という。硫黄が燃えると亜硫酸ガス (二酸化硫黄) となり、太陽紫

外線により光酸化し無水硫酸となる。呼吸器を刺激し、せき、呼吸困難、ぜんそく、気管支炎などを起こすほか植物を枯らしたりするため、大気汚染の原因物質として問題となっている。

5 上乗せ基準

ばい煙又は排水の排出の規制に関して、一律の排出基準又は排水基準に代えて適用するものとして、都道府県が条例で定める、より厳しい排出基準又は排水基準をいう。

6 エコマーク商品

日常生活のうえで環境保全に役立つ商品に特定のマークをつけ、物を購入しようとする時、すぐ見分けられるようにしたものです。フロンを使わないスプレー、100%古紙使用のトイレットペーパーなど約2,400の商品にマークがつけられ販売されています。

7 SS（浮遊固形物—Suspended Solid の略）

粒径2 mm 以下の水に溶けない懸濁性の物質をいう。水の濁りの原因となるもので魚類のエラをふさいでへい死させたり、日光の透過を妨げることによって水生植物の光合成作用を妨害するなどの有害作用がある。また、有機性浮遊物質の場合は河床に堆積して腐敗するため、底質を悪化させる。

8 オキシダント（光化学オキシダント）

大気中の窒素酸化物、炭化水素等が紫外線によって光化学反応を起こした結果生成するオゾンを主とする酸化性物質の総称である。→光化学スモッグ

9 オゾン層の破壊

フロンガスは、メタンやエタンの水素がふっ素や塩素で置換された化学物質の総称で、エアゾール製品の噴霧剤、精密機器や電子部品の洗浄剤、ウレタンフォームの発泡剤等に広く使われており、毒性はない。それが大気中に放出され、成層圏まで上昇すると塩素が分離されてオゾン層を破壊し、地上に到達する紫外線を増加させるため人の健康に悪影響を与えたり、穀物の収穫量を減少させるといわれている。

10 汚濁負荷量

硫酸酸化物、BOD 等の汚濁物質が大気や水などの環境に影響を及ぼす量の

ことをいい、一定期間における汚濁物質の濃度とこれを含む排出ガス量や排水量等との積で表される。(例えば g/日)

11 温室効果

大気中の微量ガスが地表面から放出される赤外線を吸収して、宇宙空間に逃げる熱を地表面に戻すために、気温が上昇する現象をいう。赤外線を吸収する気体には、水蒸気、二酸化炭素、フロンガスなどがある。近年は、人間の経済活動に伴う二酸化炭素などが増加しており、気候が温暖化する可能性が指摘されている。

12 環境影響評価（環境アセスメント）

各種開発行為の実施に先立ち、それが大気、水質、生物等環境に及ぼす影響について予測、評価を行うことをいう。

13 環境基準

公害対策基本法は「環境基準とは、大気の汚濁、水質の汚染、土壌の汚染及び騒音に係る環境上の条件についてそれぞれ人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」と定義している。環境基準は行政上の目標基準であり、直接に工場等を規制するための規制基準とは異なる。

14 環境管理計画

地方公共団体が大気、水質、自然環境などを将来にわたって守り、適切に利用していくため策定する計画である。

この計画には、望ましい地域環境のあり方、それを実現するための基本的な方策、その方策を具体化する手順などが示されている。本県では、4年2月に「とやま環境計画」を策定した。

15 休猟区

狩猟鳥獣の増殖を図るため狩猟行為が禁止される区域で、3年を限度として、狩猟者に解除される区域である。

16 クローズドシステム

排水、廃棄物等を工場外に出さずに、工場内で循環し、回収する閉鎖系をいう。

17 公園街道

県民公園を結ぶ幹線歩道として計画されているもの。起点は県民公園太閤山ランド、終点は頼成の森、延長19.3km、平均幅員は1.2mである。県民公園地域内の雑木林の中をいく、昔からの山道、歴史を秘めた峠道、素朴な田園の中の道をできるだけそのまま生かして、レクリエーションや自然観察のために提供することを目的としている。

18 光化学スモッグ

大気中の窒素酸化物や炭化水素に紫外線が作用して、オゾン、パーオキシアシルナイトレート等の酸化性物質（光化学オキシダント）を生成し、このオキシダントが特殊な気象条件の下で光化学スモッグを形成するといわれている。光化学スモッグは、眼を刺激して涙を誘発し視程を減少させたり、呼吸困難を誘発し、また、植物を枯らしたり、ゴムの損傷を早めたりする。この現象は、日ざしの強い夏期に発生しやすい。

19 合成洗剤

洗剤には、やし油等の原料から作られる「石けん」と、鉱油や動植物油から合成して作られる「合成洗剤」の2種類がある。

合成洗剤は、界面活性剤（LAS等）と助剤（性能向上剤）からなり、硬水でも使用できる等利便性があることから、衣料や食器等の洗浄に幅広く利用されている。

近年、界面活性剤による皮膚障害等の安全性や、助剤に含まれるりん酸塩による閉鎖性水域での富栄養化が問題にされているので、合成洗剤の無りん酸等の対策が進められている。

20 国民休養地

国民休養地とは、45年から実施されている事業であり、その目的は「自然との触れあいを回復するために、都市周辺の多様で豊かな自然に恵まれた県立自然公園内に自然との調和を図りながら健全な野外レクリエーションの場を整備するとともに、単に保養の場としてのみならず、積極的に自然に働きかけるという体験を通じて自然と人間との調和のあり方を会得し、郷土の自然を守り育てていこうとする意識を培う場として整備しようとするもの」で

あり、施設整備については、都道府県が一事業主体の場合に環境庁から事業費の補助が受けられる。

21 三 次 処 理

排水処理について、今までとられてきた処理を二次処理あるいは高次処理と言い、更に処理水の水質向上を図るために一段階加えた処理を三次処理という。最近、BOD、CODの規制強化や窒素、りんによる二次汚濁、処理水の再利用の面から検討されている。

22 酸 性 雨

大気中に排出された硫黄酸化物や窒素酸化物等の汚染物質が上空で雨雲や雨水にとりこまれ酸性の度合いが強くなった雨のことです。

23 三点比較式臭袋法

臭を数量化する方法の一つで、人の嗅覚により評価する官能試験である。パネルの臭判別可能な希釈倍数から臭気濃度を求める方法である。

24 COD（化学的酸素要求量—Chemical Oxygen Demandの略）

CODは、水中の汚濁物質（主として有機物）を酸化剤で化学的に酸化するときに消費される酸素量をもって表し、環境基準では海域及び湖沼の汚濁指標として採用されている。

25 自然博物館

県民に、自然に関する学習の場を提供することを目的として婦中町に設置された県民公園のひとつで、この中には富山県民福祉公園の設置する自然博物館センターの展示館等の施設がある。

26 自然保護憲章

自然保護の国民的指標として、49年6月5日、我が国の全国的組織体149団体で組織する自然保護憲章制定国民会議が制定した全国民的な憲章であり、その大要は次のとおりである。

- 1 自然をとつとび、自然を愛し、自然に親しもう。
- 2 自然に学び、自然の調和をそこなないようにしよう。
- 3 美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

27 銃猟禁止区域

公共の安全を図り不測の事故を防止するため、銃による狩猟を禁止している区域である。

28 森林浴

森の中に入ると、樹木特有のすがすがしい香りが漂ってくる。森林浴とは、この森林の香気、精気を浴びて心身をいやすことである。

29 植生自然度

自然は、人工の影響を受ける度合によって、自然性の高いものも低いものもある。高山植物群落や極相林のように人間の手の加わっていないものを10及び9とし、緑のほとんどない住宅地や造成地を1、その中間に二次林、植林地、農耕地等をランクし、10段階で表示する。

30 潜在自然植生

何らかの形で人為的な影響を受けている地域で、今、人間の影響を一切停止したとき、その土地に生じると判定される自然植生。

31 総量規制

一定の地域内の汚染（濁）物質の排出総量を環境保全上許容できる限度にとどめるため、工場等に対し汚染（濁）物質許容排出量を配分し、この量をもって規制する方法をいう。大気汚染、水質汚濁に係る従来の規制方式は、工場等の排出ガスや排出水に含まれる汚染（濁）物質の濃度のみを対象としていたが、この濃度規制では地域の望ましい環境を維持達成することが困難な場合に、その解決手段としての総量規制がクローズアップされている。

32 大腸菌群数

大腸菌群は、人間又は動物の排泄物による水の汚染指標として用いられている細菌である。大腸菌には、温血動物の腸内に生存しているものと、草原や畑などの土中に生存しているものが、これを分離して測定することが困難なので、一括して大腸菌群として測定している。

33 窒素酸化物（ NO_x ）

窒素と酸素の化合物の総称である。大気中の窒素酸化物は種々あるが、一酸化窒素（ NO ）と二酸化窒素（ NO_2 ）が主なもので、工場やビル暖房等にお

ける燃料の燃焼工程、自動車、硝酸製造工場などから排出される。窒素酸化物は低濃度の場合、単独ではあまり害はないが、光化学スモッグが発生しやすい条件下では、その原因物質として問題となる。また、 NO_2 が高濃度の場合は、眼を刺激し、呼吸器に急性のぜんそく性症状を起こすなど有害である。

34 鳥獣保護区

野生鳥獣の保護増殖を図るための区域で、捕獲行為が禁止されている。鳥獣保護区内に設けられる特別保護地区では野生動物の生息に影響を及ぼす行為は許可が必要である。

35 適正揚水量

地域的に、塩水化や地盤沈下等の地下水障害を生じさせずに、永続して揚水できる地下水量のこと。

36 DO（溶存酸素量—Dissolved Oxygen の略）

水に溶けている酸素のことをいう。河川等の水質が有機物で汚濁されると、この有機物を分解するため水中の微生物が溶存酸素を消費し、この結果、溶存酸素が不足して魚介類の生存が脅かされる。さらに、この有機物の分解が早く進行すると、酸素の欠乏とともに嫌気性の分解が起こり、有害ガスを発生して水質は著しく悪化する。

37 WECPNL（うるささ指数）

航空機騒音のうるささを表わす指数として用いられる。これは、1日の航空機騒音レベルの平均と時間帯ごとに重みづけされた飛行回数から算定され、航空機の総騒音量を評価する単位である。

38 ナチュラリスト

本来は、博物学者という意味であるが、富山県ナチュラリストは自然環境等についての知識を持ち、富山県知事が認定した人たちで、現在、夏期に立山等に駐在して国立公園等の利用者に自然解説を行っている。

39 ばい煙

硫黄酸化物、ばいじん及び有害物質の総称である。ばいじんとは、ボイラーや電気炉等から発生するすすや固体粒子をいい、有害物質とは、物の燃焼、合成、分解等に伴って発生するカドミウム、塩素、ふっ素、鉛、窒素酸化物

等の人の健康又は生活環境に有害な物質をいう。

40 BOD（生物化学的酸素要求量—Biochemical Oxygen Demand の略）

BODは、水中の汚濁物質（有機物）が微生物によって酸化分解され、無機化、ガス化するときに必要なとされる酸素量をもって表し、環境基準では河川の汚濁指標として採用されている。

41 PCB（ポリ塩化ビフェニル）

不燃性で熱に強く、絶縁性にすぐれ、化学的にも安定であるなど多くの特性を持っており、熱媒体、絶縁油、塗料等に用いられていた。カネミ油症事件の原因物質で、皮膚障害や肝臓障害を引き起こすことが知られている。環境汚染物質として注目され、大きな社会問題となったため、現在我が国では製造は中止され、使用も限定されている。

42 ppm（Parts Per million の略）

ごく微量の物質の濃度や含有率を表すのに使われ、%が100分の1をいうのに対し、ppmは100万分の1を意味する。例えば、空気1 m³中に1 cm³の物質が含まれているような場合、あるいは水1 kg（約1 l）中に1 mgの物質が溶解しているような場合、この物質の濃度を1 ppmという。ppmより微量の濃度を表す場合には、ppb（10億分の1）も用いられる。

43 ppmC

炭化水素はメタン、エタン、プロパンなど種類が多いので、全体の濃度を表す場合炭素数1のメタンに換算した値を使用し、その値をppmで表したときに用いられる。

44 PPP（汚染者負担の原則—Polluter Pay's Principle の略）

環境汚染防止のコスト（費用）は、汚染者が支払うべきであるとする考えであり、環境政策に一定の方向を与えた画期的な考えであるといえる。

45 バードマスター（野鳥観察指導員）

バードマスターは、野鳥の識別及び生態並びに鳥類学等の知識を持ち、富山県知事が認定した人たちで、県、市町村及びその他団体が実施する探鳥会、講習会などの指導にあたっている。

46 ビジターセンター

ビジターセンター（博物展示施設）は、国立公園や国定公園等の利用者に対し、その公園の自然や人文についてパネル、ジオラマや映像装置などによってわかりやすく展示解説するとともに、利用指導や案内を行い、自然保護思想の高揚を図るための中心的施設である。

47 富栄養化

海洋や湖沼で栄養塩類（窒素、磷等）の少ないところは、プランクトンが少なく、透明度も大きい。このような状態を貧栄養であるという。これに対し、栄養塩類が多いところでは、プランクトンが多く透明度が小さい。このような状態を富栄養であるという。有機物による水質汚濁その他の影響で、貧栄養から富栄養へと変化する現象を富栄養化という。

48 浮遊粒子状物質

大気中に浮遊する粒子状物質であって、その粒径が10ミクロン以下のものをいう。

49 ホン

騒音の大きさを表す単位として用いられる。これを日常生活における音と対比してみると、「ささやき声、木の葉のふれあう音」で20ホン程度、「静かな事務所」で50ホン程度、「国電の中」で80ホン程度、「ジェット機の音」は120ホン程度で、130ホンを超えると耳に痛みを感じる。

50 名水

環境庁の「全国名水百選」及び本県の「とやまの名水」では、「きれいな水で、古くから生活用水などに使用され、大切にされてきたもの」、「いわゆる名水として故事来歴のあるもの」、「その他、特に自然性が豊かであり、優良な水環境として後世に残したいもの」を名水として選定している。

51 野鳥の園

野鳥の保護を図るとともに、県民に自然探勝の場を提供することを目的として設置された県民公園のひとつで、富山市三ノ熊地内の古洞池地区のほか婦中町高塚地内の1級鳥類観測ステーション地区がある。

52 緑 被 度

一定面積の中に樹木等が生育している面積の比率をいう。正確にはその土地の区域と樹冠投影面積の和との比率で表す。

53 労働衛生許容濃度

職場において、労働者の健康障害を予防するための手引として用いられる値である。日本をはじめロシア、アメリカ等世界各国で、生体作用等を総合的に検討して定められている。

第10 国の環境基準

I 大気関係…48年5月8日環境庁告示第25号

(48年5月16日環境庁告示第35号一部改正)

二酸化窒素に係る環境基準の改正…53年7月11日環境庁告示第38号

1 環境基準

物質	二酸化硫黄	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	二酸化窒素	光化学オキシダント
環境上の条件	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること	1時間値の1H平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること	1時間値が0.06ppm以下であること

備考

- 1 浮遊粒子状物質とは、大気中に浮遊する粒子状物質であって、その粒径が10ミクロン以下のものをいう。
- 2 光化学オキシダントとは、オゾン、パーオキシアシルナイトレートその他の光化学反応により生成される酸化性物質（中性ヨウ化カリウム溶液からヨウ素を遊離するものに限り、二酸化窒素を除く。）をいう。
- 3 環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所については適用しない。

2 達成期間

- 1 一酸化炭素、浮遊粒子状物質又は光化学オキシダントに係る環境基準は、維持され、又は早期に達成されるよう努めるものとする。
- 2 二酸化硫黄に係る環境基準は、維持され、又は原則として5年以内において達成されるよう努めるものとする。
- 3 二酸化窒素に係る環境基準は、1時間値の1日平均値が0.06ppmを超える地域にあっては、1時間値の1日平均値が0.06ppmが達成されるよう努めるものとし、その達成期間は原則として7年以内とする。

また、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内にある地域内にあっては、原則として、このゾーン内において、現状程度の水準を維持し、又はこれを大きく上回ることをとならないよう努めるものとする。

環境基準を維持し、又は達成するため、個別発生源に対する排出規制のほか、各種の施策を総合的かつ有効適切に講ずるものとする。

II 水 質 関 係…46年12月28日環境庁告示第59号

(49年9月30日環境庁告示第63号一部改正)

(50年2月3日環境庁告示第3号一部改正)

(57年12月25日環境庁告示第140号一部改正)

(5年3月8日環境庁告示第16号一部改正)

1 人の健康の保護に関する環境基準

項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カドミウム	0.01mg/l 以下	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/l 以下
全シアン	検出されないこと	1,1,1-トリクロロエタン	1mg/l 以下
鉛	0.01mg/l 以下	1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/l 以下
六価クロム	0.05mg/l 以下	トリクロロエチレン	0.03mg/l 以下
砒素	0.01mg/l 以下	テトラクロロエチレン	0.01mg/l 以下
総水銀	0.0005mg/l 以下	1,3-ジクロロプロペン (D-D)	0.002mg/l 以下
アルキル水銀	検出されないこと	チウラム	0.006mg/l 以下
PCB	検出されないこと	シマジン (CAT)	0.003mg/l 以下
ジクロロメタン	0.02mg/l 以下	チオベンカルブ(ヘンチオカーブ)	0.02mg/l 以下
四塩化炭素	0.002mg/l 以下	ベンゼン	0.01mg/l 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/l 以下	セレン	0.01mg/l 以下
1,1-ジクロロエチレン	0.02mg/l 以下		

2 生活環境の保全に関する環境基準

(I) 河 川

ア 河 川 (湖沼を除く)

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値				
		水素イオン 濃 度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級 自然環境保全及 びA以下の欄に 掲げるもの	6.5以上	1 mg/l	25mg/l	7.5mg/l	50MPN /100ml 以 下
		8.5以下	以 下	以 下	以 上	
A	水道2級 水産1級 浴槽 及びB以下の欄 に掲げるもの	6.5以上	2 mg/l	25mg/l	7.5mg/l	1,000MPN /100ml 以 下
		8.5以下	以 下	以 下	以 上	
B	水道3級 水産2級 及びC以下の欄 に掲げるもの	6.5以上	3 mg/l	25mg/l	5 mg/l	5,000MPN /100ml 以 下
		8.5以下	以 下	以 下	以 上	

C	水産3級 工業用水1級 及びD以下の欄 に掲げるもの	6.5以上	5 mg/l	50mg/l	5 mg/l	—
		8.5以下	以下	以下	以上	
D	工業用水2級 農業用水 及びEの欄に掲 げるもの	6.0以上	8 mg/l	100mg/l	2 mg/l	—
		8.5以下	以下	以下	以上	
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上	10mg/l	ごみ等の浮 遊が認めら れないこと	2 mg/l	—
		8.5以下	以下		以上	

備考 1 基準値は、日間平均値とする。(湖沼、海域もこれに準ずる)

2 農業利用水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5 mg/l 以上とする(湖沼もこれに準ずる)。

(注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全

2 水道 1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの

“ 2級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの

“ 3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

3 水産 1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の
水産生物用

“ 2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産3級の水産生
物用

“ 3級：コイ、フナ等、 β -中腐水性水域の水産生物用

4 工業用水1級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの

“ 2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの

“ 3級：特殊の浄水操作を行うもの

5 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む)において、不快感を生じない限度

イ 湖 沼 (天然湖及び貯水量1,000万 m^3 以上の人工湖)

(ア)

項目 類型	利用目的の 適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	化学的酸素 要求量 (COD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級 水産1級 自然環境保全 及びA以下の欄 に掲げるもの	6.5以上	1 mg/l	1 mg/l	7.5mg/l	50MPN /100ml
		8.5以下	以下	以下	以上	以下
A	水道2、3級 水産2級 及びB以下の欄 に掲げるもの	6.5以上	3 mg/l	5 mg/l	7.5mg/l	1,000MPN /100ml
		8.5以下	以下	以下	以上	以下
B	水産3級 工業用水1級 農業用水 及びCの欄に掲 げるもの	6.5以上	5 mg/l	15mg/l	5 mg/l	—
		8.5以下	以下	以下	以上	

C	工業用水 2 級 環境保全	6.0以上 8.5以下	8 mg/l 以下	ごみ等の浮遊物が認められないこと	2 mg/l 以上	—
---	------------------	----------------	--------------	------------------	--------------	---

備考 水産 1 級、水産 2 級及び水産 3 級については、当分の間、浮遊物質量の項目の基準値は適用しない。

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2 水道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道 2、3 級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作又は前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3 水産 1 級：ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産 2 級及び水産 3 級の水産生物用
 " 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産 3 級の水産生物用
 " 3 級：コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用
 4 工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 " 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作又は特殊な浄水操作を行うもの
 5 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む)において、不快感を生じない限度

(イ)

項目 類型	利用目的の適応性	基準値		該当水域
		全窒素	全りん	
I	自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの	0.1mg/l 以下	0.005mg/l 以下	第1の2の(2)により水域類型ごとに指定する水域
II	水道1、2、3級(特殊なものを除く。) 水産 1 種 水浴及びIII以下の欄に掲げるもの	0.2mg/l 以下	0.01mg/l 以下	
III	水道3級(特殊なもの)及びIV以下の欄に掲げるもの	0.4mg/l 以下	0.03mg/l 以下	
IV	水産2種及びVの欄に掲げるもの	0.6mg/l 以下	0.05mg/l 以下	
V	水産 3 種 農業環境用水 環境保全	1 mg/l 以下	0.1mg/l 以下	

備考 1 基準値は、年間平均とする。

2 農業用水については、全りんの項目の基準値は適用しない。

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2 水道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道 2 級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 水道 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの(「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。)
 3 水産 1 種：サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産 2 種及び水産 3 種の水産生物用
 水産 2 種：ワカサギ等の水産生物用及び水産 3 種の水産生物用
 水産 3 種：コイ、フナ等の水産生物用
 4 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む)において不快感を生じない限度

(2) 海 域

項目 類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値				
		水素イオン濃 (pH)	化学的酸素要 求 量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)
A	水産1級浴 水自然環境保全 及びB以下の欄 に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2 mg/l 以 下	7.5mg/l 以 上	1,000MPN /100ml 以 下	検出されな いこと
B	水産2級 工業用水及びC の欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3 mg/l 以 下	5 mg/l 以 上	—	検出されな いこと
C	環 境 保 全	7.0以上 8.3以下	8 mg/l 以 下	2 mg/l 以 上	—	—

備考 水産1のうち、生食用原料カキの養殖の利水点については、大腸菌群数70MPN/100ml以下とする。

(注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全

2 水産1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用

“ 2級：ホラ、ノリ等の水産生物用

3 環 境 保 全：国民の日常生活(沿岸の散歩等を含む)において、不快感を生じない限度

3 達成期間等

環境基準の達成に必要な期間及びこの期間が長期間である場合の措置は、次のとおりとする。

(1) 人の健康の保護に関する環境基準

これについては、設定後直ちに達成され、維持されるように努めるものとする。

(2) 生活環境の保全に関する環境基準

これについては、各公共用水域ごとに、おおむね次の区分により、施策の推進とあいまちつつ、可及的速やかにその達成維持を図るものとする。

ア 現に著しい人口集中、大規模な工業開発等が進行している地域に係る水域で著しい水質汚濁が生じているもの又は生じつつあるものについては、5年以内に達成することを目途とする。

ただし、これらの水域のうち、水質汚濁が極めて著しいため、水質の改善のための施策を総合的に講じて、この期間内における達成が困難

と考えられる水域については、当面、暫定的な改善目標値を適宜設定することにより、段階的に当該水域の水質の改善を図りつつ、極力環境基準の速やかな達成を期することとする。

イ 水質汚濁防止を図る必要のある公共用水域のうち、アの水域以外の水域については、設定後直ちに達成され、維持されるよう水質汚濁の防止に努めることとする。

Ⅲ 騒音関係

○騒音に係る環境基準…46年5月25日閣議決定

1 環境基準

地域の 類型	時 間 の 区 分			該 当 地 域
	昼 間	朝・夕	夜 間	
AA	45ホン(A)以下	40ホン(A)以下	35ホン(A)以下	環境基準に係る水域及び地域の指定権限の委任に関する政令（昭和46年政令第159号）第2項の規定に基づき都道府県知事が地域の区分ごとに指定する地域
A	50ホン(A)以下	45ホン(A)以下	40ホン(A)以下	
B	60ホン(A)以下	55ホン(A)以下	50ホン(A)以下	

- (注) 1 AAをあてはめる地域は、療養施設が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域とすること。
2 Aをあてはめる地域は、主として住居の用に供される地域とすること。
3 Bをあてはめる地域は、相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域とすること。

ただし、次表に掲げる地域に該当する地域（以下「道路に面する地域」という）については、その環境基準は下表の欄に掲げるとおりとする。

地 域 の 区 分	時 間 の 区 分		
	昼 間	朝・夕	夜 間
A地域のうち、2車線を有する道路に面する地域	55ホン(A)以下	50ホン(A)以下	45ホン(A)以下
A地域のうち、2車線を超える車線を有する道路に面する地域	60ホン(A)以下	55ホン(A)以下	50ホン(A)以下
B地域のうち、2車線以下の車線を有する道路に面する地域	65ホン(A)以下	60ホン(A)以下	55ホン(A)以下
B地域のうち、2車線を超える車線を有する道路に面する地域	65ホン(A)以下	65ホン(A)以下	60ホン(A)以下

備考 車線とは、1縦列の自動車安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。

2 達成期間等

環境基準は適用地域の種別により、次の区分により、施策の進展とあいまって、その達成、維持を図るものとする。

- (1) 道路に面する地域以外の地域については、環境基準の設定後直ちにその達成を図るよう努めるものとする。
- (2) 道路に面する地域については、設定後5年以内を目途としてその達成を図るよう努めるものとする。

ただし、道路交通量が多い幹線道路に面する地域で、その達成が著しく困難な地域については、5年を超える期間で可及的速やかに達成を図るよう努めるものとする。

○航空機騒音に係る環境基準…48年12月27日環境庁告示第154号

1 環境基準

環境基準は、地域の類型ごとに次表の基準値の欄に掲げるとおりとし、各類型をあてはめる地域は、都道府県知事が指定する。

地 域 の 類 型	基 準 値 (単位 WECPNL)
I	70 以 下
II	75 以 下

(注) Iをあてはめる地域は専ら住居の用に供される地域とし、IIをあてはめる地域はI以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域とする。

2 達成期間等

環境基準は、公共用飛行場等の周辺地域においては、飛行場の区分ごとに次表の達成期間の欄に掲げる期間で達成され、又は維持されるものとする。

この場合において、達成期間が5年を超える地域においては、中間的に同表の改善目標の欄に掲げる目標を達成しつつ、段階的に環境基準が達成されるようにするものとする。

飛行場の区分			達成期間	改善目標
既設飛行場	新設飛行場			
	第三種空港及びこれに準ずるもの		直ちに	
	第二種空港 (福岡空港を除く)	A	5年以内	
		B	10年以内	5年以内に、85WECPNL未達とすること又は85WECPNL以上の地域において屋内で65WECPNL以下とすること
	新東京国際空港			
	第一種空港(新東京国際空港を除く)及び福岡空港		10年を超える期間内に可及的速やかに	1 5年以内に、85WECPNL未達とすること又は85WECPNL以上の地域において屋内で65WECPNL以下とすること 2 10年以内に、75WECPNL未達とすること又は75WECPNL以上の地域において屋内で60WECPNL以下とすること

- 備考 1 既設飛行場の区分は、環境基準が定められた日における区分とする。
 2 第二種空港のうち、Bとはターボジェット発動機を有する航空機が定期航空運送事業として離着陸するものをいい、AとはBを除くものをいう。
 3 達成期間の欄に掲げる期間及び各改善目標を達成するための期間は、環境基準が定められた日から起算する。

○新幹線鉄道騒音に係る環境基準…50年7月29日環境庁告示第46号

1 環境基準

環境基準は、地域の類型ごとに次表の基準値の欄に掲げるとおりとし、各類型をあてはめる地域は、都道府県知事が指定する。

地域の類型	基準値
I	70 ホン 以下
II	75 ホン 以下

(注) Iをあてはめる地域は主として住居の用に供される地域とし、IIをあてはめる地域は商工業の用に供される地域等I以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域とする。

2 達成目標期間

環境基準は、関係行政機関及び関係地方公共団体の協力のもとに、新幹線鉄道の沿線区域の区分ごとに次表の達成目標期間の欄に掲げる期間を目途として達成され、又は維持されるよう努めるものとする。

この場合において、新幹線鉄道騒音の防止施策を総合的に講じても当該達成目標期間で環境基準を達成することが困難と考えられる区域においては、家屋の防音工事等を行うことにより環境基準が達成された場合と同等の屋内環境が保持されるようにするものとする。

なお、環境基準の達成努力にもかかわらず、達成目標期間内にその達成ができなかった区域が生じた場合においても、可及的速やかに環境基準が達成されるよう努めるものとする。

新 幹 線 鉄 道 の 沿 線 区 域 の 区 分		達 成 目 標 期 間		
		既設新幹線鉄道に係る期間	工事中新幹線鉄道に係る期間	新幹線鉄道に係る期間
a	80ホン以上の区域	3年以内	開業時に直ちに	
b	75ホンを超え80ホン未満の区域	イ	開業時から3年以内	開業時に直ちに
		ロ		
c	70ホンを超え75ホン以下の区域	10年以内	開業時から5年以内	

- 備考 1 新幹線鉄道の沿線区域の区分の欄のbの区域中イとは地域の類型Ⅰに該当する地域が連続する沿線地域内の区域をいい、ロとはイを除く区域をいう。
- 2 達成目標期間の欄中既設新幹線鉄道、工事中新幹線鉄道及び新設新幹線鉄道とは、それぞれ次の各号に該当する新幹線鉄道をいう。
- (1) 既設新幹線鉄道 東京・博多間の区間の新幹線鉄道
- (2) 工事中新幹線鉄道 東京・盛岡間、大宮・新潟間及び東京・成田間の区間の新幹線鉄道
- (3) 新設新幹線鉄道 (1)及び(2)を除く新幹線鉄道
- 3 達成目標期間の欄に掲げる期間のうち既設新幹線鉄道に係る期間は、環境基準が定められた日から起算する。

IV 土 壌 関 係…3年8月23日環境庁告示第46号

1 環 境 基 準

項 目	環 境 上 の 条 件
カ ド ミ ウ ム	検液 1 l につき0.01mg 以下であり、かつ、農用地においては、米 1 kg につき 1 mg 未満であること。
シ ア ン	検液中に検出されないこと。
有 機 燐	検液中に検出されないこと。
鉛	検液 1 l につき0.1mg 以下であること。
六 価 ク ロ ム	検液 1 l につき0.05mg 以下であること。
砒 素	検液 1 l につき0.05mg 以下であり、かつ、農用地(田に限る。)においては、土壌 1 kg につき15mg 未満であること。
総 水 銀	検液 1 l につき0.0005mg 以下であること。
ア ル キ ル 水 銀	検液中に検出されないこと。
P C B	検液中に検出されないこと。
銅	農用地(田に限る。)において、土壌 1 kg につき125mg 未満であること。

備 考

- 1 カドミウム、鉛、六価クロム、砒素及び総水銀に係る環境上の条件のうち検液中濃度に係る値にあっては、汚染土壌が地下水から離れており、かつ、原状において当該地下水のこれらの物質の濃度がそれぞれ地下水 1 l につき0.01mg、0.1mg、0.05mg、0.05mg 及び0.0005mg を超えていない場合には、それぞれ検液 1 l につき0.03mg、0.3mg、0.15mg、0.15mg 及び0.0015mg とする。
- 2 有機燐とは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びEPNをいう。

(注) 上記の環境基準は、汚染がもっぱら自然的原因によることが明らかであると認められる場所及び原材料の堆積場、廃棄物の埋立地その他の上表の項目の欄に掲げる項目に係る物質の利用又は処分を目的として現にこれらを集積している施設に係る土壌については、適用しない。

2 達 成 期 間 等

環境基準に適合しない土壌については、汚染の程度や広がり、影響の態様等に応じて可及的速やかにその達成維持に努めるものとする。

なお、環境基準を早期に達成することが見込まれない場合にあっては、土壌の汚染に起因する環境影響を防止するために必要な措置を講ずるものとする。

第11 県の環境基準

○大気関係…46年6月1日県告示第644号

1 環境基準

物 質	ふっ素及びふっ素化合物
環境上の条件	連続する24時間の測定値において、ふっ素として7 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること

2 達成期間

直ちに維持されるものとする。

第12 水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定状況

1 河 川

水 域 名	告示年月日	水 域 の 区 分	該当類型	達成期間
小矢部川 水 域	(告示237) 昭51.3.26	小矢部川上流 (太美橋より上流)	A A	イ
		山 田 川 上 流 (ニヶ淵(上原地内)えん堤より上流)	A A	イ
		山 田 川 下 流 (ニヶ淵(上原地内)えん堤より下流)	A	イ
		小矢部川中流(太美橋から千保川合流点まで)	A	イ
		小矢部川下流(甲)(千保川合流点から城光寺橋まで)	C	イ
		小矢部川下流(乙)(城光寺橋より下流)	D	ロ
		祖 父 川 (全 域)	B	イ
神 通 川 水 域	(告示324) 昭47.4.1	千 保 川 (全 域)	D	ロ
		神通川上流(いたち川合流点より上流、宮川及び高原川を含む)	A	イ
		神通川下流(いたち川合流点より下流)	C	ロ
		いたち川(全 域)	C	ロ
		井田川上流(落合橋より上流)	A	イ
		井田川下流(落合橋より下流)	B	イ
		熊 野 川 (全 域)	A	イ
白 岩 川 水 域	(告示16) 昭57.1.14	富岩運河、岩瀬運河及び住友運河	E	ロ
		松 川 (全 域)	B	ロ
		(告示607) 昭47.6.30 一部改正		
		白岩川上流(栃津川合流点より上流)	A	イ
		白岩川下流(栃津川合流点より下流)	B	ロ
		栃津川上流(寺田川合流点より上流)	A	イ
		栃津川下流(寺田川合流点より下流)	C	イ
庄 川 水 域 等	(告示936) 昭48.9.28	庄 川 上 流 (雄神橋より上流)	A A	イ
		庄 川 下 流 (雄神橋より下流)	A	イ
		和 田 川 (全 域)	A	イ
		下 条 川 (全 域)	B	ロ
		新 堀 川 (全 域)	B	イ
		内 川 (全 域)	C	ハ
常願寺川 水 域 等	(告示1151) 昭49.12.18 一部改正 (告示246) 平3.3.29	常願寺川上流(常願寺橋より上流)	A A	イ
		常願寺川下流(常願寺橋より下流)	A	イ
		上 市 川 (全 域)	A	イ
		中 川 (全 域)	B	イ
		角 川 (全 域)	A	イ
		鴨 川 (全 域)	B	ロ
		阿 尾 川 (全 域)	A	イ
		余 川 川 (全 域)	A	イ
		上 庄 川 (全 域)	B	イ
		仏 生 寺 川 (湊川を含む全域)	C	ロ
		黒 瀬 川 (全 域)	A	イ
		吉 田 川 (全 域)	B	ロ
		黒 部 川 (黒部ダム貯水池(黒部湖)を除く)	A A	イ

水 域 名	告示年月日	水 域 の 区 分	該当類型	達成期間
早 月 川 水 域 等	(告示237) 昭51.3.26	早 月 川 (全 域)	A A	イ
		片貝川上流 (落合橋より上流)	A A	イ
		片貝川下流 (落合橋より下流)	A	イ
		布 施 川 (全 域)	A	イ
		高 橋 川 (全 域)	B	イ
		入 川 (全 域)	A	イ
		小 川 上 流 (舟川合流点より上流)	A A	イ
		小 川 下 流 (舟川合流点より下流)	A	イ
		舟 川 (全 域)	A	イ
		木 流 川 (全 域)	B	イ
		笹 川 (全 域)	A	イ
		境 川 (全 域)	A	イ

2 湖 沼

水 域 名	告示年月日	水 域 の 区 分	該当類型	達成期間
有峰ダム貯水池 (有峰湖)	(告示278) 平元. 3. 23	有峰ダム貯水池 (有峰湖)	(ア)湖沼 A (イ)湖沼 II	イ イ
黒部ダム貯水池 (黒部湖)	(告示245) 平3. 3. 29	黒部ダム貯水池 (黒部湖)	(ア)湖沼 A (イ)湖沼 II	イ イ

3 海 域

水 域	告示年月日	水 域 の 区 分	該当類型	達成期間
富山新港 海 域	(告示936) 昭48. 9. 28 一部改正 (告示644) 昭58. 7. 7	富山新港海域 (甲) (別記1)	海域 C	イ
		富山新港海域 (乙) (別記2)	海域 B	イ
富 山 湾 海 域	(告示237) 昭51. 3. 26	小矢部川河口海域 (甲) (別記3)	海域 B	ロ
		小矢部川河口海域 (乙) (別記4)	海域 A	ロ
		神通川河口海域 (甲) (別記5)	海域 B	ロ
		神通川河口海域 (乙) (別記6)	海域 A	ロ
		その他の富山湾海域 (別記7)	海域 A	イ

別記

- 富山新港海域のうち第1貯場及び中野整理場に係る海域
- 富山新港海域であって、1の部分を除いたもの
- 小矢部川河口の中央を中心とする半径1,200mの円弧及び陸岸により囲まれた海域
- 小矢部川河口の中央を中心とする半径2,200mの円弧及び陸岸により囲まれた海域であって、3の部分を除いたもの
- 神通川河口の中央を中心とする半径1,800mの円弧、神通川河口左岸から西へ向かう線と同円弧との交点を結んだ線、富山港の西防波堤先端と東防波堤先端を結んだ線及び同地点から東へ向かう線と同円弧との交点を結んだ線により囲まれた海域
- 神通川河口の中央を中心とする半径2,400mの円弧及び陸岸により囲まれた海域であって、5の部分を除いたもの
- 富山県の陸岸の地先海域であって、1、2、3、4、5及び6の部分を除いたもの

(注) 達成期間の分類: 「イ」直ちに達成

「ロ」5年以内で可及的速やかに達成

「ハ」5年を超える期間で可及的速やかに達成

第13 騒音関係に係る環境基準の地域類型の指定状況

1 騒音に係る環境基準…60年6月1日県告示第600号

地域の類型	あてはめる地域	時間の区分
A	別表に掲げる市町の区域のうち、都市計画法(昭和43年法律第100号)第8条第1項の規定より定められた同項第1号に掲げる第1種住居専用地域、第2種住居専用地域及び住居地域	昼間(午前8時から午後7時まで) 朝夕(午前6時から午前8時まで及び午後7時から午後10時まで)
B	別表に掲げる市町の区域のうち、都市計画法第8条第1項の規定により定められた同項第1号に掲げる近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域	夜間(午後10時から翌日の午前6時まで)

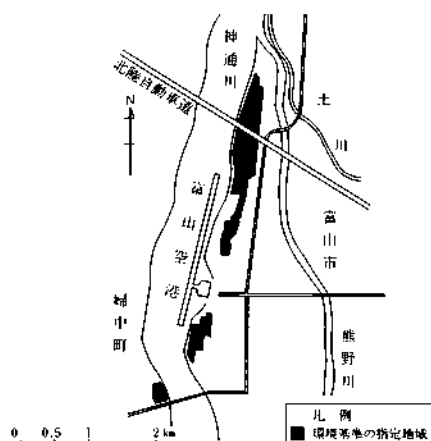
別表

富山市 高岡市 新湊市 魚津市 氷見市 滑川市 黒部市 砺波市 小矢部市
大沢野町 大山町 上市町 立山町 入善町 朝日町 八尾町 婦中町 小杉町
大門町 大島町 城端町 庄川町 井波町 福野町 福光町 福岡町

2 航空機騒音に係る環境基準…60年6月1日県告示第601号

地域の類型	あてはめる地域
II	富山市及び婦中町の区域のうち、別図に区画した地域

別図



第14 「とやまの名水」一覧

(注)◎は「全国名水百選」の選定名水

名 称	区 分	説 明
①七重滝 しちやうたき 下新川郡朝日町笹川	滝	約300mの断層崖を七段に落下する雄大な滝。名勝として、古くから人々に親しまれています。
②杉沢 すぎざわ 下新川郡入善町吉原	湧 水	黒部川扇状地扇端部の湧水地帯。沢杉が生い茂り、沢には地下水が白砂を上げて湧き出ています。
③生地 いくじ の共同洗い場 黒部市生地	湧 水	黒部川扇状地の豊富な湧水を利用し、地域住民が共同で管理している洗い場。主婦たちの語らいの場ともなっています。(6か所)
④清水 しみず の里 黒部市生地	湧 水	北陸本線生地駅前に湧き出る清らかで冷たい水。御影石で作られた水飲み場が整備され、乗降客や市民ののどを潤しています。
⑤十二貫野用水 じゅうに かんの 下新川郡宇奈月町、黒部市	農業用水	江戸時代に、椎名道三が高度な技術で開削した用水。今も十二貫野を潤しています。
⑥黒部峡谷 くろべきんやうく 下新川郡宇奈月町、中新川郡立山町、上新川郡大山町	河 川	大小無数の溪流が黒部の本流となり、岩を削り、日本で最も深く、そして幽玄な峡谷美を形作っています。
⑦てんこ水 てんこ 魚津市諏訪町、本町	湧 水	ちょうどごはんをでんこ盛りにしたように、川の底から水が湧き出てくるので、この名が付いたといわれます。
⑧魚津駅前 うづつるえきまへ の「うまい水」 魚津市釈迦堂	井 戸	日本一うまい水と池田弥三郎教授が折り紙をつけた魚津の水。旅行者や市民に親しまれています。
⑨片貝川 かたがわがわ の清流 魚津市	河 川	万葉の歌人、大伴家持が「可多加比の川の瀬清く行く水の絶ゆることなくあり通り見む」と歌った清流です。
⑩駒洗い池 こまあら いけ 黒部市嘉例沢	湧 水	戦国時代の武将たちが馬を洗い清めた池と伝えられ、今も美しい清水をたたえています。
⑪行田 ぎやうでん の沢清水 さわしみず 滑川市上小泉	その他	早月川の伏流水が湧き出した清水。付近一帯は、自然林に囲まれ、市民が水と緑に親しむ格好の散策場所となっています。
⑫早月川 はつづきがわ の清流 中新川郡上市町滑川市、魚津市	河 川	全国屈指の急流河川。朝岳から流れる清らかな水は、かんがい用水やイワナの養殖に利用されています。
⑬穴の谷 あなや の霊水 中新川郡上市町黒川	湧 水	行者が霊水として利用していたもので、近年では、万病に効くと多くの人に用いられるようになりました。
⑭弘法大師 こうぼうだいし の清水 しみず 中新川郡上市町鎌摩寛	湧 水	弘法大師ゆかりの清水で、地域の人々に利用されてきました。これを飲むと頭がよくなるといわれています。
⑮大岩 おおいわ 日石寺 にせきじ の藤水 ふじみず 中新川郡上市町大岩	湧 水	古くから北陸の霊場として知られている大岩の不動。岩を回り出る藤水は、眼病に霊験ありといわれ、多くの信者が訪れます。
⑯常願寺川 じやうがんじがわ の清流 富山市、上新川郡大山町、中新川郡立山町	河 川	万年雪を頂く立山・薬師岳に源を発し、日本海に注ぐ、我国屈指の急流河川です。
⑰岩室 いわむろ の滝 中新川郡立山町虫谷	滝	落差24m、白布を垂れたような滝。谷川が岩石の軟弱部を浸食後退してきたもので地質学上貴重です。
⑱称名 しょうめい 滝 中新川郡立山町戸崎寺ブナ坂	滝	落差350mを誇る日本一の大滝。4段になって落ちるその豪快さは、訪れる人を驚嘆させます。

名 称	区 分	説 明
① 立山玉殿の湧水 中新川郡立山町室堂	湧 水	立山黒部アルペンルート ^{たてやまのぼり} の立山トンネルの開通により噴出した湧水。2～5℃と非常に冷たく、水量も豊富です。
② みくりが池 中新川郡立山町室堂	湖 沼	标高2,400m、立山黒部アルペンルートにある伝説を秘めた神秘的な湖。青々とした水面に映える立山の雄姿は美しい。
③ 黒部湖 中新川郡立山町 上新川郡大山町	湖 沼	日本一の高さを誇るアーチ式ダムによる人造湖。エメラルドグリーン ^{くろべこ} の湖水に周囲の雄大な山々を映します。
④ 松川 富山市	河 川	富山市の中心部を流れます。ニシキゴイが群泳し、桜並木と彫刻が川べりを彩る市民の憩いの川となっています。
⑤ 石倉町の延命地藏の水 富山市 石倉町	井 戸	延命地藏の御手洗水で、冷たくておいしいと評判です。地域の人々は、飲料水として利用しています。
⑥ 常 西谷口水 上新川郡大山町、富山市	農業用水	明治時代に、常願寺川左岸（西側）の12の用水が合併合口化してできた用水です。富山市の水道水源となっている。
⑦ 中ノ寺の霊水 上新川郡大山町 上滝	湧 水	弘法大師が祭られている祠の下から湧いている水。不老長寿、皮膚病に効く霊水とされています。
⑧ 有峰湖 上新川郡大山町有峰	湖 沼	県内随一の貯水量をほこる人造湖。四季を通じてほとんど濁らず、美しい山々の姿を湖面に映します。
⑨ 八木山の滝 上新川郡大沢野町八木山	湧 水	八木山の不動尊の前、湧水の滝がひっそりと落ちています。
⑩ 殿様清水 上新川郡大沢野町春日	湧 水	昔、殿様が好んでこの湧水を飲んだことからこの名が付いたといわれます。今も茶人などに愛用されています。
⑪ 神通峡 婦負郡細入村、上新川郡大沢野町	河 川	飛騨盆地から富山平野に抜ける風光明媚な峡谷。新緑、紅葉が水面に映え、訪れる人々の目を楽しませます。
⑫ 加持水 婦負郡婦中町千里	湧 水	常楽寺観音堂地内の湧水。聖観音が山田村から常楽寺へ移された時に湧き出てきたものと伝えられています。珍しい「ヒカリモ」があります。
⑬ 花山寺の霊水 婦負郡山田村若土	湧 水	谷川沿いの岩間から湧き出る水。花山寺では水かけ地藏を建立し、霊水として利用しています。
⑭ 桂の清水 婦負郡八尾町大玉生	湧 水	大玉生八幡社横にある樹齢千年といわれる桂の大木。その根元から湧き出す清冽な水で、人々の生活水として守られてきました。
⑮ 薬勝寺池 射水郡小杉町中太閤山	湖 沼	かんがい用のため池として、約500年前に作られたと伝えられています。現在は薬勝寺池公園として、地域住民の憩いの場となっています。
⑯ 誕生寺の誕生水 射水郡大門町島	井 戸	約600年前、法華宗の開祖日隆聖人が誕生の折に湧出した清泉。聖人の産湯とされたことから「誕生水」と名付けられました。
⑰ 上 日寺の観音菩薩霊水 氷見市朝日本町	湧 水	古くより、眼病、長寿に効く霊水として飲用されてきました。側には、国の天然記念物の大イチョウがそびえ立っています。
⑱ 気多神社の清泉 高岡市伏木一宮	湧 水	大伴家が住んだ万葉の里。杉木立にかこまれた岩壁から清泉が出ています。
⑲ 高岡古城公園の水濺 高岡市古城	そ の 他	前田利長の築いた城で、設計者は高山右近と伝えられています。約67,000㎡の水濺は満々と水をたたえ、四季を通じて美しい景観を映しています。

名	称	区 分	説 明
③	影無し井戸 高岡市末広町	井 戸	高岡市の中心部にあり、約230年前、親孝行な六兵衛が壊ったと伝えられています。市民により大切に保存されています。
③	弓の清水 高岡市中田常国	湧 水	木曾義仲が、平家との戦いとき、部下の進言により弓矢を射ったところ湧き出した清水と伝えられています。
④	矢部の養鯉池 西砺波郡福岡町矢部	そ の 他	庄川の伏流水が湧く矢部地内では、豊富な地下水を利用して、鑑賞用や食用のコイが盛んに養殖されています。
④	宮島 峡 小矢部市宮島	河 川	小矢部川の支流、子撫川の清流に沿った谷間。小さなナイアガラといわれる「一の滝」をはじめ、多くの滝や淵からなっています。
④	鳩清 水 小矢部市道生	湧 水	増生護国八幡宮の境内にあり御手洗水などに利用されています。年中枯れることなく、参拝者に潤いを与えています。
④	大 清 水 小矢部市白谷	湧 水	底から清水が白砂を上げて湧き出しています。池には、市の天然記念物に指定されているアシツキが自生しています。
④	又兵衛清水 砺波市増山	湧 水	増山城築城の折、家臣の山名又兵衛が発見したと伝えられます。城跡を訪れるハイカーに親しまれています。
④	妃の清水 東砺波郡福野町安居	湧 水	安居寺の下を流れる御手洗川の川沿い、切り立った岩壁の割れ目から枯れることなく湧出しています。
④	赤祖父池 東砺波郡井口村上中	湖 沼	赤祖父川の水をせき止めてできたかんがい用の貯水池。フナが放流され釣り大会等により親しまれています。
④	瓜裂 清水 東砺波郡庄川町金屋宇若黒	湧 水	神如上人の馬のひづめが陥没してできたという故事があります。瓜をひやしたところ、冷たくて自然に裂けたことから命名されました。
④	不動滝の霊水 東砺波郡井波町大谷	湧 水	岩から清らかな水が噴出しています。古くから、地域の人々や旅人に霊水として飲用されています。
④	脇谷の水 東砺波郡利賀村栗当	湧 水	脇谷橋の橋詰にある御地蔵様の祠から湧き出しています。住民やドライバーに飲用され親しまれています。
④	庄 川 峡 東砺波郡庄川町、利賀村、平村、上平村	河 川	小牧ダム湖を中心とする周辺一帯は県定公園に指定されています。四季織りなす景観は見事です。
④	中江の霊水 東砺波郡平村東中江	湧 水	「水神様の水」とも呼ばれ、村の祭神「水波姫女神」を祭った社の床下から湧出している神聖な水です。
④	丸池 東砺波郡上平村新屋	湧 水	合掌造りで知られる越中五箇山の上平村。浄土真宗を広めた赤尾遺宗の信心による湧水の池です。
④	縄ヶ池 東砺波郡城端町養谷	湖 沼	原生林に囲まれ、伝説を秘めた池。四季を通じて清澄な水を滴々とたたえ、天然記念物のミズバショウが群生しています。
④	桜ヶ池 東砺波郡城端町立野原	湖 沼	池の周囲に桜の木が多いことからこの名が付けられました。春の新緑、秋の紅葉など水と緑に恵まれた自然を満喫できます。
④	小矢部川の長瀬 西砺波郡福光町中河内	河 川	小矢部川上流の峡谷、奇岩がそそり立ち、岩肌に松、桜が盆栽のように生える光景は水墨画を思わせます。

第15 「とやまの滝」一覧

〈22市町村37か所〉

市町村名	名 称	市町村名	名 称
高岡市	城光寺の滝 じょうこうじ たき	八尾町	川谷不動滝 かわくらふどうだき
魚津市	滝滝 どんたき	山田村	四十ヶ滝 しじゅうがたき
氷見市	長寿が滝 ちやうじゆ たき	細入村	常虹の滝 とこにじ たき
滑川市	千谷の滝 せんたに たき	城端町	夫婦滝 めうふとだき
黒部市	鼻の滝 はな たき	平 村	霞力滝 黒滝 かすみがたき くろだき
小矢部市	一の滝 二の滝 いち たき に たき	上平村	銚子滝 ちやうしだき
大山町	赤木沢の滝群 龍神の滝 酒盛滝 あかぎさわ たきぐん りゆうじん たき さかもりだき	利賀村	北谷の大滝 きただん おおたき
上市町	まま子滝 こだき	庄川町	三段の滝 腰切の滝 さんだん たき こしきり たき
立山町	称名滝 岩室の滝 ハンノキ滝 ソーメン滝 不動滝 来迎の滝 水谷の滝 剣大滝(幻の剣大滝) しょうめい たき いわむろ たき はんのきだき そーめん たき ふどうだき らいごう たき みづたに たき つるがねたき まぼろし つるがねたき	井波町	不動滝 ふどうだき
宇奈月町	琴音の滝 雲切りの滝 ことね たき くもきり たき	福光町	不動滝 ふどうだき
朝日町	七重滝 魚止滝 北又の三段滝 しづもかだき うしどのだき きたまたき さんだんたき	福岡町	滝の沢 たき ざわ

人とのかわりあいの深い滝※

砺波市	無常の滝 むじやう たき	入善町	八幡滝 はちまんだき
大沢野町	八木山の滝 やまぎ たき	婦中町	朝日の滝 あさひ たき

※選定はされなかったが、歴史的に富み、特に人とのかわりの深い滝

第16 「とやま森林浴の森」一覧

(注) ◎は、森林浴の森「日本百選」の選定森林

名 称	区 分	面 積	説 明
1 升方城址 魚津市升方	散策道	7.0	升方山(標高240m)の山頂にある升方城址の林相は、アカマツを主とする天然林で、一部人工林もある。山頂への登山道も整備され展望もよい。
2 天神山 魚津市東山	自然景観	ha 3.9	城址公園として市民に親しまれ、魚津市街地や富山湾の展望がよく、アカマツの巨木及び一部にスギ人工林もあり、遊歩道、休憩施設等の管理もよい。
3 行田公園 滑川市上小泉	植物野鳥観察	6.5	自然発生的にできた市街地に近い公園で、休憩施設等も整備され、市民の格好の散歩の場として利用も多い。樹木は22種800本に及び、小鳥や蝶も多く、森林学習の森ともなっている。
4 嘉例沢森林公園 黒部市嘉例沢	森林公園	145.0	広場、キャンプ場、駐車場、展望台、総合管理センター、遊歩道等が整備されている。山頂より眼下に宇奈月温泉、北西には、富山湾及び黒部川扇状地等が美しい。森林は、ブナ、ナラなどの天然林で、野鳥も多く、自然に恵まれている地域である。
5 松尾金毘羅社の森 宇奈月町下立	鎮守の森	9.8	頂上(342m)を中心にアカマツ林、中腹斜面はコナラミズナラ、ヤマツツジ等の天然林、谷添いにスギの人工林も多い。地元小学校の自然観察林として学習の場にも利用され、黒部川等の眺望もよい。
6 舟見ふるさとの森 入善町舟見	森林公園	354.7	負釣山(959m)を最高峰とした登山が楽しめる森林で散策路もある。峰頂には、ヒメコマツの巨木やミズナラ、低木木層のサイゴクミツバツツジ、ユキツバキ等が分布する。ニホンザル、カモシカも生息し、雄大な立山連峰をはじめ富山湾、能登半島の大パノラマが展望できる。
7 あさひ城山 朝日町宮崎	森林公園	54.0	朝日県立自然公園の鹿島神社から宮崎鹿島樹叢、城山から笹川部落に至る「遊歩道城山コース」の自然観察、歴史探索は、森林浴の適地である。中でも鹿島樹叢は、スダシイ、アカガシ、タブノキなど暖温帯の北限として巨木も多く、国の天然記念物に指定されている。
8 三峯グリーンランド 朝日町笹川	森林公園	118.0	七重滝から三峯台地を経て小川温泉に至る遊歩道三峯コースがある。林相は、スギ人工林、コブシ、ケヤキ、アカマツ、コナラなどの天然林で、黒部平野と笹川集落を左右に景観もよい。
9 古洞森林水公園 富山市三熊	自然景観	81.0	湛水面積23haのかんがい溜池は、古くから渡り鳥の池として知られ、付近の林相は、アカマツを主とした天然林で、若干のスギ、クリの植栽地がある。県民公園野鳥の園整備事業により古洞池一周遊歩道が整備されている。
10 呉羽丘陵 富山市呉羽町	散策道	7.5	富山平野を東西に分けた呉羽丘陵地、県道から白鳥城跡に至る遊歩道は、森林浴のできる散策路コースであり、射水平野や富山市街、日本海、立山も一望できる。林相は、クリ、コナラ、アカマツを主に植物117科657種が自生している。

名 称	区 分	面 積	説 明
11 浜黒崎海岸 松林 富山市浜黒崎	自然景観	40.0	神通川から常願寺川河口に至る浜黒崎海岸一帯は、古来より「古志の松原」と称され、海辺から松林越しに北アルプス連峰の眺めはよい。林内にはキャンプ場、サイクリングロード等が整備されている。
12 猿倉山 森林公園 大沢野町舟倉	自然景観	26.8	猿倉城跡を主体に、駐車場、広場、遊歩道、キャンプ場が整備されている。林相は、シラカバ、ナナカマド、マユミ、ウメモドキ、ナラなどを主とした天然林とスギ人工林で、山頂よりの富山平野と遠く日本海が一望できる。
13 寺 家 公 園 大沢野町舟倉	散 策 道	7.2	60年前に京都の嵐山を模して整備された公園で、猿倉山御前山に接し、景勝変化に富んだ林相である。アカマツとカエデ、ナラ、サクラ等の天然林内には西国33番堂所巡りもできる散策のコースがある。
14 あわすの平 大山町原・龜谷・栗巣野・権染坂	森林公園	410.0	遊歩道、広場等が整備され、立山山麓家族旅行村及び県営コンドラスキー場の他2スキー場や大品山自然歩道がある。また、白樺平にはミズナラ等の天然林があり、遊歩道も整備されている。
15 ありみね 大山町有峰	森林公園	576.0	有峰は、県立自然公園や国民休養地に指定され、湖周緑林道や各遊歩道及び施設が整備されている。キャンプや釣り、ハイキング等自然探索の場として利用も多い。
16 さつか・ おおやま 上市町眼目	鎮守の森	14.7	立山寺参道100mには、樹齢450年のモミとスギの並木があり、隣接の森林にはアカマツの群生があり、この間には遊歩道も整備され、頂上展望台からの日本海、富山平野の眺めはよい。
17 馬 場 高 上市町伊折	自然景観	31.3	北アルプス剣岳の登山口で、樹齢数百年の天然立山スギをはじめ、ブナ、トチ、カエデ、ナナカマド等の天然林には、散策道や各種の施設が整備されている。
18 大江山山麓 森林公園 商山町芦峰寺	森林公園	110.0	大江山一帯は、来拝山、石節平、国立「立山少年自然の家」などを結ぶ林内歩道が設けられ、同歩道から雄大な自然景観が望める。林相は「立山スギ」の100年以上の天然林が点在し、ミズナラ、ブナ、ダケカンバ、タムシバ、ユキツバキ、イワウチワなどの天然植生となっている。
19 大観峰 自然公園 立山町四谷尾・ 虫谷	森林公園	46.7	標高325mの大観峰と虫谷川の岩室の滝を結ぶ一帯で、林相はアカマツ、ナラ、クヌギ、ホウノキなどの天然林と立山スギ人工林がある。大観峰は富山平野を一望できる。岩室の滝は県指定の天然記念物に指定されており、駐車場、キャンプ場施設も整備されている。
20 立山美女平 立山町芦峰寺 国有林	森林公園	177.2	立山登山基地美女平、ブナ坂、下ノ小平の一帯の国有林で、美女平には700～1,000年生の立山スギ原生林があり、ブナ坂にはブナの原生美林が群生し、下ノ小平一帯は、コメツガの一大群落となっている。遊歩道も整備され、森林浴コースとして森林浴の森「日本百選」にも選定されている。
21 称 名 溪 谷 立山町芦峰寺	自然景観	207.0	千寿ヶ原から桂谷を経て右に溶結凝灰岩の岩壁「悪城の壁」や、日本一の名瀑といわれる「称名の滝」等がある。また滝見頭に至る遊歩道が整備されており、大自然の溪谷美と眺望が楽しめる。

名 称	区 分	面 積	説 明
22 21世紀の森 八尾町杉ヶ平	森林公園	45.0	白木峰登山口で、スギ人工林や、ナラ、クリ、カエデ、ユキツバキなどの天然林に野鳥の森、きのこの森など多くの森を設け、遊歩道で連絡し、自然の生態観察ができるように森林学習展示館その他の施設も整備され、林間学習や青少年の憩いの場として多く利用されている。
23 城ヶ山公園 八尾町城ヶ山	散策道	15.3	明治30年頃から公園として、多くの樹木の植栽と散策道、休憩施設等が整備された。園内には、歌碑なども多く、史跡、歴史の散策も楽しめる。またフィールドトレーニングをはじめ、家族連れや子供の遊び場として利用されている。
24 長沢自然公園 婦中町長沢	自然景観	27.5	国指定の史跡等が点在する自然公園地内には、コナラ、カシ、アカマツなどの天然林と、一部スギ人工林もある。池も多く野鳥の生息地となっており、富山平野の眺望もよい。回遊歩道等も整備され、歴史の探訪などが楽しめる公園である。
25 牛岳 青少年の森 山田村小谷	森林公園	115.0	牛岳スキー場の周辺地域は、コナラ、クリを主とする天然林と県有林のスギ人工林等があり、青少年旅行村としてキャンプ場も整備され、頂上からは富山、射水平野と日本海も遠望できる。
26 常虹の滝 細入村猪谷	自然景観	58.1	県定公園神通峡の名勝の一つとされる溪流猪谷川の常虹の滝を中心とした林相は、サウグミ、トナなどの天然林とスギ人工林である。滝の水しぶきによる虹の眺めを満喫しながら森林浴が楽しめる。
27 三千坊の森 高岡市山川	森林公園	119.0	標高264mの三千坊山を中心に、江道横穴式古墳群など文化財が散在し、歴史探訪ができる。また、自然景観もよい。
28 太田自然 休養村の森 高岡市太田	自然景観	159.0	恵まれた自然環境を有し、家族揃っての健康増進の場としての利用施設が完備されている。また、白山林道を経て国妻寺へも通じている。
29 二上山 高岡市二上山	森林公園	130.4	二上山を主峰に、城山、鉢伏山、大師ヶ岳があり、山頂はアカガシなどの天然林で、山麓にはスギ人工林が多い。青少年の家、万葉植物園、山頂等に至る遊歩道を散策しながら自然が楽しめる。
30 阿尾森林公園 氷見市阿尾	森林公園	83.0	標高100m前後の丘陵地で、林相はナラ、ブナ、ソヨゴなどの広葉樹とスギ、アカマツの針葉樹林で、広場、休憩施設、遊歩道等が整備され、富山湾や立山連峰の眺望もよい。
31 森寺城跡公園 氷見市森寺	森林公園	120.0	能登半島の基部にある砦として重要な城とされた。林相はタブノキ、ウラジロガシ、クマノミズキ、アカガシ、コナラ、リョウウなどの天然林や谷間などのスギ、クヌキの人工林及びセウソウ竹林である。
32 くりから 史跡の森 小矢部市埴生	森林公園	376.2	埴生八幡宮から俱利伽羅不動寺に至る旧北陸道と猿ヶ馬場などの古戦場として知られる地域は、名勝、史跡も多く、低山帯でのブナ群生林や珍しいツリバネウツギなどの天然林とホカスギ人工林で、遊歩道等の施設も整備され、眺望もよい。

名 称	区 分	面 積	説 明
33 城山ノルヘンの森 小矢部市城山	自然景観	45.0	城山公園は、今石動城跡で、白馬山遊園地、聖天堂、消防神社等があり、遊歩道などが整備され、市民の憩いの場として利用されている。林相の大部分はボカシギ林で、染井吉野70年生400余本と紅梅林等も造成されている。
34 薬勝寺池公園 小杉町中太閤山	散策道	19.7	10haの池の周辺の樹木はアカマツ、コナラ、クリ等で、春はサクラ、コブシが咲き、池を一周する散策道は、緑のトンネルとなり、水と調和した身近な森林浴が楽しめる公園である。
35 太閤山ランド 小杉町黒河	森林公園	117.2	丘陵地を利用して造成された県内最大の都市公園であるが、各施設も整備され林内の自転車道・遊歩道は、コナラ、ソヨゴ、ヒサカギを主とした天然林とスギ人工林で植地なども多く緑と花の散策コースは、森林塾の場として適している。
36 櫛田神社 大門町串田	鎮守の森	5.8	旧北陸道に面した鎮守の森は、300mの参道の両側にスギ、アカマツ、ケヤキの巨木が社叢として神域を覆っており隣接の櫛田新遺跡公園とともに森林憩いの場となっている。
37 西山森林公園 福岡町五位・赤丸	森林公園	210.0	西山山麓一帯は、野趣あふれる自然と多くの樹木群落があり、野草等の植物も観察できる。特に赤丸浅井神社はケヤキ、スギなどの老巨木と貴重な自然環境を有するほか、城ヶ平古墳群もあり、豊かな森林と自然を知る実践教育の場となっている。
38 県民公園 頼成の森 砺波市頼成	森林公園	115.0	第20回全国植樹祭会場を中心に、県民の森林公園として整備され、昭和60年に、第1回高山県育樹祭も開催された。県民公園の一貫として花菖蒲園なども造成し、植物公園としての機能も整備された。森林浴の森「日本百選」の選定地。
39 となみ増山城址公園 砺波市増山	森林公園	48.0	標高150mの丘陵地で砺波平野を見下ろす位置にあり、庄川扇状地を経て梅檀野古地を流れる和田川によって形成された断崖上にあり、周辺は本丸、一の丸、二の丸など数多くの城跡史跡がある。林相は、当地の郷土種である増山スギが多い。
40 つくばね森林公園 城端町長谷・林道	森林公園	162.2	縄池、つくばね山一帯は、砺波平野の散居村と遠く日本海、能登半島が一望できるところ。各施設が整備され、原山放牧場、キャンプ場、縄池水芭蕉などの散策道があり、訪れる人も多い。
41 桜ヶ池公園 城端町立野原	自然景観	76.5	18haの桜ヶ池の湖畔回遊道には、キャンプ場や遊具、休憩施設などが整備され、森林と野鳥、植物の探索を楽しむことができる。
42 五箇山合掌の森 平村相合・上梨・田向	森林公園	207.9	国指定の相合合掌集落と田向、上梨地域は「五箇山県立自然公園」と国民休養地に指定されている。集落背後地一帯は、ブナを主とする原生林で、森のなかには回遊歩道が整備され、利用も多い。
43 ブナオ 上平村西赤尾国有林	植物野鳥観察	4.2	白山国立公園地内で、山岳地帯を代表するブナ、ミズナラを主とする天然林の景勝地。自然探検、登山、ハイキング、キャンプ、植物観察、保健休養、野外学習の場として適する。大門山に至る登山遊歩道などが整備されている。

名 称	区 分	面 積	説 明
44 中村合掌文化の森 利賀村上百瀬 字中村	自然景観	75.0	自然休養村として、森林内には合掌家屋が保存され、合掌劇場や生花会館、ギリシャ風野外劇場を中心に国際キャンプ場、県青少年の家などのほか多くの施設がある。世界演劇祭が行われる夏は、全国から多くの人が訪れ、素朴で素晴らしい自然景観が楽しめる。
45 ロンレー 東山の森 利賀村岩瀨・ 上島・坂上	植物野鳥 観察	221.0	論嶺という嶺境を争ったとされるところで、ブナを主とする原生林、スギ人工林がある。山頂付近には一部に高原湿地帯もあり、ミズバショウ等の自然観察に適し、みどりの少年団で「ロンレー子供の村づくり」として炭焼き小屋や遊具施設がある。また、森林生態学習舎も完備し、ブナ林内の散策も楽しめる。
46 グリーンシャ ワワーの降る森 庄川町湯谷	森林公園	238.5	牛岳登山道は、湯谷スギの美林を眺め、グリーンシャワーを浴びながら中腹からは、ゴナラ、ミズナラ、クリ、アカシデ、イタヤカエデ、トチなどの天然林となり、カケス、アカゲラなどの野鳥が多く、頂上権現堂附近での四方の眺望が楽しめる。
47 閑乗寺公園 井波町井波外 入会地	自然景観	23.4	標高約300mの山麓台地で、砺波散居村の展望がすばらしく、夏のキャンプ、ハイキングと冬はファミリースキー場として知られ、四季を通じて自然に親しむとともに、野外活動を行う格好の場所である。
48 安居の森 福野町安居	自然景観	60.8	標高約150m地帯で、スギ人工林とアカマツ、アベマキ、ホウノキ、アカシデなどの天然林が混交し、過度の起伏もあり、散策も容易で施設なども整備されている。また、小矢部川の清流や砺波平野と立山連峰などの眺望もよい。
49 医王山 福光町節 福光町節	森林公園	120.0	砺波地方のシンボルとして親しまれ、富山、石川平野と、遠く能登半島や北アルプス等の眺望がすばらしい。また、自然観察として「とんび岩」、三蛇ヶ滝、大池などの奇勝地も多く、動植物の自然観察と散策が楽しめる。
50 刀利自然 休養林 福光町刀利	自然景観	30.0	自然休養レクリエーションの森として広く県民などが利用できるように、キャンプ場及びケビンなどが整っている。特に金沢市の夜景や、医王山の山並と刀利ダムの眺望が良く動植物も多くて、自然観察にも適する。

第17 「とやまの巨木・名木」一覧

順位	名 称	樹 種 名	幹 囲 (cm)	所 在 地	所 有	保護制度の指定
1	洞杉	スギ	1560	魚津市三ヶ杉尾53-1	その他	無
2	今山田の大かつら	カツラ	多 1400	山田村今山田	村	県 天然記念物
2	縄ヶ池縄文杉	スギ	⑧ 1400	城端町養谷山43	その他	自然環境保全地域
4	大玉生のカツラ	カツラ	多 1350	八尾町大玉生301	その他	町 天然記念物
5	脇谷のトチノキ	トチノキ	1189	利賀村栗当	村	国 天然記念物
6	清水のカツラ	カツラ	多 1150	八尾町清水266	個 人	町 天然記念物
7	縄ヶ池千年杉	スギ	⑨ 1100	城端町養谷山43	その他	自然環境保全地域
7	広谷の大杉	スギ	② 1100	福光町広谷21八幡社乗地	社 寺	町 天然記念物
9	上日寺のイチョウ	イチョウ	1050	水見市朝日本町16-8上日寺境内	社 寺	国 天然記念物
10	立山杉の古木	スギ	⑤ 1030	滑川市下梅沢775	その他	市 天然記念物
11	利賀のトチノキ	トチノキ	1000	利賀村利賀	村	国 天然記念物
12	宮川の大けやき	ケヤキ	950	上市町若杉501日吉神社境内	社 寺	県 天然記念物
12	安居寺の大ケヤキ	ケヤキ	② 950	福野町安居4941安居寺	社 寺	町 天然記念物
12	向野のエヒガンザクラ	エドヒガン	⑨ 950	城端町野口向野	個 人	町指定の「名花木」
15	クチヤマスギ	スギ	940	立山町フナ坂	国	無
16	赤丸浅井神社の大けやき	ケヤキ	932	福岡町赤丸古屋5324	社 寺	県 天然記念物
17	西岩瀬諏訪社の大けやき	ケヤキ	930	富山市四方西岩瀬131諏訪神社境内	県	県 天然記念物
18	恩光寺跡の二本杉	スギ	② 916	庄川町庄	社 寺	町 天然記念物
19	踏出の夫婦トチノキ	トチノキ	900	朝日町寝入谷	その他	無
20	細島熊野社のカツラの木	カツラ	多 880	利賀村細島 熊野社境内	社 寺	無
21	細木神明社の大杉	スギ	② 872	城端町細木1206 細木神明社境内	社 寺	町指定の「名花木」
22	上島神明宮の杉の木	スギ	860	利賀村上島 上島神明宮境内	社 寺	無
23	臼谷の大杉	スギ	② 854	小矢部市臼谷6967 臼谷八幡宮	社 寺	県 天然記念物
24	大沢の地鎮杉	スギ	850	魚津市大沢字前田634	個 人	県 天然記念物
24	坂尾坂ノ下のカツラ	カツラ	多 850	八尾町坂尾坂ノ下	個 人	無
24	日の宮社の大杉	スギ	850	小杉町下条2048 日宮社	社 寺	県 天然記念物
27	昇天の松	クロマツ	② 820	朝日町桜町935	個 人	町 天然記念物
27	加茂社のミズナラの木	ミズナラ	820	利賀村百瀬川島地加茂社	社 寺	無
27	高沼八幡宮の榎の木	トチノキ	② 820	利賀村高沼 高沼八幡宮境内	個 人	無
30	坂上の大杉	スギ	800	利賀村坂上731 八幡宮境内	社 寺	県 天然記念物

注1) 丸付数字は株立ちの本数を示す。多は株立ちが多く測定が困難なものを示す。

注2) 所有欄には、所有者または管理者を記入した。

第18 鳥獣保護区一覧

(5年3月31日現在)

名 称	所 在 地	種別	面 積 (ha)	うち特別 保護地区 面積(ha)	期 間
北アルプス城	立山町、外山朝日町	㊦	64,836	13,729	59年11月1日～6年10月31日
大平朝日町	朝日町	㊦	293		61年11月1日～8年10月31日
大笠上平村	朝日町	㊦	2,274		61年11月1日～8年10月31日
小口川大山町	上平村	㊦	1,634	230	61年11月1日～8年10月31日
氷見海岸	大山町	㊦	1,871		61年11月1日～8年10月31日
二上山	氷見市・高岡市	㊦	6,905	1	61年11月1日～8年10月31日
愛本宇奈月町	高岡市	㊦	684		58年6月1日～5年5月31日
上山市	宇奈月町	㊦	300		元年11月1日～11年10月31日
鼻羽市	上山市	㊦	630		58年6月1日～5年6月9日
南蟹谷	富山市	㊦	450		59年12月1日～6年11月30日
有利賀利賀村・庄川町	福光町	㊦	1,070		60年3月6日～7年3月5日
座主坊立山町	大光山	㊦	7,500	760	60年11月1日～7年10月31日
倶利伽羅小矢部市	利賀村・庄川町	㊦	1,100		62年3月31日～8年10月31日
八乙女山井波町	立山町	㊦	450		62年3月31日～8年10月31日
天神山津市	小矢部市	㊦	855		63年11月15日～10年11月14日
類成山	井波町	㊦	388		元年11月1日～11年10月31日
縄ヶ池	魚津市	㊦	850		2年11月1日～12年10月31日
吉峰立山町	砺波市	㊦	160		63年11月1日～10年10月31日
高岡古城公園	城端町	㊦	625		59年11月1日～6年10月31日
白木峰八尾町	立山町	㊦	70	17	60年11月15日～7年11月14日
奥神通入村・大沢野町	高岡市	㊦	23		60年11月15日～7年11月14日
奥五位福岡町	八尾町	㊦	4,590		61年11月15日～8年12月14日
医王山福光町	通入村・大沢野町	㊦	460		61年11月15日～8年11月14日
小山川朝日町	福岡町	㊦	280		61年11月15日～8年12月14日
小谷川平村	福光町	㊦	1,690		61年11月15日～8年11月14日
朝日山氷見市	朝日町	㊦	600		61年11月15日～8年11月14日
東福寺滑川市	平村	㊦	1,500		62年11月15日～9年11月14日
ねいの里	氷見市	㊦	390		2年11月1日～12年10月31日
野鳥の園富山市	婦中町	㊦	50	13	59年11月1日～6年10月31日
田尻池富山市	富山市	㊦	98		59年11月1日～6年10月31日
大辻上山町	富山市	㊦	5		62年11月1日～9年10月31日
黒部川河口	黒部市・入善町	㊦	1,377		63年11月15日～10年11月14日
			68		2年11月1日～12年10月31日
計	34か所		104,729	14,750	4年11月1日～14年10月31日

㊦：森林鳥獣生息地の保護区

㊦：特定鳥獣生息地の保護区

㊦：集団渡来地の保護区

㊦：誘致地区の保護区

㊦：愛護地区の保護区

第19 自然公園の主な施設の内容

1 国立公園

公園名	地区名	公園事業名	事業内容					
			園地	野営場	歩道	駐車場	避難小屋	管理所 休憩所
中部山岳国立公園	室堂集団施設地区	室堂園地	室堂平園地 地獄谷園地 富島沢園地					富島沢管理休憩所 (S55) 木道 A = 127.2㎡
		室堂野営場		テントサイト A = 5,000㎡				
		室堂博物館展示施設						自然保護センター (S50~51) RC 2階建 A = 1,100.9㎡
国立公園	御前沢集団施設地区	御前沢園地	御山谷園地 (S49) A = 3,000㎡		黒四ダムサイト～御山谷 (S49) L = 1,240m			
	アルペンルート沿線地区	千寿ヶ原小公園	千寿ヶ原小公園3か所 (S36)			千寿ヶ原駐車場 (S48~50) A = 5,700.6㎡		千寿ヶ原公共便所 (S46) CB A = 37.4㎡
		鉢名園地	滝見台園地 (H元) A = 990.0㎡ 鉢名平園地 (S57) A = 2,190㎡		歩道橋 RC (S58) L = 42m	鉢名平駐車場 (S56) A = 5,643.5㎡		鉢名平休憩所 RC 2階建 (S57) A = 220.0㎡ 休憩所 (S63) 木道 A = 24㎡ 休憩所 (S63) 鉄骨造 A = 50㎡
		大観台園地	大観台園地 (S57) A = 540.0㎡					休憩所 (S56) RC A = 36.0㎡ 園地公共便所 (S58) RC A = 8.6㎡ 身体障害者公共便所 RC (H元) A = 13.6㎡
		追分・美女平線道路				弘法駐車場 (S44) A = 755.5㎡		
		鉢名ヶ原園地	鉢名ヶ原園地 (S48) A = 2,000.0㎡ カルデラ展望台 (S54)		鉢名ヶ原遊路 (S48) L = 1,900m カルデラ展望台歩道 (H3) L = 550m	鉢名ヶ原駐車場 (S44~45) A = 4,420.0㎡		鉢名ヶ原公共便所 (S46) CB A = 37.4㎡

(注) A:面積 L:延長

RC:鉄筋コンクリート CB:コンクリート・ブロック

公園名	地区名	公園事業名	事業内容						
			園地	野営場	歩道	駐車場	遊憩小屋	管理所 休憩所	公衆便所
中部 山岳 国立公園	アルペン ルート沿 線地区	天狗の鼻駐車場				第1駐車場 (S45) A = 1,252.0㎡			
						第2駐車場 (S46) A = 1,600㎡			
		天狗平駐車場							天狗平公衆便所 (S46) CB A = 37.4㎡
		通分・室堂線道路				室堂第2駐車場 (S48) A = 3,600.0㎡			
	立山周辺 地区	称名・室堂地蔵谷 縦歩道			称名～室堂 (S47～)				
		朝沢野営場		テントサイト A = 30,000.0㎡				朝沢管理所 (S44) CB A = 82.4㎡	朝沢公衆便所 (S39) CB A = 30.8㎡
									朝沢公衆便所 (S48) CB A = 38.4㎡
									朝沢公衆便所 (S53) CB A = 32.5㎡
		五色ヶ原野営場		テントサイト A = 3,000.0㎡					五色ヶ原公衆便所 (S54) CB A = 31.3㎡
		タンボ平野営場		テントサイト A = 3,000.0㎡					タンボ平公衆便所 (S47) 木造 A = 27.8㎡
		朝岳遊憩小屋					平蔵遊憩小屋 (S36) 石積 A = 20.9㎡		平蔵公衆便所 (S50) 木造 A = 3.4㎡
		別山乗越公衆便所							別山乗越公衆便所 (S39) CB A = 43.2㎡

公園名	地区名	公園事業名	事業内容					
			園地	野営場	歩道	駐車場	遊樂小屋	管理 休憩 所
中部 山岳 国立 公園	立山周辺 地区	一の越園地	一の越園地 (S45) A = 1,700.0㎡ 改良 (H元)					一の越公衆便 所 (S38) CB A = 42.1㎡ 改修 (H元)
		雄山園地						雄山山頂公衆 便所 (S52) 鉄骨 A = 18.5㎡
		立山登山縦歩道			室堂平～一の 越～別山乗越 ～富島沢 (S37～)			
		一の越・タンボ平 縦歩道	黒部平園地 (S47) A = 4,390.0㎡		一の越～東一 の越～黒部湖 (S44～)			
		室堂平・浄土山縦 歩道	室堂山園地 (S47) A = 500.0㎡		室堂平～室堂 山 (S46～)			
		室堂・富島沢縦歩 道			室堂平～富島 沢 (S46～)			
		大日岳縦走縦歩道			別山乗越～大 日平～松名 (S53～)			
		立山槍ヶ岳縦走線			一の越～五色 ヶ原～黒部岳 (H2～3)			
		黒部湖五色ヶ原縦 歩道			五色ヶ原 (H4) L = 1,000m			
	黒部峡谷 沿線地区	阿層原野営場		テントサイト A = 500.0㎡				阿層原公衆便 所 (S48) CB A = 13.6㎡
		鍾釣温泉休憩所						鍾釣休憩所 (S33) RC A = 26.2㎡
		樽平園地			樽平～鐘飛 (H3)			鐘飛休憩所 (S33) RC A = 31.0㎡ 改築 (S58) A = 33.0㎡
								樽平公衆便所 (S37) CB A = 16.5㎡
								樽平ビクター センター (S60) RC A = 222㎡
								樽平公衆便所 (S59) CB A = 16.79㎡

公園名	地区名	公園事業名	事業内容					
			開 地	野 営 場	歩 道	駐 車 場	避難小屋	管 理 所 休 憩 所
中 山 岳 立 公 園	黒部峡谷 沿線地区	イブリ山朝日岳線 歩道			夕日ヶ原 (H4) L=1,000m			
		祖母谷野営場		テントサイト A=320.0㎡				祖母谷公衆便 所(S63) RC A=120㎡
	馬場島・ 朝岳地区	馬場島野営場	多目的広場 (S61) A=4,060㎡	テントサイト A=2,100㎡		AS舗装 (S61) A=1,050㎡		馬場島管理休 憩所(S57) 木造(H元) A=119.2㎡
		馬場島・朝岳線歩 道			馬場島～朝岳 (S38～)			早月尾根公衆便 所(S54) CB A=26.0㎡
	後立山地 区	熊朝日岳野営場		テントサイト A=1,673.0㎡				朝日平公衆便 所(S60) 木造 A=6.48㎡
		雪合避難小屋					有倉避難小屋 (S49) 鉄骨 A=27.4㎡	
		不埒岳避難小屋					不埒岳避難小 屋(S55) 鉄骨 A=37.5㎡	
		猿飛・白馬岳線歩 道			祖母谷～白馬 岳(S42～)			
		祖母谷唐松岳線歩 道			大黒駒山～ガ キ田 L=4.0m (S61)		鉄骨造 A=22㎡ (S61)	
		蓮華温泉朝日岳線 歩道			小塚ヶ原 (S61) L=800m			
	奥黒部地 区	薬師峠野営場		テントサイト A=5,250.0㎡				薬師峠管理休 憩所(S54) CB A=25.0㎡
		新立峠園地						新立公衆便 所(S37) RC A=22.5㎡
		新立・太郎山線歩 道			新立～太郎山 (H2～3)			

公園名	地区名	公園事業名	事業内容					
			園地	野営場	歩道	駐車場	遊戯小屋	管理 休憩所
中部山岳国立公園	奥黒部地区	太郎山・三保連華岳縦歩道			薬師沢吊橋架換 (S57) 雲の平木道 (S59) L=450m			雲の平公衆便所 (S58) CB A=17.47㎡
白山国立公園	西赤尾地区	白山・北山縦横歩道			アノオ峠～大門山 (S54) 大門山～見越山 (S57) 見越山～大笠山 (S58)		大笠山遊戯小屋 (S60) 木造 A=8.1㎡	

2 国定公園

公園名	地区名	公園事業名	事業内容					
			園地	野営場	歩道	駐車場	管理 休憩所	公衆便所
能登半島国定公園	氷見市地区	宇波園地	宇波路傍園地 (S43) A=380.0㎡			宇波駐車場 (S43) A=150.0㎡		
		大境駐車場				大境駐車場 (S45) A=1,800.0㎡		
		大境博物館展示施設					大境ビジターセンター (S46) RC2階建 A=175.1㎡	
		大境園地	九段浜第1園地 (S47) A=6,100.0㎡		大境～雲 (S47)		九段浜休憩所 (S51) RC A=141.0㎡	
			九段浜第2園地 (S51) A=2,430.0㎡		一部付替え (S62) L=90m			
		島尾駐車場				島尾駐車場 (S56) A=2,510.0㎡		
高岡市地区	雨晴野営場	雨晴野営場		テントサイト A=1,200.0㎡			雨晴休憩所 (S55) RC A=73.9㎡	雨晴公衆便所 (S55) RC A=18.0㎡
		雨晴駐車場				雨晴駐車場 (S44) A=2,331.0㎡ (S59) 拡張 A=780㎡		雨晴公衆便所 (S44) CB A=19.4㎡ 同上改修 (H3)

	雨晴園地	雨晴1号園地 (S49) A=4,500.0㎡ 改良(H元)				雨時休憩所 (S49) RC A=60.0㎡	
		雨晴2号園地 (S50) A=6,440.0㎡					
		雨晴3号園地 (S55) A=1,040.0㎡					
	二上山園地	万葉植物園 (S52) A=8,603.0㎡	テントサイト (H元) A=4,800㎡ オートキャンプ場 (H2) A=4,500㎡		城山駐車場 (S60) A=984㎡ 具山駐車場 (S62) A=1,360㎡ 野営場駐車場 (H元) A=1,450㎡	二上山休憩所 (S52) 木造A=25.9㎡	二上山公衆便所 (S52) C B A=19.3㎡ 改修(H元) 野営場公衆便所 (H2) RC A=30㎡
	雨晴・島尾線歩道			松太枝浜～島尾 (S48)			
	二上山縦走線歩道			二上山～万葉ラ イン(S54)			
	大師ヶ岳線歩道			大師ヶ岳～万葉 ライン(S56)			

3 国民休養地

公園名	地区名	公園事業名	事業内容					
			園地	野営場	歩道	駐車場	遊覧小屋	管理 休憩所 公衆便所
五箇山 国立自然公園	五箇山国民休養地	相倉園地	相倉運動広場 (S49) A=7,850.0㎡					相倉公衆便所 (S51) RC A=20.0㎡
			相倉子供の広場 (S49) A=1,990.0㎡					
			相倉入口園地 (S51) A=350㎡					
			相倉植物園地 (S51) A=2,780.0㎡					
		相倉野営場	広場(S51) A=1,000.0㎡	テントサイト A=3,000㎡				相倉公衆便所 RC A=20.0㎡

		相倉裏山回遊歩道 (S50) 2か所		回遊歩道 (S50)				
		高坪山登山道		相倉～高坪山 ～上梨(S50)				
		上梨回遊歩道		回遊歩道 (S51)				
朝日県立自然公園	あさひ国民休養地	上の山園地 上の山第1園地(S52) A=18,000.0㎡ 上の山第2園地(S53) A=7,300.0㎡ 上の山第3園地(S56) A=1,500.0㎡					上の山林憩所 (S53) RC A=94.5㎡ 上の山林憩所 (S54) 木造 A=28.9㎡	上の山公衆便所 (S52) RC A=16.5㎡ 同上改修 (H3)
	城山駐車場				城山駐車場 (S55) A=1,874.8㎡		城山休憩所 (S55) 木造 A=31.6㎡	城山公衆便所 (S55) RC A=14.4㎡
有峰県立自然公園	有峰ふもと自然公園	展望園地 (S58) A=1,190㎡ 園路(S58) L=200m 多目的広場 (S59) A=18,375㎡ 溪流広場 (S60) A=8,860㎡ テニスコート 5面(S60) 園路(S60) L=373m バーベキュー 広場(S62) A=2,300㎡ 芝生スロープ (S63) A=5,000㎡		猪根山探勝路 (S58) L=2,047m 砥谷半島探勝路 (S58) L=2,724m 猪根谷探勝歩 道(S58) L=2,300m	砥谷半島駐車場 (S58) A=950㎡ 猪根平駐車場 (S59) A=7,714㎡		テニスコート 管理棟 (S60) RC A=28.8㎡ ヒジター センター (S61) RC A=196㎡ 休憩所 (S62) A=25㎡	公衆便所 2棟(S62) RC A=26.47㎡ 給水設備 (S59) 電気設備 (S60・61) 汚水処理設備 (S60・61)

4 ふるさと歩道

ふるさと歩道名	市町村名	延 長	整備年度
御前山・神通峡 ふるさと歩道	大沢野町・大山町	11.6 km	50・53
医王山 ふるさと歩道	福 光 町	8.7 km	50
朝 日 ふるさと歩道	朝 日 町	8.2 km	51
森 寺 ふるさと歩道	氷 見 市	6.1 km	52
倶利伽羅 ふるさと歩道	小 矢 部 市	7.0 km	53
牛 嶽 ふるさと歩道	庄 川 町	13.0 km	54
松倉城址 ふるさと歩道	魚 津 市	7.3 km	55

第20 ナチュラリストの配置状況

年 度	立 山 地 区		称 名 地 区		頼 成 の 森 地 区		自然博物館地区	
	人 数	期 間	人 数	期 間	人 数	期 間	人 数	期 間
49	32人 (延128人)	7/20～8/20						
50	33人 (延158人)	7/20～8/31						
51	44人 (延212人)	"						
52	56人 (延224人)	"						
53	56人 (延224人)	"			38人	7/23～11/5 (日、祝日)		
54	56人 (延224人)	"			68人	4/30～11/4 (日、祝日)		
55	56人 (延224人)	"			68人	4/29～11/3 (日、祝日)		
56	92人 (延218人)	"			25人	"	52人	6/7～11/3 (日、祝日)
57	56人 (延224人)	"			50人	"	68人	4/29～11/3 (日、祝日)
58	56人 (延224人)	"	30人	7/24～10/10 (日、祝日)	44人	4/29～6/19 (日、祝日) 9/15～11/3 (日、祝日)	76人	4/29～11/3 (日、祝日)
59	56人 (延224人)	"	36人	7/1～10/28 (日、祝日)	20人	7/29～11/4 (日、祝日)	81人	4/29～11/4 (日、祝日)
60	56人 (延224人)	"	31人	7/7～10/10 (日、祝日)	33人	4/28～11/4 (日、祝日)	70人	4/28～11/4 (日、祝日)
61	54人 (延216人)	"	32人	7/6～10/10 (日、祝日)	32人	4/27～11/3 (日、祝日)	69人	4/27～11/3 (日、祝日)
62	53人 (延212人)	"	32人	7/5～10/10 (日、祝日)	35人	4/26～11/3 (日、祝日)	70人	4/26～11/3 (日、祝日)
63	52人 (延208人)	"	34人	7/3～10/10 (日、祝日)	35人	4/24～11/3 (日、祝日)	71人	4/24～11/3 (日、祝日)
元	55人 (延220人)	"	32人	7/2～10/10 (日、祝日)	34人	4/23～11/3 (日、祝日)	71人	4/23～11/3 (日、祝日)
2	75人 (延258人)	"	41人	7/1～10/10 (日、祝日)	41人	4/22～11/3 (日、祝日)	69人	4/22～11/3 (日、祝日)
3	64人 (延228人)	"	34人	7/7～10/10 (日、祝日)	36人	4/28～11/3 (日、祝日)	76人	4/28～11/3 (日、祝日)
4	62人 (延219人)	"	31人	7/5～10/10 (日、祝日)	38人	4/26～11/3 (日、祝日)	69人	4/26～11/3 (日、祝日)

第21 自然観察読本等の発行状況

自然保護読本シリーズ	
①47年度「水はみんなのもの」	(富山県教育委員会)
②48年度「緑のなかの私たち」	(富山県教育委員会)
③49年度「世界につながる空」	(富山県教育委員会)
④49年度「富山の植生」	(大 田 弘)
⑤50年度「大気と私たち」	(富山県教育委員会)
⑥50年度「富山の地形と地質」	(深 井 三 郎)
⑦51年度「富山の昆虫」	(田 中 忠 次)
⑧52年度「富山の川と魚」	(田 中 晋)
⑨53年度「富山の鳥」	(林 梅 夫)
⑩54年度「富山の気象」	(中川・山崎・谷出・小鷹)
セルフガイドシリーズ	
①52年度「立山とのふれあい」	(富山県自然保護協会)
②53年度「頼成の森の自然」	(#)
自然観察読本シリーズ	
①55年度「ふるさと歩道をたずねて一医王山一」	(堀 与 治)
②56年度「ふるさと歩道をたずねて一朝日一」	(長 津 蔭 尾)
③57年度「ふるさと歩道をたずねて一御前山神通峡一」	(大田 弘・長津蔭尾)
④58年度「ふるさと歩道をたずねて一牛嶽一」	(松 岸 得之助)
⑤59年度「ふるさと歩道をたずねて一倶利伽羅一」	(正印・菊川・泉)
⑥60年度「ふるさと歩道をたずねて一森寺一」	(大田・菊川・児島・田中)
⑦61年度「ふるさと歩道をたずねて一松倉城址一」	(本多・広田・田中)
自然ガイドシリーズ	
①58年度「中部山岳国立公園一称名の自然一」	
②59年度「朝日県立自然公園一朝日国民休養地の自然一」	
③60年度「ねいの里の自然」	
④61年度「五箇山国民休養地の自然」	
⑤62年度「有峰湖国民休養地の自然」	
⑥63年度「中部山岳国立公園一樺平の自然一」	
⑦元年度「中部山岳国立公園一弥陀ヶ原の自然一」	
⑧2年度「中部山岳国立公園一馬場島の自然一」	
⑨3年度「能登半島国立公園一大境の自然一」	
富山県の自然環境保全地域シリーズ	
①54年度「縄ヶ池・若杉自然環境保全地域」	
②55年度「沢杉自然環境保全地域」	

- ③56年度「神通峡自然環境保全地域」
- ④57年度「愛本自然環境保全地域」
- ⑤58年度「深谷自然環境保全地域」
- ⑥59年度「山の神自然環境保全地域」
- ⑦60年度「池の尻自然環境保全地域」
- ⑧61年度「常楽寺自然環境保全地域」
- ⑨62年度「日尾御前自然環境保全地域」
- ⑩63年度「谷内谷自然環境保全地域」
- ⑪元年度「東福寺自然環境保全地域」
- ⑫2年度「縄ヶ池・若杉自然環境保全地域」(改訂版)
- ⑬3年度「自然環境保全地域のあらまし」

自然観察読本シリーズII

- | | |
|-----------------|---------------|
| ①62年度「大岩眼目県定公園」 | (菊川・大田・田中・熊木) |
| ②63年度「呉羽丘陵県定公園」 | (菊川・大田・田中・熊木) |
| ③元年度「神通峡県定公園」 | (菊川・大田・田中・熊木) |
| ④2年度「庄川峡県定公園」 | (菊川・堀・松岸) |
| ⑤3年度「俱利伽羅県定公園」 | |
| ⑥4年度「立山の自然」 | |

絵

「平成5年度環境月間ポスター」

最優秀賞作品

福岡中学校 3年 武田千夏



環境保全型の商品を推奨する「エコマーク」。
再生紙を使用した環境に関する雑誌・書籍に
は「みどりのほん」と表示。